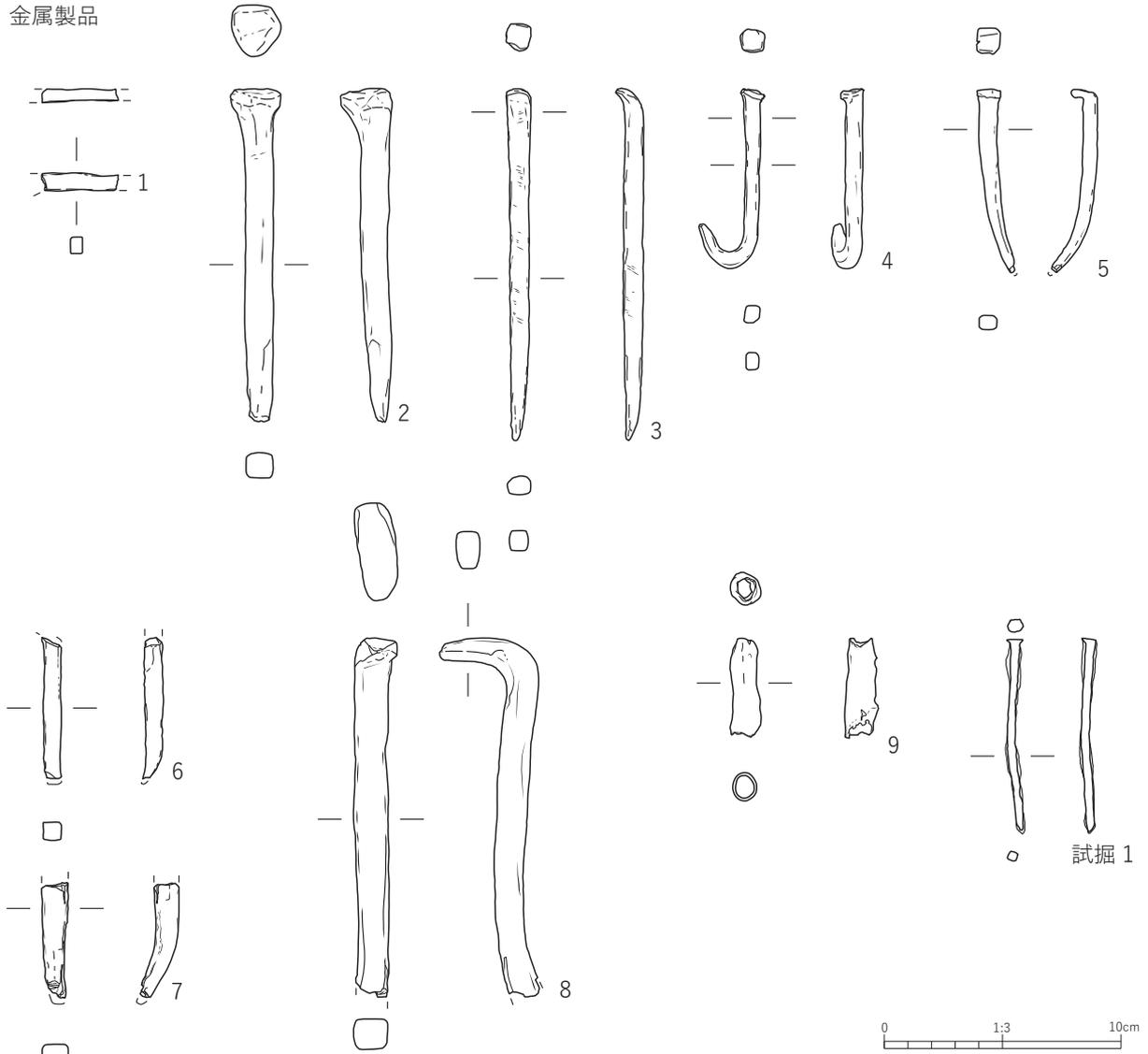
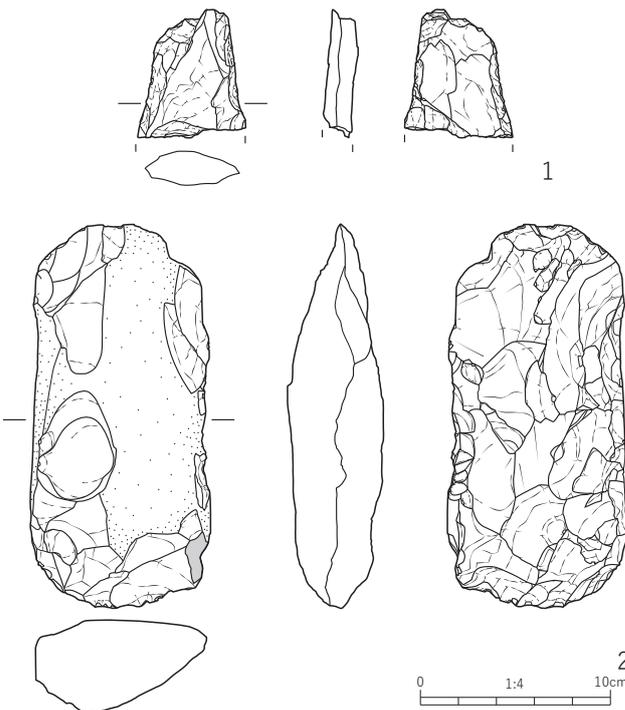


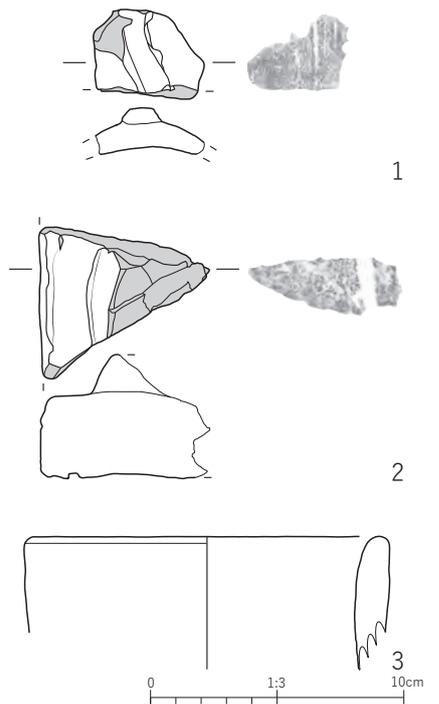
金属製品



石製品



不明土製品



第229図 金属製品、石製品、不明土製品

第18表 軒丸瓦観察表

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド		残存部		法量			焼成		胎土		文様面		丸瓦面		丸瓦部	
		出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	文様面	丸瓦面	径	中房	瓦当厚	丸瓦厚	重量(g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	内部色調	色調	胎土	特記事項	丸瓦面	丸瓦部	凸面
1	1	Eb6	接合	2/3	2/3	13.6	3.6	2.1~4.2	—	519.2	硬	N7/ 土色粘	N6/ 灰	白色粘混入	蓮弁・間弁の範疇確認、ハケケナデ(弧状回転)	布目(摩滅)、ハケケナデ	凸面	凹面
2	1	SK05 Eb6		1/4 中房欠	1/4	15.2	—	1.9~3.3	—	332.7	硬	N5/ 土色粘	N5/ 灰	黒・白色、粗粒多量混入	蓮弁の範疇確認、外区内側に木目痕残存、外区に圈線なく有段となり外区形状が異なる	布目、縁辺ケスリ→ナデ		
3	1	Ec6		1/4 摩滅	一部	14.0	—	2.4	—	459.5	軟	5T7/1	2.5Y7/2~ 2.5Y7/1 灰黄~灰白	茶・黒、白色粘混入	摩滅、範疇は未確認	布目	凸:摩滅・ナデか 凹:布目(細)、接 合付近に観察で きる、ナデ(指 ヨコ)	
4	1	Eb5d		1/4 中房欠	—	14.4	—	3.0~4.4	—	328.4	硬	N7/ 土色粘	N6/ 灰	黒・白色粘、チャート粗粒 少量混入	蓮弁・間弁の範疇確認、 丸瓦部側面ヨコナデ	摩滅	凸:ナデ 凹:不明	
5	1	Ec6		外区1/4 摩滅	—	15.0	—	3.0	—	98.0	硬	N6/ 土色粘	N6/ 灰	茶・黒、白色粘混入	摩滅、外区圈線隆帯	欠損		
6	1	SK01 Ed6		1/8 中房欠	—	13.4	—	2.0~	—	91.5	硬	N7/ 土色粘	N7/ 灰白	黒・白色粘多量混入	摩滅、外区外縁部不明	欠損		
7	1	Eb5c		1/6 中房欠	1/6	13.8	—	2.7~3.3	—	226.6	硬	N6/ 土色粘	N6/ 灰	白色粘少量混入	蓮弁範疇確認	布目(摩滅)、 縁辺ナデ		
8	1	SK01 Ed6		1/8 中房欠	1/8	13.4	—	2.6~4.2	—	136.7	軟	N6/ 土色粘	2.5Y8/3 淡黄	黒・灰、白色粘多量、 チャート粗粒混入	摩滅	布目(摩滅)、 縁辺ケスリ、 ナデ		
9	1	Ec6		1/10 中房欠	—	13.2	—	2.1~3.5	—	99.3	硬	N5/ 土色粘	N5/ 灰	黒・灰、白色粘多量混入	摩滅	摩滅		
10	1	Ec6a A トレンチ		外区1/6	—	13.4	—	9.8	—	30.9	硬	N7/ 土色粘	N7/ 灰白	黒・白色粘混入、粗粒	外区圈線隆帯	欠損		
11	1	Eb5d		外・内区一 部1/10	—	13.6	—	2.3~2.7	—	63.2	硬	10YR7/1~ 10YR6/6 灰白~明黄褐	10YR7/1	白色粘微量混入	摩滅、 外区から内区への段差に 突出部確認、木目痕残存	摩滅		
12	1	SK01 Ed6a		外区1/10	—	13.6	—	1.4~	—	30.7	硬	N6/ 土色粘	N5/ 灰	茶微量、白色粘混入	外区の一部と内区の極一 部残存	側面一部残 欠損		
13	2	SX1 Ec6 6層	Ec6a A トレンチ 3層	1/1 1/1一部剝離	15.6 ~ 16.0	12.0	3.0	3.0~3.2	—	1039.5	軟	N7/ 土色粘	N7/ 灰白	茶・黒、白色粘混入 白色黒色粘土マーブル状に 混入	小破片を接合し形状は明 瞭に残る、表面摩滅のた め範疇は未確認	布目(摩滅)	凸:摩滅・平行 明き、ナデ 凹:摩滅・ナデか 淵:摩滅・ナデか	
14	2	SX1 6層	226 SX1 3層	2/3	15.2	11.2	3.3	2.5~4.0	—	584.6	軟	2.5Y7/1	2.5YR6/4 にふい橙	茶・白色粘混入		布目		
15	2	SK06		1/1	15.0	11.5	2.9	2.0~3.3	—	722.5	硬	N5/ 土色粘	N5/ 灰	黒・白色粘少量混入 白色粘土マーブル状に混入	文様面良好に残存、 外区外縁と蓮弁に板目痕残存	布目、縁辺ケ スリ →ハケケナデ (弧状回転)		
16	2	SX1 6層	Ec6 F トレンチ	1/8 中房欠	15.2	11.6	—	2.5~3.1	—	189.5	硬	N7/ 土色粘	N5/ 灰	黒・白色粘混入 一部白色粘土マーブル状に 混入	摩滅	布目(摩滅)、 丸瓦接合部と 縁辺は回転ナ デ		
17	2	Eb6		内区1/2	15.0	13.0	3.1	~2.4	—	316.8	硬	N6/ 土色粘	N6~N7 灰~灰白	茶・白色粘混入 白色粘土マーブル状に混入	摩滅、 中房部凸部のまま剝離	布目、丸瓦接 合部ハケケナ デ		
18	2	SX1 6層		2/3	15.6	12.0	3.1	1.6~3.6	—	401.3	軟	N7/ 土色粘	10YR8/4 浅黄橙	茶・白色粘微量混入	摩滅、 蓮弁の範疇僅かに確認、 外区の凹凸不明瞭な箇所ある	布目、左縁辺 1/4ナデ(指)		

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド		残存部			法量				焼成		胎土		文様面		丸瓦面		丸瓦部	
		出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	文様面	丸瓦面	径	重量(g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	内部色調	色調	胎土	文様面	丸瓦面	丸瓦部	文様面	丸瓦面	丸瓦部	凸面	凹面	
19	—	Ec6a	Aトレンチ	外・内区1/3	—	15.5	11.8	—	2.2~3.5	—	225.8	還元	N6/土色帖	5Y7/1 灰白	茶・黒・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	布目(摩滅)	布目(摩滅)	—	—	
20	—	SK02 F6		1/3	剥離欠	158	126	—	—	—	108.0	還元	7.5Y7/1 N6/土色帖	10YR6/4~7/3 N6/土色帖	剥離・摩滅著しい、 文様面に残った凹凸の状 況から同型式と判断	不明	不明	—	—	
21	—	SX1 6層	Ec6a Aトレンチ	外区	1/2	162	122	—	1.2~	—	254.1	還元	7.5Y7/1 N6/土色帖	7.5Y7/1~ 7.5Y5/1 灰白~灰	内区剥がれにより欠損、 外区の形状明瞭	布目、縁辺ケ ズリ→鏡ナデ	布目(摩滅)	—	—	
22	—	SX1 6層		3/4 摩滅	3/4	156	120	3.1	1.6~3.3	—	477.4	酸化	10YR7/1 N6/土色帖	10YR6/3~N4/ 灰白	中房蓮子突出部低い	布目(摩滅)	凸・側面摩滅	—	—	
23	—	SK01 Ed6		外区1/4	—	150	116~ 120	—	1.6~	—	135.1	還元	7.5YR7/1 N6/土色帖	7.5YR7/4 N6/土色帖	外区に圈線と隆線の一部 を確認、外区内側に互当 範による重みあり	欠損	凸	—	—	
24	—	SK01 Eb6		外区1/8	1/8	150	11.5	—	1.8	—	95.9	還元	N7/1	文様面10YR7/1 灰白 丸瓦面10YR7/6 明黄褐	摩滅、 蓮弁と間弁の一部を確認	布目(摩滅)	—	—	—	
25	—	SX1 3層		1/8 中房欠	1/8	154	120	—	1.1~1.8	—	137.2	酸化	2.5YR7/3 黄褐	7.5YR7/8 黄褐	摩滅、 外区と蓮弁・間弁一部を確認	布目(摩滅)	—	—	—	
26	—	Ec5d		外区1/3	—	150	11.5	—	1.0~3.1	—	186.9	還元	N6/土色帖	N6/土色帖	摩滅、 外区と蓮弁・間弁一部を確認	欠損	—	—	—	
27	—	Ed6a		外区1/12小 片	—	150	11.5	—	1.8~	—	70.3	酸化	10YR5/1 黄褐	10YR6/6~ 10YR5/3 明黄褐~にふい 黄褐	摩滅、 蓮弁と外区の破片	欠損	—	—	—	
28	—	Ec5c		1/6蓮弁一 部	—	—	—	—	1.3+	—	27.0	還元	2.5Y7/1 灰白	黒・灰・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	摩滅、 蓮弁・間弁の破片	欠損	—	—	—	
29	—	Ec6		1/10蓮弁一 部	—	—	—	—	1.2+	—	14.2	還元	5Y7/1 灰白	黒・灰・白色粒混入	摩滅、 蓮弁・間弁の破片	欠損	—	—	—	
30	—	南東深堀		1/12蓮弁一 部	—	—	—	—	0.8+	—	7.4	酸化	7.5YR4/1 褐灰	黒・白色粒混入	摩滅、 蓮弁・間弁の破片	欠損	—	—	—	
31	—	SK07 Ed5d	丸瓦 Ed5d	1/1 丸瓦接合	1/1	160	13.2 13.2	2.4 2.5	1.1~3.2	2.3	763.3	酸化	5B6/橙	茶・白色粒、チャート粗粒 混入 白色粘土マーブル状に混入	指ナデ(弧状 凸・凹) 指ナデ(弧状 凸・凹)	指ナデ(弧状 凸・凹) 指ナデ(弧状 凸・凹)	凸・摩滅・ナデか 凹・摩滅・ナデ・ 細巻痕あり 側・摩滅	—	—	
32	—	Eb6		1/2	1/2	160	13.2~ 14.0	2.4 2.5	1.6~2.0	—	444.5	酸化	7.5YR7/8 黄褐	7.5YR7/8 黄褐	中房・蓮子の文様面良好 に残留、蓮弁の細巻痕確 認、外区内側に横・縦線 として互当痕残存	ナデ(回転)、 側部ハケナデ	凸・側面に粘土を 張り付けた凹凸 があり	—	—	
33	—	Ea6		1/4 中房欠	1/4	160	14.0~ 14.4	—	0.9~1.2	—	155.0	酸化	5YR5/6 暗赤褐	5YR3/4 暗赤褐	外区厚み薄い、 側部ハケナデ	欠損、摩滅	側部ハケナデ	側部ハケナデ	側部ハケナデ	
34	—	Ec5c	Ec5c 南西隅 Ⅲa層	1/6 中房欠	1/6	160	14.0~ 14.2	—	1.4~2.2	—	2996.0	還元	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	外区上面ハケナデ、 外区内側に線条痕	指ナデ(弧状 凸・凹)	指ナデ(弧状 凸・凹)	指ナデ(弧状 凸・凹)	指ナデ(弧状 凸・凹)	
35	—	SK05 Eb6		外区1/4	1/4	162	13.6~ 13.8	—	1.8	2.2	423.9	還元	7.5YR4/2 灰	N4/ 灰	外区と内区蓮弁の 一部を確認	指ナデ(弧状 凸・凹)	指ナデ(弧状 凸・凹)	凸・ナデ、ヨコナ デ 凹・布目、丸瓦広 端部が互当面よ り突出する形態、 互当と丸瓦の接 合は詰め込み法 側・側切	—	

第6章 遺物

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド		残存部		法量			焼成		胎土		文様面	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面														
		出土層位で表記のないものは全 て第Ⅲa層	出土層位で表記のないものは全 て第Ⅲa層	文様面	丸瓦面	外径	内径	中房	瓦当厚	丸瓦厚	重量 (g)	超・硬=良好 軟=真 弱=不良				内部色調	色調	胎土	文様面	丸瓦面									
36	—	3	Ea5d	1/10通弁一 片	—	160	126	—	2.0~2.2	—	95.1	酸化	弱	5YR6/6	土色粘	土色粘	7.5YR7/8 黄橙	茶・白色粗粒混入 白色粘土マーブル状に混入	外区と内区通弁の一部を 確認	特記事項	外区と内区通弁の一部を 確認	不明、摩滅	摩滅	丸瓦部 凸面 凹面					
37	—	3	SK02 F6	1/8 中房欠	—	144+	—	—	1.7~2.0	—	54.9	酸化	硬	5YR6/1	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	黒・白色粗粒混入 白色粘土マーブル状に混入	不明、摩滅	不明、摩滅	不明、摩滅	不明、摩滅	不明、摩滅	不明、摩滅	不明、摩滅					
38	—	3	Eb6a	1/8 中房欠	—	152	130	—	1.8~3.0	—	201.9	還元	硬	N6	7.5YR6/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	黒・白色粗粒混入 白色粘土マーブル状に混入	外区周縁に1条の周縁文、 内区文様の間弁に木目遺残存	摩滅、外区ケ スリ	欠損、外区ケ スリ	欠損、外区ケ スリ	欠損、外区ケ スリ	欠損、外区ケ スリ	側：ヨコナデ					
39	—	3	Eb6	1/4 中房欠	—	170 ~ 180	136~ 138	—	1.6~1.8	—	152.5	還元	硬	2.5Y7/1	N7/ 灰白	N7/ 灰白	黒・茶・白色粗粒混入 白色粘土マーブル状に混入	外区周縁に1条の周縁文、 内区通弁、間弁確認	外区周縁に1条の周縁文、 内区通弁、間弁確認	外区周縁に1条の周縁文、 内区通弁、間弁確認	外区周縁に1条の周縁文、 内区通弁、間弁確認	外区周縁に1条の周縁文、 内区通弁、間弁確認	外区周縁に1条の周縁文、 内区通弁、間弁確認	指ナデ					
40	—	3	Ec6	1/8 中房欠	—	148 ~ 150	10.4~ 0.8	—	1.7~1.9	—	177.5	還元	硬	7.5R4/4	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	白色粗粒微量混入	外区上面ナデ、 内側に縦方向の線条遺存、 焼成時の粘土の置れあり	指ナデ (弧状回転)	指ナデ (弧状回転)	指ナデ (弧状回転)	指ナデ (弧状回転)	指ナデ (弧状回転)	指ナデ (弧状回転)	指ナデ				
41	—	4	SK01 Ed6	3/4	—	15.6 ~ 16.0	3.6 ~ 3.5	—	2.7~3.7	—	1083.9	酸化	軟	5YR5/6 丸瓦との 接合部 10YR2/1	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	黒・茶・白色粗粒、チャート 粗粒混入	摩耗著 中房・通弁の凹凸不明瞭	指ナデによる 指手形が残 る、半載した 半円の丸瓦部 との接合遺存										
42	—	4	Ed6	1/6 中房欠	—	15.8 ~ 16.0	—	—	1.8~	—	89.8	酸化	硬	5YR5/6 一部 7.5YR3/1	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	茶・白色粗粒、チャート、長 右粗粒混入	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認				
43	—	4	Eb6a	通弁・外区 小片	—	—	—	—	2.2	—	46.4	酸化	軟	5YR6/4	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	茶・黒・灰・白色粗粒、 チャート粗粒 多量混入	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認				
44	—	5	Ea5d	1/10 中房欠	1/10	16.2	1.6 ~ 2.0	—	—	—	320.5	酸化	軟	N5/~ 5YR7/6	文様面5YR7/6 丸瓦面N5/ 灰	文様面5YR7/6 丸瓦面N5/ 灰	茶・黒・灰・白色粗粒、 チャート粗粒 多量混入	剥離、 文様面の凹凸少ないが 文様の残りは明瞭	ハケナデ (弧状回転)										
45	—	5	Ea5d	1/1 摩滅	1/1	16.8	15.6~ 12.0	—	2.1~2.2	—	693.8	酸化	軟	2.5YR6/8	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	茶・黒・灰・白色粗粒、 チャート粗粒 多量混入	胎土に含まれる粗粒が際立つ、 いくつかわかの通弁の中央部 に縦の条線が残る	ハケナデ (弧状回転)、 中心部ヨコナ デ(指)										
46	—	5	Eb6	1/8 中房欠	—	16.2	14.2~ 12.0	—	—	—	103.2	酸化	硬	5YR5/1	文様面5YR6/6 丸瓦面5YR5/1 赤灰	文様面5YR6/6 丸瓦面5YR5/1 赤灰	黒・白色粗粒多量混入	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存	摩滅、 外区の内側内区に線条線が 残存				
47	—	5	Eb5c	1/8 中房欠	1/10	17.0	12.0	—	2.0	—	134.2	酸化	硬	2.5YR6/8	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	茶・黒・白色粗粒混入	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認				
48	—	5	Ⅲa層	外区1/12	1/12	17.2	12.0	—	—	—	124.9	酸化	硬	7.5YR6/1	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	黒・白色粗粒多量混入	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認	摩滅、 外区と内区通弁の一部を確認				
49	—	5	Ed5d	1/9 中房欠	—	—	2.2 ~ 2.3	—	1.5~1.7	—	101.4	還元	硬	5YR5/1	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	黒・灰・白色粗粒多量混入	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認	摩滅、 凹形窪みの中房と放射状 の通弁、間弁を確認				
50	二	1①	Ec6	1/1	1/1	17.4	15.0	6.6	—	—	1225.4	還元	硬	N6	N6/ 灰	N6/ 灰	黒・白色粗粒混入	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)	文様面の通弁・中房内の 范傷確認、 文様配置(あ)

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド		残存部		法量			焼成		胎土		文様面	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面 側面	
		出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	文様面	丸瓦面	径	中房	瓦当厚	丸瓦厚	重量(g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	内部色調				色調
51	二 1 ①	出士	接合	1/1	1/1	17.5	15.0	6.5	—	1176.3	軟	N6/ 土色帖	2.5Y6/1~ 2.5Y8/3 黄灰~淡黄	茶・白色粒多量混入	ハケナデ (弧状回転) テによって消され、ハケナデ、ヨコナデ、ナデ、 四：摩滅、布目、 側：摩滅	凸：平行叩き、ハケナデ、ヨコナデ、ナデ、 四：摩滅、布目、 側：摩滅
52	二 1 ①	出士	Ec5d	1/1	1/1	16.40	14.2	6.5	—	919.4	硬	N5/ 灰	黒・白色粒混入	ハケナデ (弧状回転) テ →縦位	ハケナデ (弧状回転) テ →縦位、 ヨコ、ハケ、 四：布目、ナデ 側：瓦当と丸瓦の接合方法がよくわかる	凸：平行叩き、ハケナデ、ヨコ、ハケ、 四：布目、ナデ 側：瓦当と丸瓦の接合方法がよくわかる
53	二 1 ①	出士	Eb5d	1/1	1/1	16.7 ~ 17.0	14.0	6.5	—	1054.5	硬	N5/ 灰	黒・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	ナデ (弧状回転) ハケナデ →横、中ハケナデ 心部付近はハケナデ上部にヘラによる目印あり 当と丸瓦を接合する前の布目、内面多量の粘土補填	凸：平行叩き、ハケナデ、ヨコ、ハケ、 四：布目、ナデ 側：瓦当と丸瓦の接合方法がよくわかる	
54	二 1 ①	出士	Ec6	1/1	1/1	17.4	14.4	6.6	—	931.0	硬	2.5YR5/4	黒・白色粒・石英混入	ハケナデ (弧状回転)、 ランダムなナデ	凸：摩滅	凸：摩滅
55	二 1 ①	出士	SK05 Eb6	1/1	1/1	16.7	14.3~ 14.5	6.5	—	1187.1	硬	N3/ 暗灰	茶色粒、石英、チャート、 茶色礫混入	ナデ (弧状回転)	凸：ナデ(窓、ヨコナデ・指) 指紋残存 四：ナデ(窓、ヨコナデ・指)	凸：ナデ(窓、ヨコナデ・指) 指紋残存 四：ナデ(窓、ヨコナデ・指)
56	二 1 ①	出士	Ea6	1/1	1/1	17.9 ~ 18.8	17.2	7.0	—	1039.8	硬	N7/ 灰白	茶・黒、白色粒混入	ハケ・指ナデ (弧状回転)	凸：摩滅	凸：摩滅
57	二 1 ①	出士	Ec6	1/1	1/1	17.2	14.4	6.8	—	854.8	軟	N6/ 灰白~明黄緑	茶・黒、白色粒混入	ハケナデ (弧状回転)	凸：摩滅	凸：摩滅
58	二 1 ①	出士	SK01 Ed6	1/1	1/1	17.2	14.8	6.9	3.4~4.0	1171.5	硬	N7/ 灰白	黒・白色粒混入	ハケナデ (弧状回転)、 接合部に布目、 瓦当厚	ハケナデ (弧状回転)、 接合部に布目、 瓦当厚	凸：平行叩き、ハケナデ、ヨコナデ、 四：ハケナデ
59	二 1 ①	出士	SK07	1/1	1/1	17.4	14.6	6.7	—	891.6	硬	N5/ 灰白	茶・黒、白色粒混入	ハケナデ (弧状回転)	凸：摩滅	凸：摩滅
60	二 1 ①	出士	SK05	7/8	7/8	17.2	15.0	6.8	—	734.0	硬	N4/~N6 灰	黒・白色粒混入	ハケナデ (弧状回転)、 ランダムなナデ	凸：平行叩き、ハケナデ、ヨコナデ、 四：ハケナデ	凸：平行叩き、ハケナデ、ヨコナデ、 四：ハケナデ

第6章 遺物

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド		残存部		法量			焼成		胎土		文様面	丸瓦面	丸瓦部 凸面、凹面、側面	
		出土層位で表記のないものは全層Ⅲa層	出土層位で表記のないものは全層Ⅲa層	文様面	丸瓦面	外区	内区	中房	瓦当厚	丸瓦厚	重量(g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良				内部色調
61	Ⅰ①	Ec6	1/3	1/3	172	15.4	7.6	—	555.3	還元	硬	N4/～ N6/	N6/ 灰	茶・白色粒混入	ヘラナデ (弧状回転) →指ナデ	凸：摩耗・平行 叩き 凹：布目、ナデ 粘土部裏後にナ デ 側：ナデによつ て粘土貼り付け 凹：摩滅、ナデ
62	Ⅰ①	Eb5d	1/3	1/3	178	15.2	6.8	—	462.3	酸化	硬	N7/	10YR8/4 浅黄橙	茶・白色粒混入	摩滅、ナデ	摩滅、進弁の范傷確認、 文様配置(あ)
63	Ⅰ①	Eb6	1/2	1/2	174	14.8	7.0	—	631.8	還元	硬	N6/	N6/ 灰	黒・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	ヘラナデ (弧状回転) →指ナデ	摩滅、進弁の范傷確認、 文様配置(き)
64	Ⅰ①	Ec6a	2/3	2/3	177 182	15.2	7.0	—	610.5	還元	硬	N5/	N5/ 灰	黒・白色粒混入	摩滅、 一部剥離	摩滅、進弁の范傷確認、 文様配置(え)
65	Ⅰ①	Ea6 SX03 -1層	1/2	1/2	176 ～ 178	15.0	6.8	—	763.9	還元	硬	N6/ 10YR5/4	N5/ 灰	大きい黒・白色粒混入	ヘラナデ (弧状回転)	凸：ナデ(ヘラ・ 指)、横位・指紋 残存 凹：布目、ハケ、 指ナデあ(横)、 接合部ヨコナデ 側：ナデ
66	Ⅰ①	Eb5d	1/4	1/4	186	15.4	7.3	1.8～2.5	370.0	酸化	軟	N3/	7.5YR7/6 橙	茶・黒・灰・白色粒、 石英、チャート混入	ヘラナデ (弧状回転)	凸：摩滅、平行 叩き 凹：摩滅不明
67	Ⅰ①	Ea6 SX03 -1層	1/4	1/4	180	15.2	7.2	—	225.4	酸化	軟	N3/	7.5YR6/8 橙	茶・黒・白色粒、チャート (粗)混入	ヘラナデ (弧状回転)	凸：摩滅、ナデ
68	Ⅰ①	SX03	1/4	1/4	178	15.2	7.0	—	205.3	酸化	硬	7.5YR4/1	5YR5/8 明赤褐	茶・黒・白色粒混入	指ナデ (弧状回転)	凸：摩滅、 平行 叩き 凹：摩滅、布目、 ヨコナデ(ハケ) 側：ナデか
69	Ⅰ①	-1層	1/6	1/6	180	15.2	—	1.8～2.0	261.6	酸化	硬	N6/	7.5YR7/6～ 7.5YR7/2 橙～明褐灰	黒・白色粒混入	摩滅、 ヘラナデ (弧状回転)	凸：摩滅、 平行 叩き 凹：摩滅、 ヨコナデ(ハケ) 側：ナデ
70	Ⅰ①	SK01 Ed6	1/8	1/8	172	14.6	—	—	182.4	酸化	硬	N5/	10YR7/6 明黄褐	茶・白色粒混入	摩滅、ナデ	凸：平行叩き 凹：ナデ
71	Ⅰ①	SK01 Ed6	1/4	1/4	162	15.0	7.0	—	146.8	還元	硬	N4/	5Y6/1 灰	茶・白色粒混入	摩滅、ナデ	凸：摩滅、 平行 叩き 凹：摩滅、 ハケ ナデ
72	Ⅰ①	Eb6	1/4	1/4	178	13.2	—	—	325.4	還元	硬	5YR6/1	文様面5Y6/1 黄灰 丸瓦面10YR7/3 にふい黄橙	茶・白色粒混入	ヘラナデ (弧状回転)	凸：ヘラナデ 凹：タテナデ→ ヨコナデ 側：縦方向ハケ ナデ
73	Ⅰ①	SK07 Ed5d	1/8	1/8	180	15.1	6.6	1.2～2.0	167.5	還元	硬	2.5YR5/4	N6/ 灰	黒色粒混入	ヘラナデ (弧状回転)	凸：ヘラナデ 凹：ヨコナデ 側：縦方向ハケ ナデ
74	Ⅰ①	Eb5d	1/5	1/5	176	15.0	6.8	—	304.0	還元	軟	N6/	N5/ 灰	黒・白色粒混入	ヘラナデ (弧状回転)	凸：平行叩き・ ハケナデ、文様 面縁辺

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド	残存部		法量			焼成		胎土		文様面	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面			
			文様面	丸瓦面	径	瓦当厚	丸瓦厚	重量 (g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	内部色調	色調				胎土		
75	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/10 中房欠	1/12	17.0	14.2	—	—	54.8	還元	硬	N6/ 灰	土色帖	文様面 特記事項	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
76	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/4 中房欠	1/4	182	15.1	6.8	—	371.1	酸化	軟	5YR6/6	2.5Y7/2 灰黄	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
77	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/4 中房欠	1/4	194	16.8	7.4	1.0~2.0	7.4	酸化	硬	7.5YR7/4	10YR7/3 にぶい黄橙	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
78	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/6 中房欠	—	180	15.0	7.0	—	223.5	還元	軟	7.5YR7/4	5Y7/1 灰白	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
79	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/12 中房欠	1/12	16.2	13.60	—	—	101.3	還元	硬	N6/ 灰	2.5YR5/4~ 2.5Y6/2 にぶい赤褐~ 灰黄	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
80	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/10 中房欠	1/10	18.0	15.0	7.0	—	79.9	還元	硬	N5/ 灰	黒(3mm程度含まれる)・ 白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
81	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/4 中房欠	1/4	17.6	14.6	6.7	—	126.8	還元	硬	N6/ 灰	黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
82	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/4 中房欠	1/4	188	15.6	7.4	1.3~2.0	176.1	還元	硬	N5/ 灰	黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
83	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/6 中房欠	—	17.6	14.4	—	—	76.6	還元	硬	N7/ 灰白	茶・黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
84	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/10 中房欠	1/10	18.0	15.00	7.0	—	204.1	還元	硬	N6/ 灰	黒多量・白色粒混入 一部白色粘土マーブル状に 混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
85	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/12 中房欠	1/12	16.6	13.6	—	—	39.1	還元	硬	N6/ 灰	黒・白色粒少量混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
86	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/4 中房欠	1/4	17.5	15.0	6.8	—	450.6	還元	硬	N5/ 灰	黒・白色粗粒	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
87	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/4 中房欠	1/4	17.8	15.0	6.9	—	229.5	還元	硬	N7/ 灰白	黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
88	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/6 中房欠	1/6	16.8	14.2	7.1	—	245.4	還元	硬	N6/ 灰	黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
89	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/6 中房欠	1/12	16.6	14.8	—	—	174.9	還元	硬	N6/ 灰	黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
90	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/6 中房欠	1/6	18.0	15.3	7.1	—	170.2	還元	軟	N6/ 灰	黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
91	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/6 中房欠	1/6	18.7	15.4	6.8	—	208.5	酸化	硬	10YR4/1	10YR6/4~ 10YR7/3 にぶい黄橙~ にぶい黄橙	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面
92	Ⅱ	Ⅰ①	接合	1/4 中房欠	1/4	17.8	15.0	7.0	—	168.6	酸化	軟	N4/ 灰	茶・黒・白色粒混入	丸瓦との 接合接合痕 存在	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面

第6章 遺物

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド 出土層位で表記のないものは全 て第Ⅲa層	残存部		法量			焼成		胎土		文様面	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面							
			文様面	丸瓦面	径	外区	内区	中房	瓦当厚	丸瓦厚	重量 (g)				超・硬=良好 軟=真 弱=不良	内部色調	色調	胎土			
93	Ⅰ①	出土 Ea6 SX03 -1層	接合	丸瓦面	—	180	15.6	7.4	—	—	150.2	酸化	硬	5Y4/1 土色粘	10YR6/3 にぶい黄橙	土色粘	白色粘 白色粒少量混入	特記事項	文様面の連弁・中房内の 范傷確認、文様配置(あ)		
94	Ⅰ①	Ec5c		丸瓦面	1/4	—	—	7.2	12~1.8	—	126.9	酸化	軟	N7/ にぶい黄橙	10YR7/4	茶・灰色粒混入	摩滅、文様面の連弁・中 房内の范傷確認、	摩滅			
95	Ⅰ①	Aトレンチ		丸瓦面	1/6	188	15.2	6.8	1.8~2.4	—	209.5	酸化	硬	N3/ にぶい黄橙	7.5YR6/6	黒色粒混入	摩滅、	摩滅			
96	Ⅰ①	Ea5d		文様面	内区1/15以下 破片	17.6	15.0	—	—	—	44.8	還元	硬	N4/ 灰	5YR4/4	灰・白色粒混入	中房部の凹がわずかに確 認できる	ナデ (弧状回転)			
97	Ⅰ①	Eb5d		文様面	中房1/3	—	—	6.6	—	—	185.2	還元	硬	N5/ 灰	N5/ 灰	黒・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	文様が二重に重複する 瓦当部への二重の型取り	ハケナデ (弧状回転)	側：瓦当側部に成 形過程の面残存		
98	Ⅰ①	Eb5d		文様面	外区1/15以下 破片	17.8	—	—	—	—	9.6	酸化	硬	7.5YR4/1	5YR5/8 明赤褐	茶・黒・白色粒混入	摩滅、連弁と外区の破片	摩滅、ハケナデ (弧状回転)			
99	Ⅰ②	Ec5c 批張区		丸瓦面	9/10	17.0	15.0	6.6	2.4	—	566.0	酸化	硬	中心部 N7/ 表面下 5YR5/4	2.5Y6/1 黄灰	茶・白色粒混入	摩滅、 ハケナデ (弧状回転)				
100	Ⅰ②	Ec6		丸瓦面	1/4	—	15.6	6.7	—	—	135.3	酸化	硬	N5/ にぶい赤褐	5YR5/4	黒・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	摩滅、文様面の連弁・中 房形態確認	摩滅、不明			
101	Ⅰ②	SK01 Ed6		文様面	中房1/4 外区欠	17.8	15.2	6.7	2.5	—	168.0	酸化	硬	N7/ にぶい黄橙	10YR7/4	茶・灰・白色粒混入	摩滅、文様面の連弁・中 房形態確認	摩滅、不明			
102	Ⅰ②	Ea6		文様面	内区1/8 中房1/4	—	—	6.6	—	—	21.8	還元	硬	N5/ 灰白	N7/ 灰白	茶・白色粒混入	摩滅、文様面の連弁・中 房形態確認 蓮子7個確認	欠損			
103	Ⅰ②	Ⅲa層		文様面	内区1/3	—	—	6.6	2.0	—	79.9	還元	硬	N5/ 灰白	N7/ 灰白	灰・白色粒混入 マーブル状の白色ブロック 混入	摩滅、文様面の連弁・中 房形態確認	摩滅			
104	Ⅰ不明	Ec5d		文様面	内・外区1/12 以下 中房欠	17.8	14.0	—	—	—	77.5	酸化	硬	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	茶・黒・白色粒少量混入	摩滅	摩滅、ナデ	凸：平行叩き・剥 落		
105	Ⅰ不明	Ec5d		文様面	内・外区1/15 以下破片	16.0	14.0	—	—	—	133.2	還元	硬	2.5YR5/3	N5/ 灰	摩滅	摩滅	指ナデ (弧状回転)	凸：ナデ(指か) コヨナデ 凹：ハケナデ、指 ナデ、入念にヨコ ナデ		
106	Ⅰ不明	Eb6a Aトレンチ		文様面	内・外区1/15 以下破片	17.4	14.6~ 14.8	—	—	—	25.1	還元	硬	N5/ 灰	N5/ 灰	黒・白色粒少量混入	摩滅	欠損	凸：ナデ、コヨ方 向		
107	Ⅰ不明	Eb5d		文様面	内・外区1/10 中房欠	16.8	13.8	—	—	—	118.8	酸化	硬	N4/ 5G4/~ 7.5YR4/2	10YR7/2 にぶい黄橙	茶・白色粒少量混入	剥離	剥離欠損	凸：ナデ、摩滅		
108	Ⅰ不明	Ed5d		文様面	外区1/15以下 破片	17.8	14.5	—	—	—	32.7	還元	硬	N6/ 灰	10YR6/1 灰褐	黒・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	外区、沈線の残りが良い、 花卉の形状不明	不明	凸：平行叩き・ナ デ、ヨコ・摩滅		
109	Ⅰ不明	Eb5d		文様面	内・外区1/15 以下破片	17.6	14.8	—	—	—	41.1	還元	硬	N6/ 灰	N6/ 灰	黒・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	摩滅	欠損	凸：ナデ、ヨコ方 向		
110	Ⅰ不明	Ec5d		文様面	外区1/15以下 破片	17.8	14.6	—	3.1	—	43.1	還元	硬	N6/ 灰白	7.5Y7/1 灰白	黒色粒、白色粒土マーブル 状に混入	摩滅	ハケナデ	凸：平行叩き、ハ ケナデ		
111	Ⅰ不明	Eb6		文様面	内区1/4	—	—	6.8	—	—	82.3	還元	硬	N6/ 灰褐	5YR5/2 灰褐	白色粒少量混入 白色粘土マーブル状に混入	摩滅、蓮子確認	摩滅、丸瓦と の接合痕			
112	Ⅰ不明	Ec5d		文様面	内・外区1/12 中房欠	17.4	15.0	6.8	—	—	48.7	還元	硬	N7/ 灰白	N7/ 灰白	黒・灰・白色粒混入	間弁、花卉が1/2確認	摩滅、 ナデ、 側面にヨコナデ			
113	Ⅰ不明	Ed6		文様面	内・外区1/10	17.6	14.8	7.0	—	—	107.9	還元	硬	N6	2.5Y7/3 浅黄	茶・灰・白色粒混入	摩滅、剥離	部分的に残る が摩滅著しい、			

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド		残存部		法量				焼成		胎土		文様面		丸瓦面		丸瓦部 凸面 凹面
		出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	文様面	丸瓦面	径	重量(g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	内部色調	色調	胎土	文様面	丸瓦面	丸瓦部 凸面 凹面				
114	二 1 不明	接合	中房1/6破片	—	—	6.6	還元	硬	N6/ 土色帖	N7/ 灰白	黒・白色粒混入	—	欠損	—	—	—	—	—
115	二 1 不明		外区1/10破片	表面摩滅	—	44.4	酸化	硬	10YR7/1	10YR8/3 浅黄橙	茶・白色粒微量混入	—	欠損	—	—	—	—	—
116	二 1 不明		内・外区1/10中房欠	1/10	17.4	52.7	還元	硬	2.5YR5/4	N7/ 灰白	茶(2mm程度を含む)・灰・白色粒、チャート混入	—	—	—	—	—	—	—
117	二 1 不明		中房1/6破片	—	—	7.8	酸化	硬	N5/ 10YR7/1	10YR7/6 明黄橙	茶・黒色粒混入	—	—	—	—	—	—	—
118	二 1 不明		内区1/10破片	—	—	30.5	酸化	硬	10YR7/1	10YR7/3 にぶい黄橙	茶・白色粒微量混入	—	—	—	—	—	—	—
119	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	—	7.3	酸化	硬	N3/ 7.5YR7/6	10YR7/4 にぶい黄橙	黒・白色粒混入	—	—	—	—	—	—	—
120	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	18.0	21.2	酸化	硬	N3/ 7.5YR7/6	7.5YR7/6 橙	茶・黒色粒混入	—	—	—	—	—	—	—
121	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	—	5.6	還元	硬	N5/ 5BG7/1	7.5Y6/1 灰	黒色粒多量混入	—	—	—	—	—	—	—
122	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	6.2	25.2	還元	硬	N6	2.5Y8/2 灰白	黒色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	—	—	—	—	—	—	—
123	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	16.0	43.6	酸化	軟	N3/ 5YR6/6	10YR7/4 にぶい黄橙	茶・黒・白色、粗粒混入	—	—	—	—	—	—	—
124	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	14.8	7.6	酸化	軟	N3/ 10YR7/1	10YR7/4 にぶい黄橙	茶・黒色粒少量混入	—	—	—	—	—	—	—
125	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	—	27.9	酸化	硬	N6/ 7.5YR6/6	10YR7/4 にぶい黄橙	茶多量・灰・白色粒混入	—	—	—	—	—	—	—
126	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	14.5	22.8	酸化	軟	N3/ 10YR7/1	10YR8/4 浅黄橙	茶・灰色粒微量混入	—	—	—	—	—	—	—
127	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	—	36.2	酸化	硬	N3/ 7.5YR6/6	10YR6/4 にぶい黄橙	黒・白色粒混入	—	—	—	—	—	—	—
128	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	15.0	13.6	酸化	硬	N3/ 10YR7/4	7.5YR7/4 にぶい橙	茶・黒・白色粒微量混入	—	—	—	—	—	—	—
129	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	18.4	13.8	酸化	軟	N6/ 2.5Y7/2	10YR7/4 にぶい黄橙	黒・白色粒微量混入	—	—	—	—	—	—	—
130	二 1 不明	Ⅲ a層	内区1/12以下破片 中房欠	—	—	11.9	還元	硬	N6/ 7.5YR7/4	N6/ 灰	黒・白色粒混入	—	—	—	—	—	—	—
131	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	15.0	6.1	還元	硬	N6/ 7.5YR7/4	2.5Y7/2 灰黄	黒色粒混入	—	—	—	—	—	—	—
132	二 1 不明		内区1/12以下破片 中房欠	—	18.2	7.7	酸化	軟	N3/ 7.5YR7/4	7.5YR7/4 にぶい橙	茶・黒色粒微量混入	—	—	—	—	—	—	—

第6章 遺物

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド		残存部		法量			焼成		胎土		文様面	丸瓦面	丸瓦部 凸面、凹面、側面					
		出土層位で表記のないものは全 て第Ⅲa層	出土	接合	文様面	丸瓦面	径	中房	瓦当厚	丸瓦厚	重量 (g)	超・硬=良好 軟=真 弱=不良				内部色調	色調	胎土		
133	二		Ea6		1/1	1/1	166 13.4~ 14.2 17.2	5.2 2.0~2.8 5.6	1.5~ 2.5	1270.2	酸化	硬	N6/ 土色粘	10YR7/4 にぶい黄橙	黒・白色粒混入	内区・外区文様を全て 確認 蓮子中央のみ残存	ハケナデ (弧状回転) →ヨコナデ	凸：平行叩き ヨコナデ (ハケ ナデ) 凹：布目・指 (ハケ・指)接合に よる粘土の層裏、 ナデ残が残る		
134	二		Ea6 SX03 1層		1/1	1/1	170	14.2	5.6	20~28	—	1093.2	酸化	軟	7.5YR8/4	黒・赤・灰・白色粒混入	摩滅、中房凹部の段差、 蓮子・間弁凸部盛り上げ ハケナデ (弧状回転) 蓮子形状が柱状として確 認	摩滅、 ハケナデ (弧状回転)	凸：側部ヨコナ デ 凹：摩滅	
135	二		Eb5d	同グリッド167	5/6	5/6	168	13.8~ 14.0 5.6	5.5 1.2~1.7	—	446.0	酸化	硬	N3/ 赤褐~赤黒	2.5YR4/6~ 2.5YR1.7/1	茶・白色粒混入	文様面表面・形状全て 確認 外区端面が湾曲	ナデ (摩滅)		
136	二		Ec5d	Ec6	3/4	3/4	164	13.8	5.6	2.0	—	332.3	酸化	硬	10YR5/1	石英・白色粒混入	剥離、内区中房で蓮子9 個、蓮弁5葉を確認	ハケナデ (弧状回転)、 ヨコナデ	凸：側部ヨコナ デ	
137	二		Eb5d		1/6	1/6	175	14.0	5.2	1.5+	—	68.8	酸化	硬	10YR3/4 暗褐	茶・白色粗粒多量混入	剥離、蓮弁・間弁の一部 と蓮子1個確認	欠損	凸：側部ナデ 側：一部残存・ ナデ	
138	二		Eb5d		1/3	1/3	—	14.2	5.4	—	—	131.1	酸化	軟	2.5Y8/2 灰白	黒・赤・白色粗粒混入	摩滅、蓮弁・間弁明瞭に 蓮子欠損痕跡のみ	欠損		
139	二		SK05 Eb6		内区1/6破 片	1/6	170	14.0	—	1.6+	—	131.2	還元	硬	N6/ 橙	黒・赤・白色粗粒混入 白色粘土マール状に混入	剥離、内区中房で蓮子9 個、蓮弁5葉を確認	ハケナデ (弧状回転)	凸：側部ヨコナ デ	
140	二		Ec5d		1/6 中房欠 片	1/6	168	13.8	—	1.8~2.4	—	136.4	酸化	硬	10YR4/1	黒・白色粗粒混入	剥離、蓮弁・間弁一部、外区 確認	ハケナデ (弧状回転)	凸：側部ナデ	
141	二		Ec6		内・外区1/8 破片	1/8	170+	14.0	—	2.2	—	61.1	酸化	軟	2.5Y7/2	茶・黒・白色粒、チャート 粗粒混入	剥離、蓮弁・間弁の一部 確認	ナデ (摩滅)	凸：側部ナデ	
142	二		Ec6		内・外区1/12 以下破片	1/12以下	154+	13.0+	—	—	—	23.5	還元	硬	N5/ 灰白	白色粗粒混入	摩滅、蓮弁・間弁の一部 確認	摩滅 (ナデ)	凸：側部平行叩 き	
143	二		Ea5d		外区1/10	—	164	14.0	—	1.3+	—	—	酸化	弱	10YR7/4	文様面剥離、 外区外縁低く平坦面	摩滅			
144	二		Ea5d		内区1/8破 片	欠損	—	—	6.4	1.2+	—	16.2	還元	軟	5YR5/8	茶・灰・白色粒、石英粗粒 混入	蓮子4個、蓮弁の一部確認	欠損		
145	二		Ec5d		1/12花弁破 片	欠損	—	—	—	1.2+	—	20.7	酸化	軟	2.5YR7/2	白色粗粒混入	摩滅、 蓮弁・間弁一部確認	成形段階のナ デを確認、丸 瓦接合痕残存		
146	二		Ea5d		1/12以下花 弁破片	欠損	—	13.0+	—	—	—	12.6	還元	硬	5YR6/6	黒・白色粒、チャート粗粒 混入	摩滅、蓮弁・間弁の一部 確認、内区面と外区面の 上下の接合痕	欠損		
147	二		Ec5d		1/12花弁破 片	欠損	—	—	—	—	—	10.2	酸化	軟	7.5YR3/1	茶・白色粗粒混入	摩滅、 蓮弁・間弁の一部確認	—		
148	二		Ec6		内区1/12以 下	—	160+	—	—	1.2+	—	18.2	酸化	弱	5YR3/1 黒褐 5YR8/1	茶・黒色粒少量混入	文様面剥離、 外区外縁低く平坦面	欠損		
149	二	不明	Aトレンチ Ⅲa層以下		一部 文様の破損 著しい	1/6	17.6	15.0	1.6~	—	—	131.6	酸化	軟	10YR5/3 にぶい黄褐	茶・黒・白 (1mm程度含む)色粒混入	剥離、蓮弁・間弁の一部 と蓮子のみ残る	指ナデ (弧状回転)	凸：平行叩き ナデ	
150	二	不明	Dトレンチ		花弁・外区 1/8	1/8?	17.6 ~	14.6	2.8	—	—	153.6	酸化	軟	2.5Y5/6	茶 (多量)・白色粗粒混入	花弁・外区緑部の一部 残存、摩滅			

型式	小分類	出土遺構・グリッド/接合遺構・グリッド	残存部		法量			焼成		胎土		文様面	丸瓦面	丸瓦面 凸面 凹面	
			文様面	丸瓦面	径	瓦当厚	丸瓦厚	重量(g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	内部色調	色調				胎土
			外区	中房	内区	外区	中房	内区	土色帖	内部色調	土色帖				
151	二	不明	外区 花弁一部破 片		180	150	1.9~2.4	30.8	酸化	軟	7.5YR7/4	10YR7/3 にぶい黄橙	多・黒色粒混入	欠損	丸瓦面 凸面 凹面
152	二	不明			丸瓦 内10.4	2.7	2.7	152.4	還元	軟	2.5Y7/3 灰白	2.5Y7/1 灰白	茶・黒・灰・白色粒 チャート(3mm程度多量)、 粗粒混入	指ナデ (弧状回転)	
153	二	不明	1/12 大半剥離		6.2		6.2	76.4	酸化	硬	N3/	2.5Y7/1 灰白	茶・白色粒少量混入	ナデ (弧状回転)	
154	二	不明	欠損		162		2.0~	146.3	還元	硬	N6/	N6/	白色粒微量混入	ナデ (弧状回転)、 一般平打き後に ナデあり	凸：平打き、指 ナデ
155	二	不明	欠損		170		2.0~2.6	225.0	酸化	硬	10YR3/1	5YR6/6 橙	茶・白色粒混入	ナデ (弧状回転)	凸：ナデ
156	三		1/1		14.4	11.0	5.0 4.6~4.8	122.8	酸化	軟	2.5YR5/8	5YR6/6 橙	黒・茶・白色粒、チャート 混入	ハケナデ、 丸瓦の接合痕 と接着粘土痕	凸：— 凹：— 脚：タテナデ(指)
157	三		1/2		14.4	11.0	5.6 2.0+	282.8	還元	硬	7.5Y6/1	7.5Y6/1 灰	茶・黒・白色粒、石英、 チャート混入	—	凸：— 凹：— 脚：ナデ(指)
158	三		2/3		14.4	10.8	5.2 2.0+	325.1	還元	硬	5Y6/1	5Y6/1 灰	茶・灰・白色粒、石英、 チャート粗粒多量混入	—	凸：— 凹：— 脚：ナデ(指)
159	三		1/3		14.4	11.2	— 3.3~3.5	243.3	還元	硬	7.5Y7/1	7.5Y7/1~ 7.5Y5/1 灰白~灰	灰・白色粒、石英、 チャート粗粒混入	丸瓦の接合接 着痕	凸：— 凹：—
160	三		1/3		14.6	11.0	— 1.8+	108.2	酸化	硬	5Y7/1	10YR7/6 明黄褐	黒・茶・灰・白色粒、 チャート粗粒混入	—	脚：指ナデで成 形
161	三		2/3		13.4	11.2	5.0 2.5+	180.1	還元	硬	5Y6/1	7.5Y6/1 灰	黒・茶・灰・白色粒、 石英、チャート粗粒多量混入	—	
162	三		1/5		14.6	11.0	— 1.8+	92.2	酸化	弱	5YR6/6	10YR5/1 褐灰	茶・灰・白色粗粒多量混入	—	
163	三		1/3		13.8	11.0	5.3 3.5	423.0	還元	硬	2.5Y6/1 ~6/4	N5/ 灰	茶・白色粒、石英、 チャート粗粒混入	指ナデ、指型 残存、丸瓦の 接合接着痕	脚：指ナデ、縦 位、指紋残存
164	三		1/4		14.4 ~ 14.7	11.6	— 2.7	364.4	酸化	軟	2.5YR6/8	2.5YR6/8 橙	白色粒、茶色粗粒、 チャート混入	指ナデ、指型 残存、丸瓦の 接合接着痕	
165	三		1/5		14.6	11.2	5.1 4.8	261.7	酸化	硬	2.5Y6/1	5Y6/1	黒・茶・灰・白色粒、 石英、チャート粗粒多量混入	指ナデ (弧状回転)、 継下→上へ	脚：ナデで面取り して成形
166	三		内・外区1/10		13.0	—	4.6	101.0	還元	硬	N7/	N7/ 灰	黒・灰・白色粗粒混入 マーブル状の白色ブロック 混入	ナデ(鏡)	脚：ナデ
167	三		外区・脚部 1/10		12.4	—	4.5	87.5	還元	硬	N6/	N6/ 灰	黒・白色粗粒混入 白色粘土マーブル状に混入	ナデ(鏡)	脚：ナデ
168	三		1/8		15.0	1.0	5.0 1.5+	64.6	酸化	軟	2.5YR5/8	5YR6/6 橙	茶・白色粒、チャート粗粒 多量混入	—	
169	三		中房一部		—	—	0.8+	13.1	酸化	軟	2.5YR5/8	5YR6/6 橙	灰・白・茶色粗粒、 チャート混入	—	

型式	小分類	出土遺構・グリッド・接合遺構・グリッド		残存部		法量			焼成		胎土		文様面		丸瓦面		丸瓦部	
		出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	出土層位で表記のないものは全て第Ⅲa層	文様面	丸瓦面	径	中房	瓦当厚	丸瓦厚	重量(g)	超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	内部色調	色調	胎土	文様面	丸瓦面	丸瓦部	凸面
184	四	Eb5d		内区1/10破片	—	—	1.8+	—	54.2	硬	N5/灰	N5/灰	茶・白色粗粒混入	特記事項 個々の文様が明確、内区縁辺に半月形の凹弧文2個確認、文様が窠ナデと条線によって整えられている	欠損			
185	四	Ⅲa層		内区1/12破片	1/12	—	1.7+	—	33.6	軟	25YR6/3	25YR6/3にぶ黄	茶・白色粗粒混入	摩滅、内区縁辺の三日月形の凹弧文と内区縁文の一部を確認	摩滅			
186	四	Eb6		1/2	1/2	15.9 ~ 16.0	2.1 ~ 2.2	1.5	534.5	硬	N5/	25YR4/6~ 25YR5/2 赤褐~暗灰黄	黒・灰・白色粗粒多量、石英粗粒混入	摩滅、欠損により文様の1/2が不確定、1/8銀杏葉田弧文を2か所、異なる幾何学文様を3か所で確認、外区と内区の間差大きい	内区ナデ (弧状回転)、 外区ハケナデ			
187	四	Ⅲa層		外区1/12	外区1/12	160	—	38(外区)	113.7	硬	10R5/3 ~N4/	N5/灰	茶・白色粗粒混入	外区叩きとナデ	ナデ(鏡)			
188	五	Ea6 SX03 1層	Eb6	内区1/2	1/2	19.4	11.6	1.8	957.6	硬	10YR4/1	文様面 25YR6/1 赤灰 丸瓦面10R3/3 暗赤褐	黒・白色粗、長石、粗粒混入	外区叩きとナデの強弱による叩き、異なる幾何学文様を3か所で確認、布目一部残存	外区ナデ(鏡)、 内区指ナデ (弧状回転)			
189	五	Ec6		外区1/8破片	1/8	188	16.0	1.5	86.7	硬	25YR4/6	N4/灰	褐・白色粗粒混入	ナデ、側部平行叩き	叩き			
190	五	Ea5d		内区1/15以下	1/15以下破片	180	13.4	1.6	1180	硬	5Y5/1	10YR3/1 黒褐	茶・白色粗粒混入	一部叩き、 鏡棒状工具の刺突痕	ナデ(鏡・指)、 外区縁辺と 内区間に段差			
191	五	Ea6		外区1/12以下	1/12以下破片	185	—	1.6	79.2	硬	10YR5/1	25YR5/1 黄褐	石英・白色粗粒多量混入	外縁指頭圧痕、 文様面なし	摩滅			
192	五	Ed5d		内区1/8	1/12	—	14.0	1.6	87.1	硬	10YR5/1	10YR5/1 灰褐	石英・白色粗粒多量混入	文様面なし	摩滅			
193	五	Ⅲa層		内区1/15以下	1/15以下破片	—	—	1.6	45.4	硬	N5/灰	N5/灰	白色粗粒混入	鏡棒状工具の刺突痕	ナデ			
194	五	SK05 Eb6	Eb6 SK5丸瓦と接合	1/4	1/4	18.8	10.4	2.0	923.5	硬	7.5YR6/1	10YR6/3~N4/ 黄褐~灰	茶・白色粗粒多量混入	円と内側に突起状となる十字の隆線2条、ナデによる細かな凹凸顕著、布目僅かに残る	指ナデ			
195	五	SK05 Eb6	SK5 Eb6丸瓦と接合	1/1 内区剥落	1/1	19.0	—	3.5(外区)	1217.1	軟	25YR6/8	7.5YR2/1 黒	茶・白色粗粒多量混入	外区縁辺平行叩き	ハケ・指ナデ (弧状回転)			

第19表 軒平瓦観察表

遺構・ クワット	型式	類別 (須部)	残存状況		法量 (cm)			焼成		胎土	成形	凹面	凸面	側面調整	端面
			瓦当部	瓦当面	全長	長さ	厚	重量	内色調						
1	Ec5d Eb5d	A	左側3/4	瓦当部	27.8+	長さ	2.0	酸化軟	N3/ 暗灰	10YR6/4 土色粘	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕、糸切痕	縁杉叩き、側部面取	縁切	—
2	Ec6	A	右側4/5	瓦当部	11.3+	長さ	2.3	酸化硬	7.5YR3/1 黒褐	黒・茶・褐、 白色粒混入	粘土板・ 模骨痕、糸切痕	布目、縁杉叩き (瓦当縁辺)、 模骨痕、糸切痕	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 角ケズリ	縁切	—
3	SK01 Ed6	A	左側2/5	瓦当部	9.2+	長さ	3.2	還元硬	7.5YR5/1 褐灰	黒・茶・白色粗粒混入	一枚つくりか	細目叩き (縦)、 ナデ (瓦当部縁辺)、側部面取	縁切	—	
4	Ec5d	A	中央1/2、上段弧文欠、 側面欠、凸面欠	瓦当部	8.5+	長さ	1.8+	酸化硬	2.5Y3/1 灰白	黒・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	—	平行叩き、側部面取	—	—
5	Ec5d	A1	右側1/2、右側面完存	瓦当部	40.7	長さ	1.8	還元硬	5Y4/1 灰	茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状	粘土板・ 楠巻	布目、右側面取、模骨痕、糸切痕	平行叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 側部面取	縁切	—
6	Ec5c Ec5d	A1	左側3/4、弧文一部欠	瓦当部	15.0+	長さ	1.3	酸化軟	5Y4/1 灰	黒・茶・褐色粒混入	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕、糸切痕	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 側部面取	叩き	—
7	Eb6	A1	右側2/3	瓦当部	16.5	長さ	2.4	還元硬	5Y6/1 灰	黒・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当端部)、 模骨痕、糸切痕	縁杉叩き、ナデ (瓦当端部)	縁切	—
8	Eb5c	A1	左側1/3	瓦当部	12.5+	長さ	2.3	還元硬	N6/ 灰	黒・白色粒混入、 マーブル状白色粘土	粘土板・ 楠巻	布目、ハケナナデ (瓦当縁辺)、 側部面取 (叩き)、模骨痕、糸切痕	平行叩き、ナデ (瓦当縁辺)	縁切、 一部叩き	—
9	Ec5d	A1	右側1/3、上段弧文欠	瓦当部	25.2+	長さ	2.0	還元硬	2.5Y6/1 黄灰	黒・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕、糸切痕	平行叩き、ハケナナデ (瓦当縁辺)	縁切	—
10	Ec5d	A1	左側1/2、上段弧文欠	瓦当部	11.5+	長さ	2.5	酸化軟	2.5Y4/1 黄灰	黒・茶・白色粒多量混入	粘土板・ 楠巻	摩滅、布目 (中)、ケズリ (側部)、 模骨痕、糸切痕	摩滅、ナデ (瓦当面縁辺)、 側部面取	縁切	—
11	Eb5d	A1	右側1/2	瓦当部	10.6+	長さ	1.7	還元硬	N5/ 灰	黒・灰・白色粒多量混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 側部面取、 模骨痕	ケズリ、ヨコナデ (瓦当縁辺)、側部面取	縁切	—
12	Ea5d	A1	右側2/5	瓦当部	10.6+	長さ	2.0	酸化硬	7.5YR3/1 黒褐	茶・白色・チャート粒混入	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 側部面取 (叩き)、模骨痕、糸切痕	縁杉叩き、ケズリ (側部)	縁切、 一部叩き	—
13	Ec6	A1	左側2/5、上段弧文一部欠	瓦当部	14.5+	長さ	1.1	還元硬	N7/ 灰白	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 楠巻	摩滅、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕	ケズリ、ヨコナデ (瓦当縁辺)	縁切	—
14	SK05	A1	左側1/5	瓦当部	12.0+	長さ	2.7	還元硬	5Y6/1 灰	黒・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	布目、ヨコナデ (瓦当縁辺)、 側部面取、糸切痕	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)	縁切	—
15	Ec6	A1	左側1/2、上中段弧大半欠、 凹面欠	瓦当部	10.5+	長さ	1.8	還元硬	5Y5/1 灰	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 楠巻	布目 (摩滅)、模骨痕	ケズリ (摩滅)、ヨコナデ (瓦当縁辺)	縁切	—
16	Ec5d	A1	左側1/8	瓦当部	7.6+	長さ	2.0	還元硬	N5/ 灰	黒・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	布目 (側部)、模骨痕	平行叩き→ナデ、ヨコナデ (瓦当縁辺)、側部面取	縁切	—
17	Ec5d	A1	右側1/6、上段弧文欠	瓦当部	8.0+	長さ	2.1	酸化軟	5Y5/1 黄橙	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	布目、側部面取 (叩き)、 模骨痕、糸切痕	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)	縁切	—
18	Ec6	A1	中央1/6、両側欠	瓦当部	6.7+	長さ	2.0	酸化硬	N3/ 暗灰	黒・茶・褐、白色粒混入	粘土板・ 楠巻か	摩滅、ナデ (瓦当縁辺)	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)	—	—
19	Ec5d	A2	右側2/5、上下段弧文一部 欠	瓦当部	12.0+	長さ	1.9	還元硬	N3/ 暗灰	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 楠巻	布目 (摩滅)、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕	タテケズリ→縁ナデか	縁切	—
20	Ec6	A2	右側1/5、上段弧文一部欠	瓦当部	6.5+	長さ	1.5	還元硬	5Y6/2 灰オリーブ	茶・灰・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	摩滅 (布目)、模骨痕	摩滅 (ナデか)	縁切	—
21	Ec5c	A2	右側1/3、下段弧文一部欠	瓦当部	7.2+	長さ	1.6	還元硬	N6/ 灰	黒色粒混入、マーブル状の白 色粘土ブロック混入	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 側部面取、 模骨痕	縁杉叩き→ヨコナデ	縁切	—
22	Ec6	A2	中央1/5、両側面欠	瓦当部	7.5+	長さ	1.8	還元硬	N5/ 灰	黒・白色粒混入	粘土板・ 楠巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕	平行叩き→ナデ (瓦当縁辺)	縁切	—

遺構・ フリット	型式	類別 (領部)	残存状況		法量 (cm)			焼成		胎土	成形	凹面	凸面	側面調整	端面
			瓦当面	全長	瓦当部	端部	重量	内色調	表面色調						
			長さ	厚	長さ	厚	厚	g	土色粘	土色粘					
23	SK06 Ea5d	A2	6.6+	3.5+	11.5+	0.8+	21.4	還元硬	N6/ 灰	N6/ 灰	黒色粒混入、白色粗粒多量混入、マーブル状白色粘土ブロック混入	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、ヨコナデ (瓦当縁辺)	縁切	—
24	Ea6	A2	7.8+	4.6	9.4	1.6	253.2	還元硬	N4/ 灰	N7/ 灰白	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ナデ	—	—
25	Ec5c	B1	17.2+	4.2	12.0+	2.4	908.0	酸化硬	75YR6/1 褐灰	5YR4/3 にふい赤褐 (凸) 75YR7/3 にふい橙	黒・茶色粒混入、 マーブル状白色粘土ブロック 混入	粘土帯・ 桶巻	摩滅 (平行叩き→ナデか)、 端部面取	縁切	—
26	Ec5d	B1	33.8+	3.7	—	2.8	966.0	還元硬	N6/ 灰	25Y7/4 浅黄	茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	桶巻	平行叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 端部面取	—	—
27	Ec5d	B1	18.0+	4.1	—	2.0	732.0	還元硬	25Y3/1 黒褐	25Y7/4 浅黄	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 端部面取	縁切	—
28	Ec5d	B1	21.2+	5.7	6.0+	1.9	901.0	還元硬	N7/~5/ 灰白~灰	N4/ 灰	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 端部面取	縁切	—
29	Ec6a	B1	20.2+	4.7	—	—	396.0	酸化軟	10YR4/1 褐灰	10YR7/6 明黄褐	黒・茶・白色粒混入	粘土帯か	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 端部面取	縁切	—
30	Ec5d	B1	9.5+	4.4	11.3	1.6	414.5	酸化軟	10YR7/1 灰白	75YR6/6 橙	黒・茶・灰・白色粒混入	粘土帯・ 桶巻	摩滅、ナデ (瓦当縁辺)、 粘土帯接合痕、模骨痕	縁切	—
31	Ea5c	B1	8.8+	2.6	7.0	1.8	245.5	還元硬	N6/ 灰	25Y7/2 灰黄	茶・灰・白色粒多量混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ヨコナデ、 端部面取、角ケズリ	縁切	—
32	Eb6	B1	8.7+	3.4	4.6	2.3	235.7	還元硬	N5/ 灰	N5/ 灰	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)、 端部面取	—	—
33	SK01 Ea6	B1	11.0+	3.7	9.4	1.8	336.0	還元硬	N7/ 灰白	N6/ 灰	黒・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、ヨコナデ (瓦当縁 辺)、側部・端部面取	縁切→ ナデ	—
34	Eb6	B1	7.7+	3.7	6.1	2.0	369.0	還元硬	5YR5/3 (凹) 5Y6/1 黄灰 25Y6/1 にふい赤 褐~黄灰	25Y6/2 灰黄	黒・黒・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ヨコナデ、 端部面取	—	—
35	Ea5d	B1	9.3+	3.1	6.1	1.7	241.0	還元硬	N6/ 灰	N6/ 灰	黒色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ヨコナデ (瓦当縁辺)	—	—
36	Ec5d	B1	9.2+	3.4	8.8	2.4	360.0	還元硬	N6/ 灰	N5/ 灰	黒色粒混入、 マーブル状白色粘土ブロック混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ヨコナデ (瓦当縁辺)	—	—
37	Eb5d	B1	2.6+	3.6+	—	2.2	109.2	還元硬	N7/ 灰白マー ブル状	N8/ 灰白	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、ナデ (瓦当縁辺)	—	—
38	Ec5d	B1か	11.3+	2.5+	4.5	1.5+	155.2	還元硬	N6/ 灰	10YR5/3 にふい赤 褐	茶・黒・白色粒混入、 マーブル状の白色粘土混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き、ヨコナデ (瓦当縁 辺)、端部面取	—	—
39	Ec6	B1か	7.2+	2.8+	8.0	0.8+	121.9	酸化硬	10YR5/1 褐灰	25YR7/4 淡赤橙	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土帯・ 桶巻か	摩滅、ナデ (瓦当縁辺)、 端部面取	縁切	—
40	Ea5d	B2	16.2+	3.9	—	1.8	1076.0	還元硬	25YR5/3 にふい赤 褐	75YR5/3 にふい褐	茶・灰・チャート粒混入、 白色粒多量混入	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ヨコナデ (瓦当・ 側部縁辺)、角ケズリ	縁切	—
41	Ec5c	B2	18.2+	4.7+	14.2	2.4	1280.5	酸化硬	N6/ 灰	75YR7/6 橙	茶・白色粒混入	粘土帯・ 桶巻	摩滅、側部面取、角ケズリ	縁切	—
42	Ec5c Ec6	B2	13.0+	4.7	7.0	2.2	79.7	酸化硬	75YR6/1 褐灰	75YR6/6 橙	黒・茶色粒多量混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土帯・ 桶巻	摩滅、端部面取、角ケズリ	縁切か	—

第6章 遺物

遺構・グリッド	型式	類別(類別)	残存状況		法量 (cm)			焼成		胎土	成形	凹面	凸面	側面調整	端面
			瓦当部	瓦当部	長さ	厚	重量	内部色調	表面色調						
43	Ec5d	B2	中央1/4、両側面欠	全長	82+	3.6	331.5	5YR6/1 褐色	N3/ 暗灰	黒色粒多量混入	粘土板・ 桶巻	布目、棒状工具の抑え (瓦当縁辺)、椀骨痕、糸切痕	縁杉叩き、端部面取	—	—
44	Ea6	B2	中央1/10、両側面欠	全長	53+	3.4	231.6	N6/ 灰	5Y6/2 灰オリーブ	黒色粒多量混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	布目 (摩滅)、椀骨痕	摩滅 (細目叩き→ナデか)	—	—
45	Ec5c	B2	右側1/3	全長	103+	3.2	311.0	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	灰・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	布目、側部面取、椀骨痕	細目叩き→ヨコナデ	—	—
46	Ec6	B2	中央1/4、上段弧文欠、両側面欠、凹面欠	全長	55+	3.0+	111.2	N6/ 灰	5Y7/1 灰白	黒色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	—	縁杉叩き (摩滅)、 ナデ (瓦当縁辺)、端部面取	—	—
47	Ea5d	C	中央1/3、両側面欠	全長	116+	3.4	511.0	25Y6/1 黄灰	25Y7/1 灰白	茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	摩滅 (布目)、椀骨痕、紐状凹部 残る	平行叩き→ヨコナデ (ハケ)	—	—
48	Ec5d	C	左側1/6、上段弧文欠	全長	136+	3.5	525.5	25YR3/1 黒褐	25Y7/1 灰白	茶・白色・石英・ チャート粒多量混入	粘土板・ 桶巻	摩滅、椀骨痕、糸切痕	平行叩き→ヨコナデ、 端部・側部面取	—	—
49	Eb6 Eb5d	C	中央2/5、下段弧文一部欠	全長	122+	3.6	583.0	25Y3/1 黒褐	75YR7/4 にぶい橙	黒・茶・白色粒混入、 チャート粒多量混入	粘土板・ 桶巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、椀骨痕、 糸切痕	ハケナデ (瓦当縁辺)、 ハケナデ (縁つくる)	—	—
50	Ec5c	C	左側1/2、凸面一部剥離欠	全長	113+	3.3	371.5	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	茶・灰・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、椀骨痕	摩滅、ケズリ (瓦当縁辺)、 端部面取	—	—
51	Ec6a	B	左側1/10、隅切り	全長	94+	3.7	206.1	5Y6/1 灰	5Y5/1 灰	黒・白色粒多量混入	粘土板・ 桶巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 側部面取	平行叩き→ヨコナデ、 寛ナデ (瓦当縁辺端側)	—	—
52	Ec5c	A	左側1/3、最下段の弧文一部欠、凸面欠	全長	120+	2.4+	2147.0	N6/ 灰	5Y6/2 灰オリーブ	黒・白色粒多量混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、椀骨痕	—	—	—
53	Ed6	A	左側1/5、下段弧文欠、	全長	62+	6.9	2307.7	10YR3/1 黒褐	10YR7/4 にぶい黄橙	黒・白色粒微量混入	粘土板・ 桶巻	布目 (摩滅)、ナデ (瓦当縁辺)、 椀骨痕	縁杉叩き、角ケズリ	—	—
54	Eb6	A	右側1/6、下段弧文欠、凸面欠	全長	71+	2.5+	113.0	N6/ 灰	5Y7/2 灰白	黒・茶・白色粒多量混入、 チャート粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、ヨコナデ (瓦当縁辺)、 椀骨痕	—	—	—
55	Ec6	Aか	左側1/4、下段弧文一部欠、凹面欠	全長	62+	2.6+	105.8	5Y7/1 灰白	75YR7/8 黄橙	黒・茶・灰・白色粒多量混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	布目、ヨコナデ (瓦当縁辺)、 椀骨痕	摩滅 (叩きか)	—	—
56	Ec5c	A	中央1/3、上段弧文欠、両側面欠、凹面欠	全長	42+	2.5+	73.4	75YR3/1 黒褐	75YR4/4 褐	黒・茶・白色粒混入	一枚つくり りか	—	細目叩き (縦・やや斜)	—	—
57	Eb5d	Bか	中央1/4、中段弧文1条残存、両側面欠、凹凸面一部剥離	全長	108+	2.5+	553.5	25Y5/1 黄灰	5YR6/6 橙	黒・茶・白色粒多量混入	一枚つくり りか	—	細目叩き (縦)	—	—
58	Ea6	B	左側1/4、下段弧文欠	全長	118+	2.4+	271.8	10YR3/1 黒褐	25YR6/8 橙	白色粒微量混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、椀骨痕	平行叩き→ヨコナデ	—	—
59	SK05	不明	左側1/4、平瓦部欠	全長	31+	5.6	123.7	5Y7/1 灰白	75YR6/6 橙	茶色粒混入、一部白色粘土 マーブル状に混入	粘土帯・ 桶巻	—	—	—	—
60	Ec6	B	右側1/7、下段弧文欠	全長	86+	2.3+	187.5	75Y7/1 灰白	75Y7/1 灰白	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、椀骨痕	平行叩き (摩滅)	—	—
61	Eb5a	B	中央1/5、下段弧文欠、凸面欠、凹面欠	全長	70+	2.7+	181.7	N5/ 灰	N6/ 灰	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	布目 (摩滅)、 粘土貼り付け→ナデ (瓦当縁辺)	—	—	—
62	Ed5d	B	右側1/3、下段弧文欠、凸面欠	全長	95+	3.2+	356.5	10YR7/8 灰白	75YR7/8 黄橙	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	布目 (摩滅)、 ナデ (瓦当縁辺)、椀骨痕	—	—	—
63	Ed6	B	左側1/5、上中段弧文欠、凹面欠	全長	100+	2.3+	286.5	10YR3/1 黒褐	10YR7/4 にぶい黄橙	黒・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	—	縁杉叩き、ハケナデ (瓦当縁辺)、角ケズリ	—	—
64	Ec6	B	右側1/10以下破片	全長	5.9+	4.0	35.5	10YR5/1 褐灰	N6/ 灰	黒・白色粒混入	—	ナデ	縁杉叩き、角ケズリ	—	—
65	Ec6	不明	右側1/3、弧文隆帯・上段弧文欠、右側摩滅、凹凸面摩滅	全長	128+	3.8+	490.5	75YR7/2 明褐灰	5YR7/8 橙	茶・黒・白色粒多量混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	摩滅 (布目)、椀骨痕	摩滅、端部面取	—	—

遺構・ フリット	型式	類別 (領部)	残存状況		法量 (cm)			重量		焼成		胎土	成形	凹面	凸面	側面調整	端面		
			瓦当部 長さ	瓦当部 厚	長さ	厚	g	内色調	表面色調	長さ	厚							内色調	表面色調
66	Eb6	Bか	三重か	左側1/5、中下段の弧文欠、凸面一部剥落	12.7+	6.5+	2.7+	2.3	2.3+	346.0	酸化弱	25Y7/3~5YR6/4 浅黄~にお い橙	茶・褐・灰・白色・ 粗粒多量混入	一枚つくりか	磨滅 (布目)	磨滅	—		
67	Ec5d	B	三重	中央1/8、上段弧文欠、側面欠	8.5+	5.5+	2.8+	6.3	1.6	181.9	還元硬	N7/灰白	黒・茶・灰色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土帯・ 桶巻	布目、ヨコナデ (指)	平行叩き、 ヨコナデ (瓦当縁辺広範囲)	—	—	
68	Ec6	不明	三重か	中央1/5、下段弧文欠、側面欠、凸面欠損	8.0+	7.4+	2.1+	7.3	2.3+	171.3	還元硬	7.5Y5/1 灰	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 糸切痕、指紋残存	—	—	—	
69	SK07 Ec5c	B	三重か	右側1/4、下段弧文欠、右側磨滅、凸面欠	6.7+	8.5+	2.0+	4.6	2.3+	162.2	酸化軟	7.5YR7/4 におい橙	黒・茶・灰・白色粒混入	桶巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕	—	—	—	
70	Eb5c	不明	三重か	中央1/5、上中段弧文一部欠、下段弧文欠、両側面欠、凸面欠	6.5+	7.7+	2.5+	7.3	1.5+	146.4	還元硬	N4/灰	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、ハケナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕	—	—	—	
71	Ec5c	B	三重か	中央1/4、下段弧文欠、側面欠、凸面欠	3.2+	9.7+	2.0+	7.2	1.7+	63.2	酸化硬	5YR6/8 橙	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、ナデ (瓦当縁辺)、 模骨痕	—	—	—	
72	Ec5c	B2	三重か	中央1/4、中段弧文一部欠、下段弧文欠、両側面欠、凸面欠	6.7+	9.4+	3.0+	6.0	—	101.7	還元硬	5Y7/1 灰白	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	—	平行叩き→ヨコナデ、 端部面取	—	—	
73	Eb6	B	三重か	中央1/6、下段弧文欠、側面欠、凸面欠	4.8+	5.5+	3.2+	4.1	2.3+	84.1	酸化硬	7.5YR4/1 褐灰	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目 (磨滅)、ナデ (瓦当縁辺)	—	—	—	
74	Ea5d	B	三重	中央1/8破片、上段弧文欠、両側面欠	4.1+	4.7+	3.0+	—	3.3	42.6	酸化硬	2.5Y7/3 浅黄	黒・茶・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、模骨痕	磨滅 (ハケナデ)	—	—	
75	Ec5d	不明	三重か	中央上段1/8破片、両側面欠、凸面欠	6.0+	4.1+	2.0+	—	1.6+	40.3	還元硬	2.5YR2/1 赤黒	黒・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	ナデ、ヨコナデ (瓦当縁辺)	—	—	—	
76	Ec5c	Bか	三重か	中央1/5、中下段の弧文欠、両側面欠、凸面欠	3.8+	4.8+	2.5+	—	1.5+	35.8	還元硬	N7/灰白	黒・灰色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	—	磨滅 (平行叩きか)、ナデ (瓦当縁辺)、端部面取	—	—	
77	SK05 Eb6	不明	四重か	中央1/6、上段弧文欠、両側面欠、凸面欠	6.8+	7.0+	2.1+	6.0	2.6	139.3	還元硬	N4/灰	黒・灰・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目、糸切痕	剥落、平行叩き	—	—	
78	Ec5d	不明	四重か	左側1/4、上段弧文欠、両側面欠、凸面欠	6.0+	5.6+	2.2+	8.2	0.8+	83.0	酸化硬	10YR8/4 黒褐	茶・黒・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	—	縦杉叩き、ヨコナデ (瓦当縁 辺)、端部面取、角ケズリ	—	—	
79	Ec5c	不明	四重か	中央1/6、上下段弧文欠、両側面欠、凸面欠	5.5+	5.6+	3.1+	4.8	1.4+	80.3	酸化硬	7.5YR7/6 橙	茶・黒色粒混入	粘土帯・ 桶巻	—	縦杉叩き	—	—	
80	E46	不明	三重か	弧文隆線上部欠、両側面欠、凸面一部剥落	13.4+	8.6+	3.7+	7.0	3.3+	808.5	酸化軟	5Y6/1 灰	黒・茶・白色・チャート粗粒 多量混入、 白色粘土マーブル状に混入	一枚つくり	布目 (磨滅)	—	—	—	
81	Ea5d	不明	三重か	中央1/6、下段弧文欠、側面欠、凸面大半欠	10.5+	6.3+	2.7+	4.0	2.3	333.5	還元硬	N4/灰	黒・白色粒微量混入	粘土板・ 桶巻	布目→ナデ、ヨコナデ (瓦当縁辺)、粘土接合痕、 模骨痕	平行叩き	—	—	
82	Eb6	不明	三重か	左側1/4、上下段弧文欠、凸部欠	8.8+	9.0+	2.8+	3.0	1.5+	193.3	酸化軟	2.5Y7/3 浅黄	茶・黒・白色、粗粒混入	一枚つくりか	—	—	—	—	
83	Ea5d	三・四 重か	三重か	左側1/4、弧文先端磨滅、 下段弧文欠、凸面欠	4.3+	8.2+	3.2+	8.6	—	104.3	還元硬	5YR7/8 橙	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	粘土板・ 桶巻	磨滅、模骨痕	—	—	—	—
84	SK07	不明	三重か	右側1/5、上中段弧文欠、 両側面欠、凸面欠	5.7+	7.1+	1.3+	5.5	0.5+	69.0	酸化硬	10YR6/6 明黄褐	茶・灰・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	—	磨滅、ヨコナデ (瓦当縁辺)	鏡切	—	
85	Ec6 E46	不明	三重か	中央1/4、下段弧文欠、 側面欠、凸面欠	4.4+	10.4	2.5+	—	1.4+	91.5	酸化硬	10YR8/3 浅黄橙	黒・白色粒混入	粘土板・ 桶巻	布目 (磨滅)、ナデ (瓦当縁 辺)、 模骨痕	—	—	—	

第20表 丸瓦観察表

種別分類	分類2	出土遺構・グリッド(接合を含む)		残存部全体の残存割合				残存状況・法量 (cm)・重量 (g)				焼成 超・硬 = 良好 軟 = 良 弱 = 不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	土色帖(報)	胎土
		出土	接合・補足	全長(+)	厚(最大)	広端部	狭端部	玉縁長(有段)	重量										
1	無段	SX01 6層	Ec6	24.3+	1.8	—	10.0	5.0	—	1032.5	還元	硬	粘土板・ 筒巻	平行叩き →タテ・ヨコナデ	布目、横骨裏、 端部一部面取	鈍キリ	鈍キリ	N5/ 灰	黒・褐・白色粒混入、 マーブル状白色粘土混入
2	無段	SX01 6層	Ec6	26.2+	2.2	—	10.5	5.5	—	1135.4	還元	超	粘土板・ 筒巻	平行叩き →タテ・ヨコナデ	布目、ナデ、 横骨裏、糸切裏	鈍キリ	鈍キリ	N4/ 灰	黒・褐・白色粒混入、 マーブル状白色粘土混入
3	無段	SX01 6層	Ec6	9.2+	2.7	—	—	—	—	364.0	酸化	軟	粘土板・ 筒巻	ナデ (摩滅)	布目、 ヨコナデ (指)	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	茶・褐・白色粗粒混入、 マーブル状白色粘土混入
4	無段	SX01 6層	Ec6	12.5+	2.0	—	—	—	—	437.5	還元	軟	粘土板・ 筒巻	タテナデ (摩滅)	布目 (摩滅)	鈍キリ	—	10YR7/6 明黄褐	褐・灰 茶・白色粒混入
5	無段	SX01 6層	Ec6	14.8+	1.8	—	—	—	—	276.0	還元	軟	粘土板・ 筒巻	ナデ (摩滅)	摩滅、側部面取	鈍キリ	—	10YR7/1 灰白	黒・茶・灰色粒混入、 マーブル状白色粘土混入
6	無段	SX01 6層	Ec6	14.5+	1.8	—	—	—	—	265.1	酸化	軟	粘土板・ 筒巻	摩滅	布目 (摩滅)	鈍キリ	—	10YR7/6 明黄褐	褐・灰、白色粒混入、 マーブル状白色粘土混入
7	無段	SX01 6層	Ec6	12.6+	1.7	—	—	—	—	257.4	酸化	軟	粘土板・ 筒巻	ナデ	布目、側部均一 面取、糸切裏	鈍キリ	—	7.5YR2/1 黒	黒・茶色粒混入
8	無段	SX01 6層	Ec6	14.4+	1.6	—	—	—	—	264.2	還元	軟	粘土板・ 筒巻	ヨコナデ	布目、縦目裏	鈍キリ	—	5Y6/1 灰	黒・茶色粒混入
9	無段	Eb5d	Eb6	25.2+	1.5	—	—	—	—	692.7	還元	硬	粘土板・ 筒巻	平行叩き(相) →ヨコナデ(縦・指)	布目	鈍キリ、 凹部面取	鈍キリ	N5/ 灰	灰色粒微量混入
10	無段	Ec5d	Eb6	34.0+	1.8	—	—	—	—	1200.0	還元	硬	粘土板・ 筒巻	タテナデ	布目、糸切裏	切鎌	ナデ	N5/ 灰	白色粒多量混入
11	無段	SK05 Ea5d	Ea5d	18.6+	2.1	12.1	8.6	—	—	1026.0	還元	超	粘土板・ 筒巻	ケズリ→ナデ	布目、縦目裏、 先端面取	鈍キリ、 凹部面取	鈍キリ	N4/ 灰	白色・長石粒子混入
12	無段	Ec5d	Eb6	24.0+	1.7	15.0	7.3	—	—	801.8	酸化	軟	粘土板・ 筒巻	ナデ (摩滅)	布目、糸切裏	鈍キリ	—	10YR7/3 にぶい黄褐	茶・褐・白色粒混入
13	無段	Eb6	Eb6	25.6+	1.9	15.4	7.6	—	—	967.4	還元	軟	粘土板・ 筒巻	平行叩き→ヨコナデ	布目	鈍キリ	鈍キリ	10YR7/4 にぶい黄褐	茶・褐色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入
14	無段	Ec6	Ec6	23.5+	1.5	—	—	9.0	4.6	583.0	酸化	弱	粘土板・ 筒巻	摩滅	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR7/8 黄褐	茶・灰色粒混入
15	無段	Ec5d	Ec5d	24.5+	1.8	17.2	8.8	—	—	1190.5	酸化	弱	粘土板・ 筒巻	ヨコナデ(縦) 表面一部剥落	布目、縦目裏	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR4/6 褐	黒・褐・白色粒混入
16	無段	Eb6	Eb6	22.1+	1.7	—	—	—	—	811.7	酸化	硬	粘土板・ 筒巻	タテナデ (摩滅)	摩滅(布目)	切鎌か	—	10YR8/3 浅黄褐	茶色粒、黒・褐色粗粒混入
17	無段	Ec6	Ec6	17.0+	2.0	—	—	—	—	746.5	還元	軟	粘土板・ 筒巻	摩滅 (ナデか)	布目、糸切裏	鈍キリ	—	7.5Y5/1 灰	白色粒混入
18	無段	Ec6	Ec6	18.2+	2.0	—	—	—	—	684.9	酸化	硬	粘土板・ 筒巻	摩滅 (ナデか)	布目 (摩滅)	鈍キリ	—	7.5YR7/6 橙	茶・灰、白色粗粒、 チャート混入
19	無段	Ec5d	Ec6	26.9+	2.0	—	—	11.4	5.0	653.5	還元	硬	粘土板・ 筒巻	タテナデ	布目(摩滅)、 糸切裏	鈍キリ	鈍キリ	N7/ 灰白	黒・灰粒、茶色粗粒混入
20	無段	SK07	SK07	21.7+	1.20	—	—	—	—	701.7	酸化	硬	粘土板・ 筒巻	ナデ (摩滅)	布目、糸切裏	—	鈍キリ	2.5Y7/1 灰白	黒・茶・白色粒混入
21	無段	Ec6	Ec6	15.6+	1.80	—	—	15.6	5.2	442.6	酸化	軟	粘土板・ 筒巻	摩滅	布目、糸切裏、 縦目裏	鈍キリ	鈍キリ	10YR7/4 にぶい黄褐	茶・灰・白色粒、 石英粗粒混入
22	無段	SK05	SK05	15.5+	2.7	—	9.1	—	—	625.6	還元	超	粘土板・ 筒巻	タテナデ →ヨコナデ (指)	布目、糸切裏	鈍キリ	鈍キリ	N5/ 灰	灰・白色粒混入
23	無段	SK05	Eb6	17.0+	2.1	—	—	—	—	850.0	還元	超	粘土板・ 筒巻	ヨコナデ (ハケ)	布目、粘土板接合 痕、糸切裏	鈍キリ	鈍キリ	N5/ 灰	黒・灰色粒混入
24	無段	Eb5d	Ec5d	19.5+	1.5	—	—	11.0	4.3	459.1	還元	硬	粘土板・ 筒巻	ナテナデ→端部ヨコナ デ (指)、指紋残存	布目、 粘土板接合痕	鈍キリ	鈍キリ	N5/ 灰	灰色粒微量混入

種別分類	分類2	出土遺構・グリッド(接合を含む)		残存部全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)						焼成 超・硬=良好 軟=良 弱=不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	土色帖(釉)	胎土		
		出土	接合・補足		全長(+)	厚(最大)	広端部	狭端部	玉線長(有段)	重量										
72	無段	O I	Ec5d	広端部 1/4	230+	1.6	8.4	—	—	—	437.4	軟	粘土帯・筒巻	摩滅(ナデか)、端部面取	布目、縫目裏	鈍キリ	鈍キリ	N7/灰白	茶色粒混入、白色粘土マーブル状に混入	
73	無段	O I	Ec5d	右側端部欠損 1/4	17.2+	1.5	—	—	—	—	459.0	軟	粘土帯・筒巻	摩滅(タテナデか)	布目、帯巻接合裏	鈍キリ	—	N7/灰白	茶色粒混入、白色粘土マーブル状に混入	
74	無段	O I	Ec6	狭端部 1/6	16.2+	1.0	—	9.8	5.6	—	291.7	硬	粘土帯・筒巻	タテナデ(鏡)	布目、帯巻接合裏	鈍キリ	鈍キリ	5YR5.6明赤褐	黒・白色粒混入、マーブル状白色粘土混入	
75	無段	O I	Eb5d	広端部 1/8	9.0+	1.4	—	7.8	—	—	339.0	硬	粘土帯・筒巻	平行叩き→ナデ(ハネ)、端部面取	布目、帯巻接合裏	鈍キリ	鈍キリ	N4/灰	黒・茶色粒混入、白色粘土マーブル状に混入	
76	無段	O I	SK07 Eb5d	狭端部 1/2	19.0+	0.9	—	—	10.6	4.2	385.9	軟	粘土帯・筒巻	平行叩き(格子状)、平付糸線	布目、帯巻接合裏	鈍キリ	鈍キリ	N6/灰	白色粘土マーブル状に混入	
77	無段	O I	SK05	中央部両端 1/2	26.2+	1.8	—	—	—	—	507.6	硬	粘土帯・筒巻	平行叩き→ナデ、割付糸線残存	布目、一部ナデ(指)	鈍キリ	—	5YR4.4にぶい赤褐	茶・白色粒混入、マーブル状白色粘土混入	
78	無段	O I	Ec5d	広端部 1/8	12.0+	1.6~	17.0	9.0	—	—	175.8	硬	粘土帯・筒巻	縁杉叩き→平行叩き	布目、帯巻接合裏	鈍キリ	鈍キリ	2.5Y4/1黄灰	黒・茶・白色粒混入、マーブル状白色粘土混入	
79	無段	O I	Ea6	狭端部 1/6	18.5+	1.5	—	—	13.4	6.7	227.0	硬	粘土帯・筒巻	平行叩き→端部クロコナデ	布目、端部クロコナデ	鈍キリ	鈍キリ	2.5YR5.8明赤褐	黒・灰・白色粒混入、多量混入	
80	無段	O II	Eb6	広端部 1/3	24.0+	1.4	12.8	7.7	—	—	678.3	硬	粘土帯・筒巻	タテナデ(鏡か)、端部面取	布目、側部面取、帯巻接合裏	鈍キリ	鈍キリ	10R2/2極暗赤褐	黒・白色粒混入	
81	無段	O II	SK05 Eb6	狭端部両側 3/5	28.5+	1.6	—	—	10.6	4.8	1092.2	超	粘土帯・筒巻	ヨコナデ(ハネ・指)	布目、側部面取、粘土板接合裏、糸切裏	鈍キリ	鈍キリ	N6/灰	黒・灰・白色粒混入	
82	無段	O II	Ec5d	狭端部両側 1/3	22.7+	1.5	—	—	8.6	5.1	899.7	硬	粘土帯・筒巻	タテナデ(鏡)、端部面取	布目、側部面取、帯巻接合裏、水を合むと粘土塊の亀甲模様となる	鈍キリ	鈍キリ	N6/灰	白色粘土マーブル状に混入	
83	無段	O II	Ec5d	広端部両側 2/5	28.2+	1.3	15.2	7.4	—	—	667.1	硬	粘土帯・筒巻	タテナデ	布目、側部面取、帯巻接合裏、端部面取	鈍キリ	鈍キリ	2.5YR4/3にぶい赤褐	茶・白色粒少量混入	
84	無段	O II	SK05	広端部 1/4	22.5+	1.4	15.0	8.0	—	—	637.5	硬	粘土帯・筒巻	タテナデ→ヨコナデ、端部面取	布目、側部面取	鈍キリ	鈍キリ	N4/灰	黒色粒混入、白色粘土マーブル状に混入	
85	無段	O II	Ea5d Eb5d	中央部両側 1/5	17.5+	1.6	—	—	—	—	630.3	硬	粘土帯・筒巻	ヨコナデ	布目、側部面取、端部面取	鈍キリ	鈍キリ	N6/灰	灰色粒混入	
86	無段	O II	Ec5d	狭端部 1/6	21.0+	1.8	—	—	8.0	4.7	515.8	軟	粘土帯・筒巻	摩滅(ナデか)	布目、側部面取	鈍キリ	鈍キリ	N7/灰白	茶色粒混入、白色粘土マーブル状に混入	
87	無段	O II	Ed5d	狭端部 1/10	5.0+	1.0	—	—	—	4.5	103.0	超・硬	粘土帯・筒巻	ヨコナデ(鏡)	布目、帯巻接合裏、側部面取	鈍キリ	鈍キリ	N5/灰	灰・白色細粒混入	
88	無段	O II	Eb5d	狭端部 1/6	15.0+	1.1	—	—	9.2	4.8	388.3	超	粘土帯・筒巻	ヨコナデ(ハネ)	布目、一部指ナデ、側部面取、糸切裏	鈍キリ、凸部一部面取	鈍キリ	鈍キリ	N5/灰	茶・灰・白→帯状に入る
89	無段	O II	Eb6	狭端部 1/8	14.0+	1.3	—	—	11.0	4.9	217.1	硬	粘土帯・筒巻	ナデ(鏡)	布目、一部指ナデ、側部面取、帯巻接合裏	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR6/4にぶい橙	茶・白色粒混入、マーブル状白色粘土混入	
90	無段	O II	Ec6	広端部 1/4	17.1	0.9	12.8	6.4	—	—	212.1	軟	粘土帯・筒巻	タテナデ(鏡)、端部面取	布目、側部面取	鈍キリ	鈍キリ	5YR5.8明赤褐	橙・茶・白色粒混入	
91	無段	O II	Ec5d	狭端部 1/3	21.9+	1.0	—	—	10.0	4.7	228.5	軟	粘土帯・筒巻	ナデ(摩滅)	布目、側部面取	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR6/6橙	橙・茶色粒混入、白色粒多量混入	
92	無段	O II	Ec5d	広端部 1/12	8.5+	1.6	16.0	8.6	—	—	157.4	超	粘土帯・筒巻	タテナデ(鏡)	布目、帯巻接合裏、側部面取	鈍キリ	鈍キリ	2.5YR7/1明赤灰	灰・白色粒混入	
93	無段	O II	SK01	右側端部欠損 1/6	11.0+	1.0	—	—	—	—	124.4	硬	粘土帯・筒巻	ナデ(摩滅)	布目(摩滅)、帯巻接合裏、側部面取	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR7/4にぶい橙	茶色粒多量混入	

第6章 遺物

種別分類	分類2	出土遺構・グリップド(接合を含む)		残存部 全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)				焼成 ・超 = 良好 ・軟 = 良 ・弱 = 不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	土色帖 (報)	胎土
		出土	接合・補足		全長 (+)	厚 (最大)	広端部	狭端部								
94	無段	SK01	SK01	狭端部 1/6	9.5+	1.0	—	10.0	5.5	—	152.2	—	—	10YR8/2 灰白	茶色粒多量混入	
95	無段	Ec6	Ec5c	広端部 1/10	14.2+	1.3	—	—	—	—	183.0	—	—	5YR4/2 灰褐	褐・灰色粒混入	
96	無段	SK07	SK07	広端部 1/6	13.0+	1.2	11.4	7.8	—	—	309.4	—	—	N5/ 灰	白色粘土マーブル状に 混入	
97	無段	SK01	Ed6	狭端部側 1/4	10.5+	1.0	—	—	9.8	4.5	228.0	—	—	7.5YR8/3 浅黄緑	黒・茶・灰色粒多量混入	
98	無段	Eb5d	Eb5d	広端部 1/4	15.5+	1.5	—	—	—	—	487.7	—	—	2.5Y6/2 灰黄	茶・白色粒混入	
99	無段	Ec5d	Eb5d	中央部 1/6	12.5+	1.5	—	—	—	—	348.0	—	—	2.5Y6/2 灰黄	茶・白色粒混入	
100	無段	Ec5d	Ec5d	広端部 1/8	13.0+	1.5	17.0	8.4	—	—	213.0	—	—	N5/ 灰	黒・白色粒混入	
101	無段	Ea5d	Ed6	狭端部 1/12	10.3+	1.5	—	—	—	—	143.5	—	—	N6/ 灰	黒色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	
102	無段	Ed5d	Ed5d	狭端部 1/6	14.4+	1.2	—	—	12.0	5.0	231.1	—	—	10YR6/1 灰褐	茶・白色粒混入、 マーブル状白色粘土混入	
103	無段	Eb5d	Eb5d	広端部 1/6	13.2+	1.7	14.0	6.0	—	—	383.5	—	—	10YR8/4 浅黄緑	褐・灰色粒混入	
104	無段	Ec5d	Ec5d	広端部 1/8	10.0+	2.0	—	9.4	—	—	295.3	—	—	N3/ 暗灰	黒・灰色粒混入	
105	無段	Eb5d	Ec5d	広端部 1/10	12.1+	1.5	—	—	—	—	211.9	—	—	N3/ 暗灰	黒・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	
106	無段	Ec5d	Ec6	両端側面 1/1	34.0	1.3	17.0	8.4	7.8	5.4	—	—	—	N5/ 灰	灰・白→帯状に入る	
107	無段	Eb5d	Ec5d	狭端部 2/3	30.8+	1.4	—	—	11.6	5.2	673.7	—	—	5YR5/6 明赤褐	黒・帯・白色粒混入	
108	無段	Ec5d	Ec5d	広端部 1/5	10.5+	1.9	16.7	8.7	—	—	—	—	—	N7/ 灰白	茶色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	
109	無段	Eb5d	Eb5d	広端部 1/8	10.8+	1.9	—	9.0	—	—	321.0	—	—	5YR5/8 明赤褐	灰・白色粗粒、 黒・白色粒混入	
110	無段	Ec5d	Ec5d	狭端部側 1/5	11.5+	1.5	—	—	9.5	4.3	463.2	—	—	N6/ 灰	灰・褐色粒微量混入、 白色粘土マーブル状に混入	
111	無段	Ec5d	Ec5d	広端部 1/8	14.0+	1.8	18.0	10.2	—	—	444.7	—	—	N6/ 灰	黒・茶色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	
112	無段	Ec6	Ec6	広端部 1/8	13.0+	1.4	13.0	8.4	—	—	340.3	—	—	N4/ 灰	黒・白色粗粒混入、 マーブル状白色粘土混入	
113	無段	Ea5d	Ec5d	両端側面 5/6	37.0+	1.1	8.8	17.5	8.6	4.2	1220.0	—	—	N7/～N6/ 灰白～灰	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	
114	無段	Ec5d	Eb5c	両端側面 3/4	32.2	1.4	15.4+	8.8	8.5	4.1	1008.9	—	—	N5/ 灰	黒・灰・白色粒混入 白色粘土マーブル状に混入	
115	無段	Eb5d	Ec5d	広端部側面 1/2	24.2+	1.5	17.2	6.0	—	—	1450.0	—	—	5PB4/1～ 5RP6/1 暗青灰～紫灰	白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	

種別分類	分類2	出土遺構・グリップド (接合を含む)		残存部 全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)				焼成 超・硬 = 良好 軟 = 不良 弱 = 不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	土色帖 (報)	胎土				
		出土	接合・補足		全長 (+)	厚 (最大)	広端部	狭端部									玉縁長 (有段)	重量		
116	無段	O II 3	Ec5d	狭端部側 1/2	19.2+	1.2	—	10.2	5.3	—	442.3	還元	超	粘土帯・ 帯巻接合痕、 縷目痕	平行叩き→タテナデ (鏡)、側部面取	布目、側部面取、 帯巻接合痕、 縷目痕	鏡キリ	鏡キリ	N7/~N5/ 灰白~灰	胎土
117	無段	O II 3	Ea6 Ec5d	狭端部 1/8	17.5+	1.2	—	14.0	5.8	—	387.5	還元	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→タテナデ 側部面取	布目、側部面取	鏡キリ	摩減	N4/ 灰	白色粒混入
118	無段	O II 3	Ec6	広端部 1/2	31.0+	1.6	—	7.4	—	—	504.5	酸化	軟	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き、側部面取	布目、側部面取	鏡キリ	鏡キリ	5YR4/6 赤褐	黒・茶・白色粒混入
119	無段	O II 3	Ec5d Ec6	狭端部 1/4	16.8+	0.8	—	11.0	5.5	—	197.5	酸化	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→タテナデ、 側部面取	布目、帯巻接合痕、 側部面取	鏡キリ	鏡キリ	5YR6/8 橙	褐・灰・白色粗粒 多量混入
120	無段	O II 3	SK01 Ed6	中央部側 1/6	10.0+	1.4	—	—	—	—	289.8	酸化	軟	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き、側部面取	布目、帯巻接合痕、 側部面取	鏡キリ	—	10YR7/4 にぶい黄橙	黒・褐・白色粒混入
121	無段	O II 3	Ec5d	広端部側 1/5	9.5+	1.7	16.2	6.7	—	—	390.7	酸化	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→タテナデ、 側部面取	布目、側部面取、 帯巻接合痕	鏡キリ	鏡キリ	5YR5/4 にぶい赤褐	黒・白色粒混入
122	無段	O II 3	Ed6	狭端部側 1/5	8.2+	1.1	—	10.4	5.4	—	211.2	還元	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→タテナデ (鏡)、側部面取	布目、側部面取	鏡キリ	鏡キリ	N6/ 灰	白色粒微量混入
123	無段	O II 3	Eb5d	狭端部側 1/4	12.4+	2.2	—	10.05	4.2	—	350.0	還元	超	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き (細)、 側部面取	布目、側部面取	鏡キリ	鏡キリ	N2/ 黒	白色粒微量混入
124	無段	O II 3	Ed6	左側部、両端欠 1/8	16.5+	1.0	—	—	—	—	306.0	酸化	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→ヨココナデ、 側部面取	布目、帯巻接合痕、 側部面取	鏡キリ	鏡キリ	7.5YR5/6 明褐	茶・灰色粒微量混入
125	無段	O II 3	Ec5d	広端部 1/6	14.0+	1.4	—	8.4	—	—	331.9	酸化	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→タテナデ、 側部面取	布目、帯巻接合痕、 側部面取	鏡キリ	鏡キリ	5YR6/8 橙	茶・灰・白色粒混入
126	無段	O II 3	Ec5d	狭端部 1/4	20.5+	1.4	—	—	6.8	—	316.3	酸化	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→タテナデ、 側部面取	布目 (摩減)、 側部面取	鏡キリ	鏡キリ	7.5YR6/8 橙	茶・褐色粒混入、 白色粘土マール状に混入
127	無段	O II 3	Ec5d	狭端部 1/12	13.0+	2.4	—	8.8	4.4	—	229.9	還元 変形	超	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き、側部面取	布目、帯巻接合痕、 側部面取	鏡キリ	鏡キリ	N5/ 灰	灰色粘土マール状に混入
128	無段	O II 3	Ea5d Ec5c Ec5d	両端部側 2/3	33.0	1.6	16.7	7.5	10.4	3.7	1185.4	還元	硬	粘土帯・ 縷目痕	鏡杉叩き→平行叩き、 側部面取	布目、帯巻接合痕、 側部面取	鏡キリ	切鎌・ ナデ	N4/ 灰	黒・灰色粒混入
129	無段	H I	Eb5d Eb6	狭端部側 1/4	10.5+	1.2	—	11.0	6.2	—	287.0	酸化	軟	粘土帯・ 縷目痕	ロクロナデ	ロクロナデ	切鎌か	ナデ	10YR6/8 明黄褐	白・灰色粒・チャート、 長石の粗粒混入
130	無段	H I	Ec5d	狭端部 1/8	11.0+	1.4	—	—	—	—	202.7	還元	超	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き→ロクロコナデ	ロクロコナデ	鏡キリ	鏡キリ→ ナデ	2.5YR3/3 暗赤褐	黒・褐・白色粒混入
131	無段	H I	Eb6 Eb5	狭端部 1/4	11.8+	2.0	—	10.2	6.0	—	644.2	還元	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き、端部面取	ヨココナデ (指) 指 頭痕、帯巻接合痕	切鎌	ナデ (指)	N3/ 暗灰	チャート・白色粗粒 多量混入
132	無段	H I	Ea5d Eb6	広端部 1/3	16.0+	2.0	17.8	8.5	—	—	667.0	還元	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き	タテナデ →ヨココナデ (指)、 帯巻接合痕	切鎌	切鎌	5Y4/1 灰	黒・白色粒、白色粗粒 多量混入
133	無段	H I	Eb5d Ec5d	右側部、 両端欠 1/2	24.8+	1.7	—	—	—	—	672.5	還元	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き	ヨココナデ 帯巻接合痕	切鎌	—	N3/ 暗灰	茶・褐色粒、白色粗粒 多量混入
134	無段	H II 2	Ea6 Eb6	中央部側 1/3	20.3+	1.6	—	—	—	—	472.6	還元	硬	粘土帯・ 縷目痕	平行叩き、側部面取	ヨココナデ	切鎌	切鎌	N3/ 暗灰	茶・褐色粒、白色粗粒 多量混入
135	無段	H II 3	Ea5c Ea6 Eb5d Ec5c	広端部側 1/3	15.5+	1.9	15.4	7.0	—	—	858.5	還元	良好	粘土帯・ 縷目痕	タテナデ→ヨココナデ、 側部面取	ヨココナデ、 側部面取	鏡キリ	鏡キリ	N5/ 灰	黒・灰・白色細粒混入
136	有段	T I	Ea6 Ed6	有段玉縁部 1/3	13.0+	1.8	—	11.5	5.7	5.5	685.6	酸化	硬	粘土帯・ 縷目痕	摩減	布目	鏡キリ	鏡キリ	5YR5/8 明赤褐	橙・茶・白色粒、石英・ チャート粒多量混入
137	有段	T I	Eb5d	有段玉縁部 1/8	17.0+	1.2	—	9.5	4.8	4.3	647.2	酸化	軟	粘土帯・ 縷目痕	ナデ (摩減)	布目、縷目痕	鏡キリ	鏡キリ	10YR7/6 明黄褐	茶・褐・白色粒、 チャート粗粒多量混入

第6章 遺物

種別分類	分類2	出土遺構・グリッド (接合を含む)		残存部 全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)						焼成 超=硬=良好 軟=良 弱=不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	土色帖 (縦)	胎土
		出土	接合・補足		全長 (+)	厚 (最大)	広端部	狭端部	玉縁長 (有段)	重量								
138	有段	T I	Ed6	有段玉縁部 1/8	17.0+	1.3	—	—	—	306.1	酸化	粘土板・ 桶巻	細目叩き (縦)	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR6/6 橙	茶・灰色粒、 チャート粗粒混入、 白色粘土マーブル状に混入
139	有段	T I	SK05	有段玉縁部 1/8	11.0+	2.1	—	11.2	5.6	303.0	酸化	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ヨコナデ	布目、縫目裏	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR7/6 橙	褐色粗粒混入
140	有段	T I	Ec6	有段玉縁部 1/10	10.5+	1.6	—	10.0	5.0	192.3	酸化	粘土板・ 桶巻	ナデ (摩滅)	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR7/6 橙	茶・褐・灰色粗粒混入
141	有段	T I	Ec5d	有段玉縁部 1/10	11.5+	1.7	—	—	5.5	160.7	酸化	粘土板・ 桶巻	ナデ (摩滅)	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	10YR7/3 にぶい黄橙	褐・灰色粒、 茶色粗粒混入
142	有段	T I	Ea5d	有段玉縁部 1/10	10.9+	2.5	—	12.0	6.0	229.7	還元	粘土板・ 桶巻	ナデ	布目	鈍キリ	鈍キリ	N5/ 灰	白色粗粒混入
143	有段	T I	SK01	有段玉縁部 1/8	13.8+	1.3	—	4.3	4.0	241.6	酸化	粘土板・ 桶巻	細目叩き (斜位)	摩滅 (布目)、 縫目裏	摩滅	鈍キリ	7.5YR8/6 浅黄橙	茶色粗粒多量、 チャート大粒、灰色粒混入
144	有段	T I	SK06	有段玉縁部 1/10	13.5+	2.0	—	—	—	175.1	酸化	粘土板・ 桶巻	摩滅 (叩きか)	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR7/4 にぶい橙	茶・灰・白粒混入、 粘土マーブル状に混入
145	有段	T I	SK01	有段玉縁部 1/10	10.0+	2.0	—	—	—	216.0	酸化	粘土板・ 桶巻	平行叩き (摩滅)	布目、糸切裏	鈍キリ	鈍キリ	10YR7/3 にぶい黄橙	灰・白色粗粒混入
146	有段	T I	SK01	有段玉縁部 1/8	11.0+	2.2	—	—	—	310.0	酸化	粘土板・ 桶巻	摩滅	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR7/6 橙	茶色粗粒混入
147	有段	T I	A トレンチ	有段胴部 1/8	12.4+	2.3	—	—	—	250.9	酸化	粘土板・ 桶巻	摩滅	布目、縫目裏	鈍キリ	鈍キリ	10YR6/6 明黄褐	黒・茶・褐・白色粒・ 長石・チャート混入
148	有段	T I	Ec6	有段胴部 1/8	13.5+	2.0	—	—	—	259.8	酸化	粘土板・ 桶巻	細目叩き→ヨコナデ	布目 (摩滅)	切鎌	鈍キリ	10YR7/8 黄橙	茶・褐色粗粒多量、 長石・チャート粗粒混入
149	有段	T I	SK01	有段胴部 1/8	10.2+	2.3	—	—	—	242.4	酸化	粘土板・ 桶巻	ナデ (摩滅)	布目	鈍キリ	鈍キリ	5YR5/6 明赤褐	茶・灰色粗粒混入
150	有段	T I	Ed6	有段胴部 1/8	10.7+	2.3	16.0	7.0	6.0	191.0	酸化	粘土板・ 桶巻	摩滅	布目	鈍キリ	ナデ	7.5Y3/1 オリーブ黒	長石・茶色粗粒混入
151	有段	T I	SK06	有段胴部 1/8	7.0+	2.0	—	—	—	173.2	酸化	粘土板・ 桶巻	摩滅	摩滅	鈍キリ	鈍キリ	2.5Y7/3 浅黄	茶・白色粒、白色粗粒混入、 白色粘土マーブル状に混入
152	有段	T I	SK01	胴部広端部 1/4	19.9+	1.8	17.0	8.5	—	448.8	酸化	粘土板・ 桶巻	細目叩き (摩滅)	布目、糸切裏	鈍キリ	鈍キリ	10YR8/3 浅黄橙	黒・灰・白色粒、 茶色粗粒混入
153	有段	T I	SK01	胴部広端部 1/6	14.0+	1.8	—	—	—	306.5	酸化	粘土板・ 桶巻	摩滅 (叩き→ナデか)	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	7.5YR7/8 黄橙	褐色粗粒、 茶・灰色粗粒混入
154	有段	H I	Ea5d	有段玉縁部 1/6	14.6+	1.5	—	13.8	6.5	288.0	還元	粘土帯・ 桶巻	細目叩き →ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ	鈍キリ	ナデ	5RPF/1 紫灰	白色粗粒微量混入
155	有段	H I	Eb6	有段玉縁部 1/8	10.5+	1.0	—	12.0	6.0	480.0	還元	粘土帯・ 桶巻	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍キリ	鈍キリ	10R3/2 暗赤褐	褐・白色粒多量、 茶色粗粒混入
156	有段	H I	Ec5d	有段玉縁部 1/4	16.5+	1.1	—	13.4	4.7	322.3	酸化	粘土板・ 桶巻	細目叩き →ヨコナデ (摩滅)	ナデ (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	10YR7/4 にぶい黄橙	褐・白色粒、 茶色粗粒混入
157	軒丸瓦 (瓦当接 合部)	T I	Ec6	軒丸瓦接合部 (軒丸第一型式 か)	24.2+	2.0	—	9.4	—	963.0	還元	粘土板・ 桶巻	ナデ (鈍)	布目	鈍キリ	鈍キリ	N6/~10YR7/3 灰~にぶい黄橙	茶・褐色粗粒混入
158	軒丸瓦 (瓦当接 合部)	T I	Ec5d	軒丸接合瓦 (軒丸第三型式 か)	24.5+	2.2	14.0	8.2	—	671.0	酸化	粘土板・ 桶巻	摩滅、剥落	布目 (摩滅)	鈍キリ	鈍キリ	10YR7/6 明黄褐	褐・白粒多量、 茶色粗粒多量混入、 マーブル状白色粗粒混入 (第三型式胎土と類似)
軒丸 50 と接合	軒丸第二型式接 合部	T I	Ec5d	軒丸第二型式接 合部	24.7+	1.8	15.1	—	9.5	977.7	還元	粘土板・ 桶巻	平行叩き→ナデ	布目、帯巻接合痕、 縫目裏	鈍キリ	鈍キリ	N6/ 灰	白色粗粒混入

第21表 平瓦観察表

掲載番号	種別分類	出土遺構・グリッド(含む接合)		残存部全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)			焼成 超・硬=良好 軟=良 弱=不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整 鑿切には線条 痕が残存	土色帖		胎土							
		出土	接合・補足		全長(+)	縦長	広端部 最大幅						高	厚		最大幅	高	厚	重量			
1	平瓦 T I	SX01 6層	Ec6	広端部 1/4	28.1+	25.6	6.5	2.6	—	—	2.0	2100.0	酸化	硬	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	布目(摩滅)、横骨痕	鑿切	—	10YR7/1~10YR6/6 灰白~明黄褐	黒・茶色粒混入
2	平瓦 T I	SX01 6層	Ec6	狭端部 2/3	29.4+	—	—	2.3	25.5	6.5	1850.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	布目、糸切痕	鑿切	—	2.5Y7/4~2.5Y3/1 浅黄~黒褐	黒・茶色粒混入、 炭化有機物粒混入	
3	平瓦 T I	SX01 6層	Ec6	広端部 1/4	18.2+	11.1+	—	2.4	—	—	550.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	布目、縞目痕	ナテ	ナテ	7.5Y7/1~7.5Y3/1 灰白~オリーブ黒	黒・茶・白色粒混入、 炭化有機物粒混入	
4	平瓦 T I	SX01 6層	Ec5d	広端部 1/4	22.2+	15.4+	5.4	2.6	—	—	950.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	布目、横骨痕	ナテ	ナテ	10YR8/3~10YR2/1 浅黄橙~黒	黒・茶・白色粒混入、 炭化有機物粒混入	
5	平瓦 T I	SX01 6層	Ec5d	中央(端部欠)	18.5+	—	—	—	—	—	681.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目、横骨痕	鑿切	—	10YR2/1	黒・茶色粒混入	
6	平瓦 T I	SX01 6層	Ec6	狭端部 1/6	11.0+	—	—	—	19.5+	—	400.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目(摩滅)、横骨痕、 糸切痕	鑿切	ナテ	10YR3/1 黒褐	黒・茶色粒混入、 炭化有機物粒混入	
7	平瓦 T I	SX01 6層	Ec5d	狭端部(側部欠)	10.5+	—	—	—	12.5+	—	271.2	還元	超	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目、糸切痕	—	—	N4/ 灰	黒・白色粒微量混入	
8	平瓦 T I	SX01 6層	Ec6a	中央(端部欠) 1/15以下	12.0+	—	—	—	—	—	242.0	酸化	硬	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目、横骨痕	鑿切	—	10YR4/1 桐灰	黒・茶・白色粒混入	
9	平瓦 T I	SX01 6層	Ec5d	狭端部(側部欠) 1/15以下	7.7+	—	—	—	5.3+	—	96.5	酸化	軟	粘土板	ナテ	ナテ	布目、一部指ナテ	—	—	10YR3/1 黒褐	黒色粒混入	
10	平瓦 T I	SX01 6層	Ec6	中央(端部欠) 1/15以下	10.5+	—	—	—	—	—	505.0	酸化	軟	粘土板	摩滅(ナテ)	摩滅(ナテ)	布目	鑿切	—	5YR6/1 桐灰	黒・茶・白色粒混入	
11	平瓦 T I	SX01 1層	Ec6	中央(端部欠) 1/15以下	10.3+	—	—	—	—	—	409.0	還元	弱	粘土板	ナテ(摩滅)	摩滅、糸切痕	ケズリ	—	—	2.5Y7/2 灰黄	黒・茶・白色粒混入	
12	平瓦 T I	SX01 北区	Ea6	狭端部 1/3	27.5+	—	—	—	10.0+	—	957.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	細目叩き→ナテ、 側部面取	細目叩き、糸切痕	鑿切	ナテ	ナテ	10YR8/2 灰白	黒・茶・白色粒混入	
13	平瓦 C I	SX01	Ea6	広端部	32.5+	7.5+	—	1.4	—	—	984.5	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	細目叩き	細目叩き	布目	ナテ	ナテ	10YR8/4 浅黄橙	チヤート・茶・灰・ 白色粒多量混入	
14	平瓦 T I	SX01 北区	Ea6	狭端部 1/12	14.0+	—	—	—	7.5+	—	286.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	縁杉叩き	縁杉叩き	布目	鑿切	ナテ	7.5YR6/6 橙	黒・白色粒微量混入	
15	平瓦 T I	Eb6a	Ec5d A トロンチ	狭端部 1/2	34.0+	—	—	2.0	21.4+	6.5	1500.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(摩滅)	ヨコナテ(摩滅)	布目(摩滅)、横骨痕	鑿切	ナテ	10YR6/1~10YR6/6 灰褐~明黄褐	黒・赤・茶・白色粒混入、 一部にマーブル状の 白色粘土ブロック混入	
16	平瓦 T I	SX01	Ec5d	狭端部 2/5	30.0+	—	—	—	5.5+	—	1522.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	布目(摩滅)、横骨痕、 糸切痕	鑿切	—	5Y6/1~5Y3/1 灰~暗灰オリーブ黒	黒・赤・茶・白色粒 多量混入	
17	平瓦 T I	SX01	Ec6	狭端部 1/4	19.3+	—	—	—	7.5+	—	738.5	酸化	軟	桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	布目(摩滅)、板巻接合痕	鑿切	ナテ	5Y3/1 オリーブ黒	黒・赤・茶・白色粒 多量混入	
18	平瓦 T I	SX01	SK05	広端部 1/4	20.7+	18.2+	—	2.1	—	—	1044.6	還元	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目(摩滅)、端部面取、 横骨痕、糸切痕	鑿切	ナテ	2.5Y6/1~2.5Y5/2 黄灰~暗灰黄	黒・赤・茶・白色粒 多量混入	
19	平瓦 T I	Eb5d	Ec6 Eb6	狭端部 1/4	20.5+	20.5+	—	—	13.5+	—	654.2	還元	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目	鑿切	ナテ	7.5YR6/1 桐灰	黒・赤・茶・白色粒 多量混入	
20	平瓦 T I	SX01	Ea6	狭端部 1/6	17.0+	15.5+	—	2.3	—	—	847.5	還元	硬	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目、一部タテナテ(指)、 板巻接合痕、糸切痕	鑿切	ナテ	5Y5/1 灰	赤・黒・茶・白色粒 多量混入	
21	平瓦 T I	SX01	Ea5d	狭端部 1/6	19.5+	—	—	—	11.0+	—	661.0	還元	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ(鏡)	ヨコナテ(鏡)	布目、板巻接合痕、横骨痕	鑿切	ナテ	N4/~5Y6/1 灰~黄灰	茶・白色粒微量混入	
22	平瓦 T I	SX01	Ec5c	狭端部 1/6	14.0+	15.0+	—	1.7	—	—	534.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	布目、端部面取、横骨痕、 糸切痕	鑿切	ナテ	N6/ 灰	黒・白色粒混入、マーブル 状の白色粘土ブロック混入	
23	平瓦 T I	SX01	Eb6	狭端部 1/10	15.7	8.5	—	2.0	—	—	558.0	酸化	硬	粘土板・ 桐卷	ナテ(鏡)	ナテ(鏡)	布目、横骨痕、糸切痕	鑿切	ナテ	7.5YR5/6 明褐	白色粒混入	
24	平瓦 T I	SX01	Eb6	狭端部 1/10	12.3+	15.0+	—	2.2	—	—	684.0	還元	超	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ (ハケ、指)、 指紋残存	ヨコナテ	布目、端部面取、糸切痕	鑿切	ナテ	N5/ 灰	黒・白色粒混入	
25	平瓦 T I	SX01	SK07	中央(端部欠) 1/15以下	9.0+	—	—	—	—	—	242.1	還元	超	粘土板・ 桐卷	ナテ	ナテ	布目、横骨痕、糸切痕	鑿切	ナテ	N5/ 灰	黒・白色粒多量混入	
26	平瓦 T I	SX01	SK07	狭端部 1/15以下	8.5+	6.0+	—	1.9	—	—	168.7	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	ヨコナテ	ヨコナテ	摩滅(布目)	鑿切	ナテ	10YR8/3 浅黄橙	黒・茶色粒混入	

第6章 遺物

掲載 番号	種別	分類	出土遺構・グリッド (含む接合)		残存部 全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)			焼成 超・硬=良好 軟=良 弱=不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整 調整には線条 痕が残存	端面調整	土色帖	胎土					
			出士	接合・補足		全長 (+) 縦長	広端部 最大幅	厚									狭端部 最大幅	高	重量		
27	平瓦	T I	Ec5d		17.5+	—	1.8	25.4+	4.9	850.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き	布目 (摩滅)、 糸切痕	布目 (摩滅)、 模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切	536/1 灰	凸面の色調優先	黒・赤・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入
28	平瓦	T I	Eb6		13.6	—	—	80+	—	324.0	酸化	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き→ナデ、 側部面取	布目 (摩滅)、 模骨痕	布目 (摩滅)、 模骨痕	叩き	叩き	10YR7/8 黄橙	茶・白色粒混入	茶・白色粒混入
29	平瓦	T I	Eb5d		18.5+	8.0+	2.2	—	—	492.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	細目叩き (斜位) →ナデ	布目 (摩滅)、 糸切痕	布目 (摩滅)、 糸切痕	鏡切	鏡切	10YR8/3~10YR7/1 浅黄橙~灰白	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入
30	平瓦	T I	Ea6		24.5+	—	—	—	1.8	1440.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷か	細目叩き (縦位) →ナデ、 側部面取	布目、板巻接合痕、 模骨痕、 糸切痕	布目、 糸切痕	ナデ	ナデ	7.5YR5/6~7.5YR7/6 明褐色	黒・茶・白色粒、 石英粒混入	黒・茶・白色粒、 石英粒混入
31	平瓦	T II ①	Ea6 Eb5c Ec5d		31.6+	31.0	7.6	3.1	—	3050.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き、 側部面取	布目 (摩滅)、 糸切痕	布目 (摩滅)、 糸切痕	鏡切	鏡切	(凹) 10YR8/3 浅黄橙 (凸) 2.5Y7/1 灰白	茶・黒・灰・白色粒混入、 浅黄橙の白色粘土プロ ック混入	茶・黒・灰・白色粒混入、 浅黄橙の白色粘土プロ ック混入
32	平瓦	T II ①	Ec6	Aトレンチ	25.0+	—	—	—	1.7	945.5	還元	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き、 側部面取	布目、模骨痕、 糸切痕	布目、模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切、 叩き	N4/ 灰	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土プロ ック混入	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土プロ ック混入
33	平瓦	T II ①	Ec6		31.5+	9.0+	—	3.7	—	2001.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	平行叩き (摩滅)、 側部面取	摩滅、模骨痕、 糸切痕	摩滅、模骨痕、 糸切痕	鏡切か	—	10YR8/6 黄橙	黒・褐・灰・白色粒混入	黒・褐・灰・白色粒混入
34	平瓦	T II ①	Ea6		13.2+	—	—	—	1.4	578.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き→ココ ナデ、側部面取	布目、側部面取	布目、側部面取	鏡切	鏡切	7.5YR6/1 褐灰	黒・灰・白色粒混入	黒・灰・白色粒混入
35	平瓦	T II ①	Ea5d		14.5+	—	—	—	1.8	498.5	還元	超	粘土板	平行叩き、 側部面取	布目、糸切痕	布目、糸切痕	鏡切	鏡切	N4/ 灰	黒・褐・白色粒混入	黒・褐・白色粒混入
36	平瓦	T II ①	Ec6		11.5+	—	—	—	1.4	585.5	酸化	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き、 側部面取	布目、端部面取、 模骨痕	布目、端部面取、 模骨痕	鏡切	鏡切	10YR7/3 黄橙	茶・白色粒混入	茶・白色粒混入
37	平瓦	T II ①	Ea5d		12.5+	—	—	—	1.9	258.5	酸化	軟	粘土板	平行叩き、 側部面取	摩滅、糸切痕	摩滅、糸切痕	鏡切	鏡切	10YR8/3~7.5YR6/6 浅黄橙~橙	黒・茶・灰色粒混入	黒・茶・灰色粒混入
38	平瓦	T II ①	SK05		12.6+	9.6	2.3	—	—	368.9	還元	超	粘土板・ 桐卷	平行叩き、 側部面取	布目、指ナデ、 模骨痕、 糸切痕	布目、指ナデ、 模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切、 叩き	5YR3/2 暗赤褐	黒・白色粒混入	黒・白色粒混入
39	平瓦	T II ①	SK05		6.9+	8.5	2.0	—	—	150.6	還元	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き、 側部面取	布目、模骨痕、 糸切痕	布目、模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切	2.5Y7/1 灰白	茶・黒・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入	茶・黒・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入
40	平瓦	T II ①	SK06 Eb6		30.2+	—	—	2.2	19.8+	1550.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	縁杉叩き、 側部面取	布目、端部面取、 糸切痕	布目、端部面取、 糸切痕	鏡切	鏡切	10YR6/1~10YR3/3 灰褐~暗褐	黒・茶・褐・白色粒混入	黒・茶・褐・白色粒混入
41	平瓦	T II ①	Ea6		17.0+	15.5+	—	2.2	—	823.5	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	縁杉叩き、 側部面取	布目、板巻接合痕、 模骨痕、 糸切痕	布目、板巻接合痕、 模骨痕、 糸切痕	叩き	叩き	(凹) 7.5YR6/6 (凸) 10YR8/3 浅黄橙	黒・灰・白色粒混入	黒・灰・白色粒混入
42	平瓦	T II ①	Ec5d		17.0+	12.5+	—	3.2	—	831.0	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	縁杉叩き→ココ ナデ、側部面取	布目、模骨痕、 糸切痕	布目、模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切	10YR8/3 浅黄橙	茶・灰・白色粒混入	茶・灰・白色粒混入
43	平瓦	T II ①	Ea6		16.0+	—	—	—	1.9	—	酸化	軟	粘土板・ 桐卷	縁杉叩き、 側部面取	布目、端部面取、 模骨痕	布目、端部面取、 模骨痕	鏡切	鏡切	10Y R7/3 黄橙	黒・褐・白色粒混入	黒・褐・白色粒混入
44	平瓦	T II ①	Ea6 Eb6		11.7+	11.7+	—	—	2.1	414.3	還元	硬	粘土板・ 桐卷	縁杉叩き、 側部面取	布目、模骨痕、 糸切痕	布目、模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切	10YR7/1 灰白	茶・褐・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	茶・褐・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入
45	平瓦	T II ①	Eb6		11.5+	19.0+	1.9	—	—	536.5	還元	硬	桐卷か	格子叩き、 側部面取	布目、一部ナデ	布目、一部ナデ	鏡切	鏡切	2.5YR3/3 暗赤褐	茶・白色粒多量混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入	茶・白色粒多量混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入
46	平瓦	T II ①	Ea5d Eb5d		13.0+	13.0+	—	2.8	—	692.3	還元	硬	粘土板・ 桐卷	細目叩き→ココ ナデ、側部面取	布目、模骨痕、 糸切痕	布目、模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切	N5/ 灰	黒・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入	黒・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入
47	平瓦	T II ②	Ec5c		20.0+	9.5+	—	1.0	—	1037.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	ケズリ →ココナデ	布目、側部面取、 糸切痕、 縫目痕	布目、側部面取、 糸切痕、 縫目痕	鏡切	鏡切	5Y7/1~5Y3/1 灰白~オリーブ黒	黒色粒多量、 灰・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入	黒色粒多量、 灰・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入
48	平瓦	T II ②	Eb6 Ec5d	中央部 (端部欠)	24.0+	24.0+	—	1.4	—	778.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き	布目、側部面取、 模骨痕	布目、側部面取、 模骨痕	鏡切	鏡切	7.5YR7/6 黄橙	黒・茶・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入	黒・茶・白色粒混入、 マーブル 状の白色粘土プロック混入
49	平瓦	T II ②	Eb6		17.8+	11.0+	1.3	—	—	719.5	還元	軟	粘土板・ 桐卷	平行叩き、 側部面取	布目、側部面取、 模骨痕	布目、側部面取、 模骨痕	鏡切	鏡切	10YR7/6 明褐色	黒・茶・白色粒混入	黒・茶・白色粒混入
50	平瓦	T II ②	Ec5d		22.0+	—	—	—	1.4	708.0	還元	硬	粘土板・ 桐卷	平行叩き	布目 (摩滅)、 模骨痕、 糸切痕	布目 (摩滅)、 模骨痕、 糸切痕	鏡切	鏡切	10YR7/1 灰白	黒・茶・褐・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	黒・茶・褐・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入

掲載 番号	種別	分類	出土遺構・グリップ (含む接合)		残存部 全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)			焼成 超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面 調整	土色帖	胎土								
			出土	接合・補足		全長 (+) 縦長	広端部 最大幅	高								厚	狭端部 最大幅	高	厚				
51	平瓦	T II ②	SK05	SK05	88+	—	—	—	76+	—	1.3	116.5	超	粘土板・ 桶巻	平行叩き 側部面取	布目、一部ナデ、側部面取	窪切	窪切	窪切には線条 痕が残存	凸面の色調優先	N3/ 暗灰	黒・灰色粒混入	
52	平瓦	T II ②	Eb6	Eb6	9.5+	—	—	—	241.1	—	—	—	硬	粘土板・ 桶巻	平行叩き 側部面取	摩滅、側部面取、糸切痕	窪切	窪切	窪切	10YR7/4 にふい黄橙	10YR7/4	茶・灰・白色粒混入	
53	平瓦	T II ②	Ec6	Ec6	37.0+	28.5+	3.8	5.8	2300.0	—	1.8	2300.0	硬	粘土板・ 桶巻	側部面取	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	7.5YR5/4~7.5Y6/1 にふい褐~灰	7.5YR5/4~7.5Y6/1	黒・褐・灰・白色粒混入	
54	平瓦	T II ②	SK07	SK07	16.9+	32.2	5.8	2.3	1400.0	—	2.0	1400.0	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、 側部面取、 側部面取、 側部面取	布目、側部面取、 板巻接合痕、 模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	(凹) 10YR6/1 灰褐 (凸) 2.5YR4/1 赤灰	(凹) 10YR6/1	黒・白色粒混入、茶色粒 多量混入	
55	平瓦	T II ②	Eb5d	Ec5d	14.0+	14.0+	—	—	839.5	—	1.7	839.5	超	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、 側部面取	布目、側部面取、板巻接合痕、 模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	N3/ 暗灰	10YR6/4~10YR7/2 にふい黄橙~にふい、 黄褐	N3/ 暗灰	茶・黒・灰色粒混入
56	平瓦	T II ②	Ec5d	Ec5d	15.0+	16.0+	—	2.1	892.0	—	—	—	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	N4/~N6/ 灰	N4/~N6/ 灰	黒・白色粒混入	
57	平瓦	T II ②	Ec5d	Ec6	28.5	28.5	—	2.2	1565.0	—	—	—	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き	布目、側部面取、板巻接合痕、 模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	2.5Y7/2~2.5Y7/4 灰黄~浅黄	2.5Y7/2~2.5Y7/4	茶・白色粒混入	
58	平瓦	T II ②	Eb5c	Eb5c	14.3+	—	—	—	453.5	—	1.7	453.5	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き	摩滅、側部面取、糸切痕	窪切	窪切	窪切	N5/ 灰	N5/ 灰	黒・白色粒混入、白色粘土 マーブル状に混入	
60	平瓦	T II ②	SK01	Eb6	13.5+	13.5+	—	—	717.3	—	1.2	717.3	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	7.5YR4/6~7.5YR7/4 褐~にふい橙	7.5YR4/6~7.5YR7/4	茶・褐・灰・白色粒混入	
59	平瓦	T II ②	Eb5d	Eb5d	13.5+	14.0+	—	1.9	499.0	—	—	—	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	N7/ 灰白	N7/ 灰白	黒・白色粒混入	
61	平瓦	T II ②	SK05	SK05	12.3+	—	—	—	248.3	—	2.0	248.3	還元	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、 側部面取	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	黒・白色・粗粒混入	
62	平瓦	T II ②	E46a	F6	14.5+	14.5+	—	—	340.5	—	—	—	還元	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目、側部面取	窪切	窪切	窪切	10YR6/8 明黄褐	10YR6/8	黒・褐・白色粒混入	
63	平瓦	T II ③	E45d	E45d	39.0	31.6+	3.7	5.3	1300.0	—	1.4	1300.0	還元	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	5Y6/1	5Y6/1	黒・茶・灰・白色粒混入、 白色粘土マーブル状に混入	
64	平瓦	T II ③	Ec6	Ec6	27.1+	—	—	—	296	—	1.5	1250.0	還元	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目(摩滅)、側部面取、 模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	N6/ 灰	N6/ 灰	黒・灰・白色粒混入、マーブ ル状の白色粘土ブロック混入	
65	平瓦	T II ③	Ec6	Ec6	30.0+	30.0+	—	—	1294.5	—	1.4	1294.5	還元	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目(摩滅)、側部面取、 模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	10R2/1~N3/ 赤黒~暗灰	10R2/1~N3/ 赤黒~暗灰	黒・白色粒混入	
66	平瓦 道具 瓦カ	T II ③	Eb6	Ec5d	23.0+	23.0+	—	—	282.2	—	1.7	2113.0	超	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目(中)、ケズリ(前側端 部縁辺)、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6	黒・茶・白色粒混入	
67	平瓦	T II ③	Ec6	Ec6	23.0+	12.2+	—	2.6	1289.5	—	—	—	軟	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目、一部指ナデ、 帯巻接合痕、 模骨痕	窪切	窪切	窪切	(凹) 2.5Y6/2 灰黄 (凸) 2.5Y6/1 黄灰	(凹) 2.5Y6/2	黒・灰・白色粒混入、 マーブル状の白色粘土ブロック 混入	
68	平瓦	T II ③	Ea5d	Ea5d	13.5+	—	—	—	15.5+	—	1.5	60.5	還元	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	N4/~N3/ 暗灰	N4/~N3/ 暗灰	黒・茶・白色粒多量混入	
69	平瓦 道具 瓦カ	T II ③	Ec5d	Ec5d	16.5+	21.5+	—	2.2	1178.5	—	—	—	超	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕	窪切	窪切	窪切	N4/ 灰	N4/ 灰	黒・茶・白色粒混入、マーブ ル状の白色粘土ブロック混入	
70	平瓦	T II ③	Ec6	Ec6	10.5+	10.5+	—	1.8	725.6	—	—	—	硬	粘土板・ 桶巻	平行叩き、 側部面取	布目、側部面取、模骨痕、 糸切痕、 鏝目痕	窪切	窪切	窪切	2.5Y7/1~2.5YR7/3 灰白~淡赤橙	2.5Y7/1~2.5YR7/3	黒・灰色粒混入	
71	平瓦	T II ③	SK05	SK05	8.8+	—	—	—	6.6+	—	1.4	112.3	還元	粘土板・ 桶巻	平行叩き→指ナ デ、側部面取	布目、側部面取	窪切	窪切	窪切	N4/ 灰	N4/ 灰	黒・白色・チャート粒混入	
72	平瓦	T II ③	SK01	SK01	13.2+	—	—	—	9.8	—	1.9	377.0	還元	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、 側部面取	布目、側部面取、模骨痕	窪切	窪切	窪切	N6/ 灰	N6/ 灰	黒・白色粒混入	
73	平瓦	T II ③	SK01	SK01	8.6+	10.3	—	1.8	211.8	—	—	—	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、 側部面取	布目、側部面取、糸切痕	窪切	窪切	窪切	N5/ 灰	N5/ 灰	黒・白色粒混入、 一部にマーブル状の白色粘土 ブロック混入	
74	平瓦	T II ③	SK01	SK01	8.8+	6.1	—	1.5	113.7	—	—	—	硬	粘土板・ 桶巻	縁杉叩き、 側部面取	布目、側部面取、糸切痕	窪切	窪切	窪切	—	—	—	

掲載番号	種別	分類	出土遺構・グリップト(含む接合)		残存部 全体の残存割合	残存状況・法量 (cm)・重量 (g)			焼成 超・硬=良好 軟=不良 弱=不良	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整 鎌切には線条 痕が残存	土色帖	胎土
			出土	接合・補足		全長 (+) 縦長	広端部 最大幅	高							
98	平瓦	T II ③	Ec6	Ec5c	広端部 1/6	130+	130+	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒混入
99	平瓦	T II ③	Ea6	Ec6	狭端部 1/10	110+	—	9.7	—	—	—	—	—	—	黒・灰色粒混入
100	平瓦	T II ③	Ec6	Ec6	狭端部 1/10	120+	—	15.5+	—	—	—	—	—	—	黒・灰色粒混入、 白色粘土ブロック混入
101	平瓦	T II ③	Ec6	Ec6	広端部 1/12	103+	143+	—	—	—	—	—	—	—	黒・灰色粒混入、 白色粘土ブロック混入
102	平瓦	T II ③	Ec5c	Ec5c	狭端部 1/8	165+	—	9.5+	—	—	—	—	—	—	茶・白色粒混入
103	平瓦	T II ③	Eb5d	Ec5d	狭端部 1/2	244+	—	2.6	31.1+	1.8	19000	—	—	—	黒・白色粒混入、 茶色粗粒多量混入、 白色粘土マープル状に混入
104	平瓦	T II ③	Ec6	Ec6	広端部(側部)欠 4/5	370+	167+	—	2.3	—	29000	—	—	—	黒・灰色粒混入
105	平瓦	T II ③	Ea6	Ec6	広端部(側部)欠 1/6	164+	158	—	2.3	—	9540	—	—	—	黒・灰色粒混入、 マープル状の白色粘土 ブロック混入
106	平瓦	T -	SK01	SK01	狭端部欠 1/15以下	101+	—	—	—	7.2	2657	—	—	—	黒・茶・灰色粒混入
107	平瓦	T -	SK05	SK05	狭端部欠 1/15以下	177+	—	—	—	1.87+	361.1	—	—	—	黒・灰色粒混入
108	平瓦	T -	SK06	SK06	広端部(側部)欠 1/12	100+	12.8+	—	2.1	—	3091	—	—	—	茶・灰色粒混入
109	平瓦	T -	SK06	SK06	狭端部(側部)欠 1/15以下	70+	—	—	—	3.63+	80.4	—	—	—	黒・白色粒混入
110	平瓦	T -	SK07	SK07	狭端部(側部)欠 1/15以下	115+	—	—	—	12.5+	325.5	—	—	—	黒・灰色粒混入、 マープル 状の白色粘土ブロック混入
111	平瓦	T -	SK07	SK07	広端部(側部)欠 1/15以下	75+	8.8+	—	2.1	—	166.5	—	—	—	黒・灰色粒混入
112	平瓦	T -	Ea6	Ea5d	狭端部(側部)欠 1/10	135+	13.5+	—	—	9.5+	383.1	—	—	—	黒・茶色粗粒多量混入、 マープル 状の白色粘土ブロック混入
113	平瓦	O I	SK05	SK05	狭端部 1/12	132+	—	—	—	3.22+	326.9	—	—	—	黒・茶・褐色・ 白色粗粒 多量混入
114	平瓦	O II ①	SK05	SK05	狭端部 1/12	68+	—	—	—	8.1+	245.2	—	—	—	黒・白色粒混入
115	平瓦	O II ①	Ec6	Ea6	狭端部 1/3	22.5+	—	—	—	18.5+	1348.5	—	—	—	黒・茶・灰色粒混入、 マープル状の白色粘土 ブロック混入
116	平瓦	O II ①	Eb5d	Eb5d	広端部 1/4	190+	—	—	—	1.4	943.5	—	—	—	黒・白色粗粒混入
117	平瓦	O II ①	Ec6	Ec6	中央(端部)欠 1/6	21.5+	—	—	—	1.7	699.0	—	—	—	黒・茶・白色粒混入、 白色粘土マープル状に混入
118	平瓦	O II ①	Ec5d	Ec6	広・狭端部 3/4	38.6	27.8	5.9	2.3	23.4	2650.0	—	—	—	黒・茶・灰色粒混入、 マープル状の白色粘土 ブロック混入
119	平瓦	O II ①	Ea6	Eb5d	広端部 1/2	29.9+	34.3	8.8	3.5	—	3350.0	—	—	—	黒・灰色粒混入
120	平瓦	O II ①	Ec5d	Ec5d	広端部 1/8	11.0+	14.2+	—	1.8	—	722.5	—	—	—	黒・茶・灰色粒混入、 マープル状の白色粘土 ブロック混入
121	平瓦	O II ①	Eb5d	Ec5d	中央(端部)欠 1/10	10.0+	10.0+	—	—	22.5	495.0	—	—	—	黒・茶・白色粒混入、 明黄褐色～灰黄褐色 白色粘土マープル状に混入
122	平瓦	O II ②	Eb6	Ea6	広端部 1/3	15.6+	28.7	8.2	2.9	—	2300.0	—	—	—	黒・茶・灰色粒 多量混入

第6章 遺物

掲載 番号	種別	分類	出土遺構・グリッド (含む接合)		残存状況・法量 (cm)・重量 (g)	焼成	成形	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	胎土	
			出士	接合・補足								土色帖	胎土
123	平瓦	O II ③	Ec5d	狭端部 3/5	全長 (+) 縦長	超 = 良好 軟 = 良 弱 = 不良	粘土紐	ナデ (斜位)、 側部面取	布目、側部面取、帯巻接合痕、 稜骨痕	鑿切	鑿切	10YR7/2~10YR4/2 に、黄緑~灰黄緑	黒・褐・灰・白色粒混入
124	平瓦	O II -	Ec6	狭端部 1/15以下	14.4+	軟	粘土帯・ 縹巻	平行叩き	布目、端部面取、帯巻接合痕、 稜骨痕	-	叩き	7.5YR3/1 黒褐	茶・白色粒混入
125	平瓦	C I	Ec6	広端部 4/5	34.6+	軟	一枚づ(り)	ヨコナデ (準減)	布目、型枠痕	鑿切	鑿切	10YR7/6~10YR3/1 明暗褐~黒褐	茶・白色粒・チャート 粗粒混入
126	平瓦	C I	不明	広端部 1/2	27.5+	軟	一枚づ(り)	ヨコナデ (鏡)	布目、模倣痕、糸切痕	鑿切	鑿切	10YR4/1~10YR3/1 褐灰~黒褐	黒・茶色粒混入、 炭化有機物粒混入
127	平瓦	C I	Ec5d	狭端部 1/6	14.0+	軟	一枚づ(り)	ヨコナデ	布目	鑿切	鑿切	5YR7/3 (凸) オリーブ黒 (凹) に、黄緑 (凸)	褐・灰色粒混入、 炭化有機物粒混入
128	平瓦	C	Eb6	狭端部 1/8	14.5+	超	-枚づ(り)か	平行叩き	布目	鑿切	叩き、 布目	N4~N3/ 灰~暗灰	黒・白色粒混入、マープル 状の白色粘土ブロック混入
129	平瓦	C I	Ea6	狭端部 1/3	18.5+	硬	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目	鑿切	叩き	5YR5/6 明赤褐	黒・茶・褐・灰・白色粒、 チャート粗粒多量混入
130	平瓦	C I	Eb5c	中央 (端部欠) 1/4	17.3+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目	鑿切	-	5YR5/6 明赤褐	黒・茶・灰・白色・石英・ チャート粗粒多量混入
131	平瓦	C	Ea6	狭端部 1/6	16.0+	超	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目	鑿切	型 種 N3/ 痕、布 目	5YR7/8 暗灰	灰・白色粒多量混入
132	平瓦	C I	Ea6	広端部 1/8	15.0	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目	ケズリ	磨減	5YR7/8 橙	茶・褐・灰色粗粒混入
133	平瓦	C I	Ec5c	狭端部 1/12	13.0+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目	鑿切	ナデ	7.5YR7/4~7.5YR6/8 に、黄緑~橙	茶色粒多量、石英・黒・ 白色粗粒混入
134	平瓦	C I	SK07	広端部 (側部欠) 1/15以下	8.0+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目	鑿切	鑿切	7.5YR6/4~7.5YR7/2 に、黄緑~明褐灰	灰・白色・石英・チャート 粗粒混入
135	平瓦	C II ②	Eb5d	狭端部 1/4	12.2+	硬	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目、側部面取	型枠	鑿切	10YR7/1 灰白	黒・茶・灰・白色粗粒混入
136	平瓦	C II ②	Ec6	狭端部 1/4	17.5+	硬	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目、側部面取	ケズリ	ナデ	5YR5/8 明赤褐	黒・茶・灰・白色粗粒多量 混入
137	平瓦	C II	F6	狭端部 1/4	18.2+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目 (準減)、側部面取	鑿切	鑿切	10YR7/2~10YR6/6 に、黄緑~明黄褐	黒・茶・灰・白色・ チャート粗粒混入
138	平瓦	C II ②	SK06	狭端部 1/4	14.5+	硬	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目 (準減)、側部面取	鑿切	鑿切	10YR7/6~7.5YR7/6 明黄褐~橙	黒・茶・灰・白色粗粒 多量混入
139	平瓦	C II ②	Ec6	狭端部 1/6	12.3+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目、側部面取	鑿切	鑿切	7.5YR6/8 橙	黒・茶・灰・白色粗粒 多量混入
140	平瓦	C II	Ec6	狭端部 1/6	14.5+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目、側部面取	鑿切	-	10YR7/3 に、黄緑	黒・茶・褐・灰・白色粗粒 多量混入
141	平瓦	C II ②	SK06	広端部 1/12	8.4+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目、ナデ、側部面取	鑿切	鑿切	5YR6/8 橙	黒・茶・灰・白色粗粒 多量混入
142	平瓦	C -	SK01	広端部 (側部欠) 1/12	11.3	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	準減 (布目)、 ナデ (端部縁辺)	-	鑿切	10YR7/6 明黄褐	茶・灰・白粗粒多量混入
143	平瓦	C -	SK05	中央 (端部欠) 1/12	10.6+	軟	-枚づ(り)	細目叩き (縦位)	布目	-	-	7.5YR7/4 に、黄緑	茶・灰・白色粗粒混入
144	平瓦	-	Ea6	広端部小破片 1/15以下	9.5+	軟	不明	布目 (凹凸面布 目)	布目	-	鑿切	7.5YR6/6 橙	茶・灰・白色粗粒混入、 白色粘土マープル状に混入
145	平瓦	-	SK05	端部欠、側部小 破片 1/15以下	3.3+	軟	粘土板か	布目 (凹凸面布 目)	布目	鑿切	-	7.5YR8/4 浅黄緑	茶・灰色粒混入、 白色粘土マープル状に混入
146	平瓦	-	Ea5d	端部欠 1/15以下	10.0	超	粘土板か	終付叩き (窓内癒着の不良品)	終付叩き	-	-	N7~N3/ 灰白~暗灰	黒色粗粒混入

第6章 遺物

第23表 鴟尾観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長 [*] (cm)	幅 [*] (cm)	厚 [*] (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考
									表	裏		
1	ASH18 SK01 Ed6	覆土1層	不明	5.6	5.4	2.3	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	ケズリ	ヘラ状工具 によるナデ	灰黄褐色	
2	ASH18 瓦溜01 Ec5c	Ⅲ a 層	不明	6.7	3.3	4.6	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	ヘラ状工具によるナデ	欠失により不明	灰黄褐色	
3	明科廃寺 第1・2次	-	鱗部	11.3	28.9	3.1	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	ヘラ状工具によるナデ +ヘラ状工具による正段 +型押しによる円文の珠文 +ヘラ状工具による半弧の珠 文	ヘラ状工具 によるナデ	灰黄褐色	奈研4図-7 明科1998 63図
4	桜坂古窯址	1号住居	胴部上方～頂部	18.6	15.3	7.8	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	縦方向のケズリ +脊稜	布目痕	灰褐色	奈研3図-3 明科1998 28図No.54
5	桜坂古窯址	1号灰原	胴部上方～頂部	15.9	21.2	6.8	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	工具によるV字状のナデ	工具によるナデ	灰黄褐色	奈研3図-4 明科1998 未掲載
6	桜坂古窯址	1号灰原	胴部下方	18.1	10.8	2.6	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	工具によるナデ +竹管押圧による円文 +ヘラ状工具による沈線	工具によるナデ	灰黄褐色	奈研3図-5 明科1998 未掲載
7	桜坂古窯址	1号灰原	頭部～胴部右側面 半円形通し穴	32.3	34.0	34.4	須恵質 やや不良 (脆)	粘土紐	粘土紐貼付 +工具によるナデ	工具によるナデ	灰黄褐色	奈研4図-6 明科1998 写真

※ 法量は残存している部分を計測

第24表 鬼瓦観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長 [*] (cm)	幅 [*] (cm)	厚 [*] (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考
									表	裏		
1	ASH18 瓦溜01 Ea6	Ⅲ a 層	頭部	19.5	12.6	4.2	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し +面取り+指頭圧痕	ナデ +指頭圧痕	黄灰褐色	奈研鬼瓦2022 15図-33
2	ASH18 瓦溜01 Ec5c	Ⅲ a 層	目	13.1	12.1	5.9	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し	ナデ	灰褐色	奈研鬼瓦2022 15図-34 取上No.14
3	ASH18 瓦溜01 Eb5c	Ⅲ a 層	口～頬	11.6	10.1	3.1	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し	ナデ	灰褐色	奈研鬼瓦2022 15図-35
4	ASH18 Aトレンチ	Ⅲ a 層	頬下	6.6	4.5	3.4	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し +面取り	ナデ	灰褐色	奈研鬼瓦2022 15図-36
5	ASH18 瓦溜01 Ed5d	Ⅲ a 層	顎	7.9	4.5	2.4	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し +面取り	欠失により不明	灰褐色	奈研鬼瓦2022 15図-37
6	ASH18 瓦溜01 Eb6	Ⅲ a 層	頬	4.6	5.5	2.8	須恵質 やや不良 (脆)	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し +工具ナデ	欠失により不明	灰褐色	
7	ASH18 SK07	覆土	目	2.9	3.7	2.2	須恵質 硬質	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し	欠失により不明	灰色	
8	明科廃寺 第3次 C-4	(Ⅲ a 層)	目	3.1	6.1	3.0	須恵質 硬質	粘土板	粘土紐貼付 +工具による削り出し	欠失により不明	灰色	明科2000a 34図-3

※ 法量は残存している部分を計測

第25表 土器類観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)		底径 (cm)		器高 (cm)	技法の特長			備考	
											外面	内面	底部		
1	Eb5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	口縁～底部	12.6	実測	5.8	実測	3.8	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り(摩耗)	灯明皿 分析試料 01
2	Ea5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	口縁～ 体部下半	14.6	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	灯明皿
3	Eb5d Ea5d	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	14.2	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	灯明皿
4	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	口縁～ 体部下半	11.6	復元	不明	—	2.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	灯明皿
5	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	11.0	復元	不明	—	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	灯明皿
6	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	口縁～ 体部下半	11.4	復元	不明	—	2.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
7	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	口縁～ 体部上半	11.2	復元	不明	—	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
8	Ea5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	実測	12.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
9	Eb5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗)	灯明皿
10	Eb5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
11	Eb5d	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	実測	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
12	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.8	実測	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
13	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	4.3	実測	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
14	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	6.2	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
15	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	6.0	復元	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
16	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	4.8	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
17	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	6.0	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
18	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り (摩耗)	灯明皿
19	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
20	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り (摩耗)	灯明皿
21	Ea5c Eb5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部上半～ 底部	不明	—	6.1	実測	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
22	Eb5c Ed5d	Ⅲ a 層	土師器	坏 A 灯明皿	体部上半～ 底部	不明	—	6.2	実測	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
23	排土	(Ⅲ a 層)	土師器	坏 A 灯明皿	体部上半～ 底部	不明	—	6.0	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	灯明皿
24	Ea5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.6	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
25	Eb5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗)	
26	Eb5c	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	4.6	実測	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り不明 (摩耗)	
27	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.0	実測	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
28	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.4	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
29	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	実測	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
30	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	4.6	実測	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
31	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	7.0	復元	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り (摩耗)	
32	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.0	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
33	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
34	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
35	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.4	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
36	Ed5d	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.9	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明(摩耗)	
37	Aトレンチ	Ⅲ a 層	土師器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.1	実測	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
38	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	口縁～底部	13.2	復元	7.8	復元	4.9	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗強)	
39	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	口縁～ 体部下半	14.4	復元	不明	—	3.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
40	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	口縁～ 体部下半	13.4	復元	不明	—	3.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
41	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	口縁～ 体部下半	11.6	復元	不明	—	3.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	

第6章 遺物

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)			底径 (cm)			器高 (cm)			技法の特長			備考
						口径	復元	不明	底径	復元	不明	器高	残存	外面	内面	底部		
42	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	口縁～ 体部下半	12.8	復元	不明	—	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
43	Aトレンチ	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	口縁～ 体部下半	13.0	復元	不明	復元	4.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
44	Ea5c	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下部～ 底部	不明	—	6.6	復元	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
45	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	底部	不明	—	8.8	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
46	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	底部	不明	—	10.0	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
47	Aトレンチ	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半～ 底部	不明	—	10.4	復元	2.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明 (糸切り)				
48	Ea5c	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下部～ 底部	不明	—	7.0	復元	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明 (摩耗)				
49	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半～ 底部	不明	—	7.6	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明 (糸切り)				
50	Eb5d Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半～ 底部	不明	—	8.4	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
51	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半 底部	不明	—	7.6	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				
52	Ea5d	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.0	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗)				
53	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り (摩耗)				
54	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半～ 底部	不明	—	不明	—	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切不明 (摩耗)				
55	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	埴 A	体部下半～ 底部	不明	—	不明	—	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				
56	排土	(Ⅲ a 層)	土師器	Ⅲ A 灯明皿	口縁～体部 下半	9.8	復元	不明	—	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明			灯明皿	
57	Ea5c Ea5d	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	4.6	実測	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り			灯明皿	
58	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	口縁～底部	13.0	実測	5.2	実測	4.5	完形	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	回転糸切り				
59	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿	口縁～底部	13.0	実測	5.8	実測	3.7	完形	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	糸切り不明 (摩耗)			灯明皿	
60	Ea5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部下部	13.2	復元	不明	—	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗)			灯明皿	
60	Ea5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿	体部下部～ 底部	不明	—	5.0	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗)			灯明皿	
61	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	12.4	実測	不明	—	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	不明			灯明皿	
62	Eb5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	11.4	復元	不明	—	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	不明			灯明皿	
63	Eb5d	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	11.0	復元	不明	—	3.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明			灯明皿	
64	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部上半～ 底部	不明	—	6.0	実測	4.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	回転糸切り				
65	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.0	実測	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	糸切り不明 (摩耗)				
66	Ec5d	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.0	実測	0.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	回転糸切り				
67	Ec5d	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	実測	0.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	回転糸切り				
68	Ed5d Ed5c	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.2	実測	0.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				
69	Ea6 Ed5d	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	7.4	実測	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				
70	不明	(Ⅲ a 層)	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.6	復元	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗)				
71	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	6.4	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 (摩耗)			灯明皿	
72	Eb5d Eb6	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A 灯明皿?	体部下半～ 底部	不明	—	6.6	実測	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り			灯明皿	
73	Ec6	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	7.2	実測	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				
74	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.4	実測	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	回転糸切り				
75	Ea5d	Ⅲ a 層	土師器	Ⅲ A 黑色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	不明	—	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ不明 +黒色処理	回転糸切り				

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)		底径 (cm)		器高 (cm)		技法の特長			備考
												外面	内面	底部	
76	Eb6	Ⅲ a 層	土師器	盤 A	脚部	不明	—	13.4	復元	5.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ?	
77	Ed5c	Ⅲ a 層	土師器	高杯脚部 黒色土器	脚部	不明	—	不明	—	7.6	残存	ナデ	ナデ +シボリ + (黒色 処理)	ナデ? ミガキ?	(古墳)
78	Eb5d	Ⅲ a 層	軟質の 須恵器	坏	体部下半～ 底部	不明	—	16.0	復元	1.5	残存	ロクロナデ+ 回転 ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	蓋の可能 性あり 金属模倣 カ
79	Eb5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏蓋 A	蓋部	不明	—	—	—	1.8	残存	ロクロナデ+ ヘラケズリ	ロクロナデ	—	
80	Eb	Ⅲ a 層	須恵器	坏蓋 A	体部～口縁	9.0	復元	—	—	1.3	残存	ロクロナデ+ 不明 (ケズリ?)	ロクロナデ+ 自然釉	—	
81	Ea5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏蓋 B	蓋部	12.0	復元	—	—	1.7	残存	ロクロナデ+ 回転 ヘラケズリ	ロクロナデ	—	
82	Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏蓋 (不明)	体部下半～ 底部	不明	—	8.4	復元	1.4	残存	ロクロナデ+ 回転 ヘラケズリ	ロクロナデ	—	
83	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	脚 / 蓋 (特殊)	脚部 / 蓋部	12.8	復元	不明	復元	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
84	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	脚 / 蓋 (特殊)	脚部 / 蓋部	17.6	復元	不明	—	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
85	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A 灯明皿	口縁～底部	14.1	復元	6.4	実測	3.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	軟質須恵 器灯明皿
86	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	口縁～底部	13.0	復元	6.4	実測	3.9	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
87	Eb6 口縁	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	口縁～ 体部下半	14.2	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
87	Eb6 底部	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	復元	6.0	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
88	Eb6 口縁	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	口縁～ 体部上半	14.6	復元	不明	—	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
88	Eb6 底部	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.0	実測	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
89	Ea5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	口縁～ 体部下半	13.8	復元	不明	—	3.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
90	Ea5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	口縁～ 体部下半	13.4	復元	不明	—	3.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
91	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	口縁～ 体部上半	13.4	復元	不明	—	4.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
92	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	14.8	復元	不明	—	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	軟質須恵 器灯明皿
93	Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏 灯明皿	口縁～底面	13.2	復元	8.0	復元	2.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	軟質須恵 器灯明皿
94	Eb6 Ed5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	—	7.4	実測	3.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ+ 工具ナデ	灯明皿
95	Ec5c Ed6-F6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	4.0	実測	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	
96	Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	10.0	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ+ 工具ナデ	
97	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	4.6	復元	0.9	残存	ロクロナデ+ 回転 ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	
98	Ea5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.3	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り +ヘラケズリ +ナデ	
99	Eb5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り不明 +ヘラケズリ +ナデ?	
100	排土	(Ⅲ a 層)	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.2	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り	
101	Ea6a	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.6	実測	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
102	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	7.0	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
103	Ea5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.6	復元	0.95	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
104	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	6.4	復元	1.2	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
105	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	7.0	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
106	Ec5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	4.4	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
107	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 A	体部下半～ 底部	不明	—	4.8	復元	0.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
108	Eb6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 (不明)	底部 (一部下半)	不明	—	5.0	実測	0.75	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	
109	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 B	口縁～底部	17.6	復元	12.8	復元	7.6	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ナデ?	
110	Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	坏 B	口縁～ 体部下半	15.0	復元	不明	—	2.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	

第6章 遺物

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)			底径 (cm)			器高 (cm)			技法の特長			備考
						口径	復元	不明	口径	復元	不明	口径	復元	不明	外面	内面	底部	
111	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 B	口縁～ 体部下半	13.0	復元	不明	—	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
112	Ed6 Ec6 Ed5c	Ⅲ a 層	須恵器	坏 B	体部下半～ 底部	不明	—	8.8	復元	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ+ 高台貼り付けの ナデ				
113	Eb6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 B	体部下半～ 底部	不明	—	11.4	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り +ナデ? ケズリ?				
114	Eb6 Ed6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 B	体部下半～ 底部	不明	—	10.3	復元	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ+ 高台貼り付けの ナデ				
115	Ea5d Ea5c	Ⅲ a 層	須恵器	鉢 B(はつ)	口縁～ 体部上半	22.8	復元	不明	—	7.3	残存	ロクロナデ+ (自然釉)	ロクロナデ	不明				
116	Eb5c	Ⅲ a 層	須恵器	鉢 B(はつ)	口縁～ 体部上半	20.4	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
117	Ec5c	Ⅲ a 層	須恵器	鉢 B(はつ)	口縁～ 体部上半	20.8	復元	不明	—	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
118	Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	鉢 B(はつ)	体部上半～ 下半	不明	—	不明	—	5.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
119	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	鉢 C 擂鉢、涅鉢	体部下半～ 底部	不明	—	8.4	実測	4.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り?				
120	Eb5c	Ⅲ a 層	灰釉陶器	碗 A	口縁	13.6	復元	不明	—	2.0	残存	ロクロナデ+ 灰釉	ロクロナデ+ 灰釉	不明				
121	Eb6	Ⅲ a 層	灰釉陶器	碗 A	口縁～ 体部下半	13.6	復元	不明	—	3.7	残存	ロクロナデ+ 灰釉	ロクロナデ+ 灰釉	不明				
122	Ec5d Ea6a	Ⅲ a 層	灰釉陶器	碗 A	体部上半～ 体部下半	不明	—	不明	—	4.4	残存	ロクロナデ+ 施釉 (ハケ塗り)	ロクロナデ	不明				
123	不明	Ⅲ a 層	灰釉陶器	碗 A	体部	不明	—	不明	—	2.9	残存	ロクロナデ+ 灰釉	ロクロナデ+ 灰釉	不明				
124	Ea5d	Ⅲ a 層	灰釉陶器	碗 A	体部下半～ 底部	不明	—	不明	—	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
125	Eb5d	Ⅲ a 層	土師器	甕 A	体部下半～ 底部	不明	—	8.1	実測	4.5	残存	工具ナデ	工具ナデ	木葉痕				
126	Ea5d	Ⅲ a 層	土師器	甕 A	体部下半～ 底部	不明	—	7.6	復元	3.3	残存	ナデ	ナデ	木葉痕				
127	Ec5d	Ⅲ a 層	土師器	甕 A	体部下半～ 底部	不明	—	9.0	復元	4.1	残存	工具ナデ	工具ナデ	木葉痕				
128	Eb5d	Ⅲ a 層	土師器	甕 A	底部	不明	—	8.2	復元	2.0	残存	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	木葉痕				
129	Ec5c	Ⅲ a 層	土師器	小型甕 A	体部下半～ 底部	不明	—	4.4	復元	2.5	残存	ナデ	ナデ (摩耗)	ナデ				
130	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	長頸壺	体部下半	不明	—	13.4	復元	2.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明 (摩耗)				
131	A トレンチ F6 Eb5d Ea5c	Ⅲ a 層	須恵器	多口壺	口縁～ 体部上半	6.8 (小口)	復元	不明	—	12.5	残存	ロクロナデ +ヘラケズリ +自然釉	ロクロナデ +自然釉	不明				
132	Ec5c	Ⅲ a 層	須恵器	壺 (不明)	体部下半～ 底部	不明	—	9.6	復元	3.3	残存	ロクロナデ+ ケズリ	ロクロナデ+ 自然釉	回転ヘラケズリ				
133	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	坏 横瓶転用 灯明具	体部上半～ 底部	不明	—	9.6	実測	8.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ?			横瓶から 灯明具へ 転用	
134	Ec6	Ⅲ a 層	須恵器	甕 A	口縁～ 体部下半	29.0	復元	不明	復元	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
135	Eb6 Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕 A	口縁～頸部	36.6	復元	不明	—	4.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
136	Ea6	Ⅲ a 層	須恵器	甕 A	頸部～ 体部上半	不明	—	不明	—	7.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
137	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕	体部上半 (肩)	不明	—	不明	—	2.0	残存	タタキ	ハケナデ	不明				
138	Ed5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕	頸部～ 体部上半	不明	—	不明	—	3.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
139	Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕	頸部～ 体部上半	不明	—	不明	—	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				
140	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	11.1	残存	タタキ +自然釉	当て具痕	不明				
141	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	7.9	残存	タタキ +工具ナデ	当て具痕	不明				
142	Ed6 A トレンチ	Ⅲ a 層	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	12.7	残存	タタキ	ナデ	不明				
143	Ec5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕	体部下半～ 底部	不明	—	15.2	復元	3.2	残存	ロクロナデ+ (回転 ヘラケズリ)?	ロクロナデ	摩耗 (回転? ヘラケズリ)				
144	不明	Ⅲ a 層	須恵器	甕	体部下半～ 底部	不明	—	13.0	復元	7.4	残存	タタキナデ	横ナデ	ナデ				
145	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵器	甕	頸部～ 体部上半	不明	—	不明	—	3.3	残存	ロクロナデ+ 自然釉	ロクロナデ	不明			甕 D? 凸帯付四 耳壺	
146	Ed6 Ea6	Ⅲ a 層	須恵器	甕 D 凸帯付四耳 壺	体部上半	不明	—	不明	—	4.7	残存	ナデ	ナデ	不明				
147	Ec5d	Ⅲ a 層	施釉陶器	甕	口縁	30.0	復元	不明	—	3.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明			近世陶器	

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)		底径 (cm)		器高 (cm)		技法の特長			備考
												外面	内面	底部	
148	SX01 (Ec6)	覆土 6層	軟質の須恵器	皿 C	口縁~底部	15.5	復元	7.5	実測	3.7	完形	ロクロナデ+回転ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	金属模倣
149	SX01 (Ec6)	覆土 6層	軟質の須恵器	皿 C	口縁~底部	18.1	復元	7.7	実測	4.1	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリヘラ描き	金属模倣
150	SX01 (Ec5d Ec6)	覆土 6層	軟質の須恵器	坏	口縁~体部上半	不明	—	不明	—	3.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	金属模倣
151	SX01 (Ec5d Ec6)	覆土 6層	軟質の須恵器	坏	口縁~体部上半	不明	—	不明	—	3.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	金属模倣
152	SX1 (Ec6)	覆土 6層	軟質の須恵器	坏	口縁~体部上半	不明	—	不明	—	4.0	4	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	金属模倣
153	SX1 (Ec6)	覆土 6層	軟質の須恵器	坏	口縁~体部上半	不明	—	不明	—	3.1	4	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	金属模倣
154	SX01 (Ec6)	覆土 6層	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	5.1	残存	タタキ+ナデ	当て具痕	不明	
155	SX01 (Ec6)	覆土 6層	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	4.2	残存	タタキ	当て具痕	不明	
156	SX01 (Ec5d)	覆土 3層	軟質の須恵器	坏 A	口縁~底部	12.6	復元	7.2	実測	4.7	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	金属模倣
157	SX01 (Ec5d Ec6)	覆土 3層	軟質の須恵器	高坏	坏部下半~脚部上半	不明	—	不明	—	4.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ+(指ナデ摩滅)	金属模倣?
158	SX01 (Ec5d Ec6)	覆土 3層	軟質の須恵器	鉢 (はち)	頸部~体部下半	不明	—	不明	—	11.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	金属模倣?
159	SX01 (Ec6)	覆土 3層	須恵器	坏 B	口縁~底部	15.6	復元	8.6	復元	4.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明(高台剥離)	金属模倣
160	SX01 (Ea5d)	覆土 3層	土師器	甕	体部下半~底部	不明	—	5.8	復元	2.45	残存	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	
161	SX01	覆土 不明	土師器	轆の羽口	口縁~体部	7.0	復元	不明	—	5.4	残存	工具ナデ	工具ナデ	—	
162	SK01 (Ed6)	覆土	土師器	坏 A	体部下半~底部	不明	—	5.0	実測	0.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
163	SK01 (Ed6)	覆土	土師器	坏 A 黒色土器 A	体部下半~底部	不明	—	6.0	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
164	SK01 (Ed6)	覆土	土師器	坏 A 黒色土器 A	体部下半~底部	不明	—	4.0	実測	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
165	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏蓋	蓋部	不明	—	—	—	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
166	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏蓋B	蓋部	14.8	復元	—	—	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
167	SK01	覆土	須恵器	坏蓋	体部	不明	—	—	—	1.5	残存	ロクロナデ+ナデ?	ロクロナデ	—	
168	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏 A 灯明皿	体部上半~底部	不明	—	6.8	復元	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灯明皿
169	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏A	体部下半~底部	不明	—	5.7	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り+ヘラケズリ	
170	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏 A 灯明皿	体部下半~底部	不明	—	5.8	復元	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	軟質須恵器灯明皿
171	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏B	口縁~体部下半	12.0	復元	不明	復元	2.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
172	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏B	口縁~体部下半	9.8	復元	不明	—	2.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
173	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏B	体部下半~底部	不明	—	8.5	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ+ナデ	
174	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏B	体部下半~底部	不明	—	8.0	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ+ナデ	
175	SK01 (Ed6)	覆土	須恵器	坏B	体部下半~底部	不明	—	7.8	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り+ナデ	
176	SK01 (Ed6-F6)	覆土	須恵器	坏B	体部下半~底部	不明	—	8.2	復元	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	(不明)+ナデ	
177	SK01 (Ed6-F6)	覆土	灰釉陶器	碗 A	体部下半~底部	不明	—	7.6	復元	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り+指ナデ	
178	SK02 (F6)	覆土	土師器	小型甕	体部下半~底部	不明	—	8.0	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
179	SK05 (Eb6)	覆土	土師器	坏 A 黒色土器 A	口縁~体部下半	15.0	復元	不明	—	5.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
180	SK05 (Eb6)	覆土	土師器	坏 A 黒色土器 A	体部下半~底部	不明	—	6.2	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
181	SK05 (Eb6)	覆土	土師器	坏 A 黒色土器 A	体部下半~底部	不明	—	7.4	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
182	SK05 (Ea5d)	覆土	須恵器	鉢 B (はつ)	口縁~体部	18.6	復元	不明	—	4.3	残存	ロクロナデ+(自然釉)	ロクロナデ	不明	
183	SK05 (Eb6)	覆土	須恵器	短頸壺	体部下半~底部	不明	—	6.4	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	(回転か静止)不明	
184	SK07 (Ea6)	覆土	須恵器	坏 B	体部下半~底部	不明	—	9.2	実測	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ?+(高台貼り付けの)ナデ	
185	南東深掘	Ⅲ a-Ⅲ c 層	土師器	坏A	体部上半~底部	不明	—	6.4	復元	2.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
186	南東深掘	Ⅲ a-Ⅲ c 層	土師器	坏 A	体部下半~底部	不明	—	2.2	復元	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ(摩耗)	
187	南東深掘	Ⅲ a-Ⅲ c 層	土師器	坏 A	体部下半~底部	不明	—	5.0	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明(摩耗)	

第6章 遺物

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)		器高 (cm)	技法の特長			備考		
							—	—		外面	内面	底部			
188	南東深掘	Ⅲ a- Ⅲ c 層	土師器	坏 A 黒色土器 A	体部下半～ 底部	不明	—	5.4	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+ ミガキ +黒色処理	回転糸切り	
189	南東深掘	Ⅲ a- Ⅲ c 層	須恵器	甕	頸部	不明	—	不明	—	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
190	南東深掘	Ⅲ a- Ⅲ c 層	施釉陶器	三彩陶器 獸脚/ 三足盤	脚部	—	—	—	—	4.2	残存	工具ナデ +ヘラケズリ	—	—	奈良三彩
桜坂土器 1	A-8西壁 セクション	不明	軟質の須 恵器	高坏	脚部上半	不明	—	不明	—	3.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ + (指ナデ摩滅)	金属模倣 カ

第26表 瓦塔 第5次 (土師質) 観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長* (cm)	幅* (cm)	厚* (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考	
									表	裏			
試掘1	B トレンチ	検出	屋蓋部	6.4	5.8	丸瓦: 1.4 平瓦: 0.9	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	丸瓦節無 半裁竹管状工具による 押し引き	垂木表現有、段無 ヘラ状工具による 削り出し (断面三角)	赤褐色	安曇教委 2019a 42図-4
1	Ec 5c 拡張区	Ⅲ a 層	基壇 初層の軸部 開口部	20.5	2.8	壁体: 1.8 開口部: 1.6 基壇: 3.8	土師質	やや不良 (脆)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	開口部: 角柱状に表現 壁体: ヘラ状工具による 縦方向のナデ調整 基壇: 輪郭表現のみ 扉無、軸ずりの孔無、 底の無い筒状	ヘラ状工具による 縦方向のナデ調整	赤褐色	
2	SK05 (Eb 6)	覆土 1層	屋蓋部	4.3	4.0	丸瓦: 1.6 平瓦: 1.0	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	丸瓦節有 半裁竹管状工具による 押し引き	垂木表現有、段有 ヘラ状工具による 削り出し (断面三角)	暗赤褐色	
3	SK06 (Ed 6)	覆土 2層	屋蓋部 隅棟	7.0	5.5 隅棟: 1.8	丸瓦: 1.3 平瓦: 0.9 隅棟: 3.4	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	隅棟、丸瓦節有 半裁竹管状工具による 押し引き	隅垂木表現有、段有 ヘラ状工具による 削り出し (断面三角)	赤褐色	
4	Ec 5c 拡張区	Ⅲ a 層	屋蓋部 隅棟	5.0	3.4 隅棟: 1.0	壁体: 0.8 隅棟: 2.6	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	隅棟 ヘラ状工具で切り出し た角状の粘土を 貼り 付け後、 工具によるナデ調整	隅垂木表現無 ヘラ状工具による 削り出し調整無し	赤褐色	
5	F 6 a	Ⅲ a 層	組物の一部か	2.8	5.3	壁体: 0.8 組物: 2.8	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	ヘラ状工具で切り出し た角状粘土を貼り付 け後、工具による横方 向のナデ調整	ヘラ状工具による 横方向のナデ調整	赤褐色	
6	Ec 6	Ⅲ a 層	組物の一部か	4.2	8.0	壁体: 0.8 組物: 横2.9 組物: 縦1.3	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	ヘラ状工具で切り出し た角状粘土を貼り付 け後、工具による横方 向のナデ調整	ヘラ状工具による 横方向のナデ調整	赤褐色	
7	Ec 5c 拡張区	Ⅲ a 層	初層の軸部 開口部	6.7	8.5	壁体: 1.3 開口部: 1.7	土師質	やや不良 (脆)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	開口部: 角柱状に表現 壁体: ヘラ状工具による 縦方向のナデ調整	摩耗強 横方向のナデ調整	赤褐色	
8	Ec 5c 拡張区	Ⅲ a 層	二層以上の 軸部 組物 (斗拱)	11.8	11.3	壁体: 1.1 斗拱: 3.7	土師質	やや不良 (脆)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	斗拱: 底状粘土帯 壁体: ヘラ状工具による 縦方向のナデ調整	摩耗強 横方向のナデ調整	赤褐色	
9	Ec 5c 拡張区	Ⅲ a 層	基台か	1.2	6.0	1.2	土師質	硬	ナデ+面取り +ミガキ	ミガキ 隅に薄い面取有	破損により不明 (空洞)	赤褐色	雲母多含
桜坂土 製品1	B-8 4-5 グリッド 1号灰原	遺物 集中区	基台か	4.8	7.8	1.9	土師質	硬	ナデ+面取り +ミガキ	ミガキ 隅に面取有	ナデ (空洞)	赤褐色	雲母多含

* 法量は残存している部分を計測

第27表 瓦塔 第3次 (土師質) 観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長* (cm)	幅* (cm)	厚* (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考	
									表	裏			
5	瓦溜01 C-4 グリッド	(Ⅲ a 層)	屋蓋部	6.1	3.4	丸瓦: 1.7 平瓦: 0.8	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	丸瓦節有 半裁竹管状工具による 押し引き	垂木表現有、段有 ヘラ状工具による 削り出し (断面三角)	暗赤褐色	明科教委 2000a 33図-5
6	瓦溜01 C-4 グリッド	(Ⅲ a 層)	屋蓋部	5.1	4.1	丸瓦: 1.6 平瓦: 1.1	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	丸瓦節有 半裁竹管状工具による 押し引き	垂木表現有、段有 ヘラ状工具による 削り出し (断面三角)	暗赤褐色	明科教委 2000a 33図-6
8	瓦溜01 C-4 グリッド	(Ⅲ a 層)	屋蓋部	3.9	3.3	丸瓦: 1.4 平瓦: 1.0	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	丸瓦節有 (摩耗強) 半裁竹管状工具による 押し引き	垂木表現有、段有 (摩耗) ヘラ状工具による 削り出し (断面三角)	暗赤褐色	明科教委 2000a 33図-8
9	P11 C-4 グリッド	覆土	屋蓋部	4.3	2.6	丸瓦: 1.0 平瓦: 0.7	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	丸瓦節無 半裁竹管状工具による 押し引き	隅垂木表現無 ヘラ状工具による 削り出し調整無し	赤褐色	明科教委 2000a 33図-9
10	瓦溜01 C-4 グリッド	Ⅲ a 層- Ⅲ b 層 土層	屋蓋部	4.3	4.1	丸瓦: 1.0 平瓦: 0.8	土師質	やや不良 (脆)	粘土紐貼付 +工具	丸瓦節無 半裁竹管状工具による 押し引き	隅垂木表現無 ヘラ状工具による 削り出し調整無し	黄褐色	明科教委 2000a 33図-10
12	B-4-1 グリッド	—	二層以上の軸部 組物 (斗拱)	5.4	4.9	壁体: 0.9 斗拱: 2.8	土師質	やや不良 (脆)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	斗拱: 底状粘土帯 壁体: ヘラ状工具による 縦方向のナデ調整	摩耗強 横方向のナデ調整	赤褐色	明科教委 2000a 33図-12

* 法量は残存している部分を計測

第28表 瓦塔 第1・2次（須恵質）観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長* (cm)	幅* (cm)	厚* (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考
									表	裏		
64-1	明科庵寺 第1次	明科 石堂 昭和二八年 一月	軸部 壁体	10.9	11.4	壁体：1.8 突起：2.9	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 角棒状粘 土紐 貼付+工具	工具によるナデ調整 + 角棒状粘土紐貼付 下部に四角状の凹凸	工具によるナデ調整 屈曲	灰褐色	明科町史 64図-1
64-2	明科庵寺 第1・2次	明科 瓦	軸部 壁体	8.6	13.8	壁体：1.9 突起：2.4	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 角棒状粘 土紐 貼付+工具	工具によるナデ調整 + 角棒状粘土紐貼付 上部に四角状の凹凸	工具による、ナデ調整	灰褐色	明科町史 64図-2
64-3 (33-1)	明科庵寺 第1・2次 + 第3次	明科石堂出土 昭和28 瓦塔 No.3 B-4 No.7 B-4	屋蓋部 隅棟	14.9	43.0	丸瓦：3.3 平瓦：2.2 隅棟：5.1	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 角棒状粘 土紐 貼付+工具	角棒状粘土紐貼付 隅棟表現 丸瓦列に節なし 平瓦表現あり	ヘラ状工具による ケズリ出しによる、 3段の隅垂木表現 2段の垂木表現	灰褐色	明科町史 64図-3 明科2000a 33図-1
64-4	明科庵寺 第1・2次 + 第3次 (未掲載)	明科 石堂 昭和28 瓦塔 C-3 III a 層	屋蓋部	11.3 +3.4	9.9	丸瓦：2.1 平瓦：1.8	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 棒状粘 土紐 貼付+工具	棒状粘土紐貼付 丸瓦列に節なし 平瓦表現なし 軒丸表現なし	垂木表現なし 木葉痕	灰褐色	明科町史 64図-4 3次未掲載
64-5	明科庵寺 第1・2次	石堂出土 昭和28 瓦塔	屋蓋部 隅棟	12.1	15.3	丸瓦：2.2 平瓦：1.8 隅棟：3.4	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 棒状粘 土紐 貼付+工具	棒状粘土紐貼付 隅棟表現 丸瓦列に節なし 平瓦表現なし	垂木表現なし 木葉痕	灰褐色	明科町史 64図-5
64-6	明科庵寺 第1次	明科石堂出土 昭和二十八年 一月瓦塔部分	基壇部	14.7	12.8	壁体：3.2 突起：2.4	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 工具	粘土板貼付 + 工具によるナデ調整 獣脚表現	工具によるナデ調整	灰褐色	明科町史 64図-6
64-7	明科庵寺 第1次	明科石堂 A 地区 昭和二八一 か（摩托）	基壇部	13.3	13.5	壁体：3.5	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 工具	粘土板貼付 + 工具によるナデ調整	工具によるナデ調整	灰褐色	明科町史 64図-7

※ 量は残存している部分を計測

第29表 瓦塔 第3次（須恵質）観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長* (cm)	幅* (cm)	厚* (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考
									表	裏		
34-1	第3次	C-4 No10 B-4 No75 E-4 No39	宝珠	16.6	18.0 直径20.6 の円形	3.6	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 棒状粘 土紐 貼付+工具	工具によるナデ調整 十字状に三段の蕨手	工具によるナデ調整	灰褐色	明科2000a 34図-1
33-2	第3次	B-2 III b 層	軸部 斗拱	11.6	7.9	粘土板：2.2 粘土紐：1.9	須恵質 硬質	粘土板+ 角棒状粘 土紐 貼付+工具	斗拱（組物）表現 空中粘土帯+凸スタンプ	剥離痕	灰褐色	明科2000a 33図-2
33-3	第3次	C-4 III a 層、III b 層 上層	不明	5.3	3.9	1.8	須恵質 やや 脆い	粘土板 + 工具	工具によるナデ調整 突起状 側面、工具による弧状の 沈線	工具によるナデ調整 + 沈線 底部、斜めに垂下	白灰色	明科2000a 33図-3
33-4	第3次	C-4 III a 層、III b 層 上層	軸部 壁体	3.9	4.1	1.3	須恵質 硬質	粘土板 + 工具	工具によるナデ調整 窓の孔あり	工具によるナデ調整	灰黄褐色	明科2000a 33図-4
未掲載 -5	第3次	B-4 No18	軸部 壁体	6.8	6.7	壁体：1.7 粘土紐：2.9	須恵質 硬質	粘土板+ 角棒状粘 土紐 貼付+工具	角棒状粘土紐 角棒状粘土紐貼付 + 工具によるナデ調整	工具によるナデ調整 屈曲	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -6	第3次	B-4 No29	屋蓋部	4.4	5.0	丸瓦：2.5 平瓦：1.8	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ + 棒状粘 土紐 貼付+工具	棒状粘土紐貼付 丸瓦列に節なし 平瓦表現あり 軒丸欠損	ヘラ状工具による ケズリ出しによる、 段のある垂木表現	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -7	第3次	C-4 III a 層	屋蓋部 隅棟か 軸部 壁体か	7.5	3.6	壁体：1.5 粘土紐：1.9	須恵質 やや 脆い	粘土板+ 棒状粘 土紐 貼付+工具	棒状粘土紐貼付 隅棟状の突起 側面、工具によるナデ	工具による ナデ調整+弧状のナ デ突起	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -8	第3次	B-4-8	軸部 壁体	6.4	4.8	1.8	須恵質 硬質	粘土板 + 工具	工具によるナデ調整 + 沈線+上部に粘土紐貼 付痕 下部に四角状の凹凸	工具によるナデ調整	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -9	第3次	B-4-14 No 74	軸部 壁体の 一部か 柱状	6.7	2.0	1.8	須恵質 硬質	角棒状粘 土紐 貼付+工具	角棒状粘土貼付 側面、工具によるナデ調 整	工具によるナデ調整 + 剥離痕	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -10	第3次	B-4 III b 層	軸部 壁体の 一部か	5.4	2.0	2.3	須恵質 硬質	角棒状粘 土紐 貼付+工具	角棒状粘土貼付 側面、工具による弧状の 沈線	工具によるナデ調整 + 剥離痕	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -11	第3次	C-4 III a 層	軸部 壁体の 一部か	2.7	3.5	1.7	須恵質 硬質	粘土板 + 工具	工具によるナデ調整	工具によるナデ調整	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -12	第3次	C-4-7 溝	屋蓋部 丸瓦	4.2	1.1	0.7	須恵質 硬質	棒状粘土紐 貼付+工具	棒状粘土紐貼付 丸瓦列に節なし	剥離痕	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -13	第3次	C-4 III a 層	屋蓋部 丸瓦	3.4	1.2	0.7	須恵質 硬質	棒状粘土紐 貼付+工具	棒状粘土紐貼付 丸瓦列に節なし	剥離痕	灰褐色	明科2000a 未掲載

※ 量は残存している部分を計測

第6章 遺物

第30表 金属製品観察表

No.	遺構等	層位等	種別	材質	最大長 (cm)	完/残	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
1	—	Ⅲ a 層	刀子茎か	鉄	3.3	残	0.8	0.6	2.7
2	SK06	覆土 2 層	釘	鉄	14.2	完	1.2	1.1	43.8
3	Ec6	Ⅲ a 層	釘	鉄	15.0	完	1.0	0.9	21.4
4	Ea6	Ⅲ a 層	釘	鉄	7.7	完	0.6	0.8	11.6
5	Ec6	Ⅲ a 層	釘	鉄	7.7	残	0.8	0.6	7.8
6	Ec6a	Ⅲ b 層	釘	鉄	6.0	残	0.8	0.8	7.4
7	Eb6 (SK05)	Ⅲ b 層	釘	鉄	4.9	残	1.1	1	10
8	SK05	覆土 1 層	鋸か	鉄	15.3	残	1.5	1.3	72.3
9	SP01	覆土 3 層	不明	鉄	4.2	残	1.4	0.1	3.3
試掘 1	試掘 Bトレンチ	検出	釘	鉄	8.2	完	0.8	0.5	5.0

第31表 石製品観察表

No.	遺構等	層位等	種別	石材	最大長 (cm)	完/残	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
1	Ec5d	Ⅲ a 層	打製石斧	ホルンフェルス	6.7	残	5.7	1.8	71.0
2	Ec5d	Ⅲ a 層	打製石斧	砂岩	20.4	完	9.5	4.9	1262.0

第32表 不明土製品観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	最大径 (cm)		最大幅 (cm)		最大厚 (cm)		技法の特長			備考 色調
												外面	内面	底部	
1	SK01 Ed6	覆土 1 層	土師質	不明	不明	3.6	残存	4.4	残存	1.6	残存	粘土紐貼付 + 工具ナデ	工具ナデ	—	粘土帯 灰黄褐色
2	Eb5d	Ⅲ a 層	須恵質	不明	不明	6.0	残存	6.7	残存	4.6	残存	粘土板貼付 + 工具ナデ	工具ナデ	—	突起部 灰黄褐色
3	Eb6	Ⅲ a 層	土師質	不明	不明	13.8	残存	14.4	残存	1.3	残存	ナデ	ナデ	—	明褐色

第7章 自然科学分析

1 放射性炭素年代（AMS測定）

株式会社加速器分析研究所

（1）測定対象試料

長野県安曇野市に所在する明科遺跡群明科廃寺（第5次発掘調査）の測定対象試料は、土器付着炭化物1点と炭化材3点の合計4点である（第35表）。土器付着炭化物（試料01）は、土師器坏の体部内面の付着物を採取した。なお、炭化材3点については同一試料の樹種同定が実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

（2）化学処理工程

- ① メス、ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- ② 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と第33表に記載する。
- ③ 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- ④ 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- ⑤ 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- ⑥ グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

（3）測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

（4）算出方法

- ① $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第33表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- ② ¹⁴C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。

補正した値を第33表に、補正していない値を参考値として第34表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- ③ pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第33表に、補正していない値を参考値として第34表に示した。
- ④ 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.3\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線及び較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線 (Reimer et al. 2020) を用い、OxCalv4.4較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

(5) 測定結果

測定結果を第33、34表に示す。

試料4点の ^{14}C 年代は、 $1460 \pm 20\text{yrBP}$ (試料04) から $1160 \pm 20\text{yrBP}$ (試料01) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い試料04が $591 \sim 640\text{cal AD}$ の範囲、最も新しい試料01が $776 \sim 956\text{cal AD}$ の間に4つの範囲で示される。基本層序第Ⅲ a層から出土した土器付着炭化物試料01と炭化材試料02は、おおむね近い値を示した。また、これら2点と基本層序第Ⅳ層出土の炭化材試料04との前後関係も層位の上下関係に整合する。

炭化材試料の炭素含有率はいずれも70%を超える十分な値であった。土器付着炭化物試料01は、採取する際に胎土の混入を避けることができず、炭素含有率が17%という低い値となった。このため、試料01については測定された炭素の由来に注意を要する。

第33表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-201576	試料01	グリット : Eb 5 c 遺構、層位 : 基本層序第Ⅲa層 現場No : 115	土器付着炭化物	AaA	-28.72 ± 0.22	$1,160 \pm 20$	86.59 ± 0.26
IAAA-201577	試料02	グリット : Ec 5 c 遺構、層位 : 基本層序第Ⅲa層 現場No : 炭サンプル No.3	炭化材	AAA	-25.92 ± 0.21	$1,210 \pm 20$	85.99 ± 0.25
IAAA-201578	試料03	グリット : Ec 5 d 遺構、層位 : SX01覆土第6層 現場No : 炭サンプル No.1	炭化材	AAA	-26.13 ± 0.19	$1,430 \pm 20$	83.66 ± 0.24
IAAA-201579	試料04	グリット : Ea 5 d 遺構、層位 : 基本層序第Ⅲc層 現場No : 炭サンプル No.2	炭化材	AAA	-25.59 ± 0.21	$1,460 \pm 20$	83.36 ± 0.25

[IAA 登録番号 : #A494]

第34表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-201576	$1,220 \pm 20$	85.93 ± 0.25	$1,156 \pm 24$	776calAD - 786calAD (7.6%) 832calAD - 851calAD (10.8%) 875calAD - 898calAD (20.5%) 920calAD - 956calAD (29.3%)	773calAD - 789calAD (9.8%) 823calAD - 977calAD (85.7%)
IAAA-201577	$1,230 \pm 20$	85.83 ± 0.25	$1,212 \pm 23$	786calAD - 832calAD (44.8%) 849calAD - 876calAD (23.5%)	708calAD - 723calAD (3.8%) 772calAD - 886calAD (91.6%)
IAAA-201578	$1,450 \pm 20$	83.46 ± 0.23	$1,433 \pm 22$	606calAD - 628calAD (45.4%) 634calAD - 645calAD (22.9%)	595calAD - 654calAD (95.4%)
IAAA-201579	$1,470 \pm 20$	83.26 ± 0.25	$1,462 \pm 24$	591calAD - 640calAD (68.3%)	571calAD - 646calAD (95.4%)

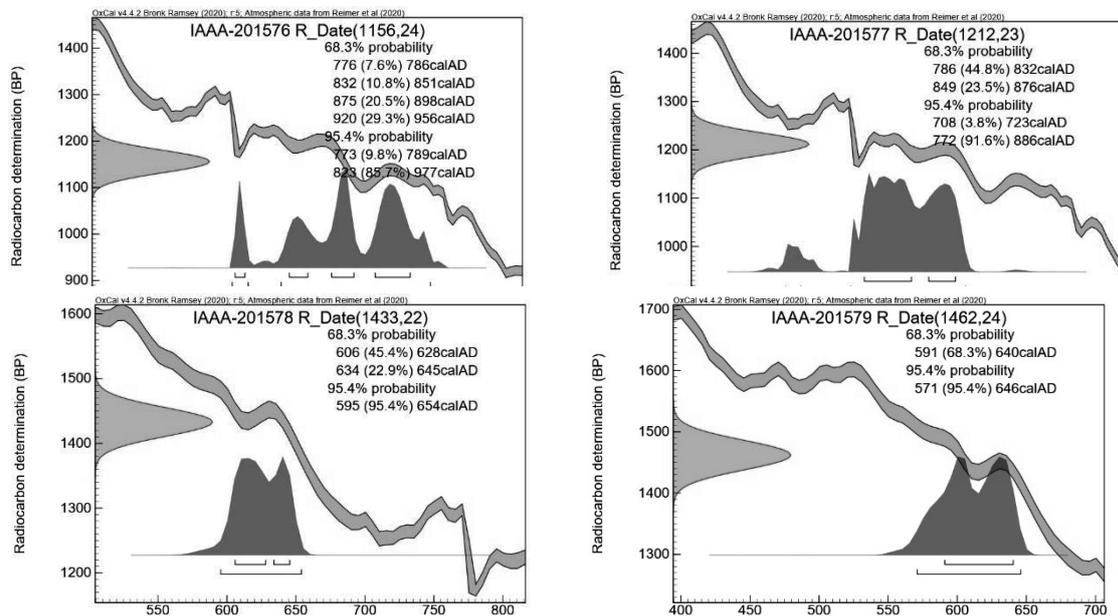
[参考値]

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

Reimer, P. J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP), *Radiocarbon* 62 (4), 725–757

Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355–363



第230図 暦年較正年代グラフ (参考)

2 樹種同定

(1) 試料

長野県安曇野市に所在する明科遺跡群明科廃寺（第5次発掘調査）の試料は炭化材3点である（第35表）。なお、これらの同一試料を対象に放射性炭素年代測定が実施されている（別稿年代測定報告参照）。

(2) 分析方法

試料を割り折りして新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の断面を作製し、落射顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）によって50～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴及び現生標本との対比によって行った。

(3) 結果

第35表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版1に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

- ・コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科

年輪のはじめに大型の道管が1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

- ・マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道がみられる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

・ニレ属 *Ulmus* ニレ科

年輪のはじめに中型から大型の道管が1～3列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、1～5細胞幅ぐらいである。

第35表 明科遺跡群明科廃寺における樹種同定結果

試料名	採取場所	樹種
試料02	グリット：Ec 5 c 遺構、層位：基本層序第Ⅲa層 現場No：炭サンプルNo.3	コナラ属コナラ節
試料03	グリット：Ec 5 d 遺構、層位：SX01覆土第6層 現場No：炭サンプルNo.1	マツ属複維管束亜属
試料04	グリット：Ea 5 d 遺構、層位：基本層序第Ⅲc層 現場No：炭サンプルNo.2	ニレ属

(4) 考察

同定の結果、明科遺跡群明科廃寺の炭化材は、マツ属複維管束亜属1点、コナラ属コナラ節1点、ニレ属1点であった。

マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。ニレ属にはハルニレ、オヒョウなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する落葉の高木である。

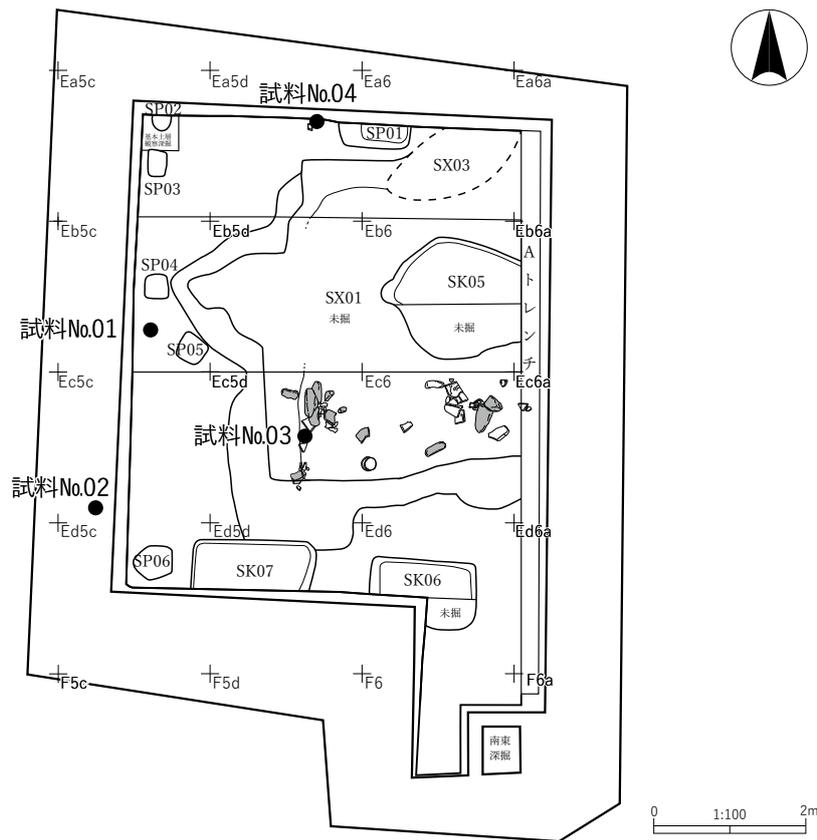
マツ属複維管束亜属は、木理はやや通直で、重硬で水湿によく耐え腐りにくい材である。杭の他に建築部材の中でも水湿の影響がある柱、礎板などに用いられる。コナラ属コナラ節は強靱で弾力に富み、建築部材としても用いられる木材である。長野県では柱や杭の利用例が多い。ニレ属のうち、ハルニレは重硬、オヒョウは強さ中庸で、アキニレはあまり強い材とは言えない。また、切削性や寸法安定性は不良で、色艶は冴えない。しかし、木目がケヤキに似るため、その代用材として容器や家具の部材として利用されることがある。また薪炭材として見た場合、アカマツ（マツ属複維管束亜属）は、火持ちは悪いが火力は強く、中世頃から窯業でよく用いられている。ナラ類（コナラ属コナラ節）は火持ちの良い薪炭材として現在は最も重宝される。そしてハルニレ（ニレ属）は、火力は弱いがアイヌでは火起こしに利用されるほど着火性が高く、火持ちがとても良い材である。

同定されたいずれの樹種も温帯に分布する樹木であった。マツ属複維管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがあり、生態的にアカマツ

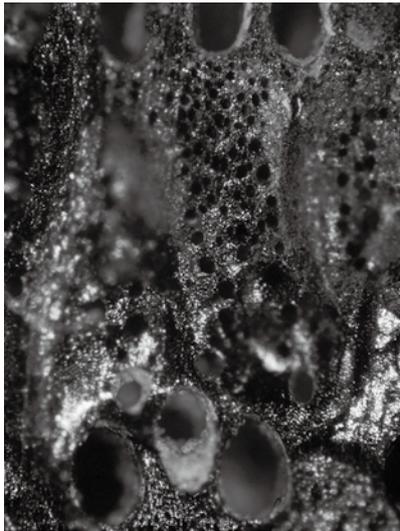
であると考えられる。コナラ属コナラ節は陽当たりの良い山野に生育し、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。ニレ属はハルニレとオヒョウは山地に、アキニレは水辺等に生育する。いずれの樹木も当時遺跡周辺や近隣地域に分布し、遺跡周辺からか、流通によって近隣地域よりもたらされたと推定される。

引用、参考文献

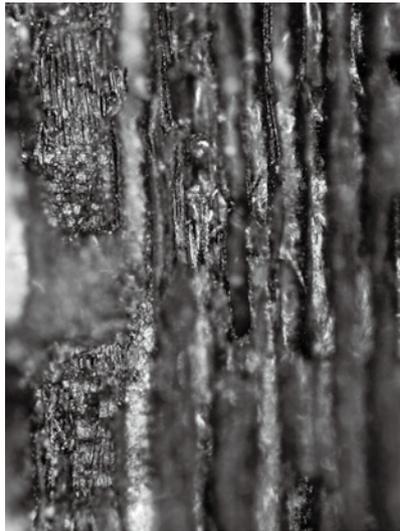
伊東隆夫、山田昌久（2012）木の考古学、雄山閣、p.449.
 佐伯浩、原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、pp.20-48.
 佐伯浩、原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、pp.49-100.
 島地謙、伊東隆夫（1982）図説木材組織、地球社、p.176.
 島地謙、伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296.
 山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p.242.



第231図 分析試料出土地点



横断面
コナラ属コナラ節 Ec5c 基本土層第IIIa層



放射断面



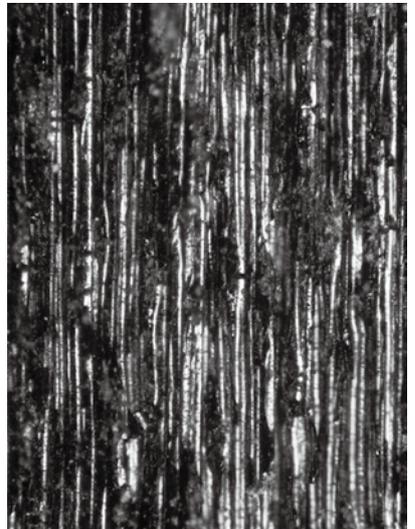
接線断面



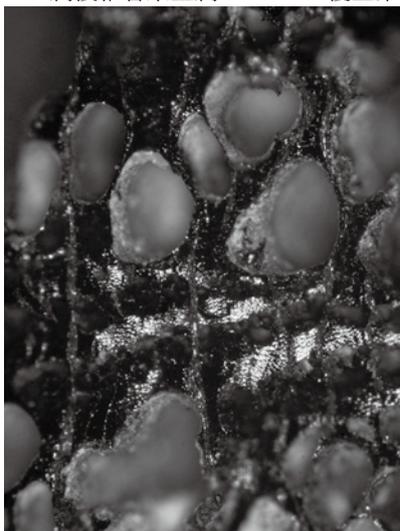
横断面
マツ属複維管束亜属 Ec5d SX1 覆土第3層



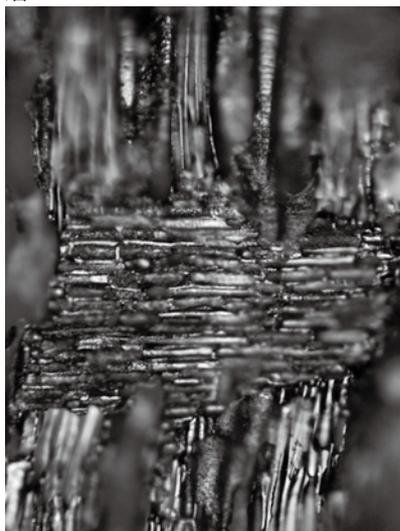
放射断面



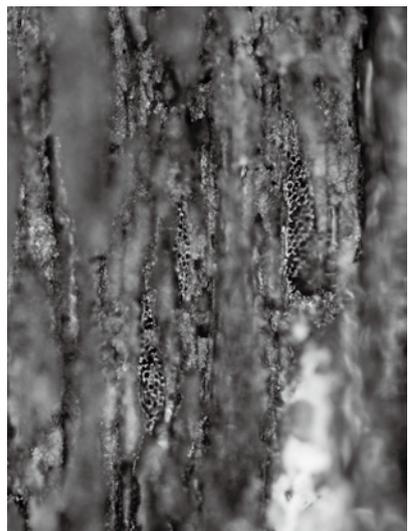
接線断面



横断面
ニレ属 Ea5d 基本土層第IV層



放射断面



接線断面

第232図 炭化材の顕微鏡写真



試料No.01 Eb5c グリッド 第IIIa層 (南から)



試料No.01 Eb5c グリッド 第IIIa層 (真上から、第213図1)



試料No.02 Ec5c グリッド 第IIIa層 (南から)



試料No.02 Ec5c グリッド 第IIIa層 (南西から)



試料No.03 SX01 Ec5d グリッド 第6層 (南から)



試料No.03 SX01 Ec5d グリッド 第6層 (南から)



SP01 断面 (南から)



試料No.04 Ea5d グリッド 北壁 第IIIc層 (南から)

第233図 分析試料出土地点写真

第8章 調査の総括

明科廃寺第5次発掘調査では、個人住宅建設に伴い、面積40㎡の発掘調査を実施した。この調査の結果、瓦等の集積（瓦溜01）1か所、不明遺構（SX01、SX03）2か所、土坑7基（SK01～07）、ピット6基（SP01～06）を確認し、明科廃寺の時期的変遷を知る上で貴重な成果が得られた。

1 瓦

瓦の分類と出土状況から、明科廃寺との関係をまとめる。

明科廃寺の規模は、一辺約75m四方とすると、5,625㎡となる。本調査区は、この推定範囲の北西寄りに位置し、調査面積は40㎡で、全体の僅か1/140程度である。古代瓦はこの狭小範囲にある瓦溜を中心に出土した。総重量は約2.1tにおよび、信濃国分寺を除く県内の寺院では例のない数量であった。更にこの古代瓦には、軒丸瓦255点、軒平瓦146点のほか鴟尾、鬼瓦等の道具瓦が含まれ、地方古代寺院の様相を解明する数多くの情報をもたらした。

軒丸瓦は、12種類の瓦当文様が確認され、範型を含め13種類に分類した。従来の出土資料に今回の資料が加わったことによって、文様構成や成形法が補足され、分類を再整理することができた。更に、第一型式第2類が明科廃寺で最も古い段階となる型式であることを、出土層位によってより可能性が高まった。以下、軒丸瓦型式とそれに伴う瓦の変遷について3段階に区分してまとめとする。

軒丸瓦の型式変遷は、瓦当文様、成形技法分類と出土量、出土状況から大きく3つの画期が設定され、最終段階を3つの小画期として区分した。1段階は、第一型式第1・2類、2段階は第二型式1・2類、3段階は第三型式、第一型式第3・4・5類、第四型式第1・2・3類、第五型式となる。3段階は、文様構成と成形、接着法から i：第三型式と第一型式第4類、ii：第一型式第3・5類と第四型式、iii：第五型式という違いが見える。

第一型式第2類は、SX01第6層内から丸瓦と平瓦とともに出土した。SX01第6層では第一型式第2類以外に出土しなかったことから、最も古い段階の瓦として位置づけたい。第一型式第1類も文様構成、縦型一本づくり成形であることから、この2種類が1段階となる。この段階の丸瓦は、厚さ1.8cm以上、全長35cmほどの粘土板桶巻づくりの無段式である。丸瓦凸面は、平行叩きによって調整され、最終的にナデによって磨り消されている。側縁部は、凹面側に均一な面取り処理するものが少数あるが、大半は切断したままの形態である。平瓦は、端部内径25～26cm、全長35cm程度の台形状で、粘土板桶巻づくり、凸面は叩き目をヨコナデで磨り消している。側縁部は面取処理せず切断したままの形態となる。この形態が創建期の丸瓦と平瓦（＝SX01タイプ）である。軒平瓦は、SX01からの出土がなく形態は不明である。ただ、三重弧文軒平瓦の顎部形態C類の弧文施文と凸面の最終調整が丁寧であることから同時期の可能性があると考えられる。

第二型式第1類は、調査区で最も多く出土した軒丸瓦であり、明科廃寺出土の全ての軒丸瓦の50%以上を占めている。第二型式は、径16～19cmで、第一型式1・2類の径13～16cmに比べると大型となり、瓦当面との接合方法は、接着式である。第一型式第1・2類と全く異なる系譜をもつ大型の軒丸瓦が生産されたことは、寺院造営が新たな段階に入ったことを示唆している。この第二型式は、現時点で系譜をたどることができず、明科廃寺独特の瓦当文様となっている。今後、類似する瓦を探りたい。この瓦

当と接着される丸瓦には、粘土帯を用いた成形技法（粘土帯巻桶巻づくり）が用いられ、凸面に綾杉叩きが調整痕として残っているものが出現する。平瓦にも同様に粘土帯巻桶巻づくりと綾杉叩きがあり、同じ段階に共通する成形、調整法と考えられる。また、これらの丸瓦と平瓦は、側縁部に面取りする形態が多い。第二型式の出現する段階は、粘土帯巻桶巻づくりと綾杉叩きを用いる段階と捉えられる。瓦の胎土は、粗粒砂が少量混入し、軟質焼成で色調が褐色を帯びる瓦が多く、有段式丸瓦にも共通する要素でもある。軒平瓦は、綾杉叩き痕がある四重弧文、三重弧文である。

3段階は、成形技法と文様構成から3つに細分した。i：ホール形状の瓦当裏面に半円形の丸瓦を粘土によって接合する（接着式3）成形技法となる第三型式と第一型式第4類、ii：木型を用いずに、粘土紐の巻き上げによって円筒形をつくる一本づくり成形技法となる第一型式第3・5類、第四型式、iii：iiと同じ成形技法で、文様が直線と円による単純な幾何学文様となる第五型式である。

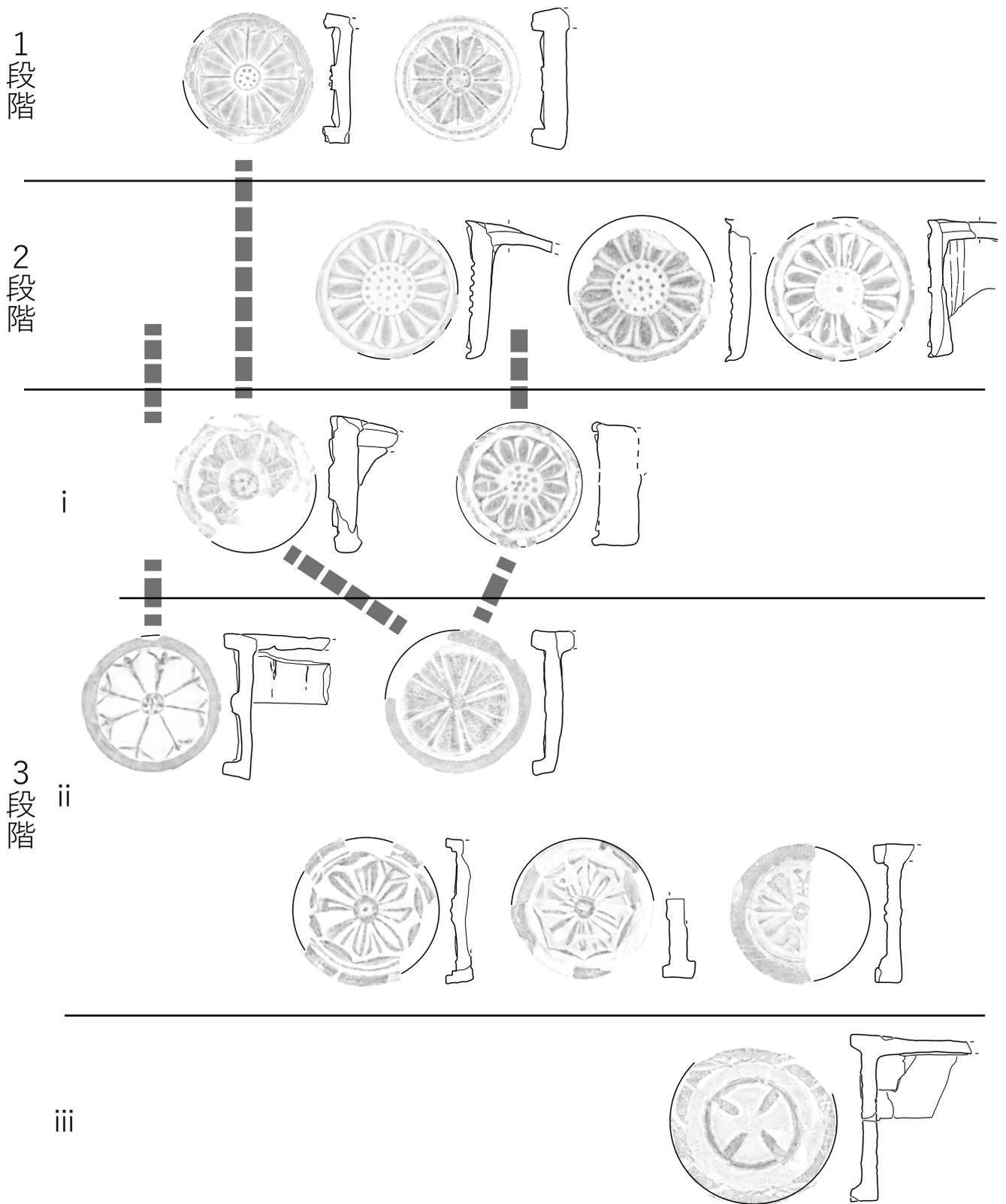
第三型式は、第二型式と同じ意匠であるが、内区の花弁、蓮子数を変えて文様を異にし、第二型式の法量を小型化している。第一型式第4類は、中房を高くし、花弁中央が凹む第一型式1・2類に類似する文様構成である。両者ともに内区文様が外縁より盛り上がる点が共通する。第一型式第4類は、桜坂古窯址から2点出土していることから、2段階に続く型式と考えた。

第一型式第3・5類と第四型式第3類は、外区形状が同一で、胎土に粗砂が多く混入し瓦当表面のざらつきが著しい点が共通している。また、第一型式第5類と第四型式第3類の中房形状が同一であることから同じ系譜をもつ軒丸瓦の一群とした。第四型式第1・2類は内区外縁の文様構成と複雑な幾何学文様が共通する。蓮華文の意匠を残し、伝統的な成形技法を残す段階として捉えた。このi、ii段階の丸瓦は、前段階より小さく薄くなったと推測される。第五型式は、文様構成、成形技法、胎土ともに全てが他の型式と異なり、系譜が異なる。ただ、明科廃寺第3次発掘調査でも出土していることから、数量は少ないが一定数用いられた瓦と考えられる。

軒丸瓦の変遷を明科廃寺の変遷期と重ねると、1段階を創建期、2段階を修造期①、3段階を修造期②と位置付けることができる。軒丸瓦の型式別変遷と丸瓦と平瓦の変遷の概要を第36表にまとめた。

第36表 瓦の変遷概要

軒丸瓦		軒平瓦	丸瓦	平瓦	調整、胎土
1 創 段 建 階 期	第一型式第2類 第一型式第1類 縦置き型一本づくり	三重弧文 顎部C類	無段 粘土板桶巻づくり 側縁部面取なし	粘土板桶巻づくり 側縁部面取なし 一枚づくり	ナデ 平行叩き 縄目叩き 緻密粘土、白色粘土 ブロック混入少
2 修 段 造 階 期 ①	第二型式第1類 第二型式第2類 接着式1、2	三重弧文 四重弧文 顎部A、B類	無段、有段 粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 凹凸面側部面	粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 一枚づくり 凸面側部面取 凹凸側縁部面取	平行叩き 綾杉叩き 縄目叩き 格子叩き ナデ 黒、白色粗砂、 マーブル状白色粘土混 入増加
3 段 階 修 造 期 ②	① 第三型式 第一型式第4類 接着式3	三重弧文 顎部A、B類	無段、有段 粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 凹凸面側部面	粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 凹凸側縁部面取	平行叩き 綾杉叩き 縄目叩き 黒、茶粗砂混入増加 離れ砂 ロクロナデ
	② 第一型式第3類 第一型式第5類 第四型式第3類 第四型式第1・2類 一本づくり2				
	③ 第五型式 一本づくり2		粘土紐マキアゲ		



第234図 軒丸瓦の変遷模式図

2 SX01（地鎮）

第5章で詳述したように、SX01は人為的に掘下げた範囲、もしくは窪地状の自然地形を人為的に埋め戻した上で、三和土状の土層により整地している遺構である。

SX01からは、寺域整備に伴うと思われる整地層と、その下層から地鎮の可能性のある遺構が検出された。以下、SX01の性格について簡単に触れておきたい。

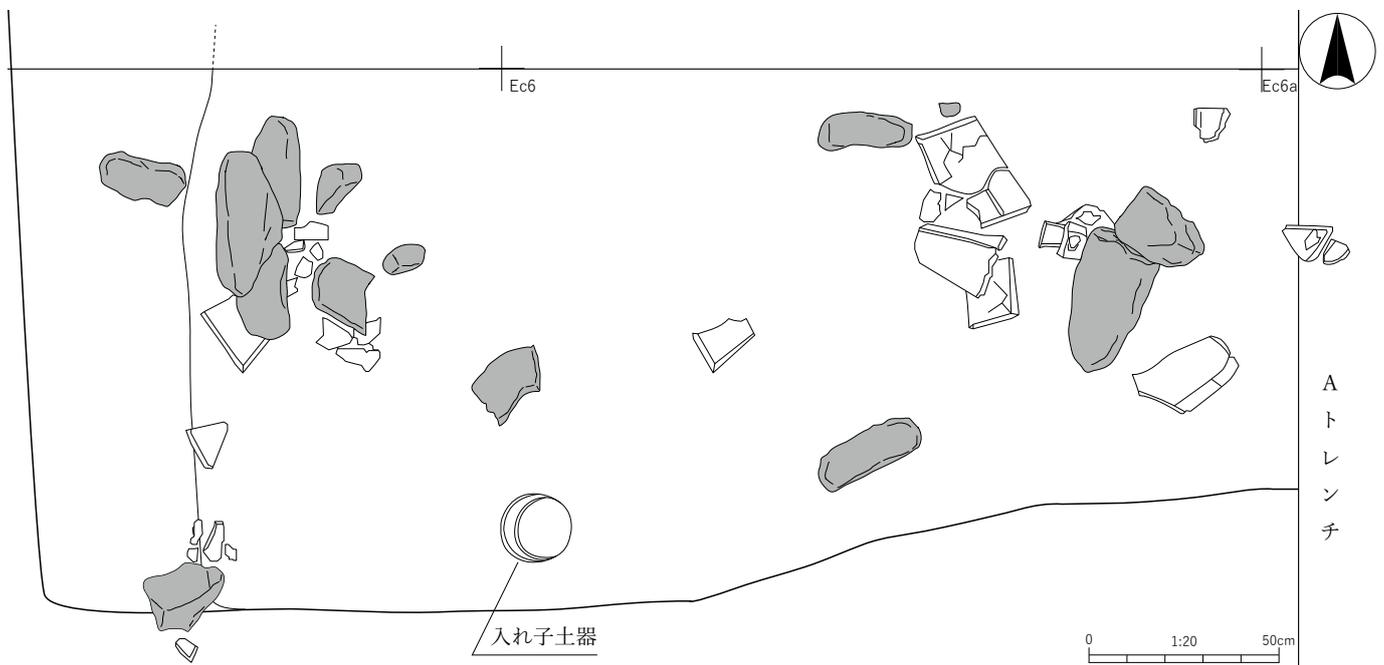
SX01は、廃絶期のもと思われる瓦溜01の下層にあることから、寺域の整備に伴うものと考えられる。これまでの発掘調査では明科廃寺の年代的な変遷が分かっていないが、今回のSX01調査により寺域の変遷の一端を把握できたことは大きな成果と考える。

覆土中からは多量の瓦が出土しているが、創建期の瓦である第一型式第2類の軒丸瓦とそれに伴う形態の丸瓦と平瓦で占められており、他の時期の瓦がみられないことが注目される。

覆土中からは、1期に帰属する土師器、須恵器及び軟質の須恵器が出土している。

明科廃寺の創建は7世紀末であり、出土遺物の年代がこれに近接していることからSX01の年代的な位置づけが問題となる。創建時に不要となった瓦等を用いて埋め戻した可能性も否定できないが、ここでは創建時より後の時代の寺域の整備に伴うものとして考えておきたい。

出土遺物としては、入れ子状の軟質の須恵器が遺構底面から出土している点が注目される（第235図）。入れ子状という出土状態から、意図的に置かれたものと考えられ、地鎮に伴うものであった可能性が指摘できる。



第235図 SX01入れ子土器出土状況

地鎮遺構の類例についてここで見ておきたい。

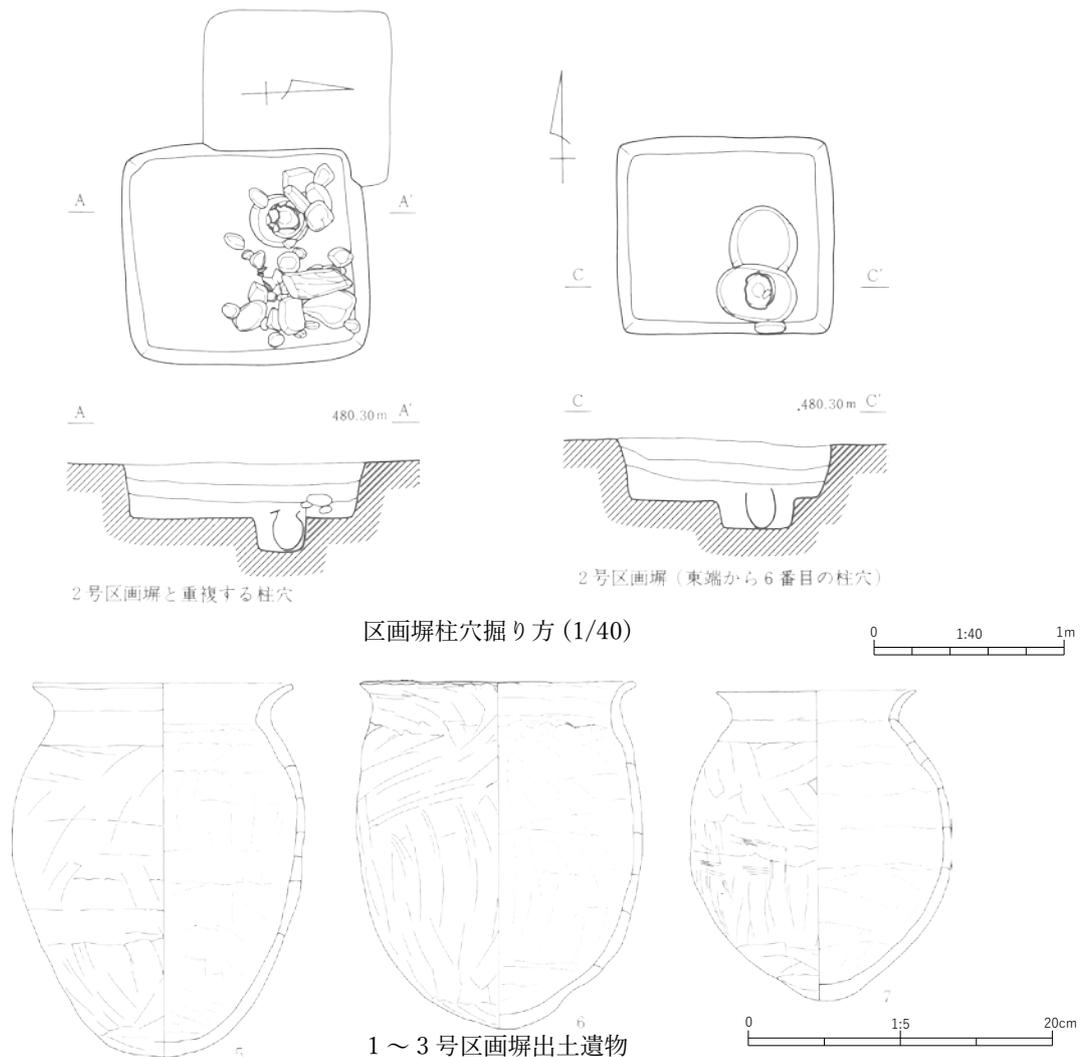
埋納を行う地鎮遺構の初見は、^{ふじわらのみや}藤原宮にみられる。^{だいごくでんいん}藤原宮大極殿院と^{よこおおじ}藤原宮横大路から地鎮遺構が検出されている（青木敬氏の教示による）。藤原宮大極殿院では、大極殿院南面西回廊内にあたる土坑

SX10713に、富本銭と水晶を納めた須恵器平瓶が置かれていた（奈文研2008）。藤原宮横大路では、路面上の土坑 SK02から、土坑の底面近くに広葉樹の葉の痕が残り、土師器鍋、円形曲物、複弁八葉蓮華文の軒丸瓦（飛鳥寺 XⅦ型式）がほぼ重なった状態で出土した（今尾1993、2008）。

文献からも、2度にわたり藤原宮で地鎮が執り行われたことが分かっており（『日本書紀』持統5年（691）10月甲子条、持統6年（692）5月丁亥条）、発掘調査成果とも一致している。律令国家が直接地鎮を執り行っている貴重な事例といえるが、この地鎮が藤原宮全体なのか、大極殿などの建物の地鎮なのかは検討を必要とする（奈文研2008）。

寺院内の建物に伴う地鎮遺構の類例は、^{こうふくじ}興福寺、^{とうだいじ}東大寺、^{がんごうじ}元興寺、^{ほっけじ}法華寺、^{さかたでら}坂田寺、^{かわはらでら}川原寺、^{とゆらでら}豊浦寺などが挙げられる。その出土状況から、塔や基壇、堂などの特定の建物に伴う地鎮遺構であり、8世紀中期頃の地鎮にあたる（奈文研1986、上村1999、興福寺2002、森2013）と考えられる。

寺域の地鎮の類例としては、^{ほうりゅうじ}法隆寺が挙げられる（法隆寺1980、森2013）。法隆寺では、昭和57年（1982）に行われた発掘調査により、土坑 SK3600より地鎮遺構が確認された。前述の寺院のように地鎮遺構の上に建物跡がないため、西院伽藍造営時の整地の際に行った地鎮遺構とされる。土師器椀 C の中に和



第236図 杉崎廃寺地鎮遺構と地鎮具

第8章 調査の総括

同開珞と金箔を置き、別の土師器椀Cで蓋をした状態で出土した。年代は、土師器椀Cと『法隆寺がらんえんぎならびにるきしざいちょう伽藍縁起併流記資材帳』などから、天平19年（749）より以前であることが分かっている（法隆寺1983）。

地方の古代寺院の地鎮の類例は少ないが、明科廃寺と関係性がうかがわれる飛騨の杉崎廃寺から地鎮遺構が確認されている（古川町教委1998）。伽藍域と僧房域を仕切る区画塀である掘立柱南北塀の二つの柱穴から甕が3点出土しており、地鎮遺構とされているが、（第236図）明科廃寺と同様、銅銭や水晶などの地鎮具の出土はみられない。杉崎廃寺の地鎮遺構は、確定的な施設ではない区画塀からの出土であるため、地鎮が寺域なのか、区画するどちらかの建物の地鎮なのか検討を必要とするが、第1期の掘立柱建物を切っていることから、第2期以降の区画施設と考えられ、地方の古代寺院において、寺院で地鎮が執り行われていたことを示す重要な類例である。

以上をまとめると、地鎮という行為が、7世紀末には出現し、寺院に関係する地鎮が8世紀中期以降にみられることがわかる。このことから、明科廃寺でも奈良時代に、地鎮が執り行われていた可能性が考えられる。SX01については、建物の遺構が見つかっていないため、寺域の地鎮の遺構の可能性が高いと思われる。ただ、これまでの調査では明科廃寺の寺域は明確になっておらず（第237図）、SX01周辺についても、寺域としての位置づけを今後の調査の中で明らかにしていく必要がある。



第237図 明科廃寺区画推定範囲

3 瓦溜01（第Ⅲ a層）灯明具

明科廃寺で灯明具がまとまって出土したのは、今回が初めてである。

瓦溜01（第Ⅲ a層）出土土器には灯明具が35点と多く出土しており、全体の23%を占める。図化した灯明具の種別組成を第37表、器種組成を第38表に示したが、主に土師器及び黑色土器 A の坏が用いられている。

種別組成では、土師器が65.7%（23点）、黑色土器が20.0%（7点）を占める。器種組成では、土師器坏 A が60.0%（21点）、黑色土器 A 坏 A が20.0%（7点）である。器種ごとに灯明具の割合を見ると、土師器坏 A は37点（1～37）中21点（1～5、8～23 56.7%）、土師器皿 A が2点のうち2点（56、57 100%）、黑色土器 A 坏 A が15点（58～72）中7点（59～63、71、72 46.7%）となっている。また、坏状の器種が灯明具として使用され、碗状の器種には使用されておらず、須恵器の灯明具への使用は、軟質須恵器か、破損した後、受け皿としての二次使用に限られている。

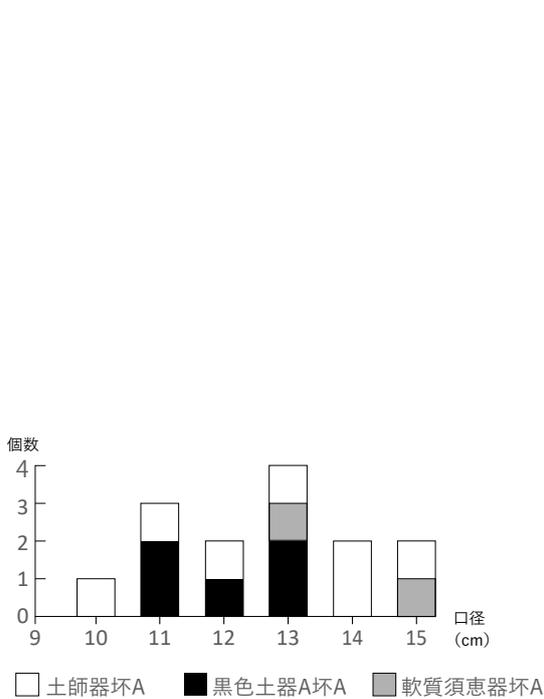
図化した35点のうち、口径が確認できる灯明具は、14点（1～5、56、59～63、85、92、93）と少なく、底径を確認できる資料は、25点である（1、8～23、57、59、

第37表 瓦溜01（第Ⅲ a層）灯明具種別組成

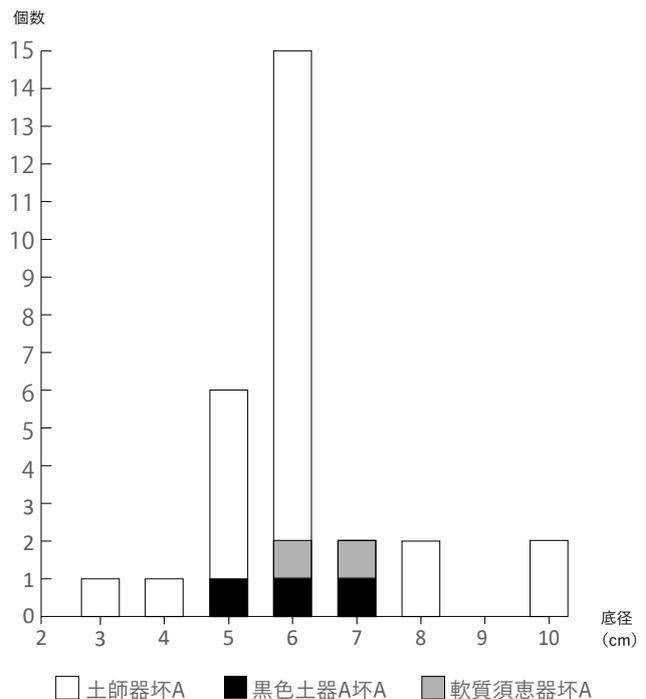
種別	点数	割合
土師器	23	65.7%
黑色土器 A	7	20.0%
須恵器	2	5.7%
軟質須恵器	3	8.6%
総計	35	100.0%

第38表 瓦溜01（第Ⅲ a層）灯明具器種組成

種別、器種	点数	割合
土師器坏 A	21	60.0%
土師器皿 A	2	5.7%
黑色土器 A 坏 A	7	20.0%
須恵器坏 A	1	2.9%
軟質須恵器坏 A	3	8.6%
須恵器横瓶	1	2.9%
総計	35	100.0%



第238図 瓦溜01（第Ⅲ a層）灯明具 口径

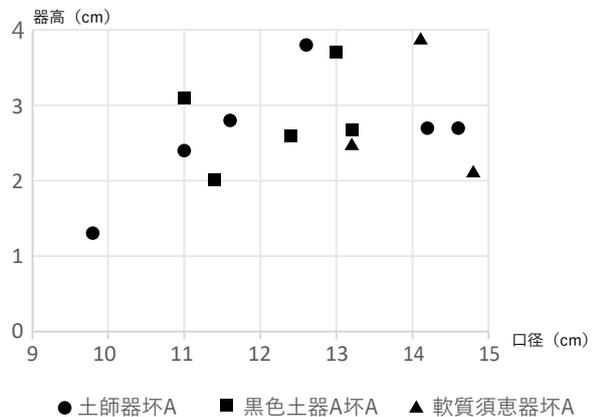


第239図 瓦溜01（第Ⅲ a層）灯明具 底径

60、71、72、85、94、133)。底部の破片が多いが、これは、灯明皿として使用された場合、底部付近に煤が付着し、灯明具として認識されやすいことによるものと思われる。

口径は、土師器坏Aが5点（1～5）で11.0～14.6cm（平均12.8cm）、黒色土器A坏Aが5点（59～63）で11.0～13.2cm（平均12.2cm）、土師器皿Aが1点（56）で9.8cm、軟質須恵器坏Aが3点（85、92、93）で13.2～14.8cm（平均14.0cm）に分布する（第238図）。底部は、5.0～6.5cmに分布している（第239図）。

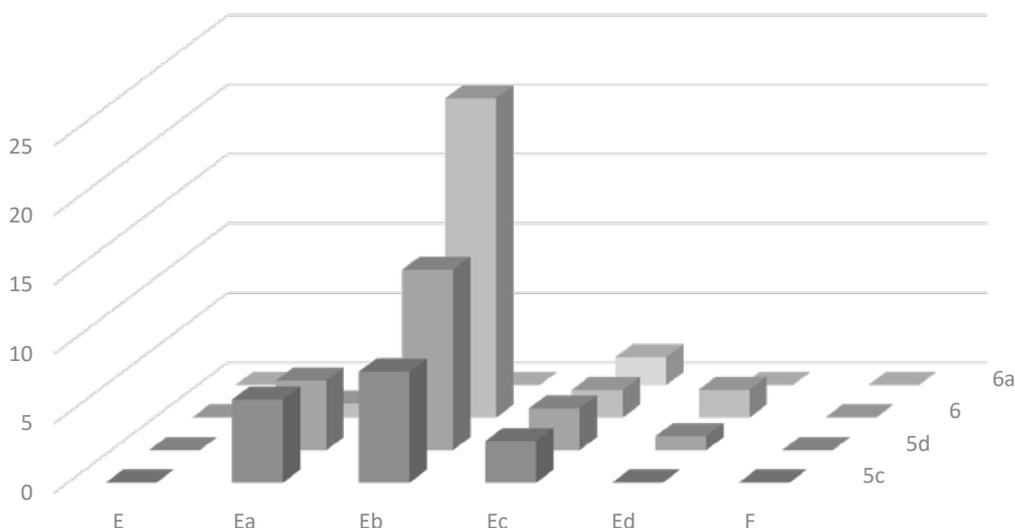
灯明具のうち、器高の確認ができた資料は土師器坏A、黒色土器A坏A、質須恵器坏Aの各1点、合計3点（1、59、85）のみで、1の土師器坏Aは3.8cm、59の黒色土器A坏Aは3.7cm、85の軟質須恵器坏Aは3.9cmを測る。口径、器高（残存含む）を確認できた14点を第240図に示した。



第240図 瓦溜01（第Ⅲa層）灯明具 口径、器高分布図

瓦溜01（第Ⅲa層）出土の口径の確認できた土師器坏Aの7点（1～7）の分布範囲は、「小平1990」によると8～9期に収まる。黒色土器

A坏Aも、口径の確認できる黒色土器A坏Aの5点（59～63）の法量は、法量分化した6～8期の小型品に該当すると考えられる。土師器皿Aとした2点（56、57）の灯明具は、8～9期に収まる土師器坏Aの可能性が高い。軟質須恵器坏Aとした85、92、93は、7期に出現し8期に消滅する軟質須恵器の特長を持つ須恵器であり、口径の法量も7～8期の範囲内に分布する。94の須恵器坏Aは、底部に回転ヘラケズリを施す須恵器坏Aで、2～3期に比定されるが、割れ口付近に煤が付着していることから、破損後に灯明具の受け皿として転用されたものと思われる。133の須恵器横瓶も、1～8期に比定されるが、割れ口付近に煤が付着しているため灯明具として再利用され、煤の形状から灯明皿を重ねるための受け皿として転用されたと思われる。これらの特長から、瓦溜01（第Ⅲa層）から出土した灯明具は、8期に比定される。



第241図 瓦溜01（第Ⅲa層）灯明具 出土位置分布図

灯明具の出土場所は、Eb6～Eb5cグリッドにかけて集中的に出土していることから、灯明会で灯明具として使用された後、一括して廃棄された可能性も指摘できる（第241図）。

4 成果と課題

今回の明科廃寺第5次発掘調査では、明科廃寺の時期的変遷を知る上で貴重な成果が得られた。

遺構に基づいて明科廃寺の創建期、修造期、廃絶期について述べてみたい。

（1）明科廃寺の創建期

明科廃寺第二型式第1類①の軒丸瓦は、桜坂古窯址と同范である。桜坂古窯址は、操業は7世紀後半から8世紀初頭とされ、明科廃寺と潮古墳群とほぼ同時期の窯である（明科町教委1998）。修造期の瓦である第二型式第1類①の年代を桜坂古窯址の操業年代と考えた場合、創建期の第一型式第1・2類の時期は、7世紀後半に遡る可能性があるが、瓦を製作した窯が発見されておらず、今後の検討を要する。

（2）明科廃寺の修造

明科廃寺では、これまでの発掘調査により、何度か建物を建て替えた跡が確認されており（明科町教委2000a）（第11図）、修造期の瓦や修復瓦も出土している。今回の調査でも、8世紀前半から中期にかけての鉢や須恵器多口壺、三彩陶器の脚部、播鉢、盤などの仏具も出土しており、創建期後の寺域活用を確認することができた。

また、8世紀後葉の須恵質の瓦塔と9世紀前半の土師質の瓦塔の出土から、9世紀前半までは寺院としての機能が存続していた可能性が高い。

（3）寺院造営の全国的な動向

寺院造営の流れについて簡単に触れておく。

『日本書紀』推古32年（624）9月甲戌条によると、この時期、全国に寺院は46か所存在したとする。まだ地方寺院の造営は少なかったと思われる（三舟2003、梶原2017）。

『日本書紀』大化元年（645）8月癸卯条によると、孝徳天皇により仏教の興隆の詔が出され、評家の私寺として地方寺院の造営が開始される（三舟2020、荒井2017）。

天武天皇14年（685）3月壬申に「詔、諸国每家、作仏舎、乃置仏像及経、以礼拜供養。」の詔が出され、全国に寺院造営を推奨する。

律令体制が整い、郡衙が成立する持統6年（692）には、『扶桑略記』持統6年（692）9月条によれば、全国に545か所の寺院が存在していたとする。この数は、全国の発掘調査からみても妥当な数だとされている（三舟2003、梶原2017）。

明科廃寺の創建時期は、出土遺物から7世紀末から8世紀初頭にあたる。全国的な動向をみても大きな違いはない。地方寺院の修造期は、奈良時代の寺院合併令や国分寺建立の詔により、改築や修復が行われていく（梶原2017）。この時期から、寺院は法会の施行を中心として継続的な維持が図られるようになる（梶原2017、荒井2017、藤本2020）。明科廃寺も9世紀前半まで維持されている。

（4）明科廃寺に関係した氏族

明科廃寺の創建に関わった氏族は、遺物などから、明科廃寺の造営と同時期の古墳である、潮古墳群

を造営した氏族である可能性が高い。

明科廃寺の存続期間である、8世紀前半から9世紀代にかけて、律令制に伴い旧勢力が没落し、明科地域には新たな有力者が出現するが、どの氏族も長くは存続しない（原2022）。特定の氏族ではなく複数の有力氏族が明科廃寺を維持、参画していた可能性も考えられる。

(5) 明科廃寺の廃絶

今回の調査では、寺院の廃絶に伴うと思われる瓦溜01（第Ⅲ a層）の年代が9世紀後半から10世紀前半であり、廃絶期を裏付ける結果となった。

国分寺、国分尼寺が造営されていくなか、国家が地方寺院を維持管理していくための、定額寺制がしかれるが、それに漏れた寺院は維持が困難になり、全国的に9世紀末には廃絶していく（梶原2017）。

明科廃寺の廃絶時期は、遺物などから9世紀後半から10世紀初頭であり、各地の地方寺院の廃絶と一致している。

(6) 明科廃寺の遺構の変遷（SX01）

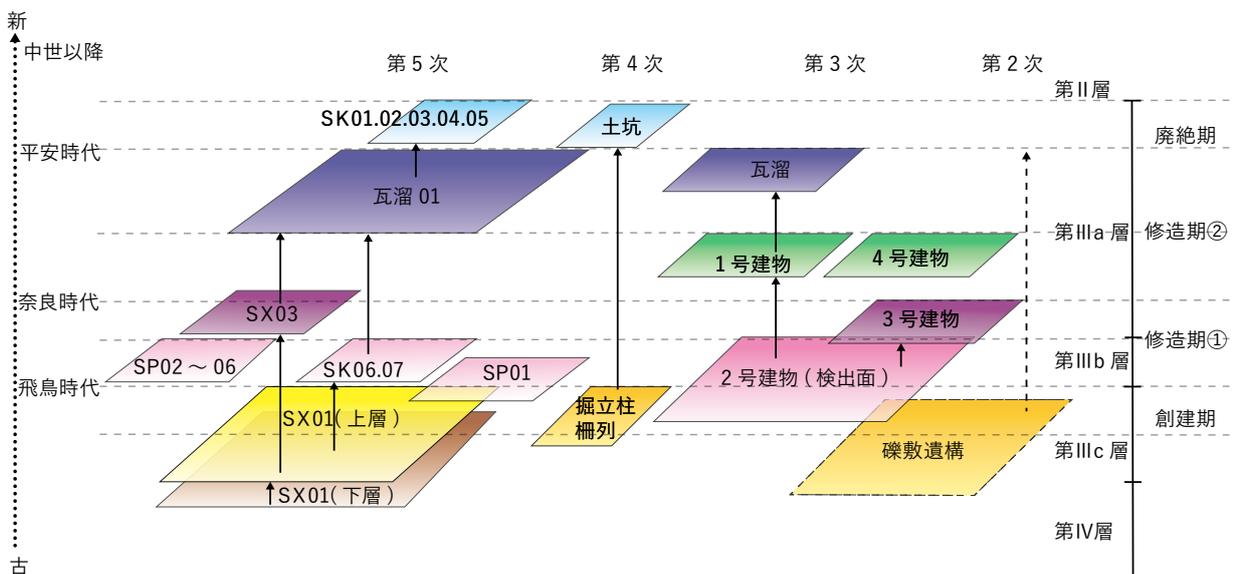
上記の創建から廃絶までの遺構の変遷を、これまでの発掘調査成果をもとにまとめると第242図のようになる。SX01は、入れ子状の皿をはじめとした、金属器を模倣したと思われる軟質の須恵器がまとまって出土した。地鎮のための施設と考えると、創建期よりも後の時代の遺構の可能性が高い。今回調査したSX01により、創建期よりも後の時代の寺域整備の一端をうかがうことができた。

(7) 寺院に関係した遺物（灯明具）

土師器の坏を使用した9世紀末頃の灯明具がまとまって出土した。

灯明具は、灯明会等の施行に伴うものと考えられ、前述のように地方寺院では法会の施行を中心として寺院の継続的な維持が図られていたとされており（平松2007）、その一端をうかがわせる資料である。

しかし、これらの灯明具が明科廃寺に伴うものであるのか、あるいは、寺院廃絶後に行われた祭祀等に伴うものであるのか、今回の調査では明らかにすることができなかった。



第242図 遺構層位比較



調査地遠景（北から）



調査区遠景（北から）



調査地遠景（東から）



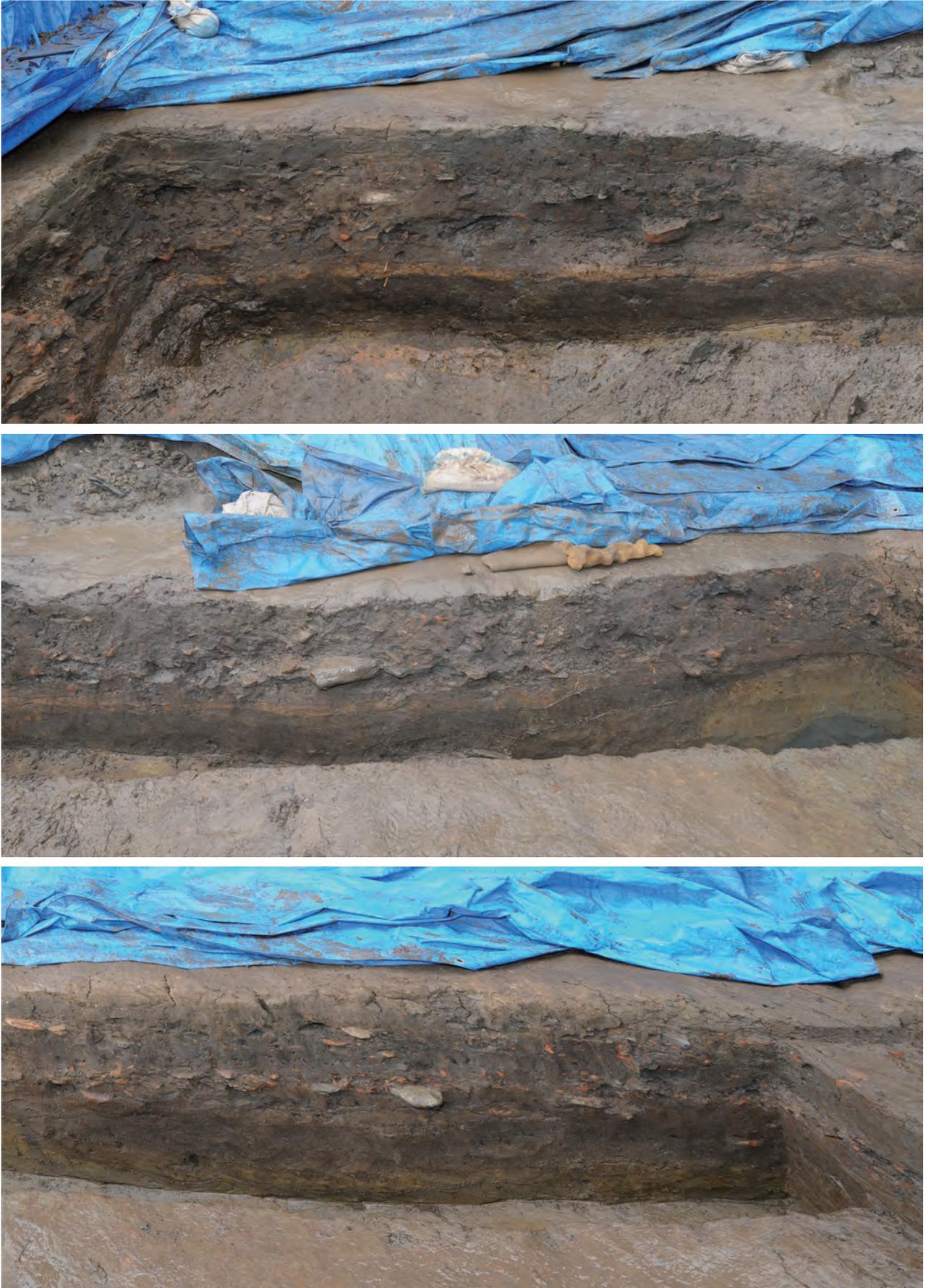
調査区遠景（東から）



SX01遺物出土状況（東から）



SX01完掘（南から）



調査区東壁土層（西から）



調査前（北から）



調査区西壁基本土層（東から）



調査区西壁土層（東から）



SX01 北区断面（北から）



SX01 南区断面（南から）



SX01 東壁断面 第6・7層 (西から)



SK01・02・03・04断面 (東から)



SK05断面 (北から)



SK05完掘 (西から)



SX03 北壁断面 (南西から)



SX03 完掘 (西から)



SK01・06 断面 (北から)



SK06 完掘 (北から)



SK07 断面 (北から)



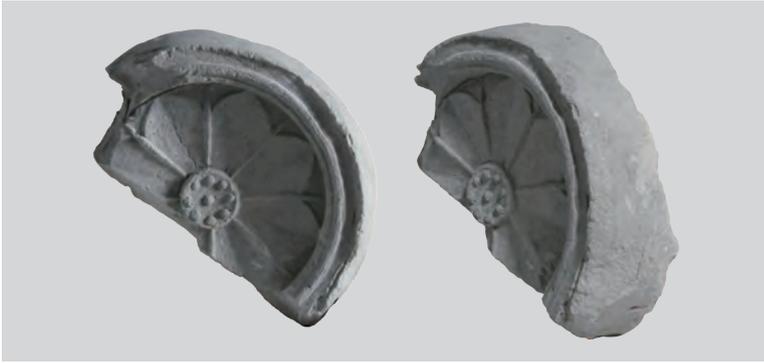
SK07 完掘 (南から)



SP01 断面 (南から)



SP01 完掘 (北から)



第一型式第 1 類 (1)



第一型式第 2 類 (22)



第一型式第 2 類 (15)



第一型式第 2 類 (18)



第一型式第 2 式類 (13)



第一型式第 3 類 (31)



第一型式第 4 類 (41)



第一型式第 5 類 (44)



第二型式第 1 類①(52)



第二型式第 1 類①(55)

第二型式第 1 類②(99)



第二型式第 2 類 (134)



第三型式 (156)



第四型式第 1 類 (171)



第四型式第 2 類 (176)



第四型式第3類 (186)



第五型式 (188)



軒丸瓦 第二型式第1類①(51) / 四重弧文軒平瓦 (1)



軒丸瓦 第二型式第1類①(52) / 三重弧文軒平瓦 (7)



軒丸瓦 第二型式第1類①(50)



SX01 出土瓦



SX01 軒丸瓦 第一型式第2類



SX01 平瓦



丸瓦



平瓦

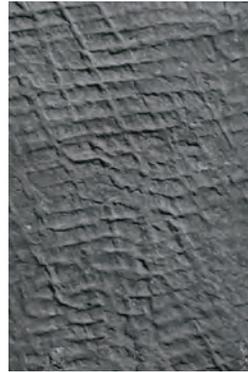
丸瓦・平瓦調整痕



綾杉叩き (太)



綾杉叩き (細)



格子叩き



縄目叩き (太)



縄目叩き (細)



平行叩き (太)



平行叩き (細)



叩き板工具痕



縄目叩き (斜位)



ケズリ



ナデ1



ナデ2

丸瓦・平瓦成形



粘土帯繋ぎ痕



粘土帯繋ぎ痕 指ナデ

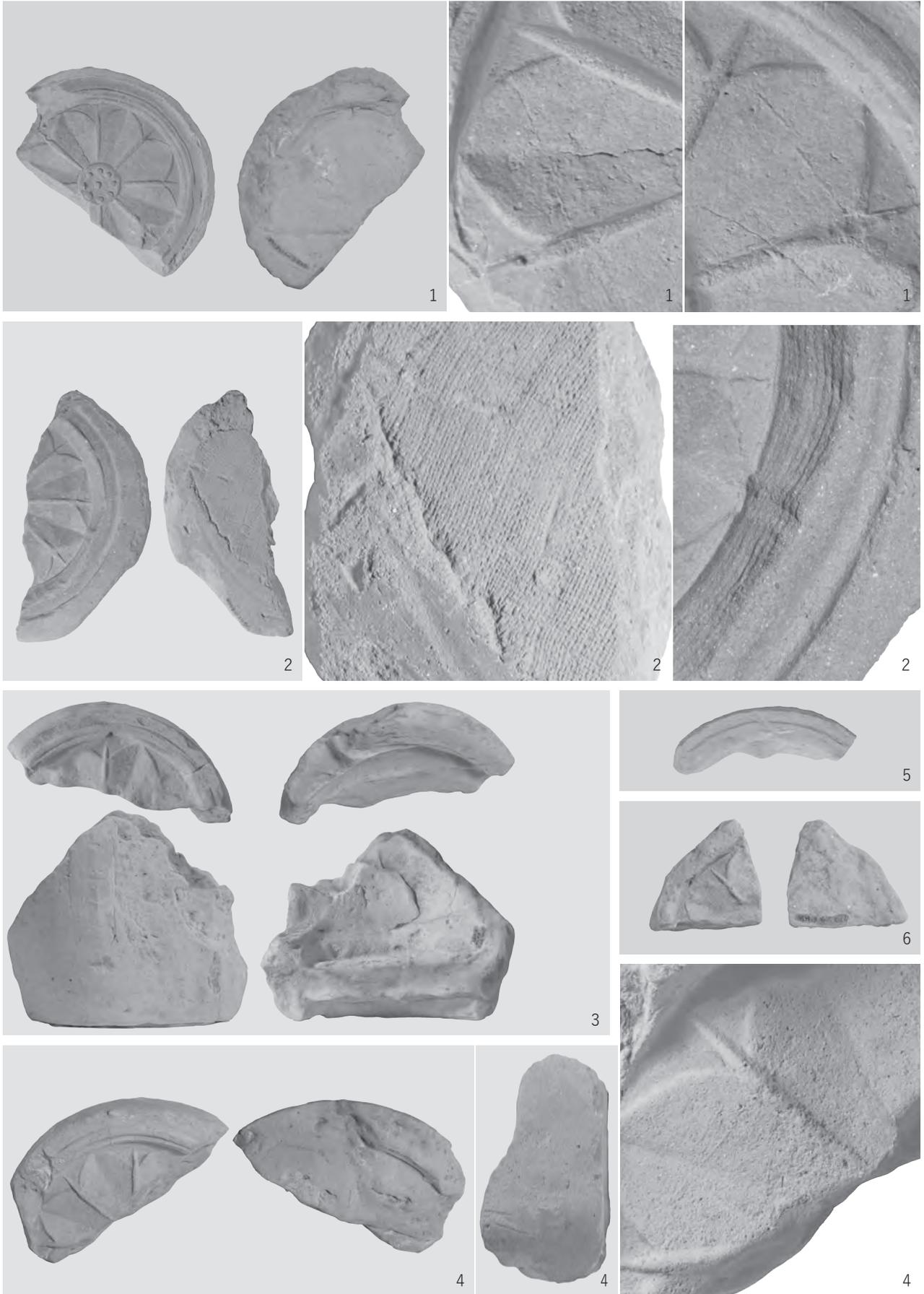


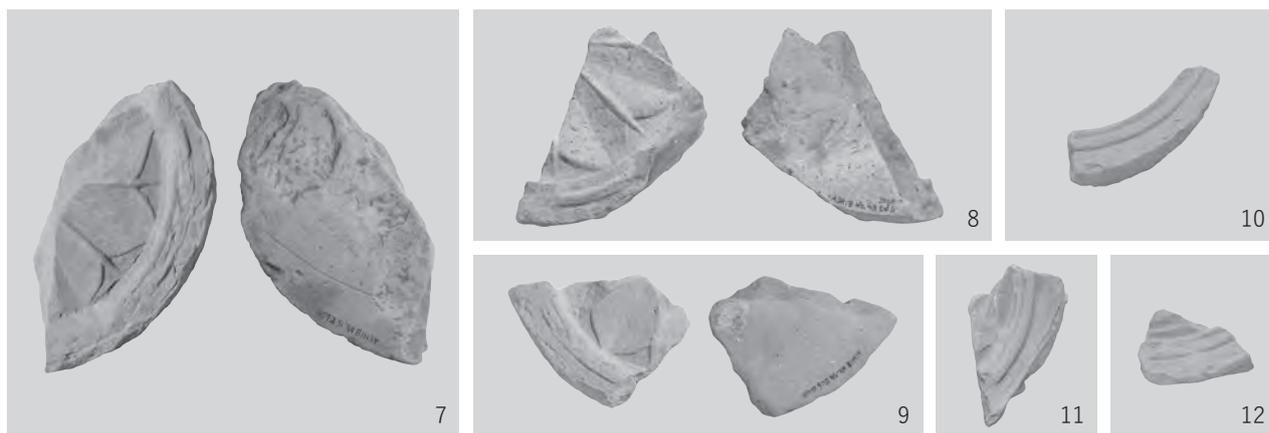
粘土板繋ぎ痕 1



粘土板繋ぎ痕 2

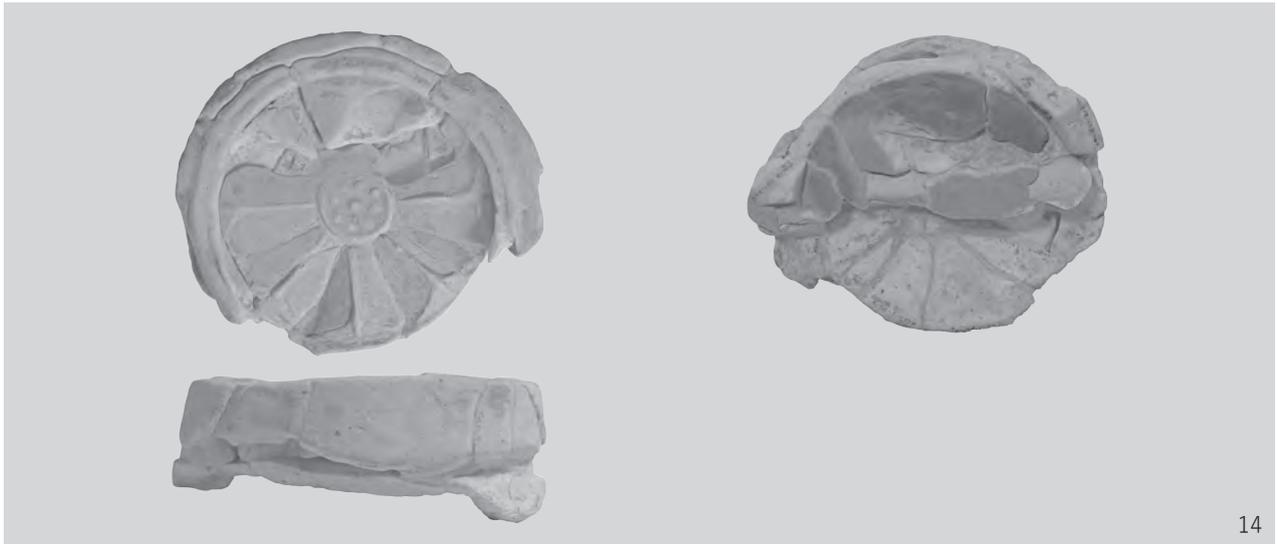
軒丸瓦 第一型式第1類





軒丸瓦 第一型式第2類





14



14



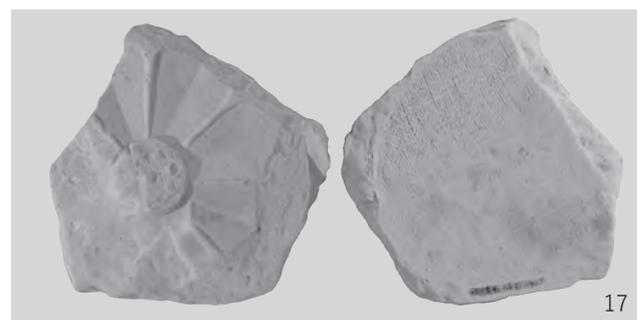
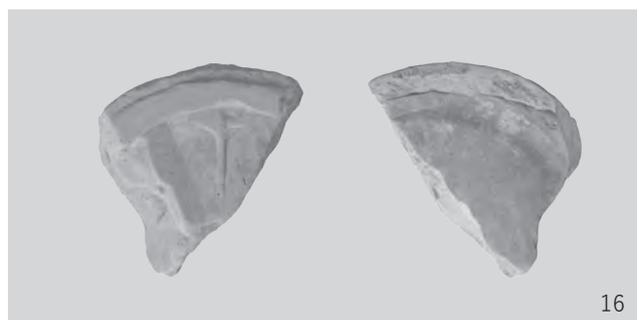
14

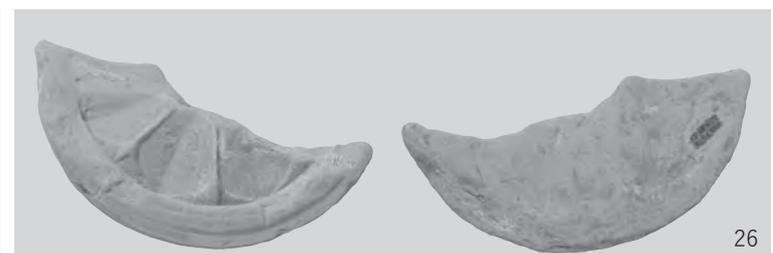
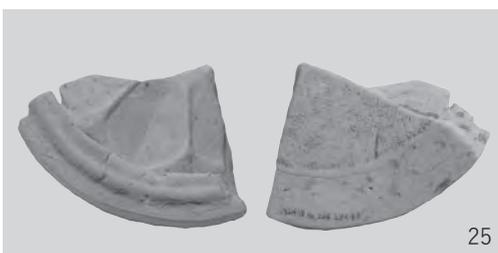
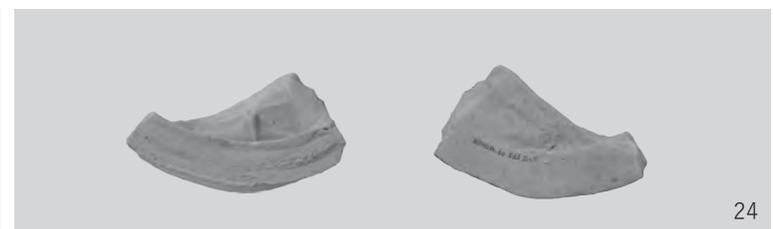
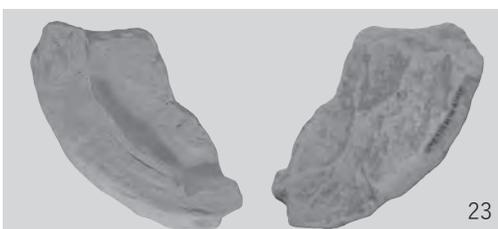
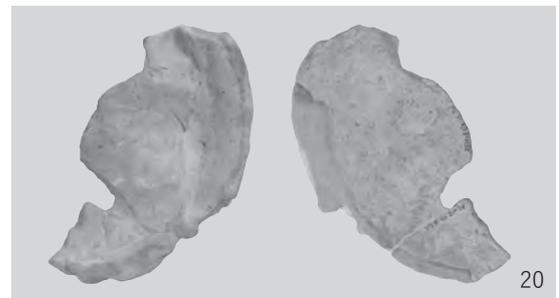
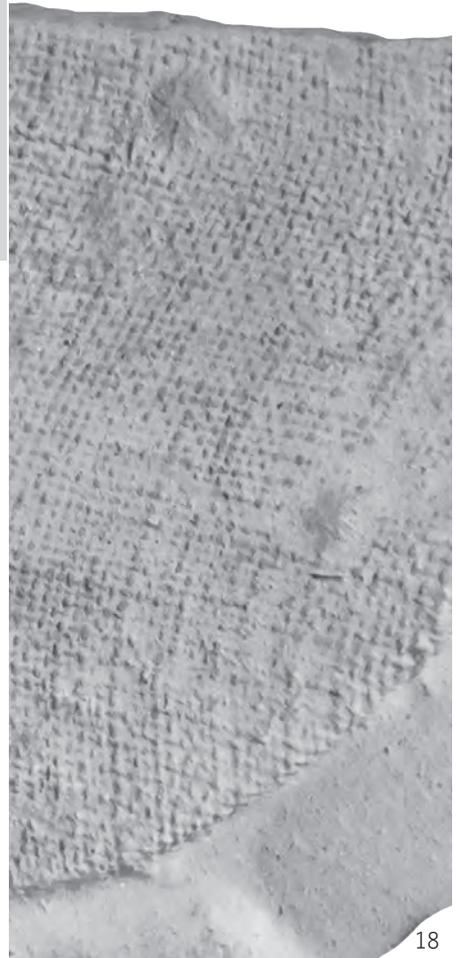
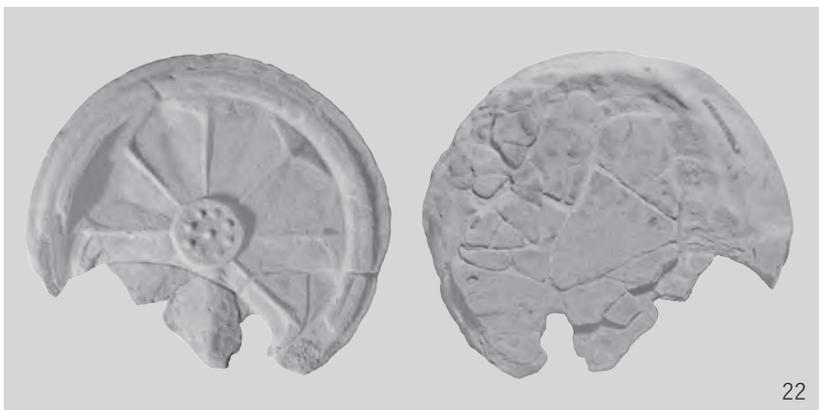
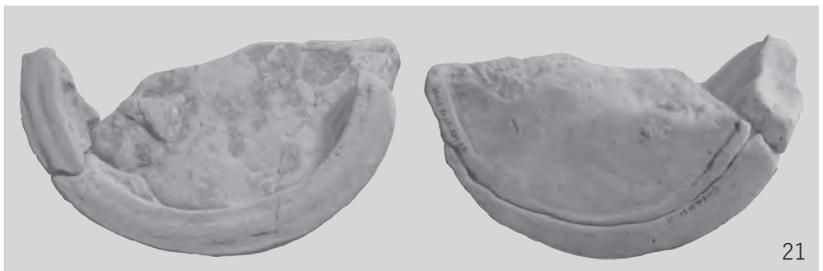


15

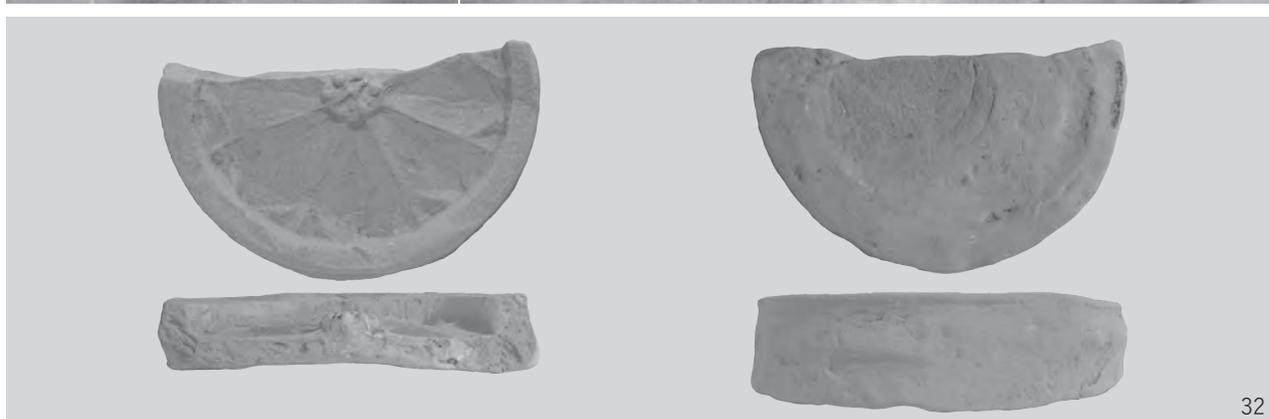


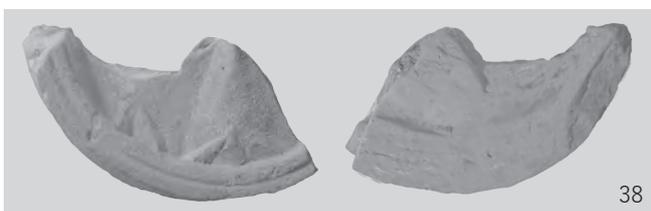
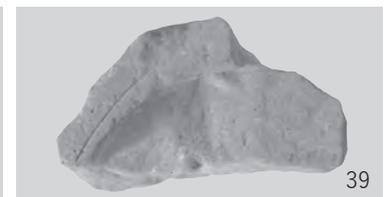
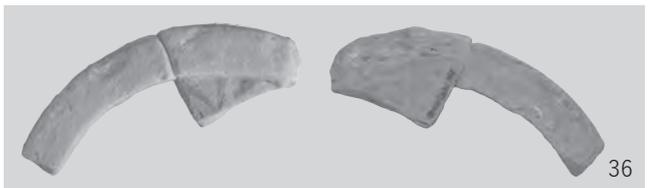
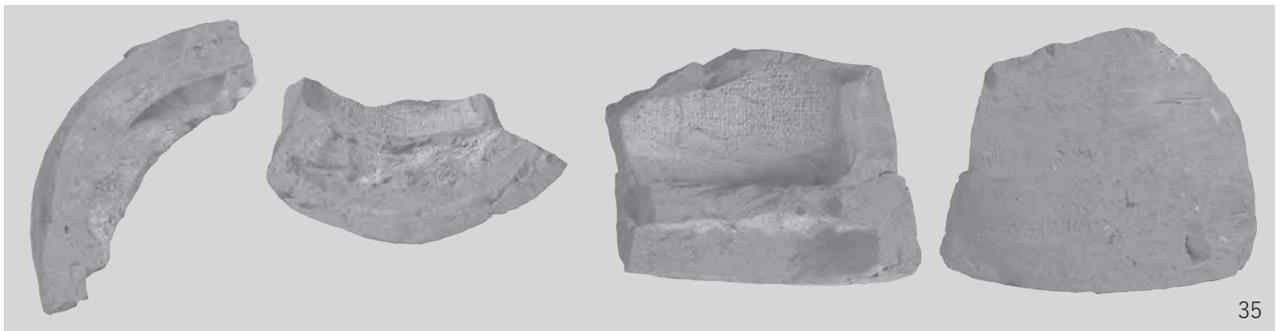
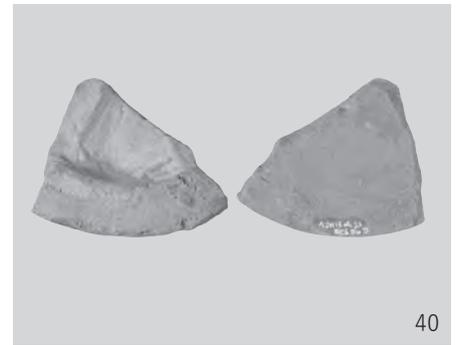
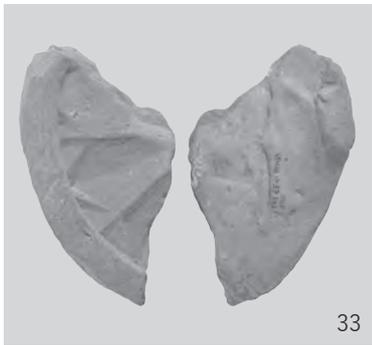
15



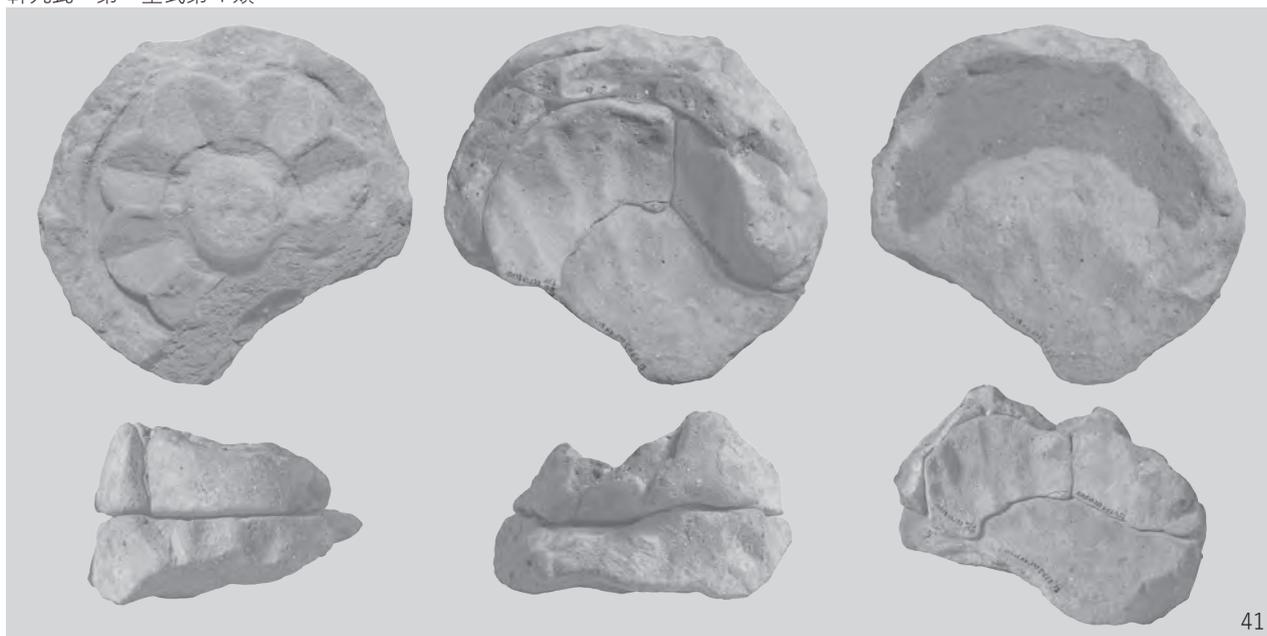


軒丸瓦 第一型式第3類

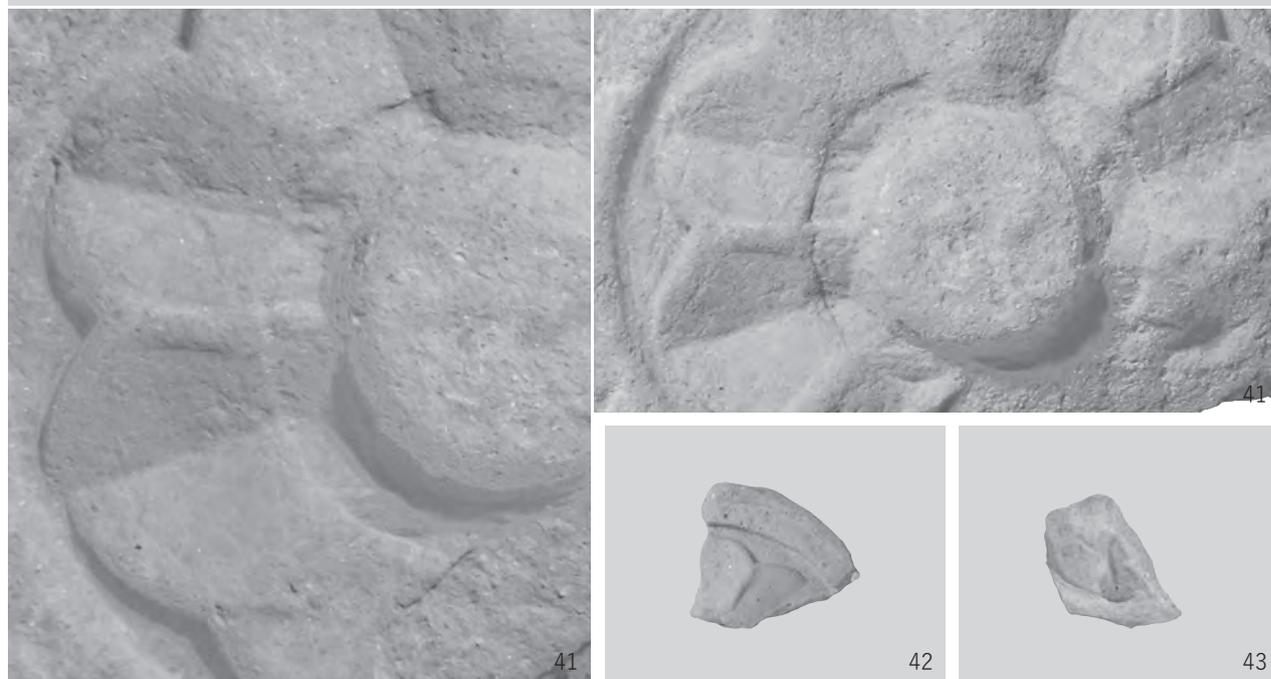




軒丸瓦 第一型式第4類



41

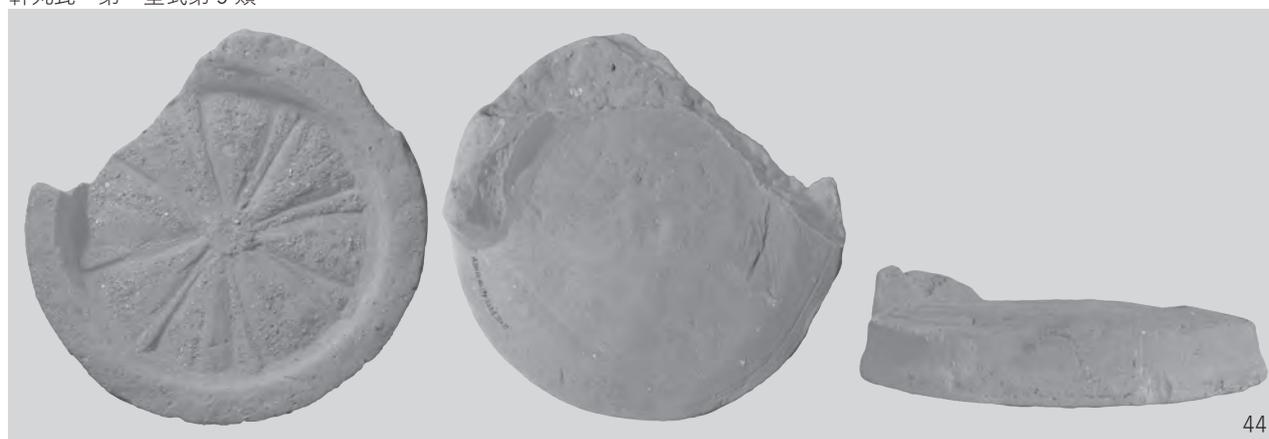


41

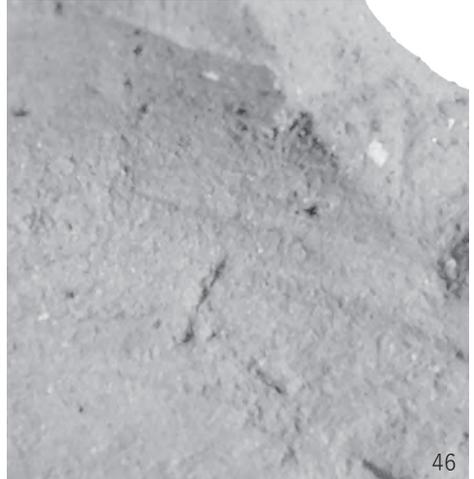
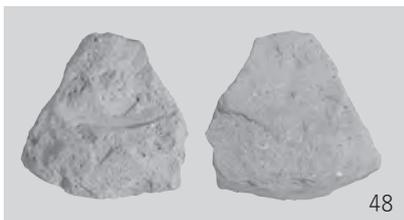
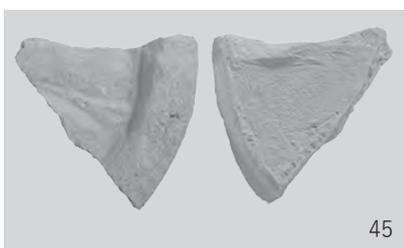
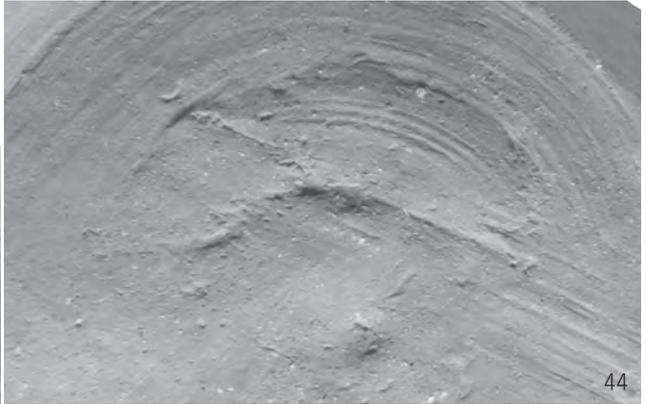
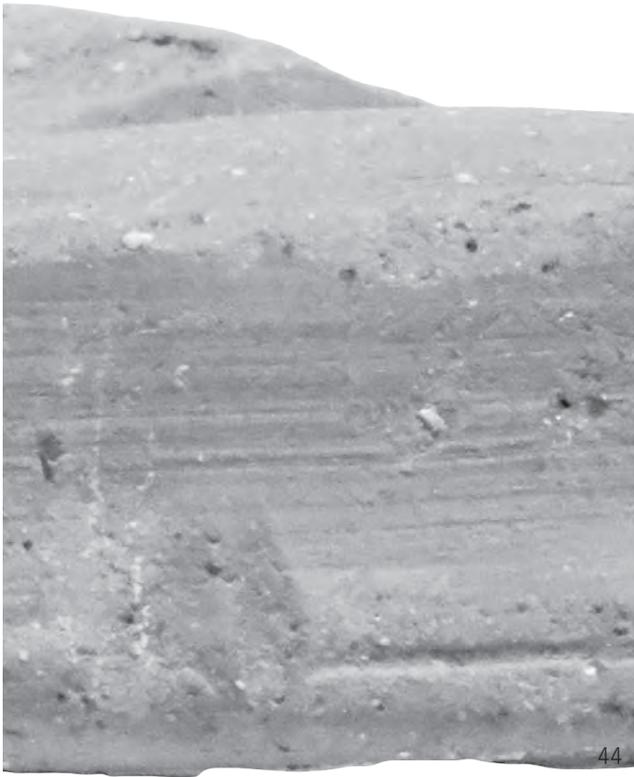
42

43

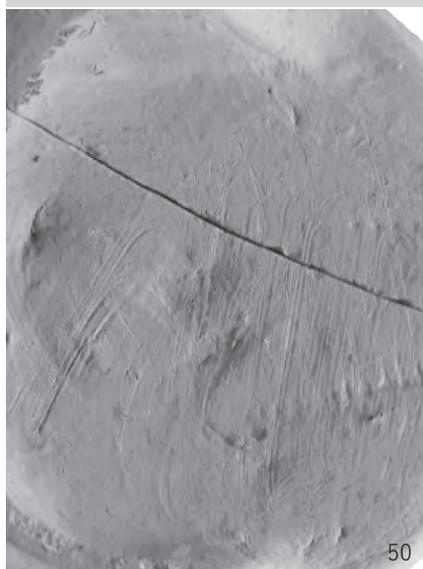
軒丸瓦 第一型式第5類

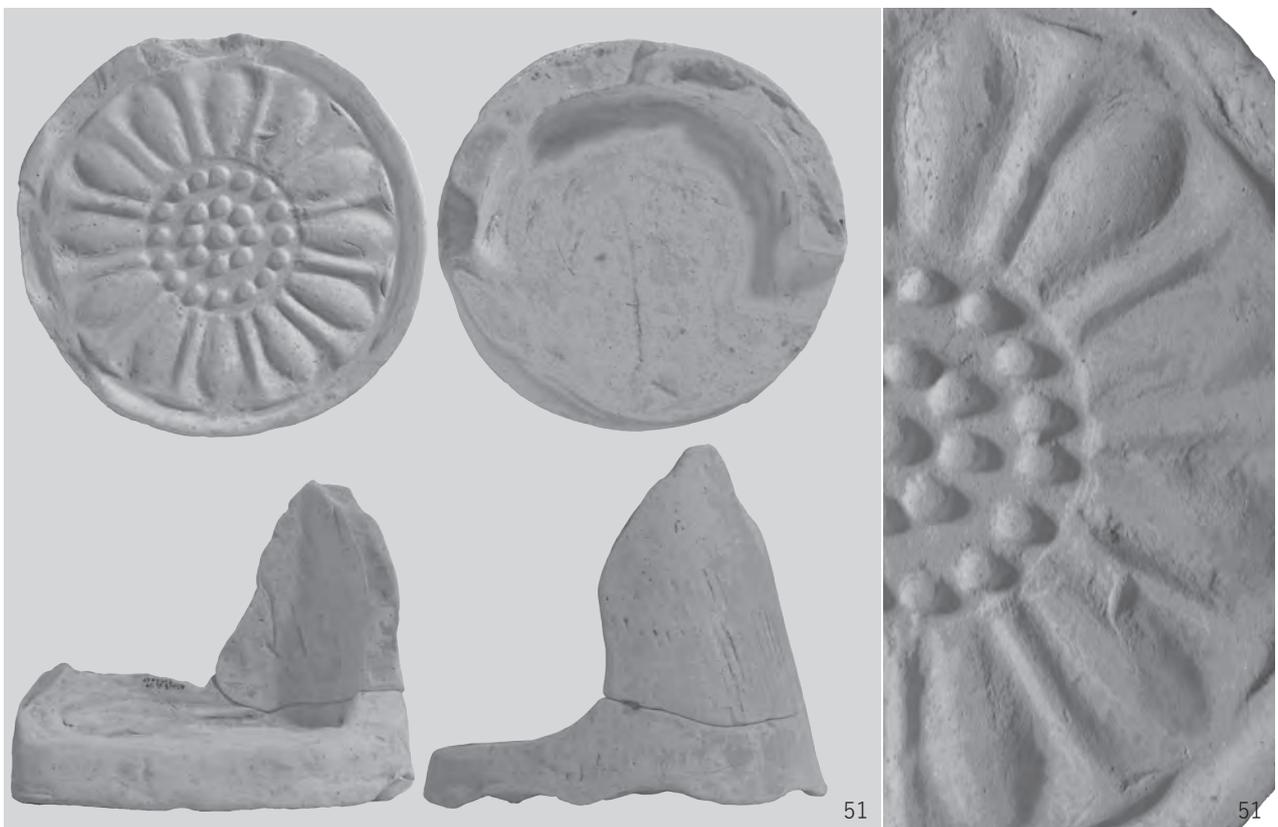


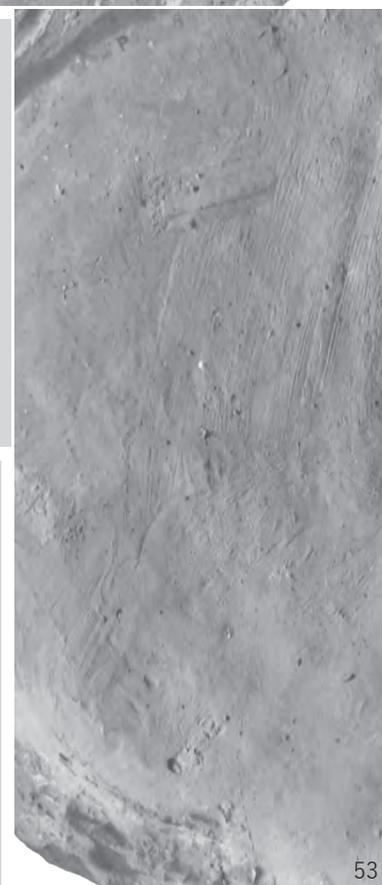
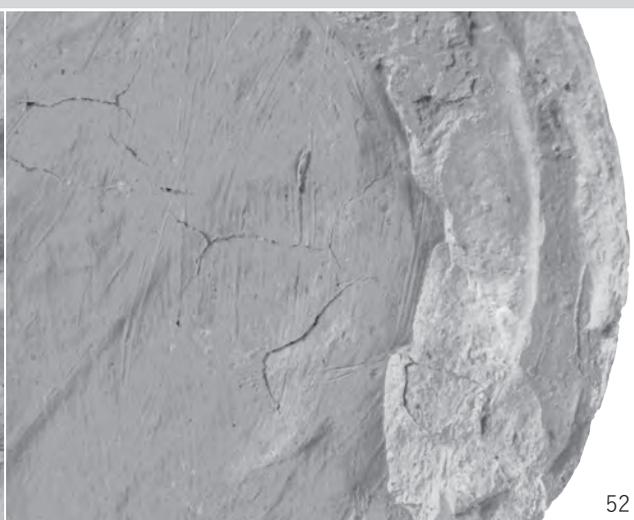
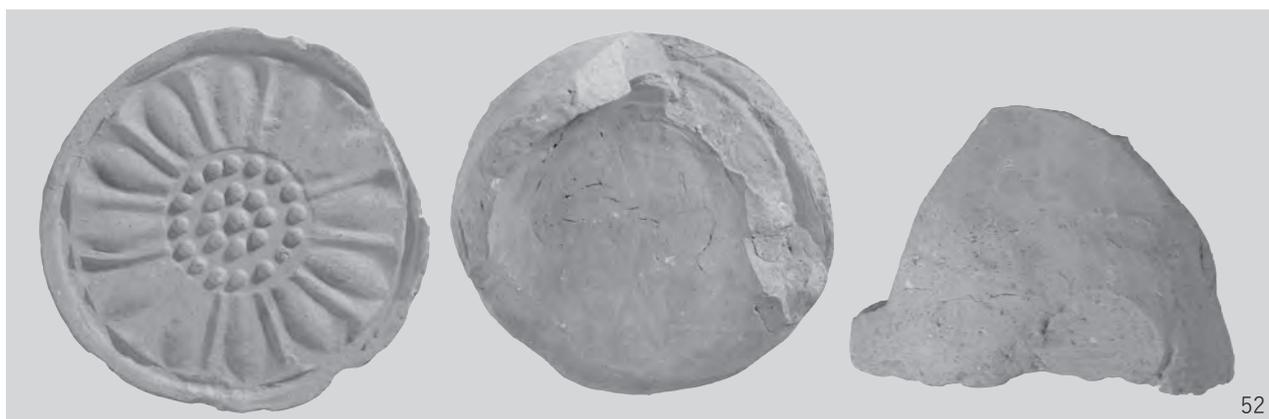
44



軒丸瓦 第二型式第 1 類①



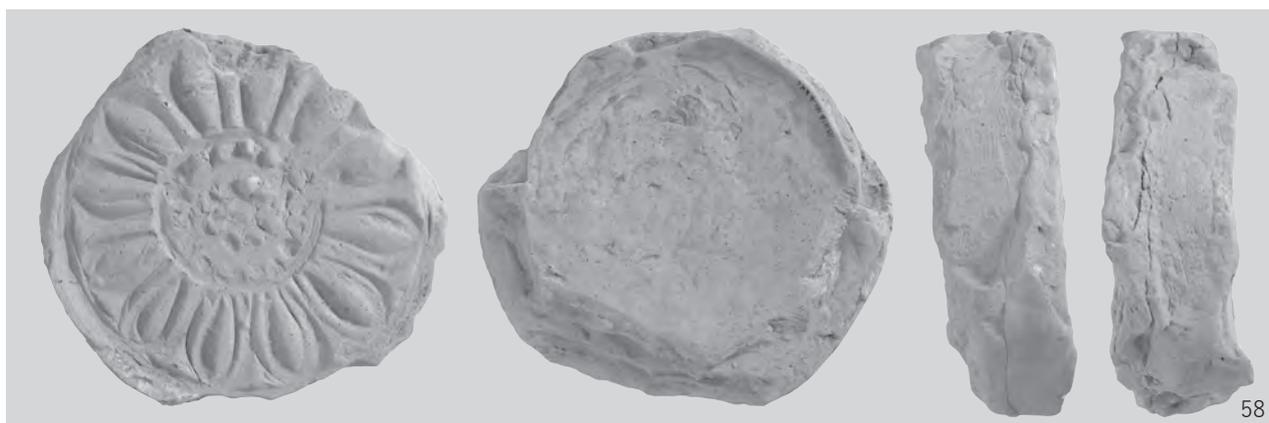








57



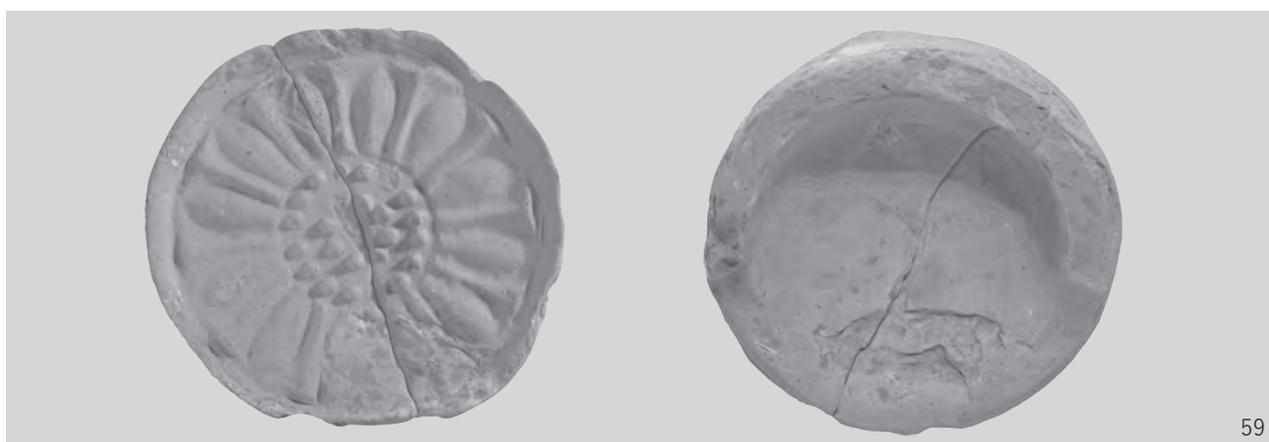
58



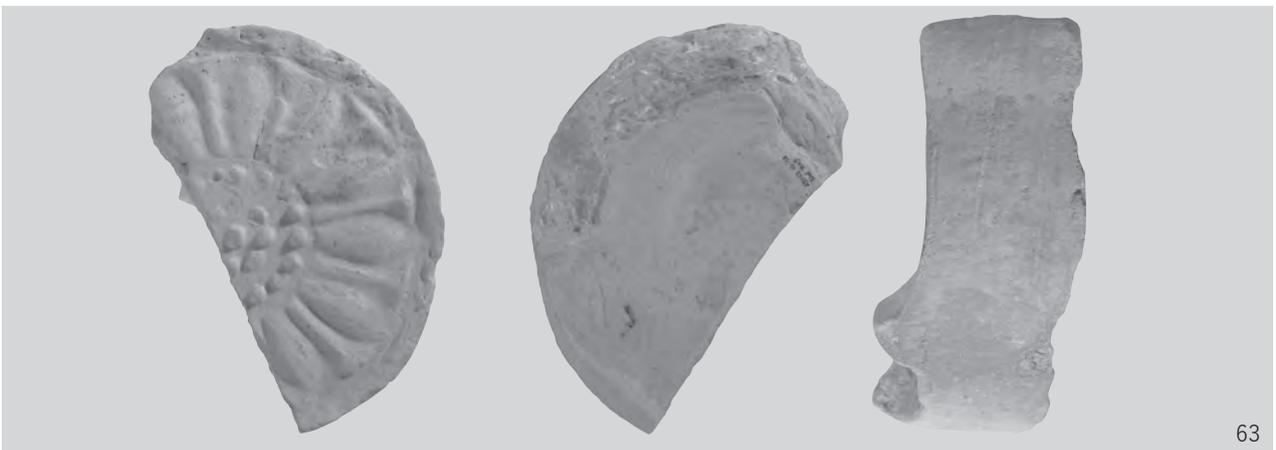
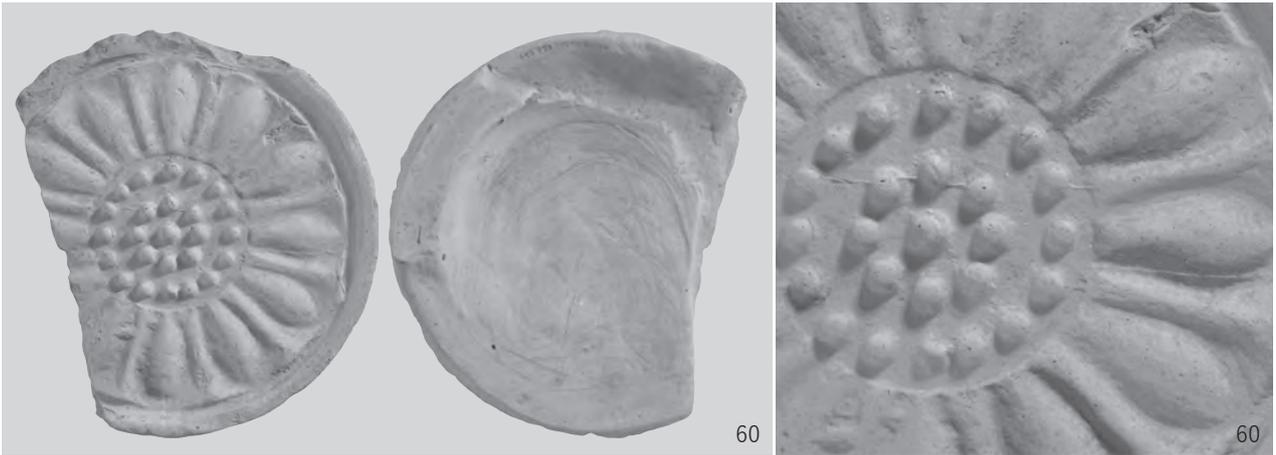
58

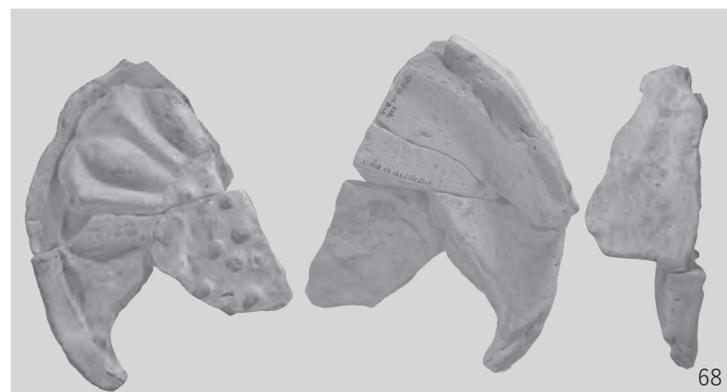
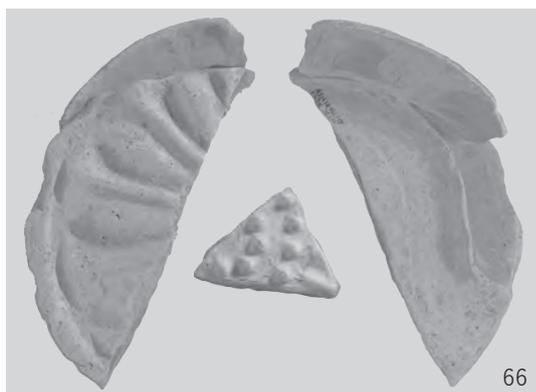
58

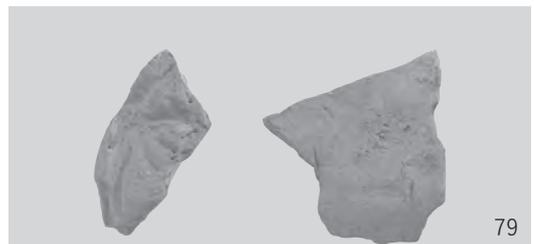
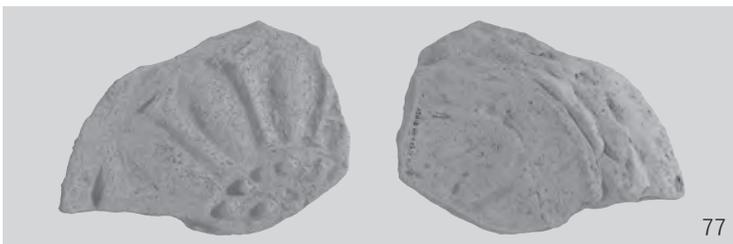
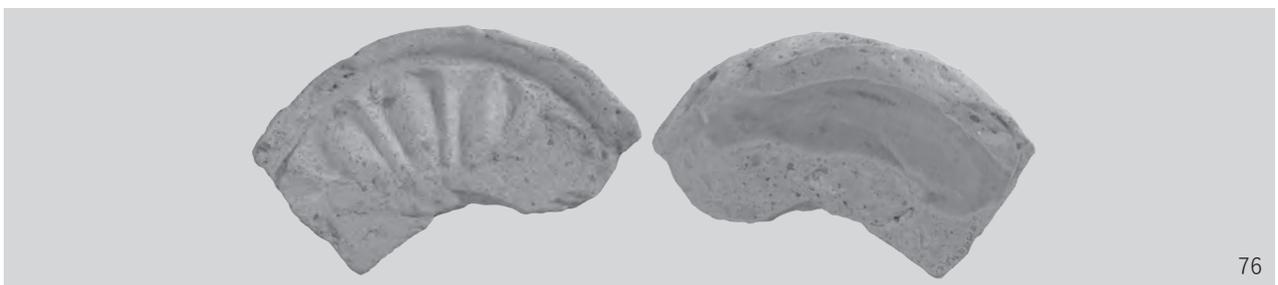
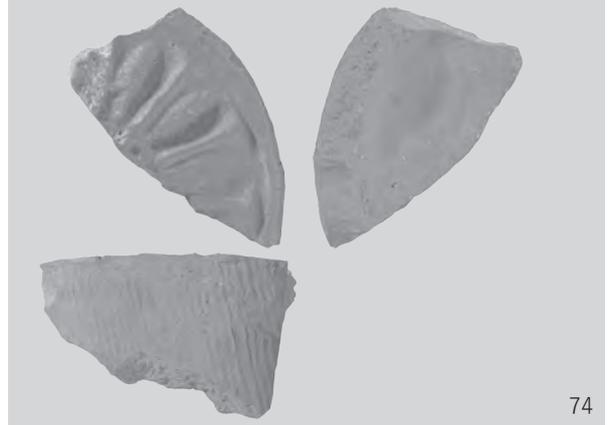
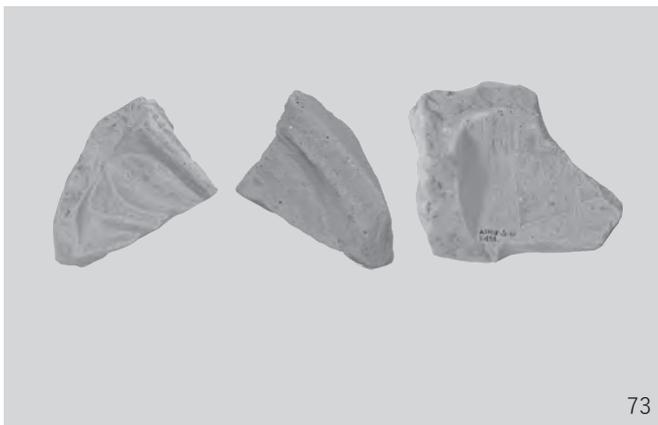
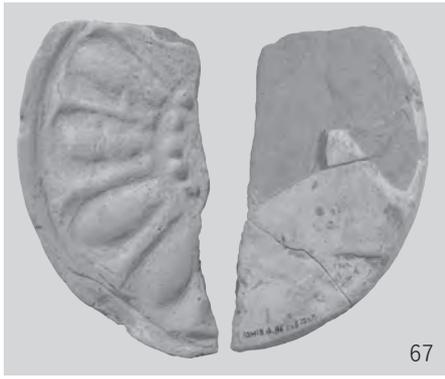
58

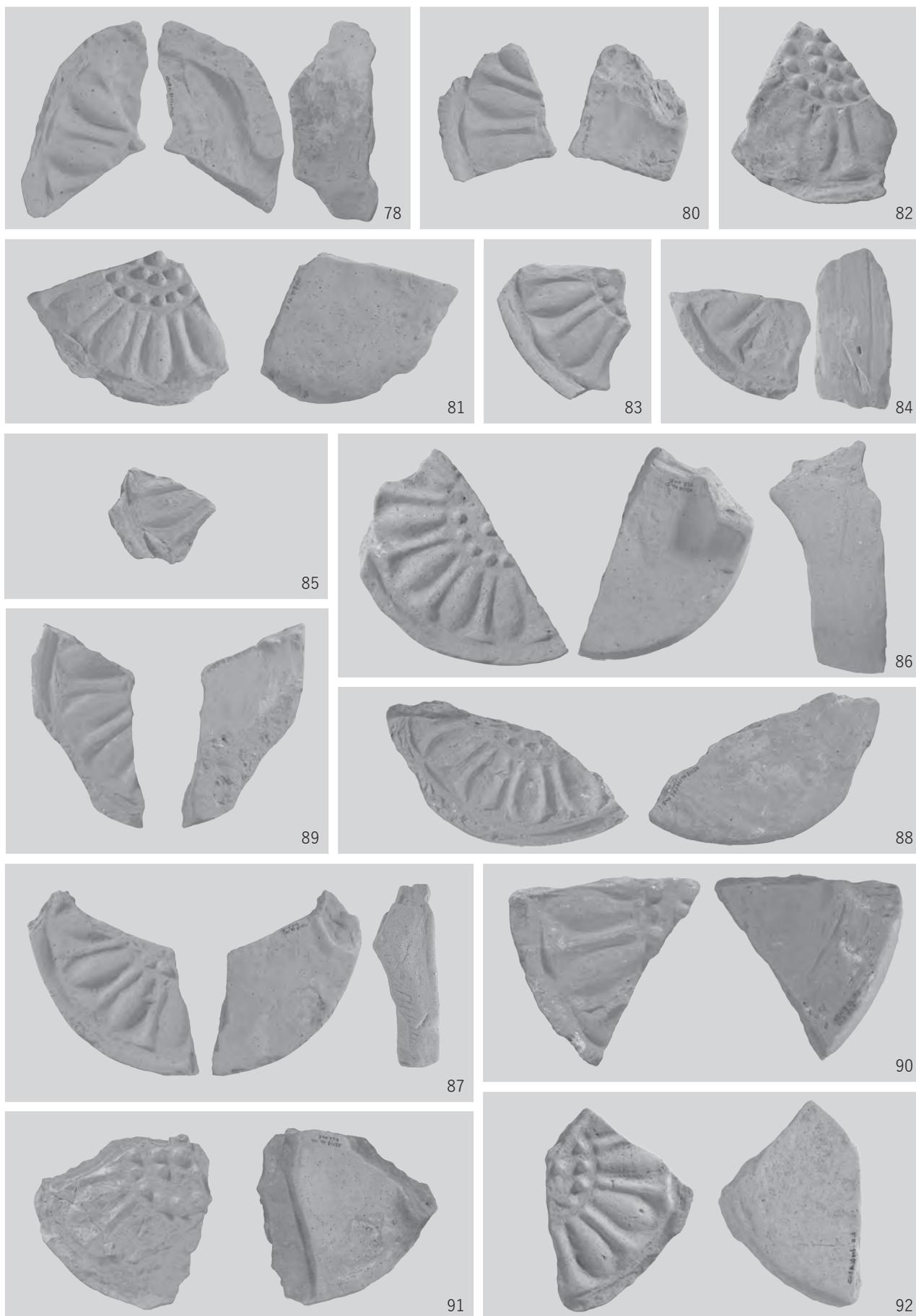


59



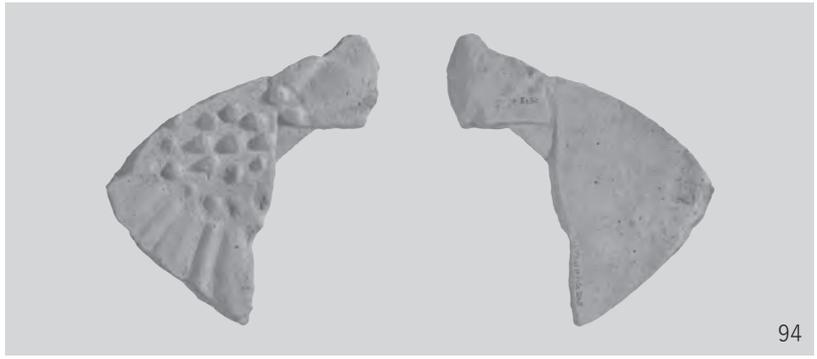




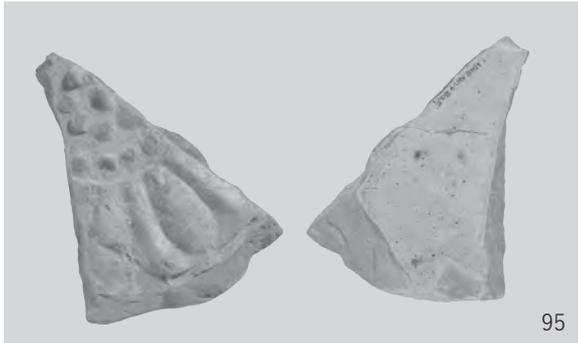




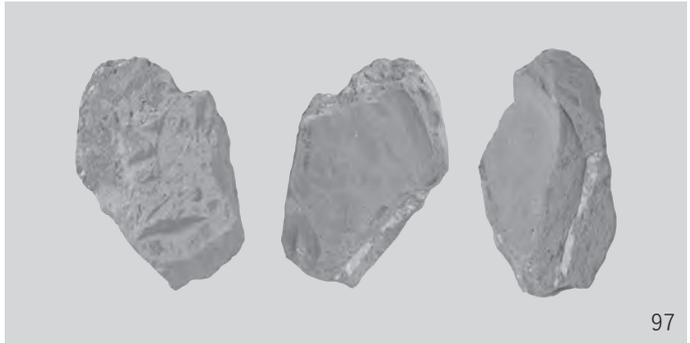
93



94



95



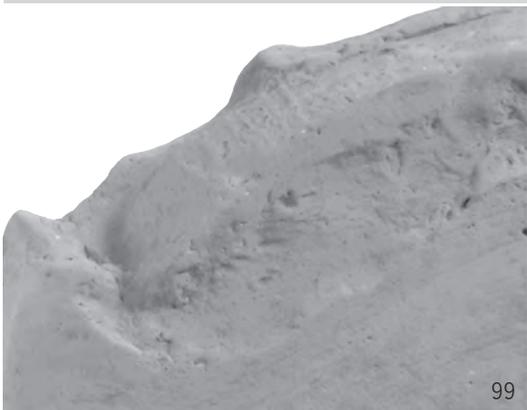
97

軒丸瓦 第二型式第1類②



99

99



99



100



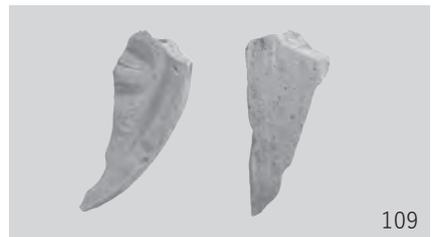
101



105

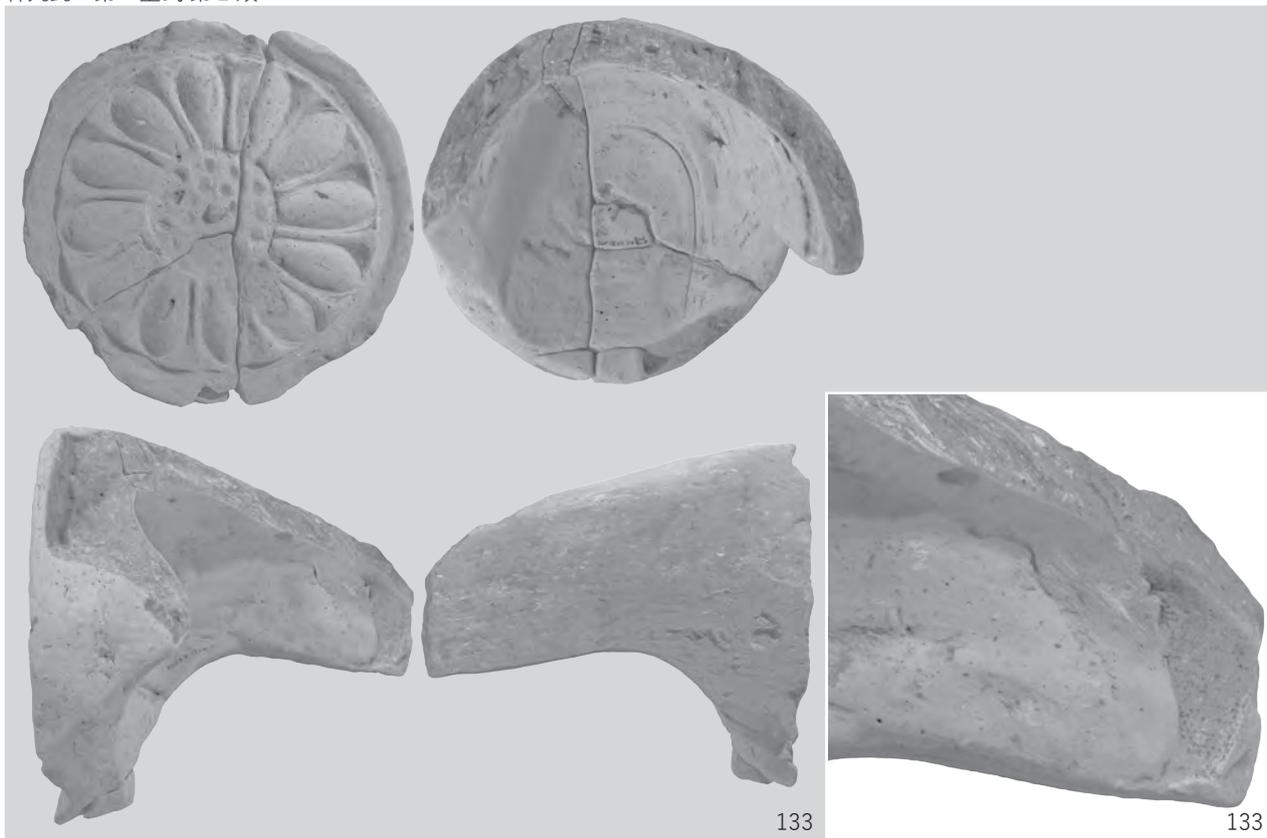


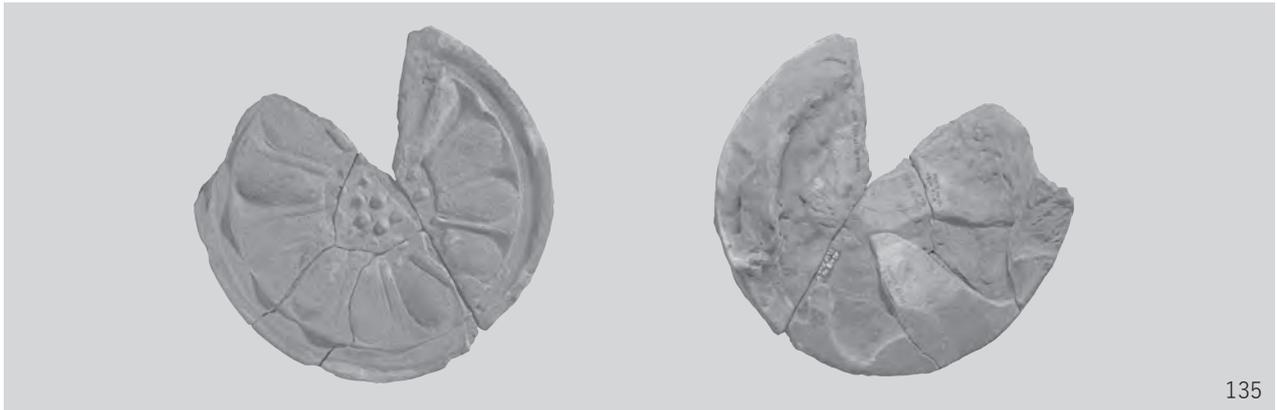
106



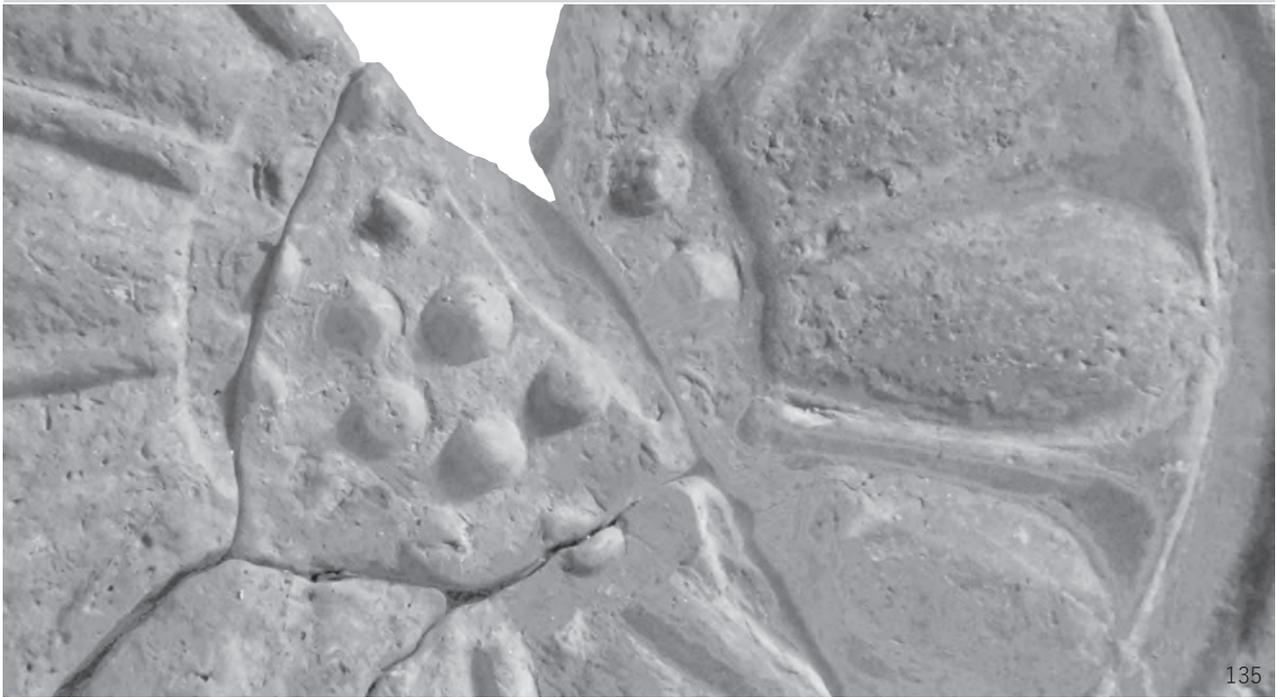
109

軒丸瓦 第二型式 第2類





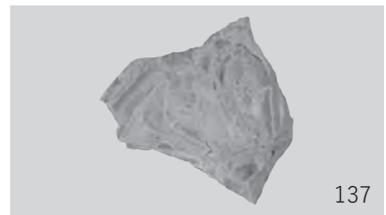
135



135



136



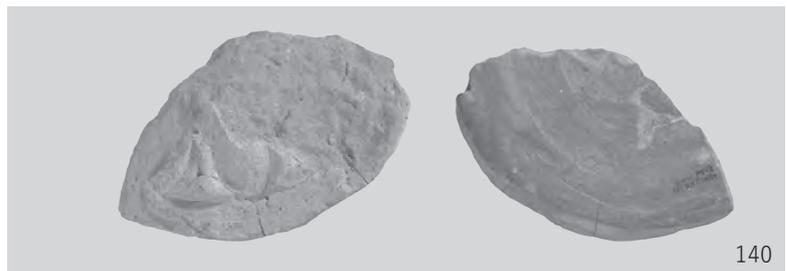
137



138

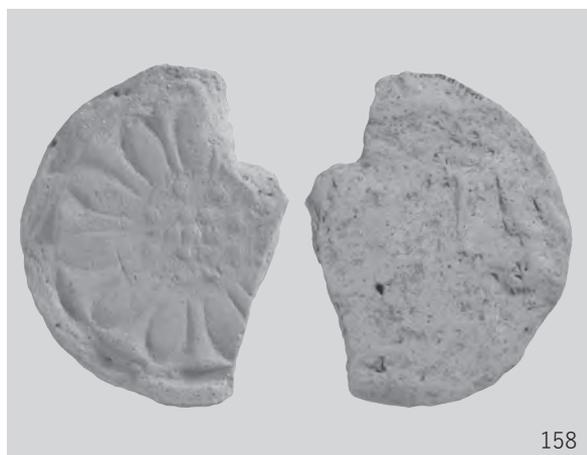
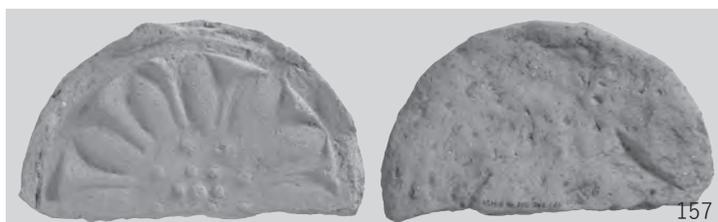
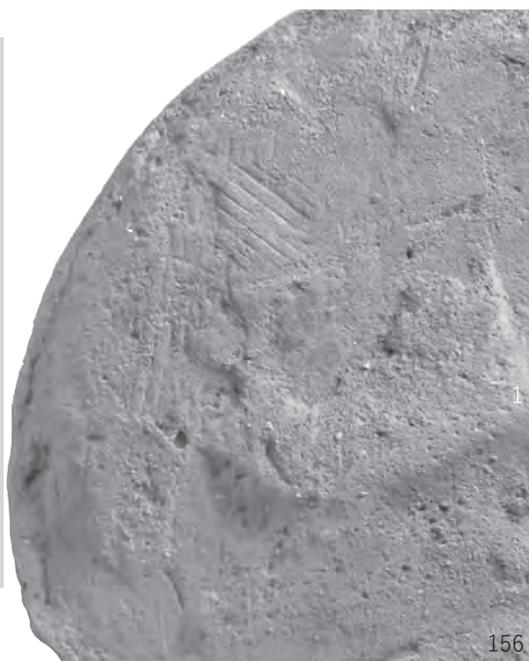


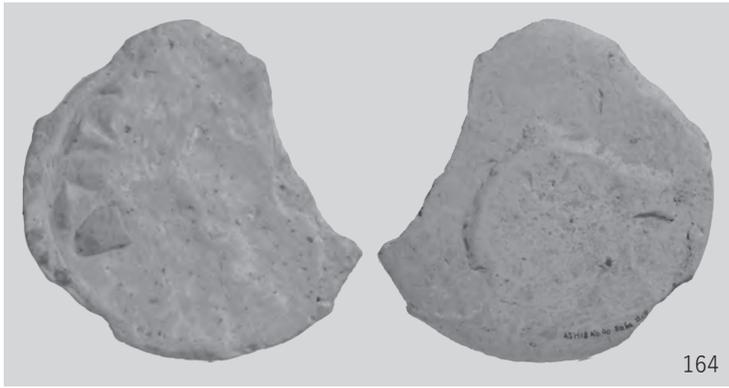
139



140

軒丸瓦 第三型式





164



164



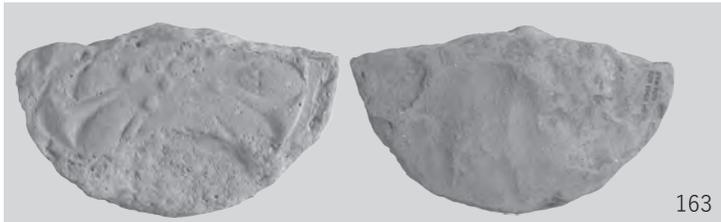
160



161



159



163



163



165



166



167



163



162

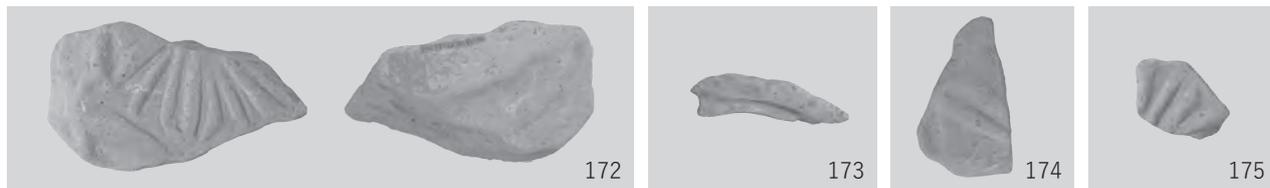
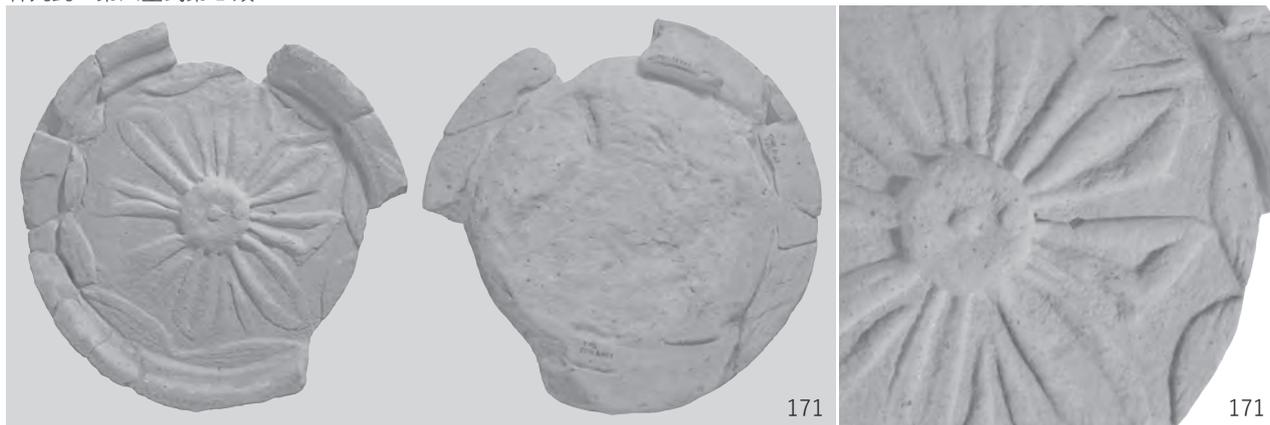


168

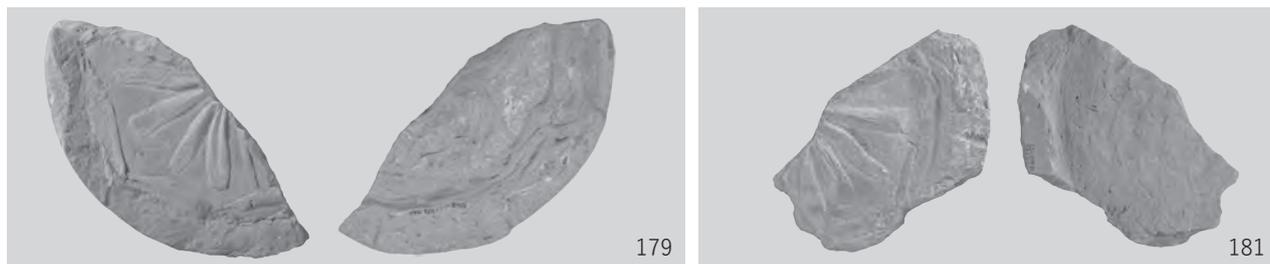
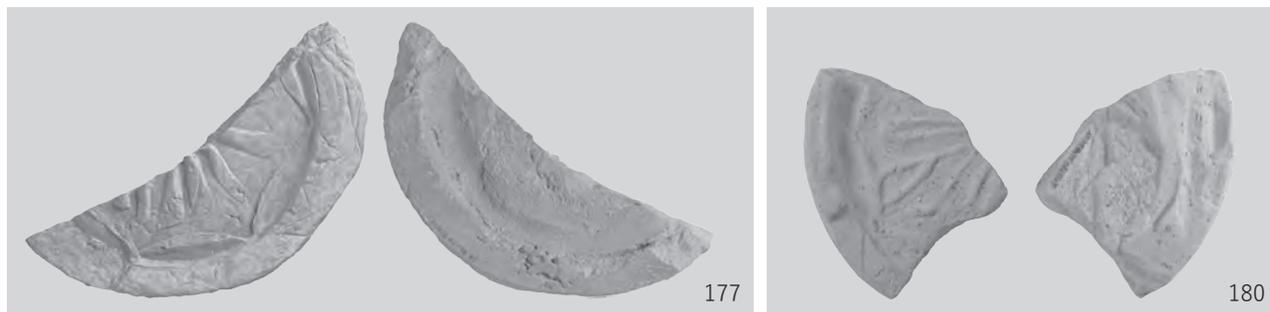


169

軒丸瓦 第四型式第 1 類

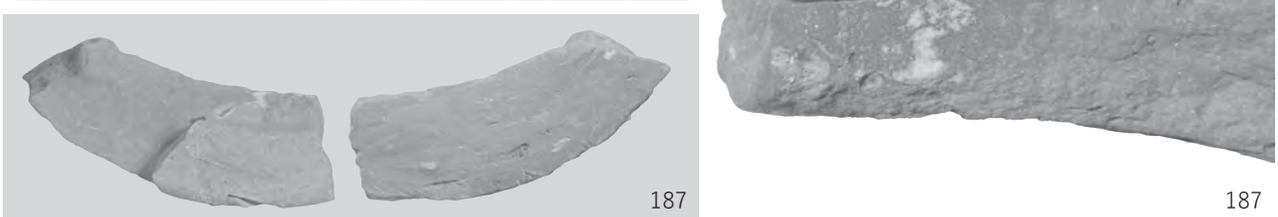
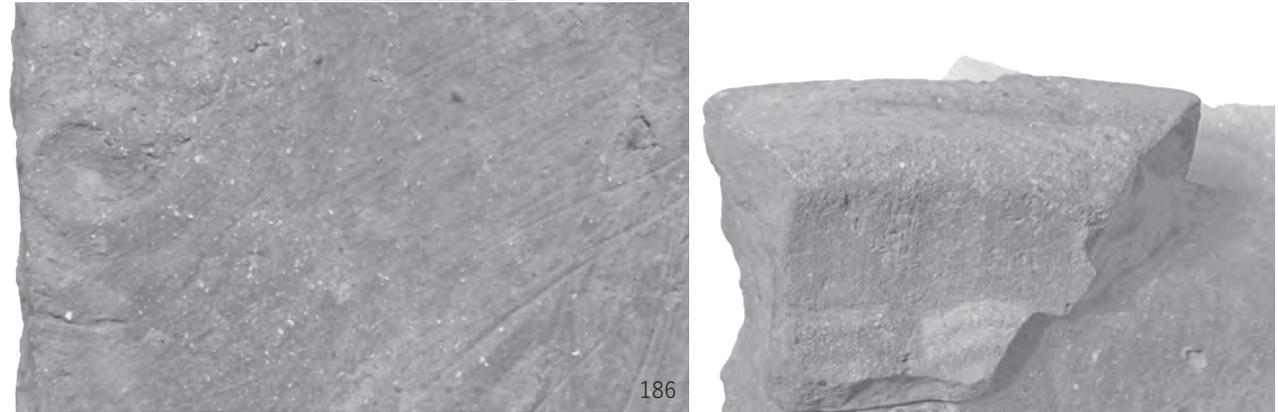
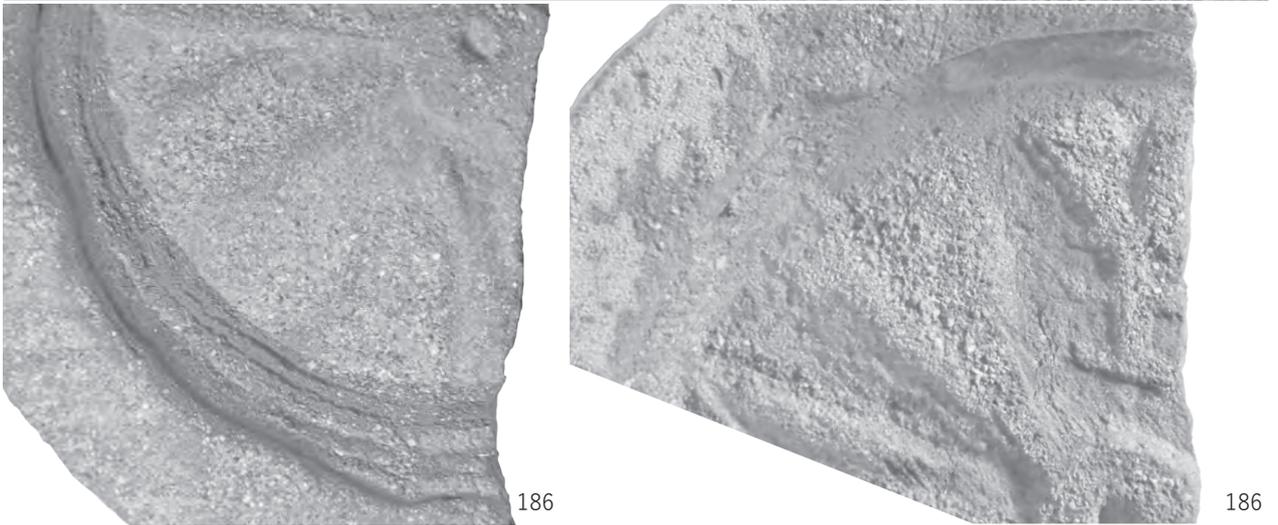


軒丸瓦 第四型式第 2 類





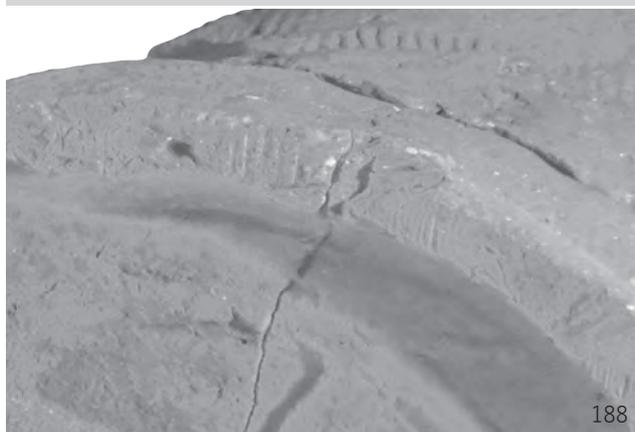
軒丸瓦 第四型式第3類



軒丸瓦 第五型式



188



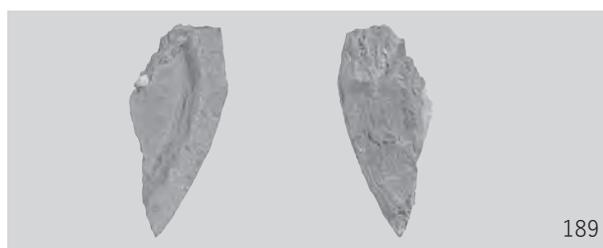
188



188



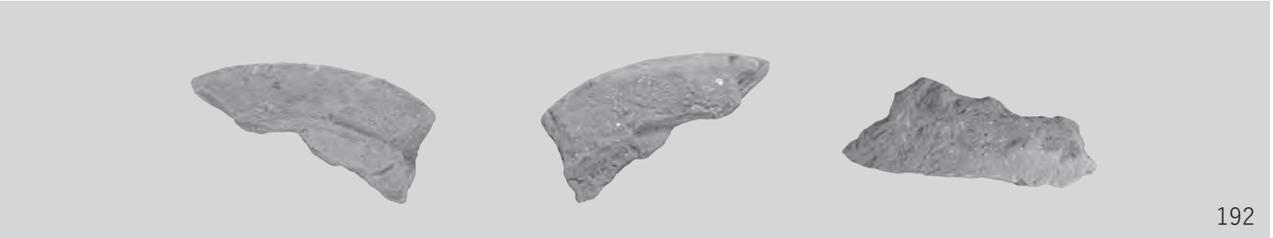
188

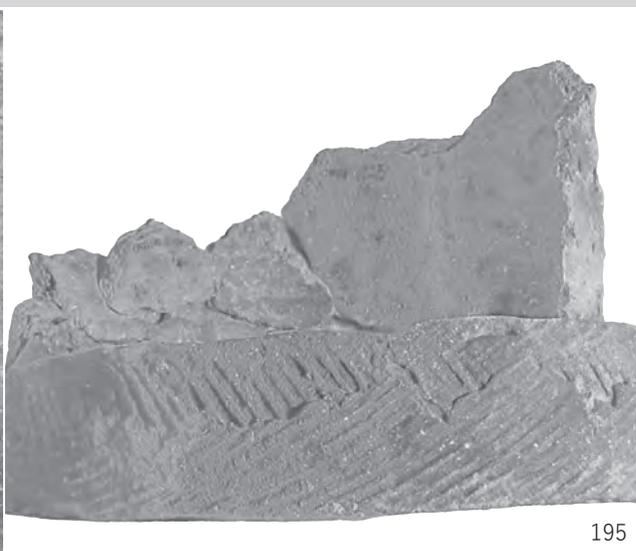
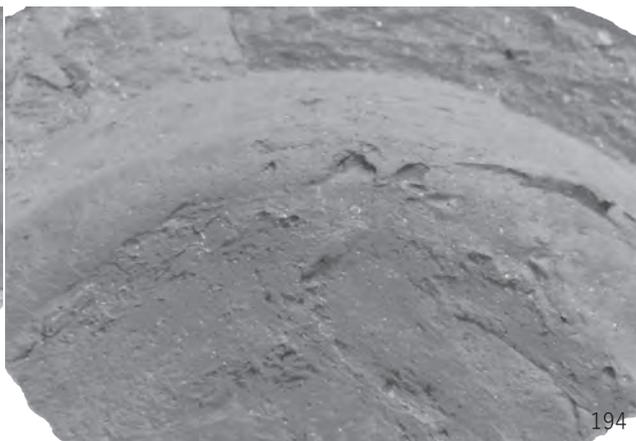


189



189





軒平瓦 四重弧文

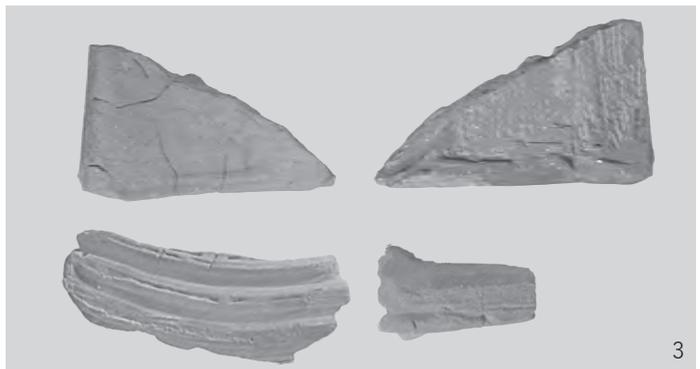


1



1

顎部貼付カキ目痕



3



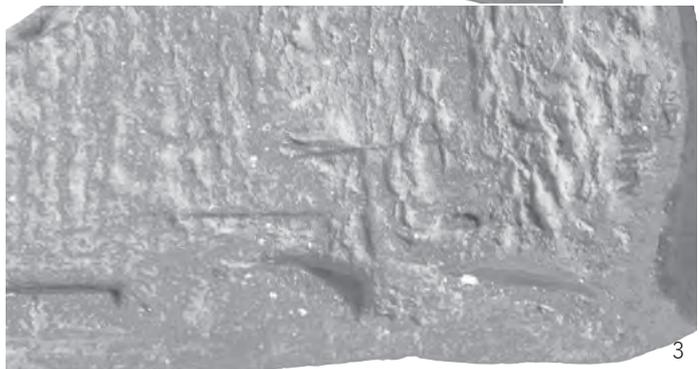
1



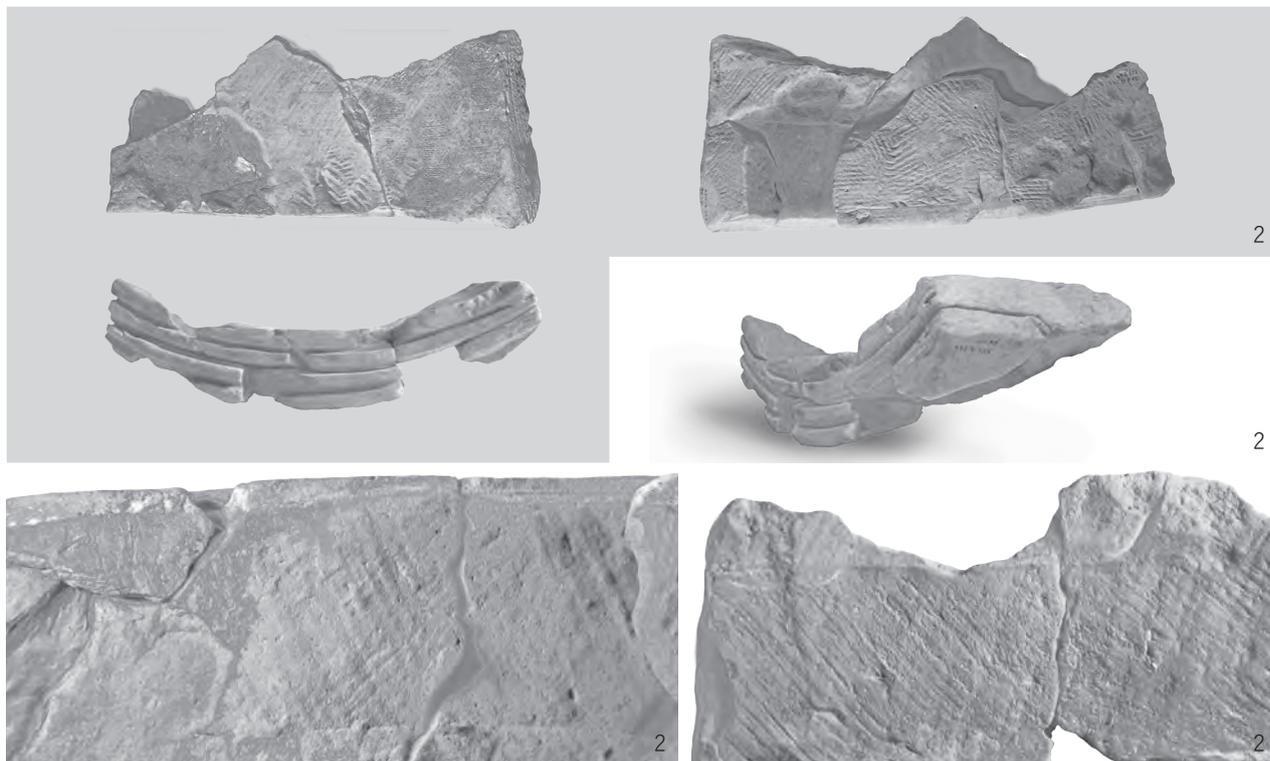
3



1



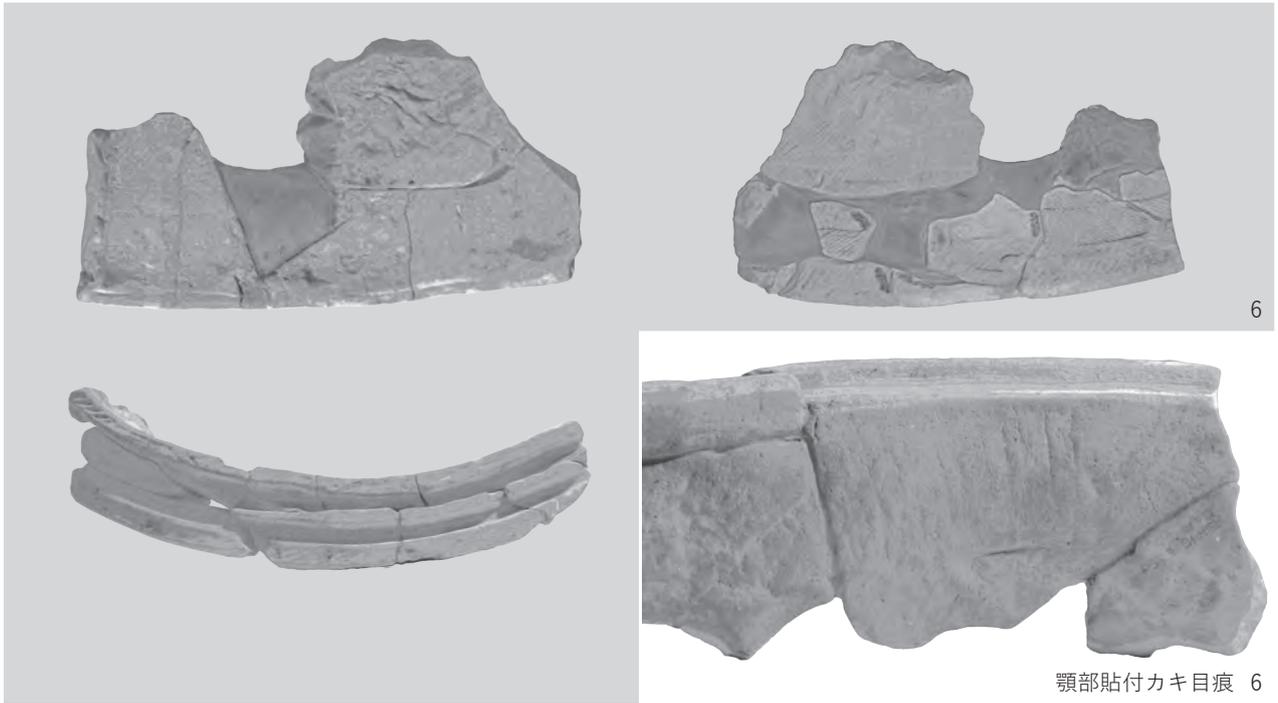
3



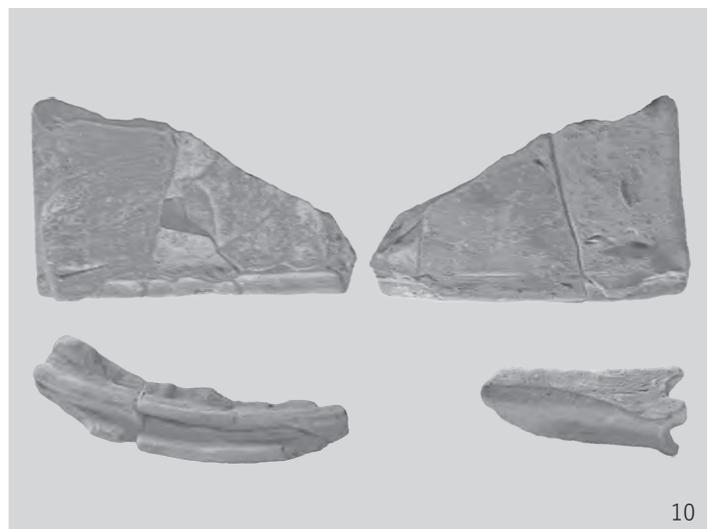
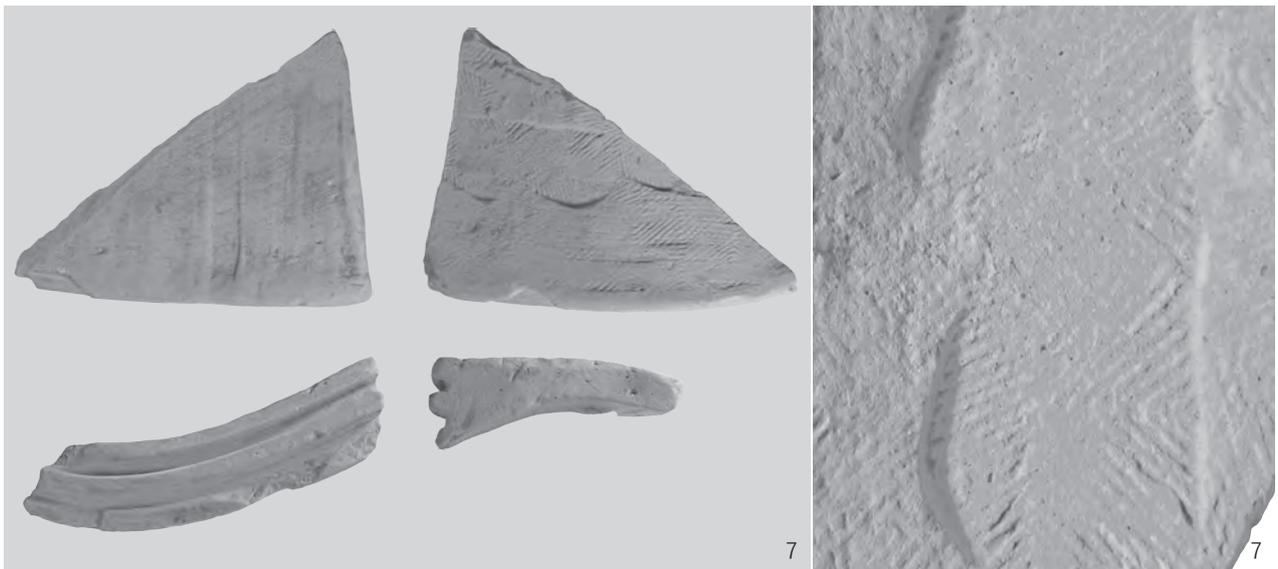
軒平瓦 三重弧文 A1 類

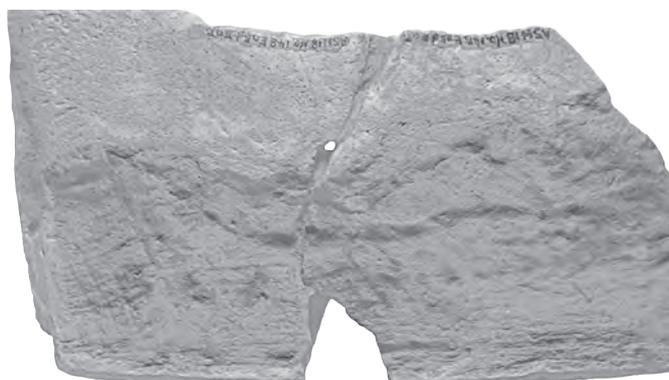
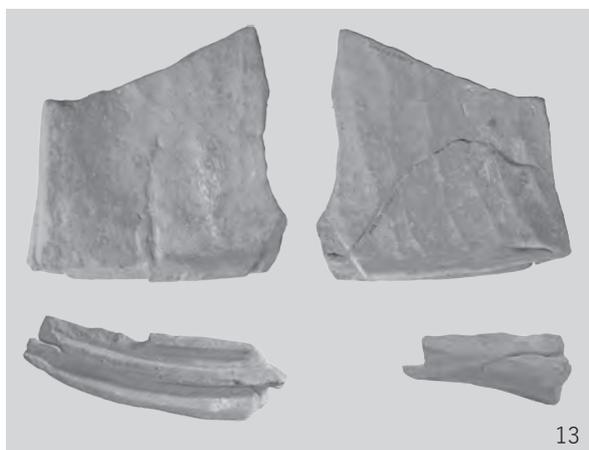
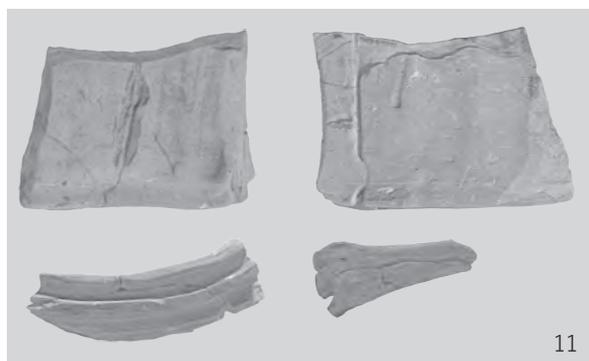
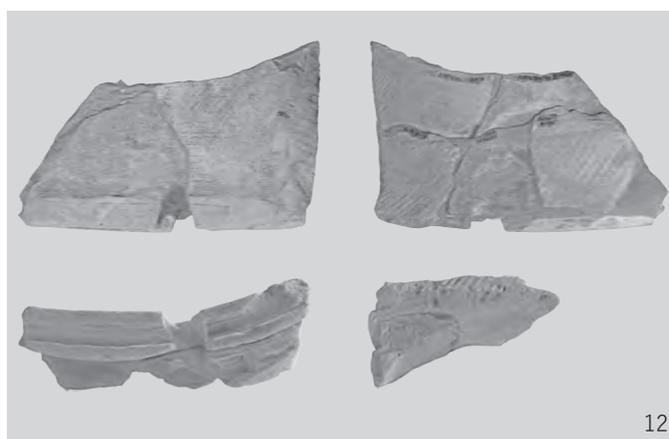
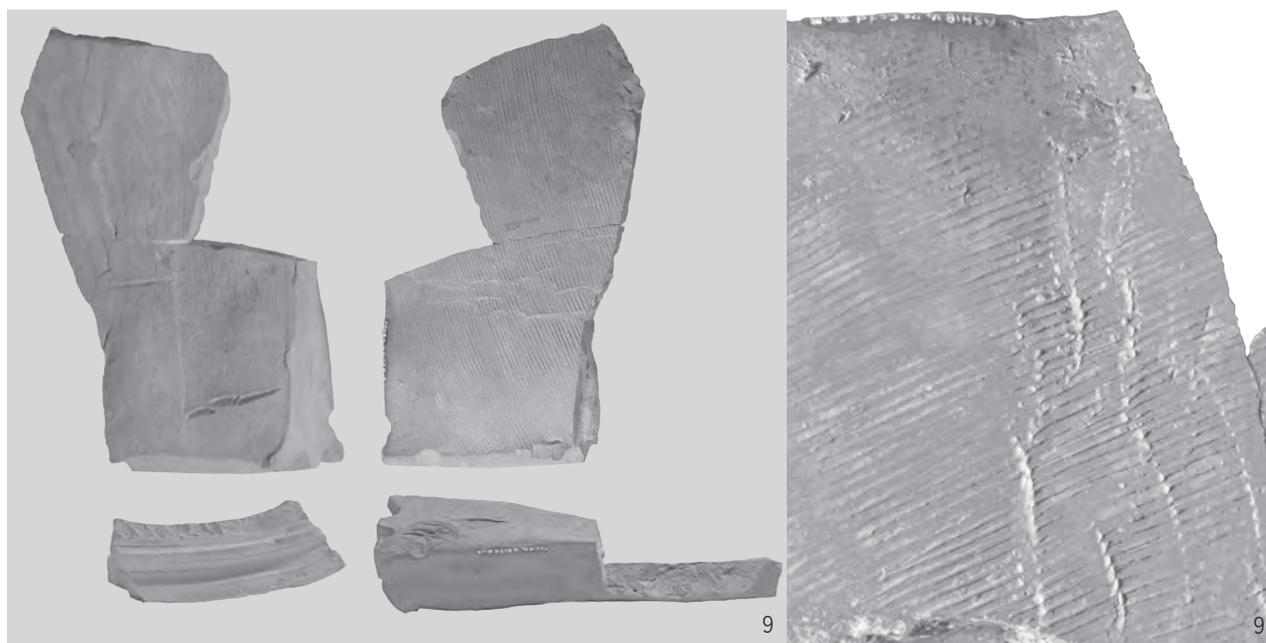
顎部貼付カキ目痕



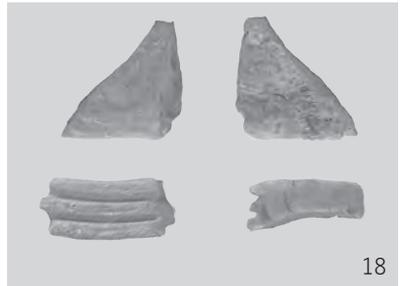
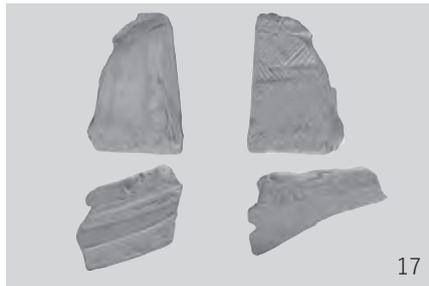
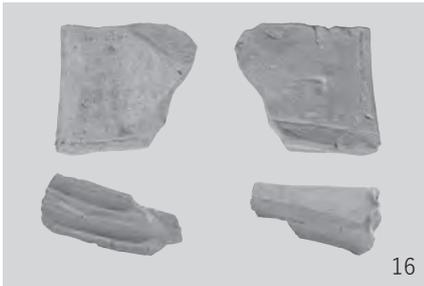
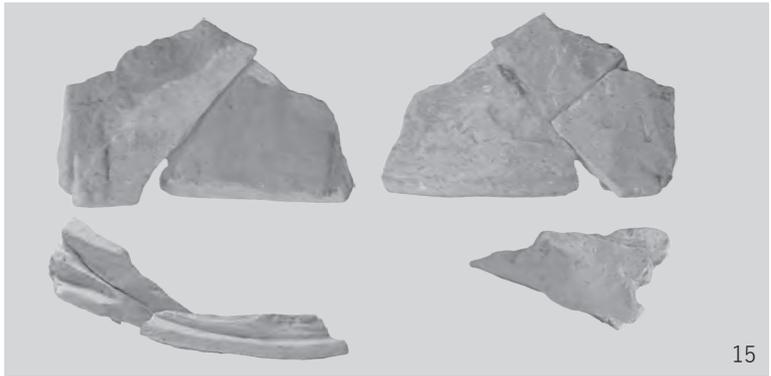
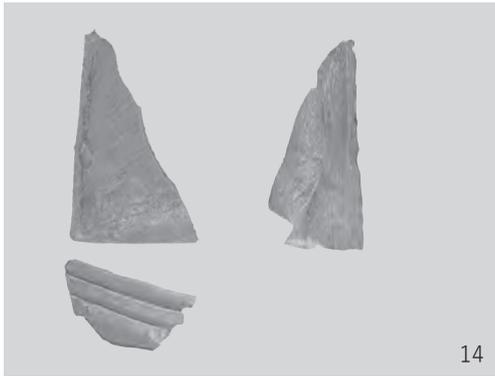


顎部貼付カキ目痕 6

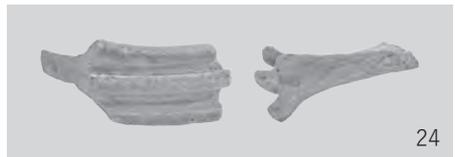
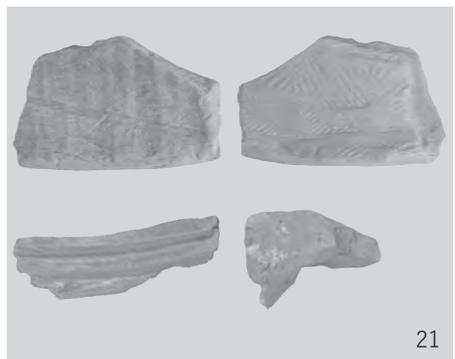
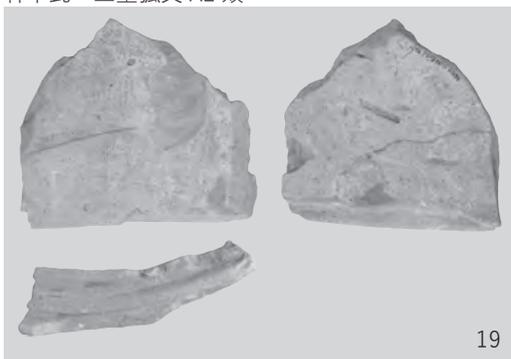




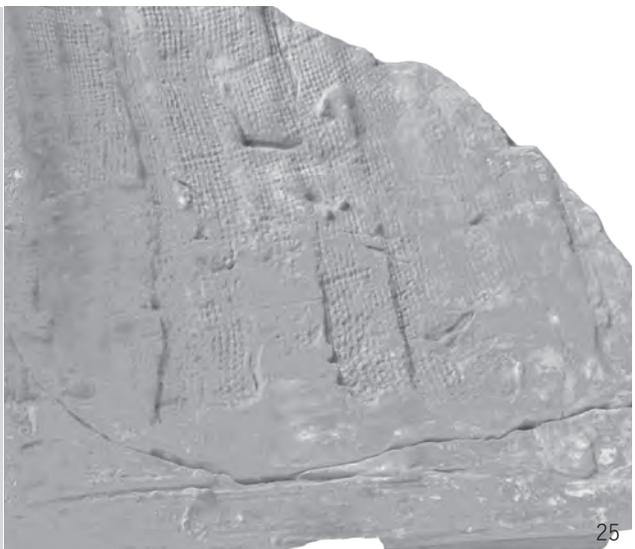
顎部貼付カキ目痕 12

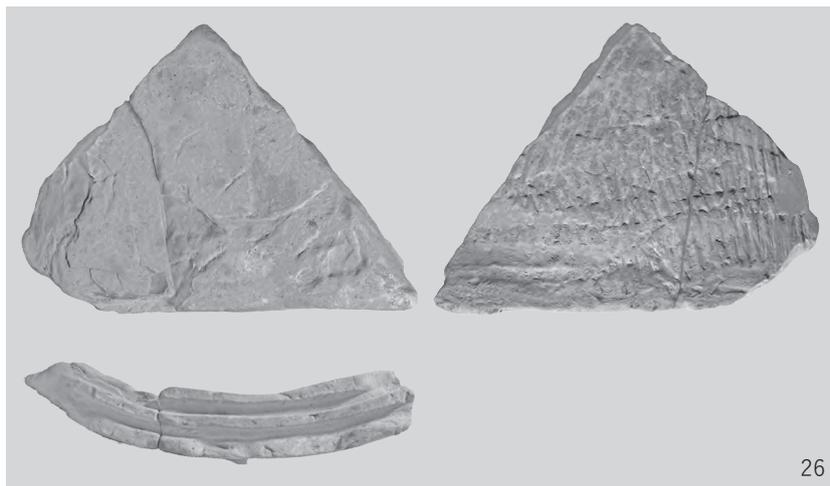


軒平瓦 三重弧文 A2 類



軒平瓦 三重弧文 B1 類





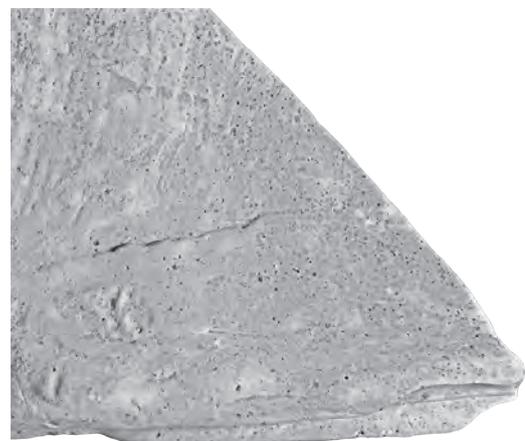
26



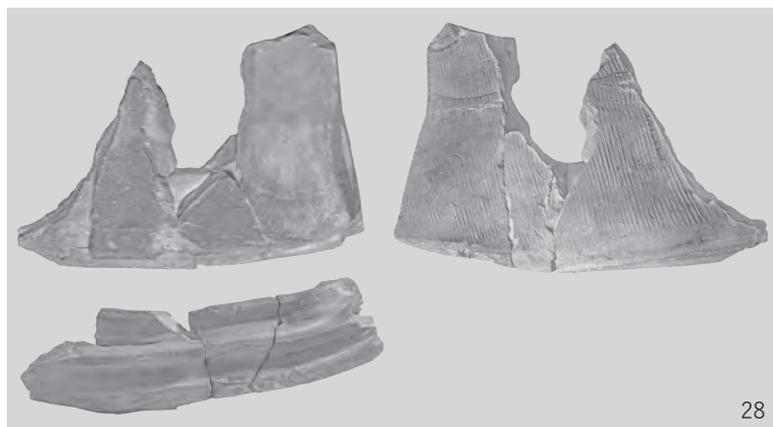
30



27



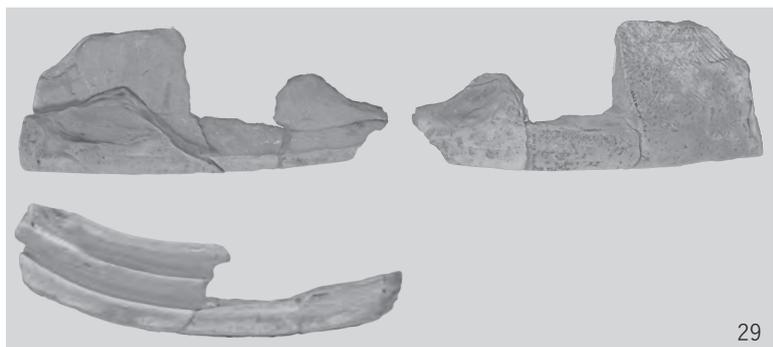
27



28



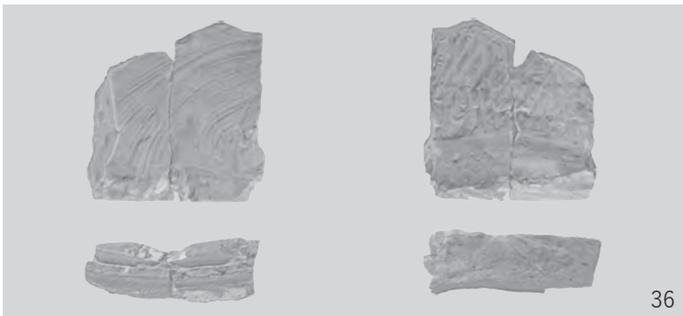
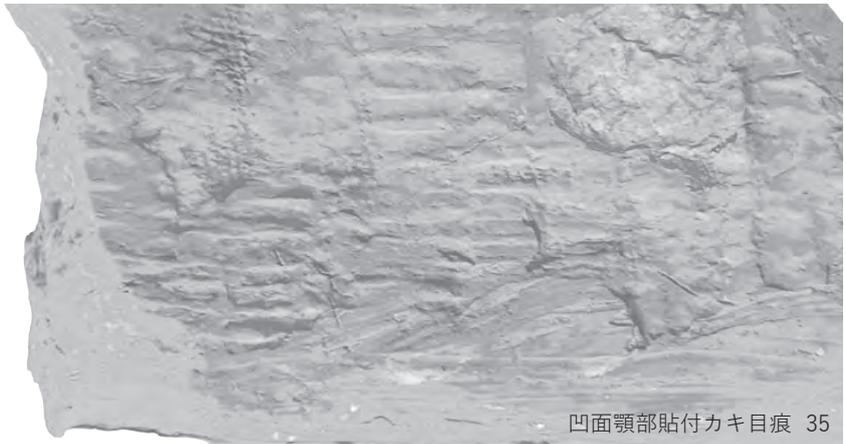
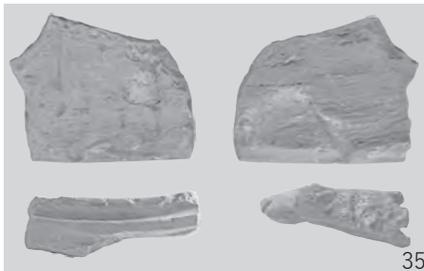
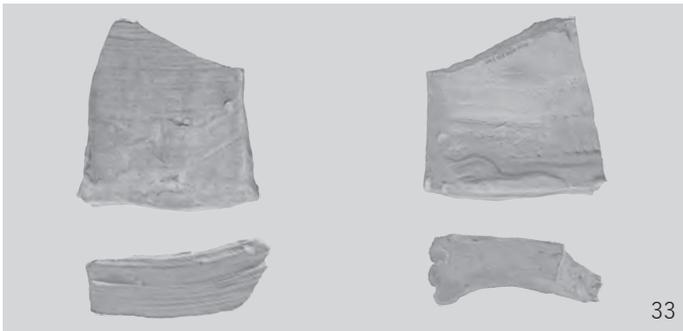
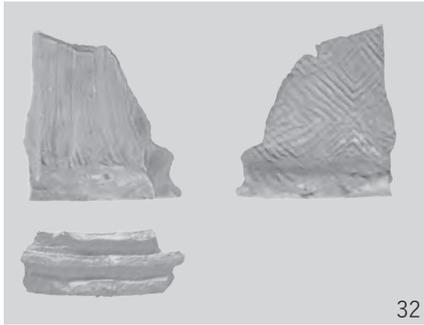
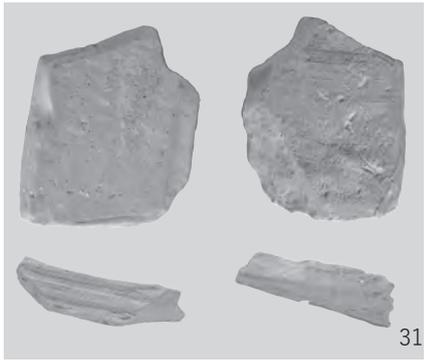
顎部粘土貼付痕 28



29



29



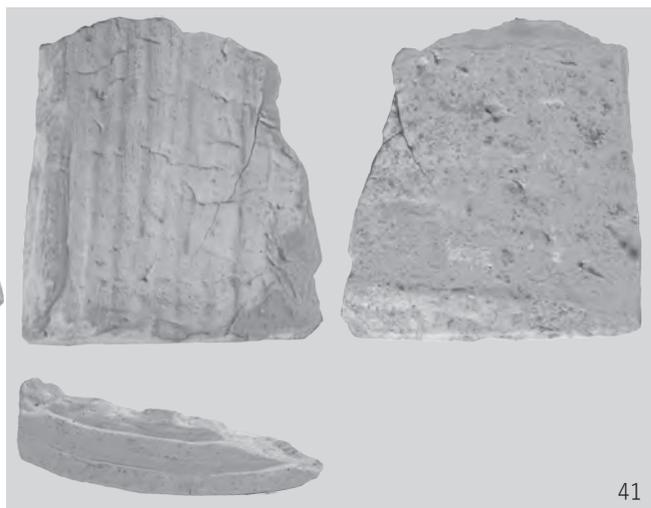
軒平瓦 三重弧文 B2 類



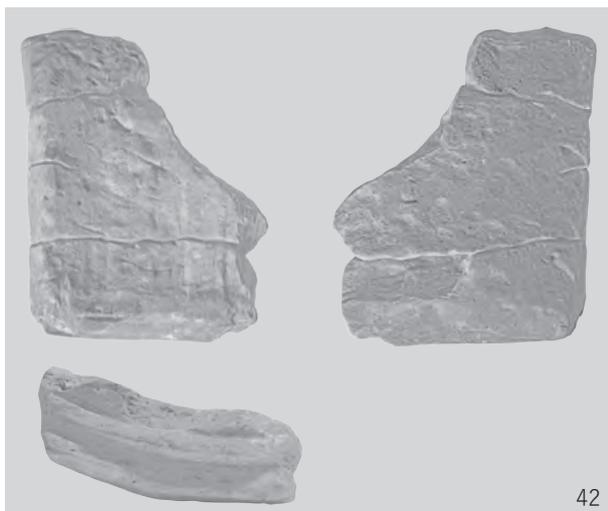
40



41



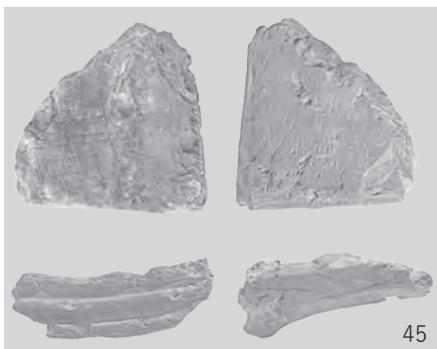
41



42



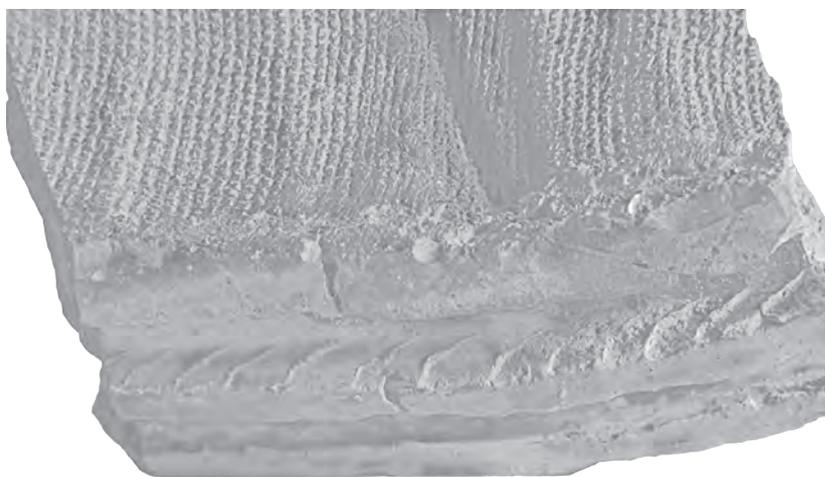
43



45

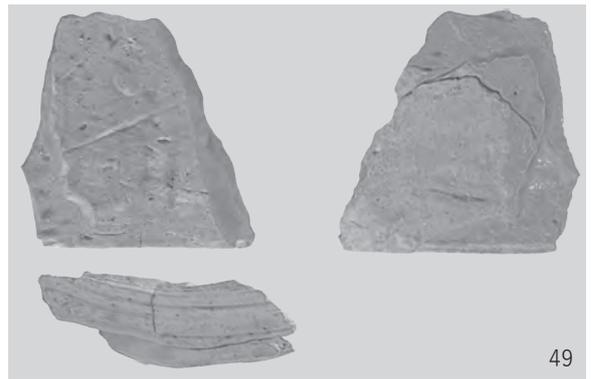
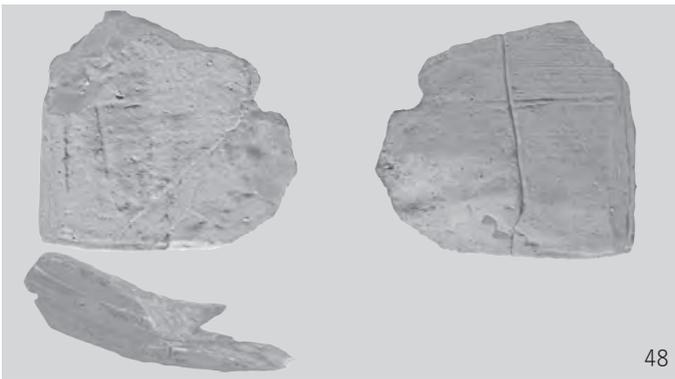
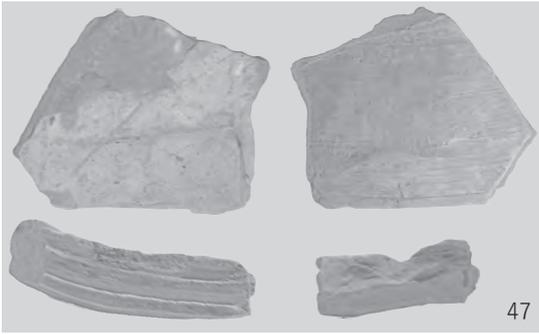


46

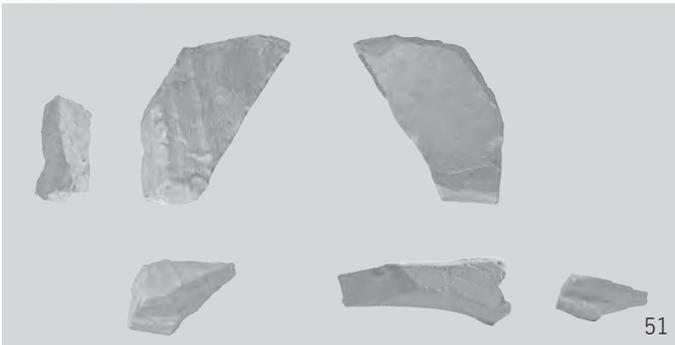


重弧文施文押圧痕 43

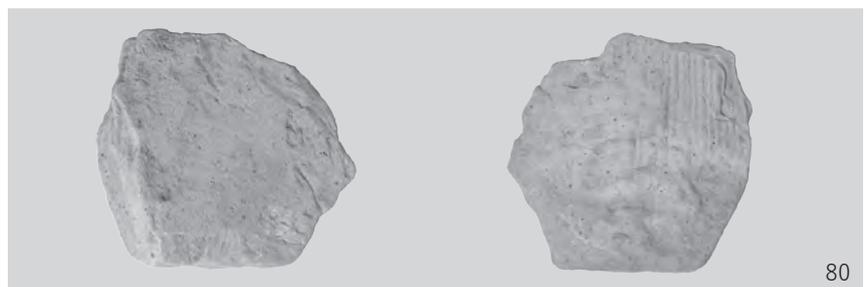
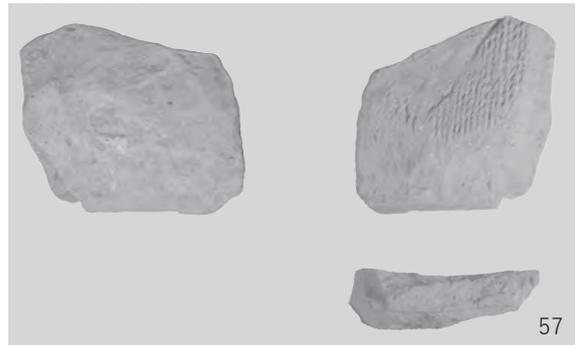
軒平瓦 三重弧文 C 類



軒平瓦 二重弧文



軒平瓦 不明



丸瓦 SX01



丸瓦 無段式 粘土板桶巻づくり I 類





9



15

丸瓦 無段式 粘土板桶巻づくりII③類



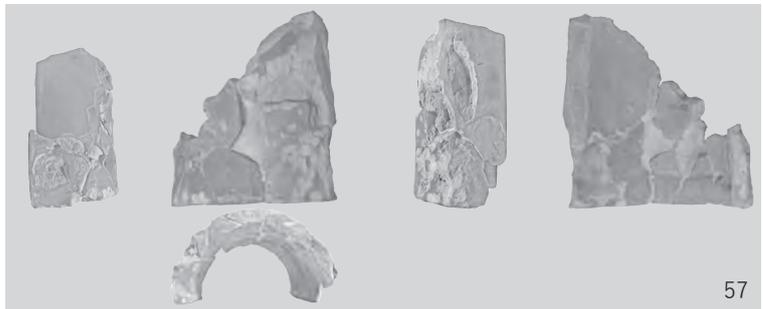
52



54



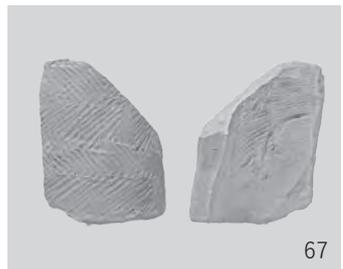
56



57



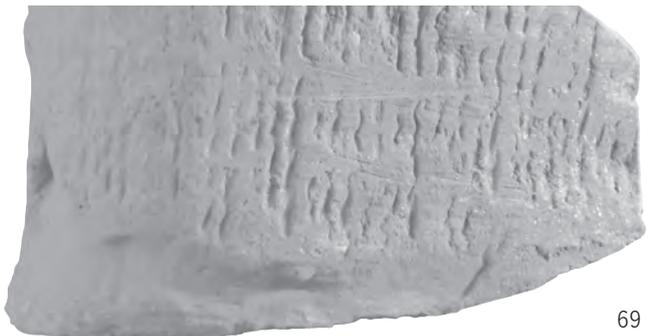
65



67



69



69

丸瓦 無段式 粘土帯桶巻づくり I 類



71



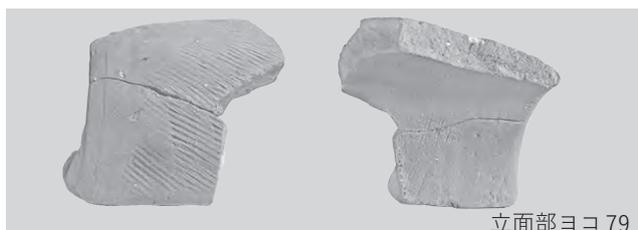
71



76



79



立面部ヨコ 79

丸瓦 無段式 粘土帯桶巻づくり II ①類



82



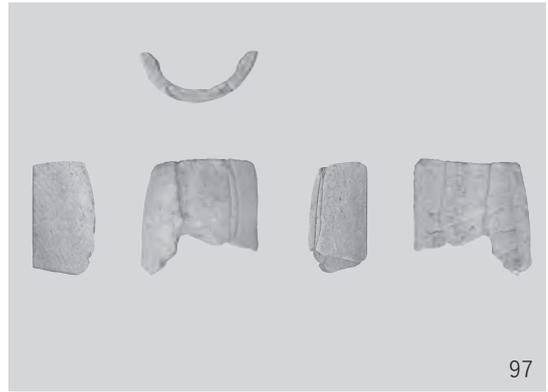
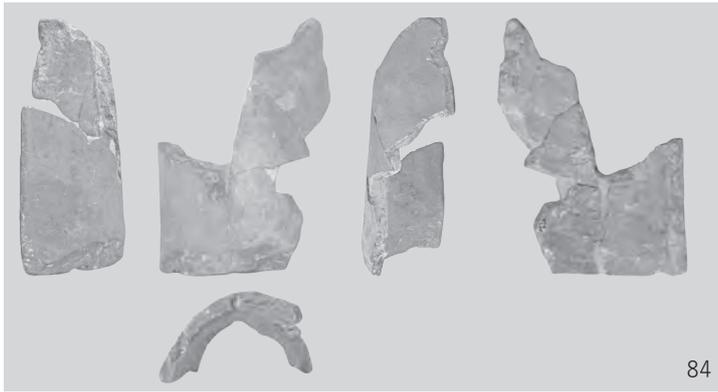
81



82



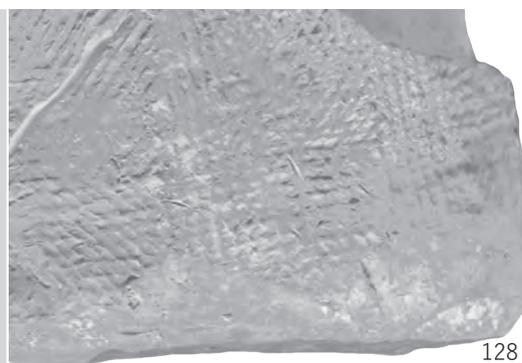
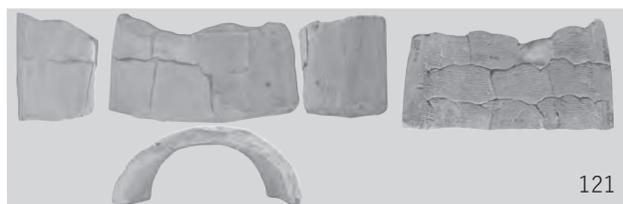
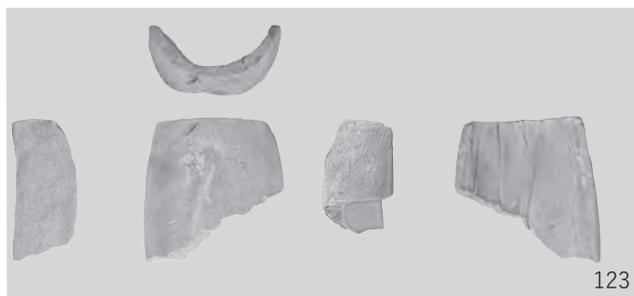
83



丸瓦 無段式 粘土帶桶巻づくりⅡ②類



丸瓦 無段式 粘土帶桶巻づくり II ③類



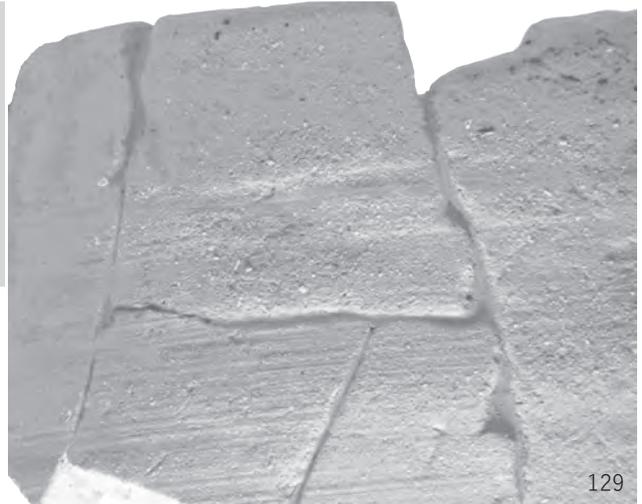
丸瓦 無段式 粘土紐マキアゲⅠ類



129



立面部ヨコ 130



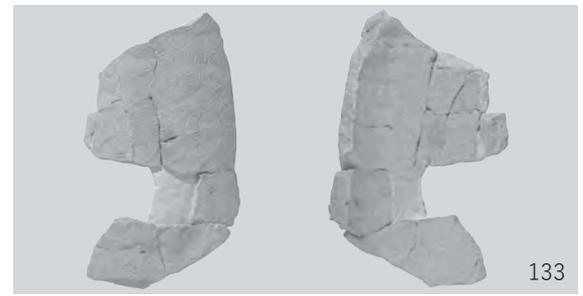
129



131



132



133

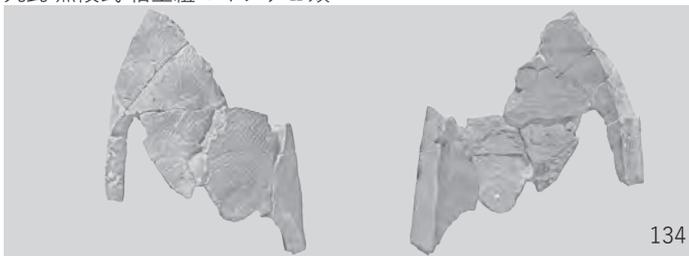


132

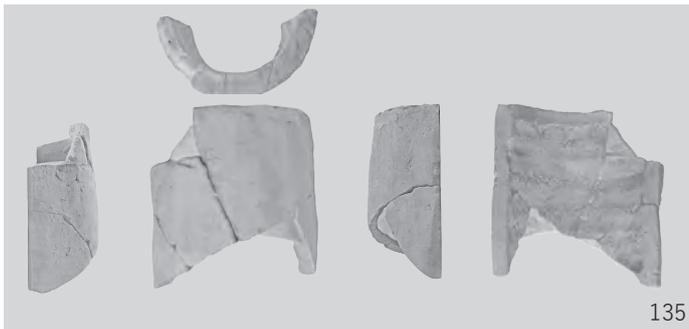


132

丸瓦 無段式 粘土紐マキアゲⅡ類



134

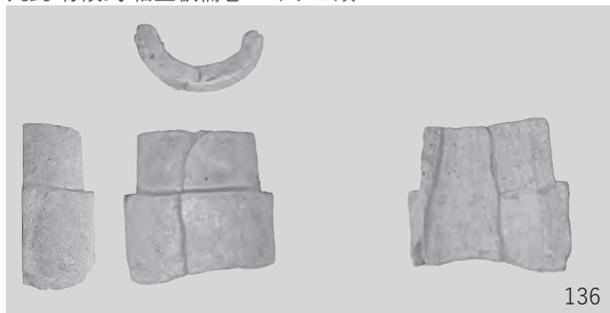


135



135

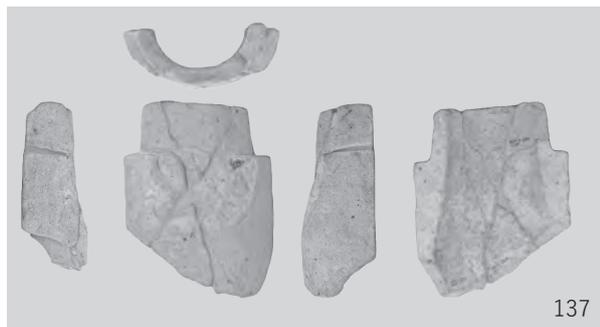
丸瓦 有段式 粘土板桶巻づくり I 類



136



136



137



142

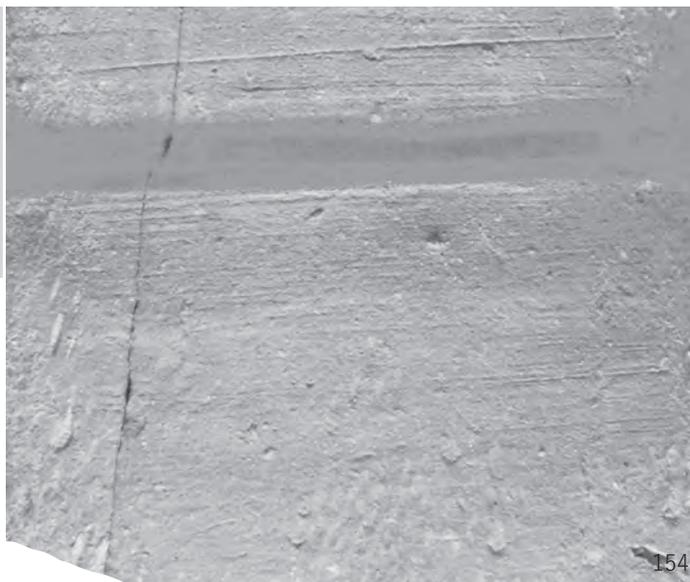
丸瓦 有段式 粘土紐マキアゲ I 類



154



154



154

丸瓦 叩き痕



綾杉 (67)



平行 (109)



縄目 (70)

軒丸瓦接合丸瓦 粘土板桶巻づくりⅠ類



158

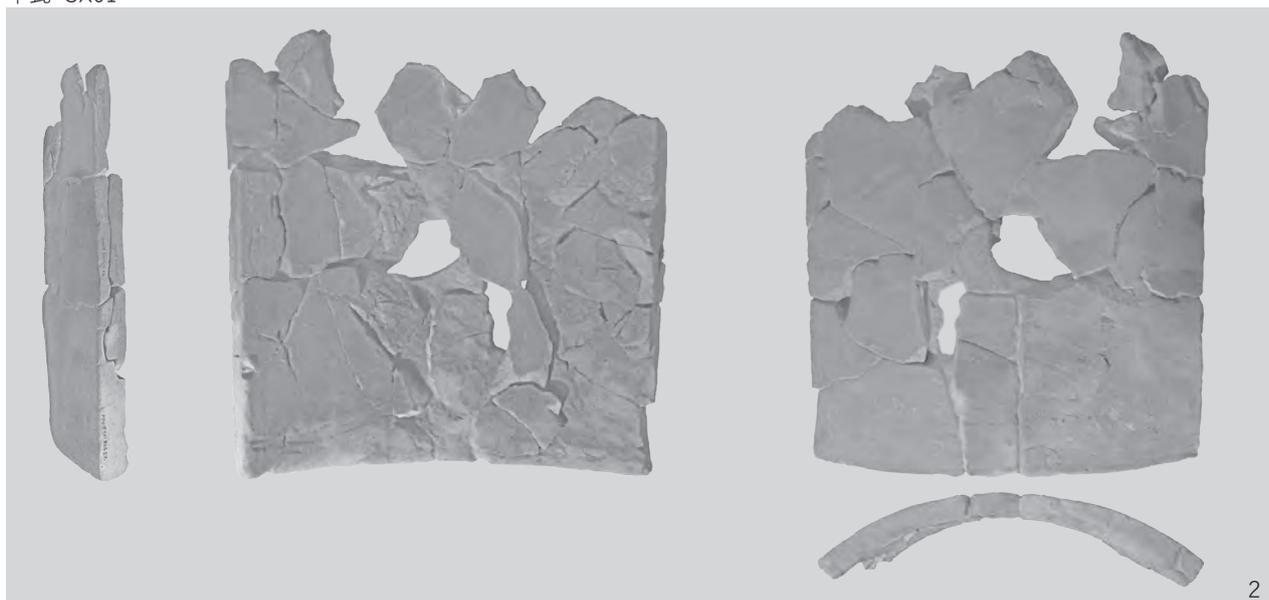
丸瓦集合①

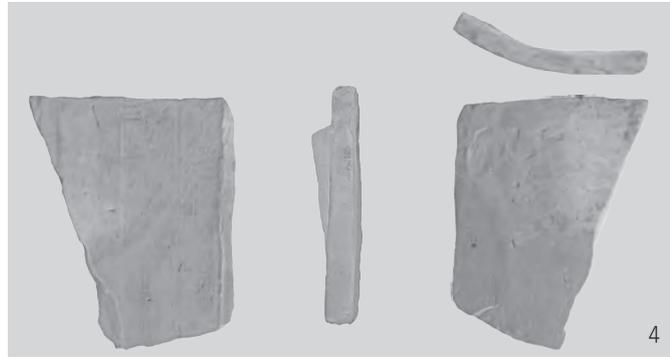
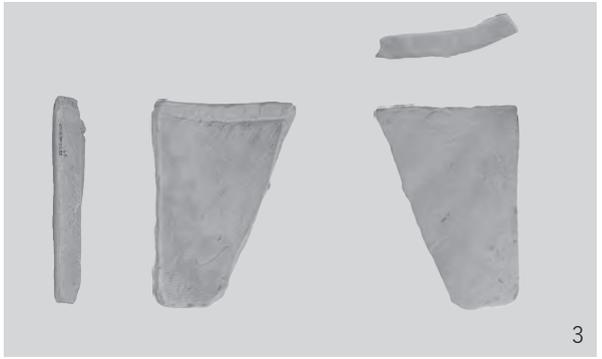


丸瓦集合②

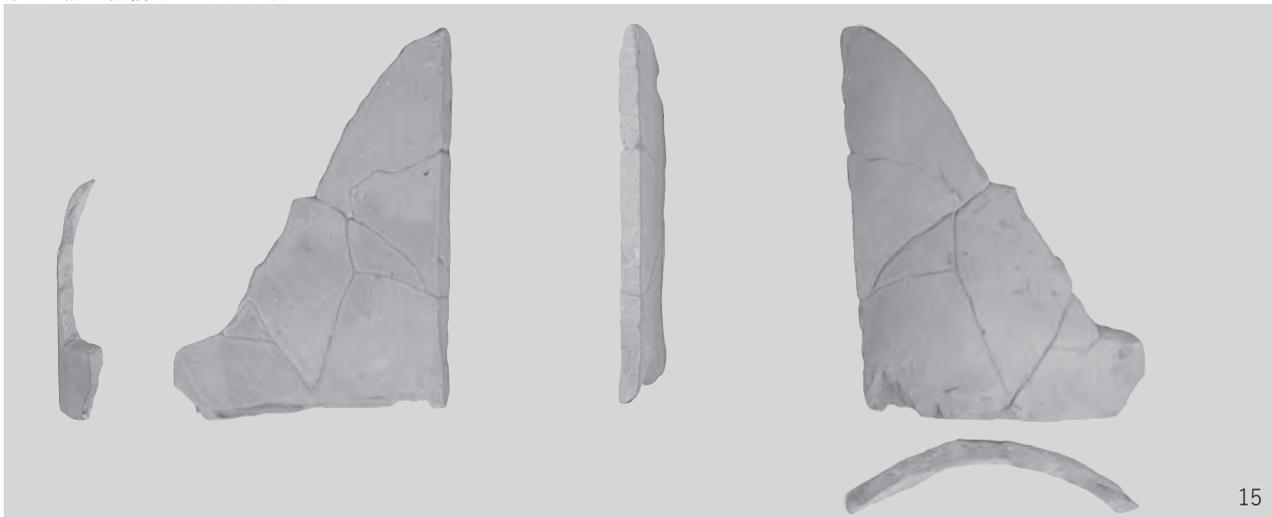


平瓦 SX01





平瓦 粘土板桶巻づくり I類



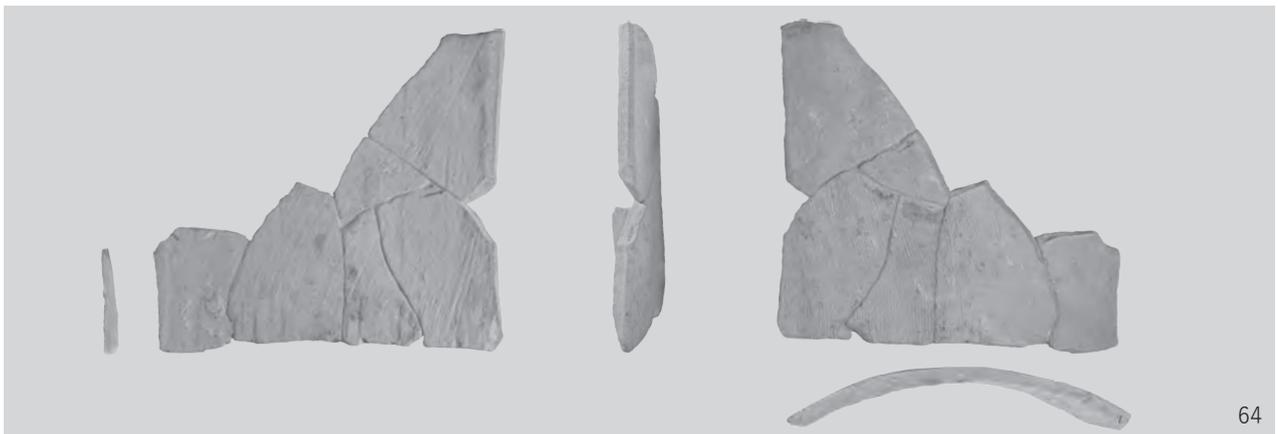
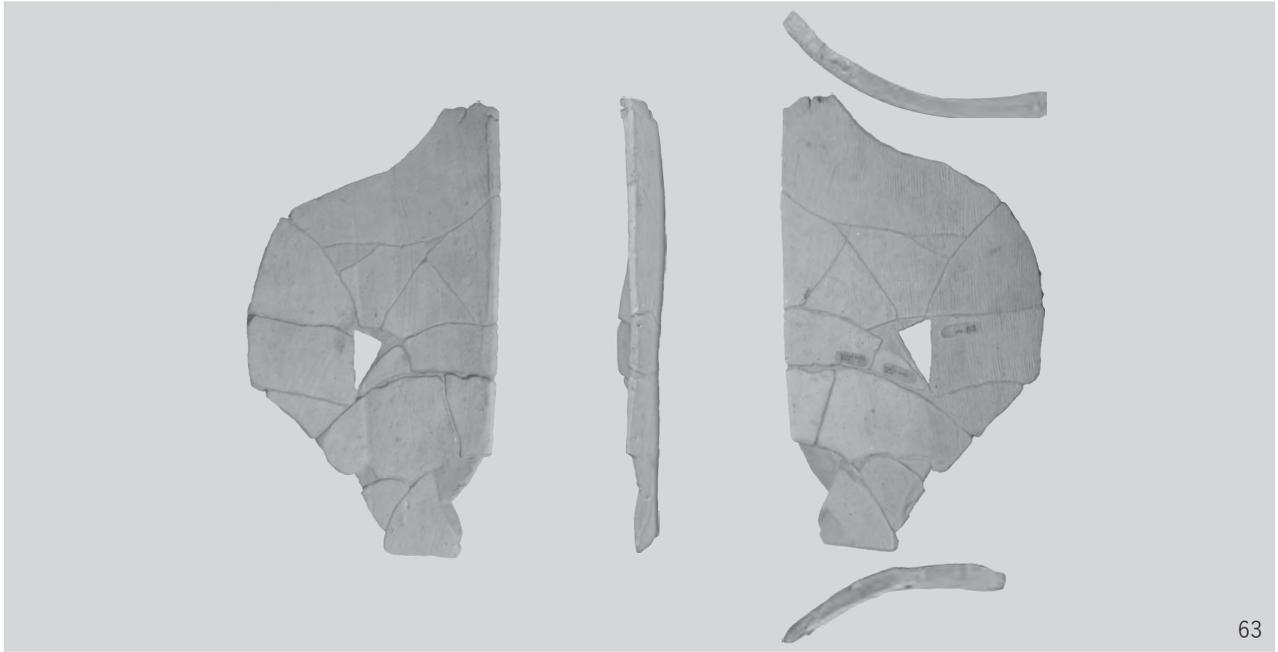
平瓦 粘土板桶巻づくりⅡ①類

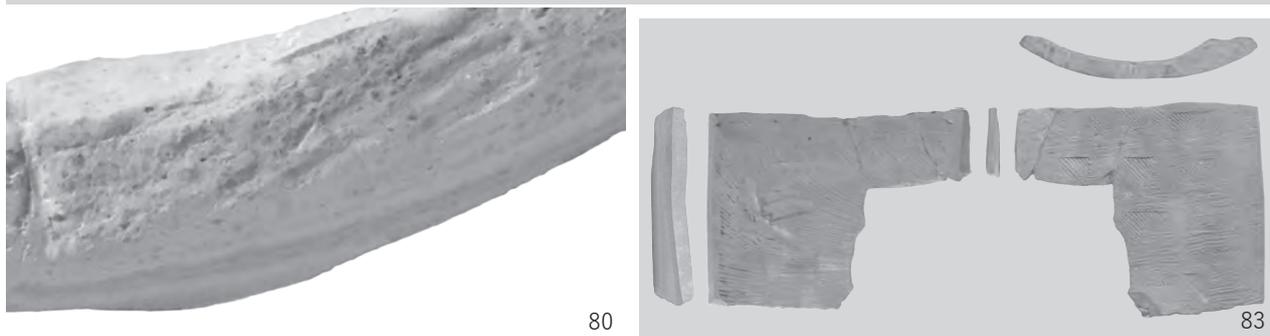
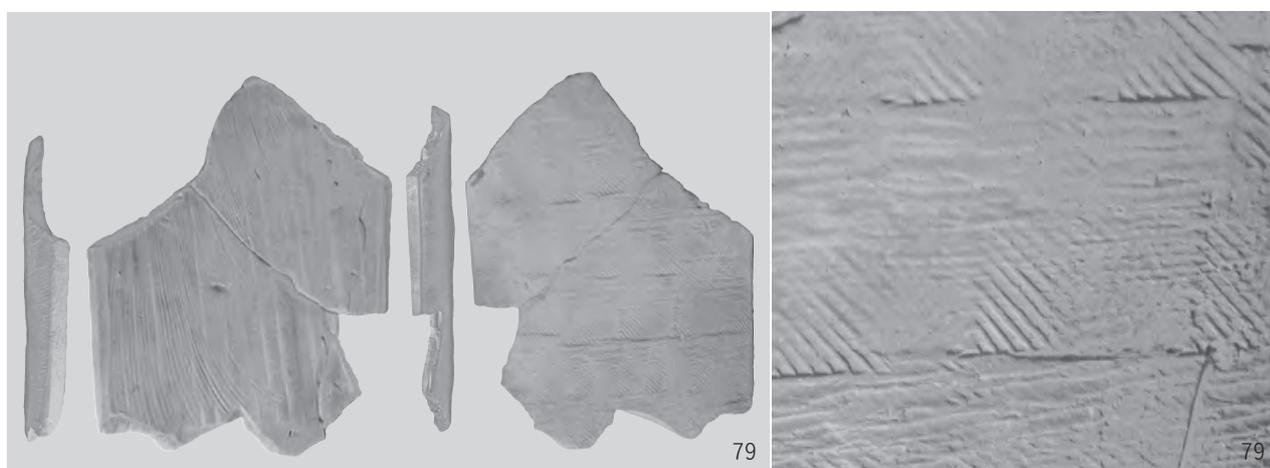


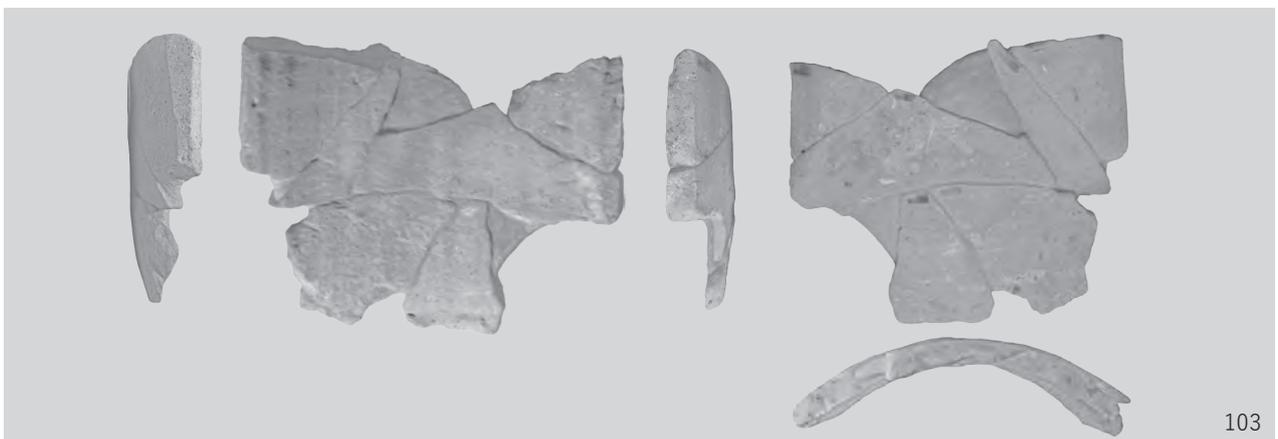
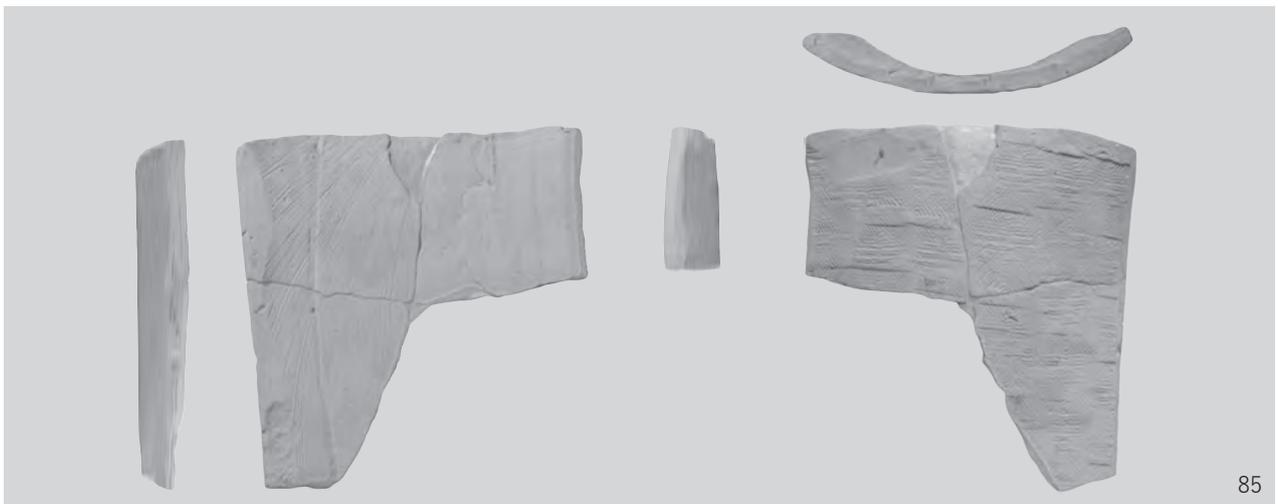
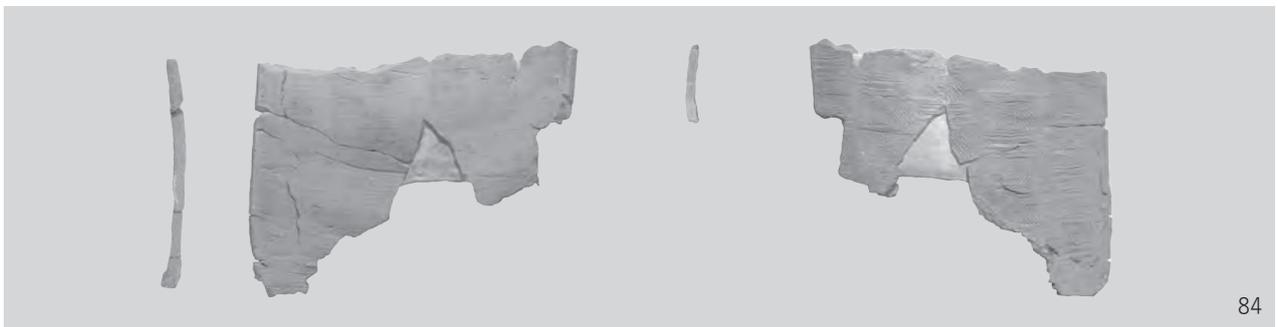
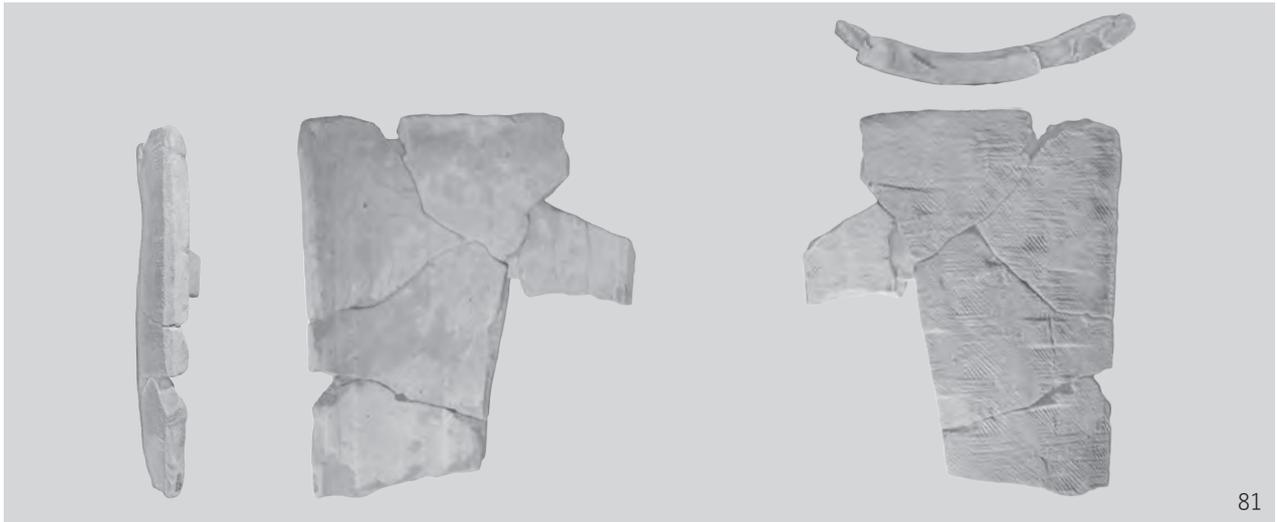
平瓦 粘土板桶巻づくりⅡ②類



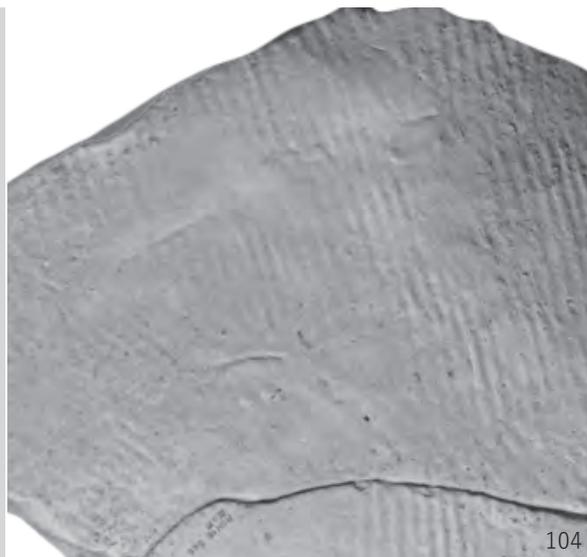
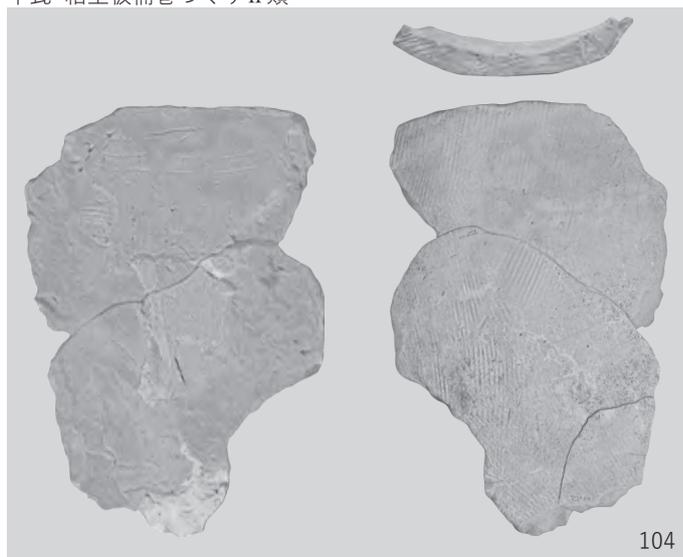
平瓦 粘土板桶巻づくりⅡ③類



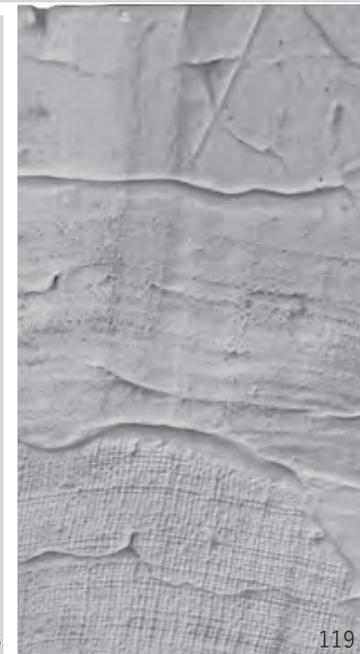
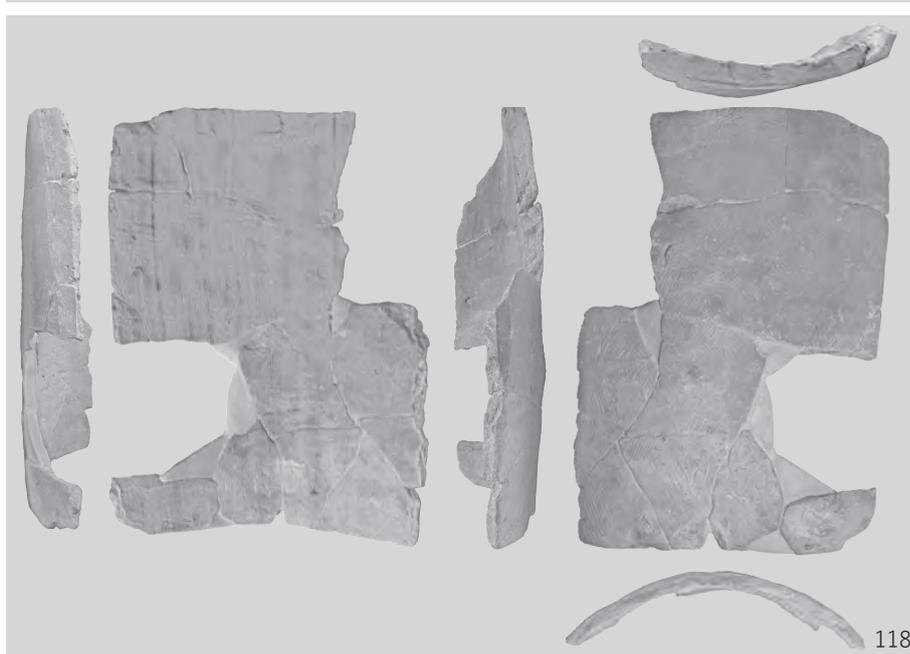
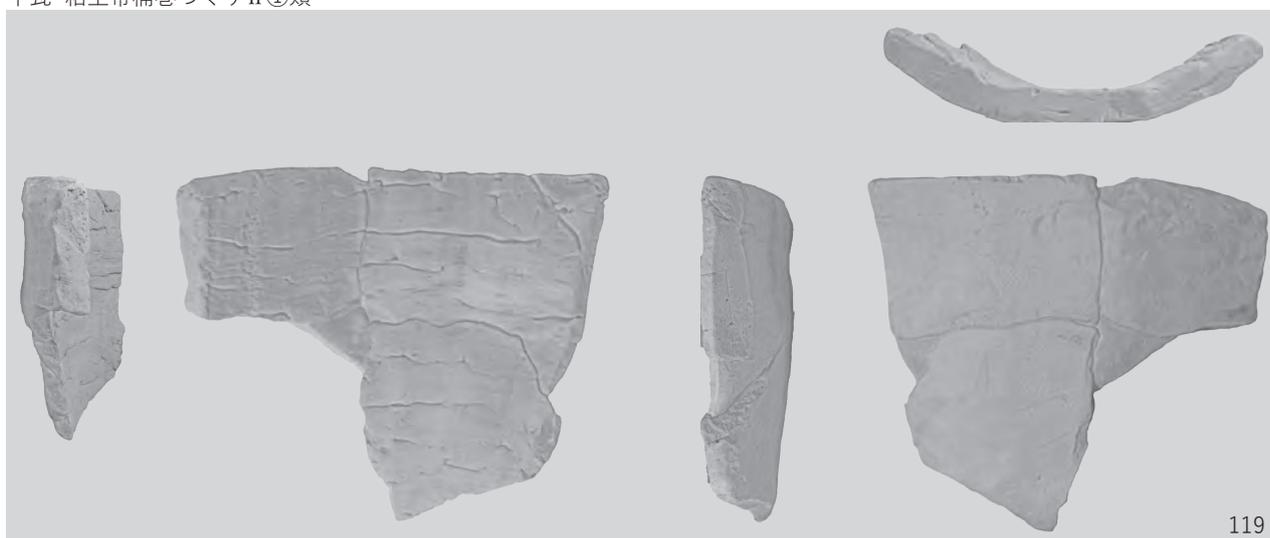




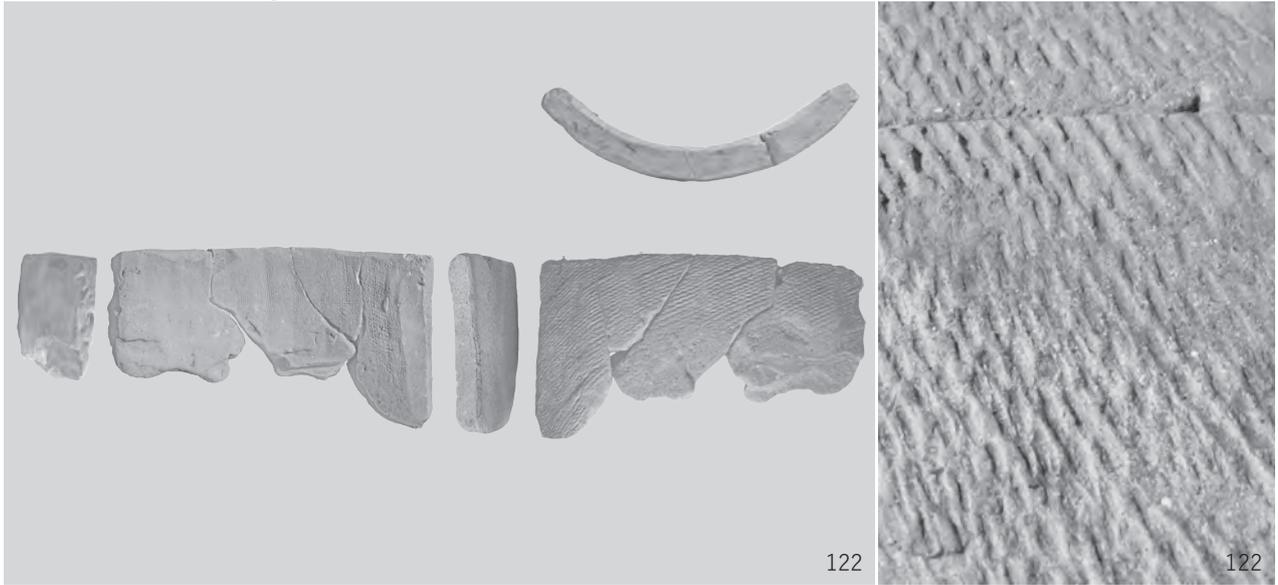
平瓦 粘土板桶巻づくりⅡ類



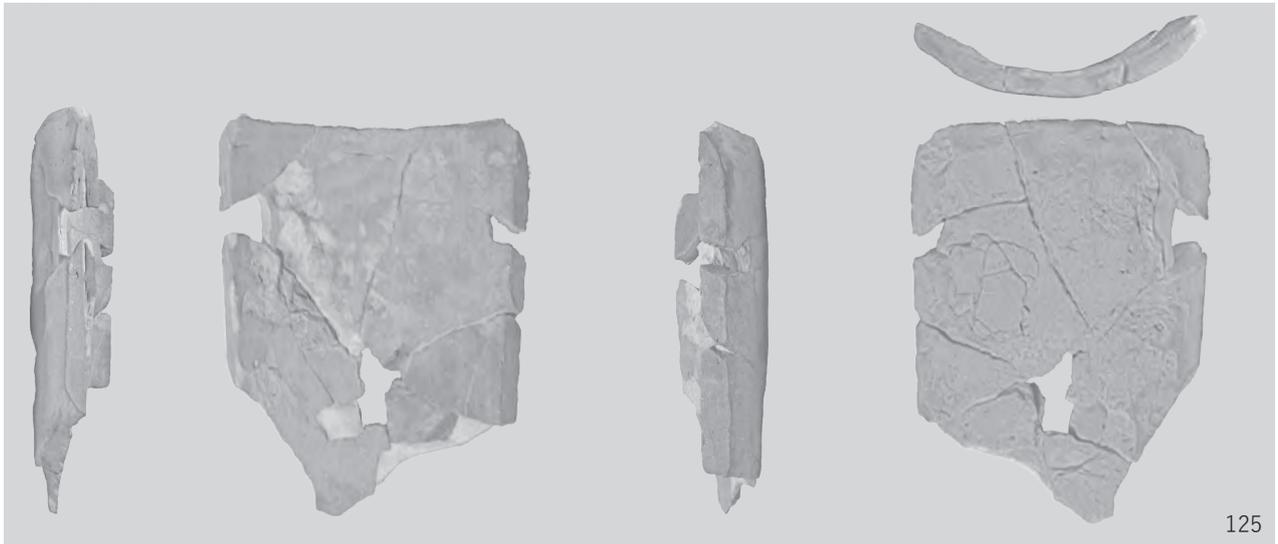
平瓦 粘土帯桶巻づくりⅡ①類



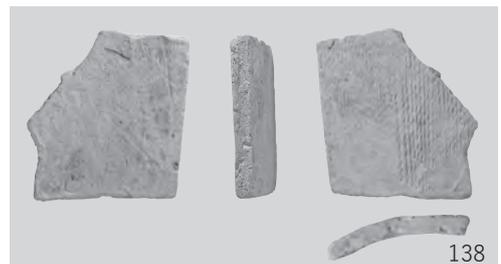
平瓦 粘土帯桶巻づくりⅡ②類



平瓦 一枚づくりⅠ類



平瓦 一枚づくりⅡ②類



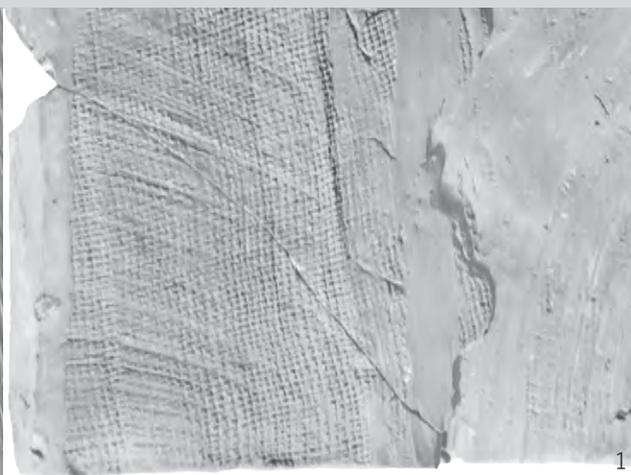
道具瓦



1



1



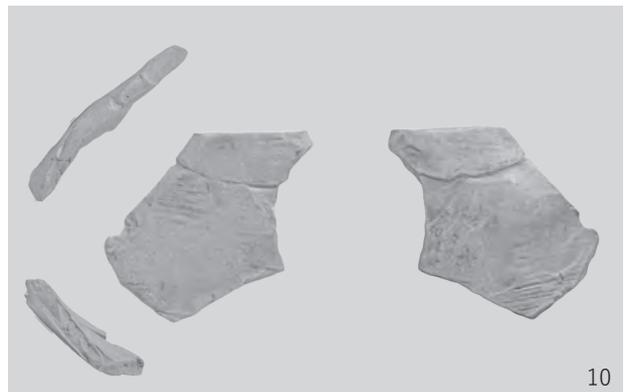
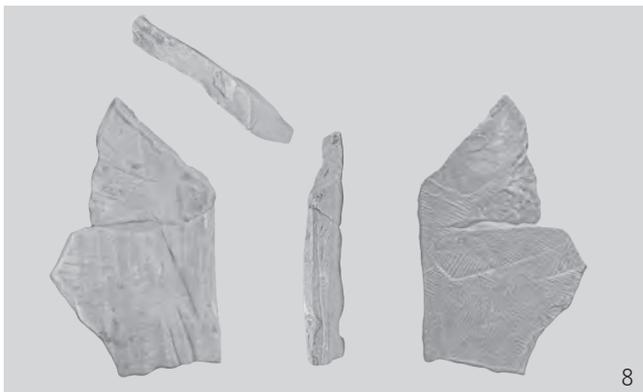
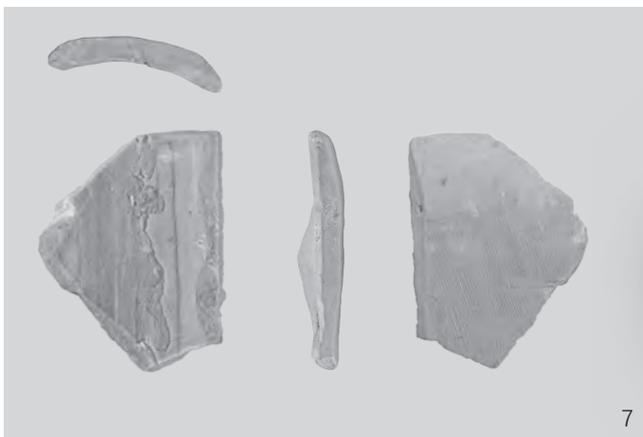
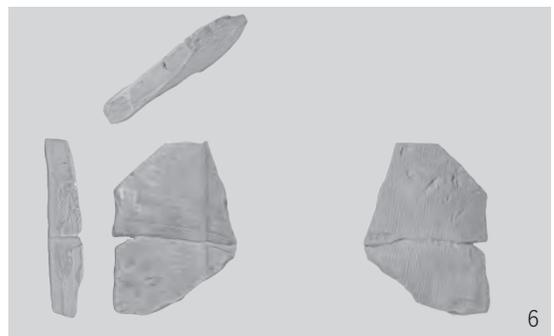
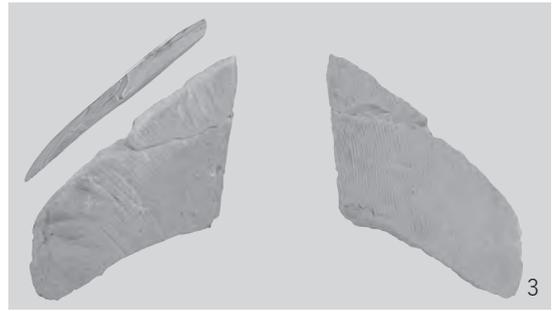
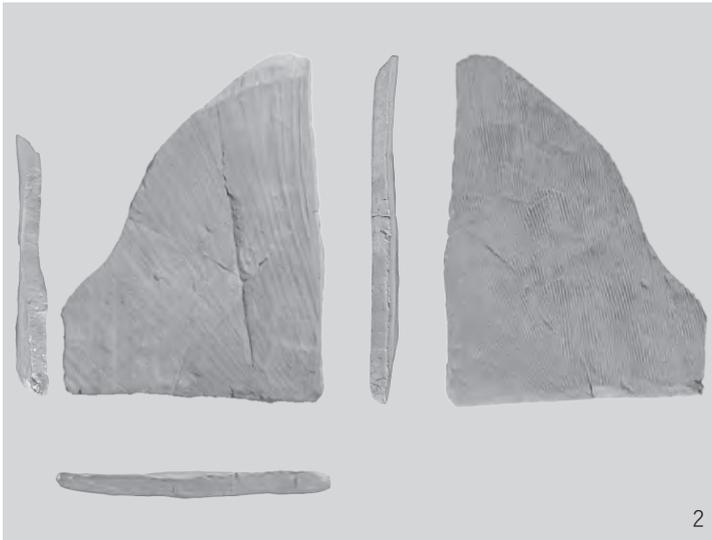
1

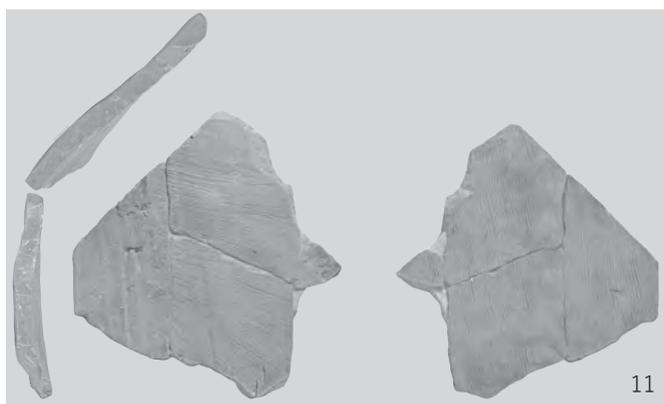


1



1

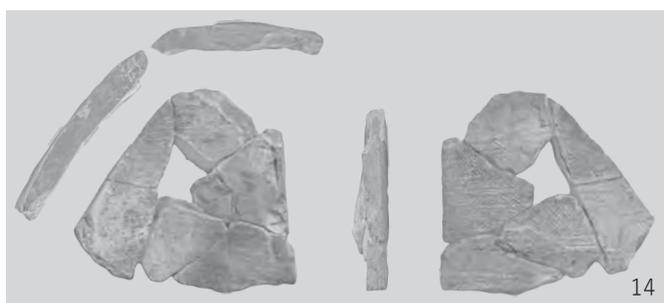




11



11



14



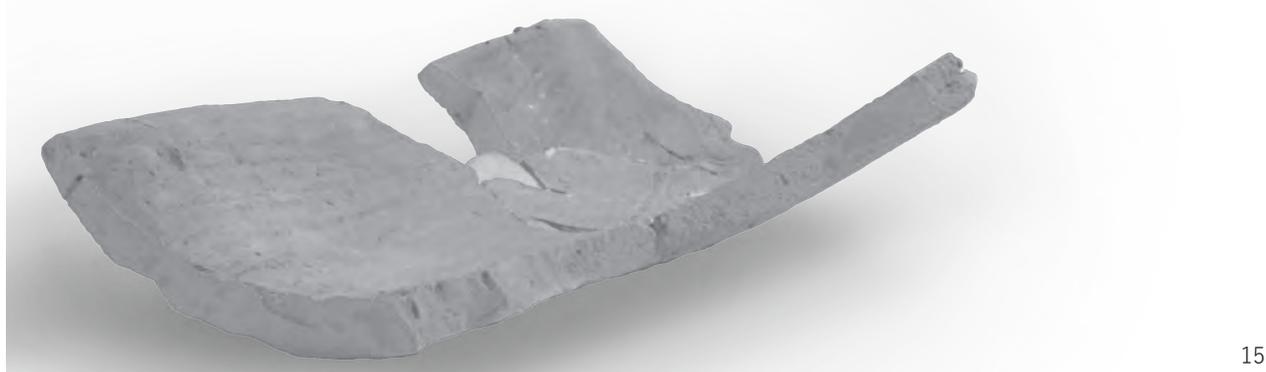
22



15

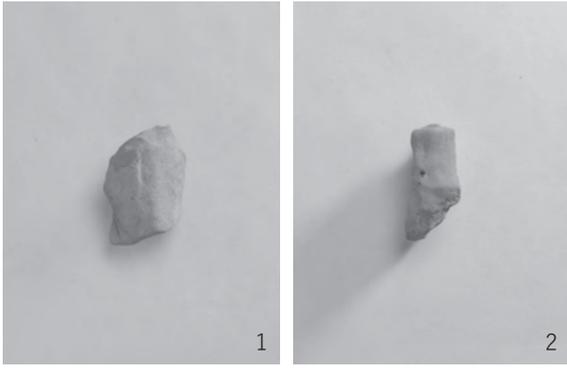


22



15

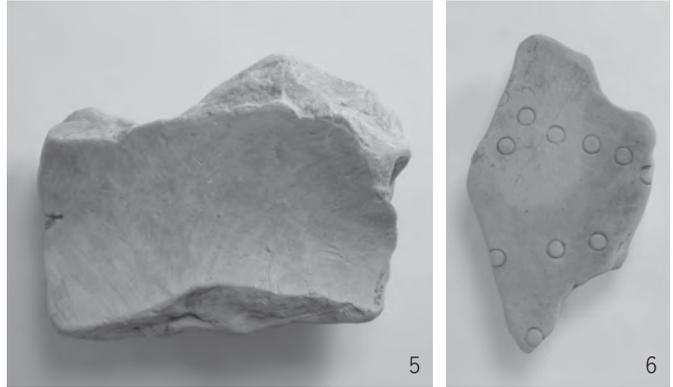
鷗尾 第5次



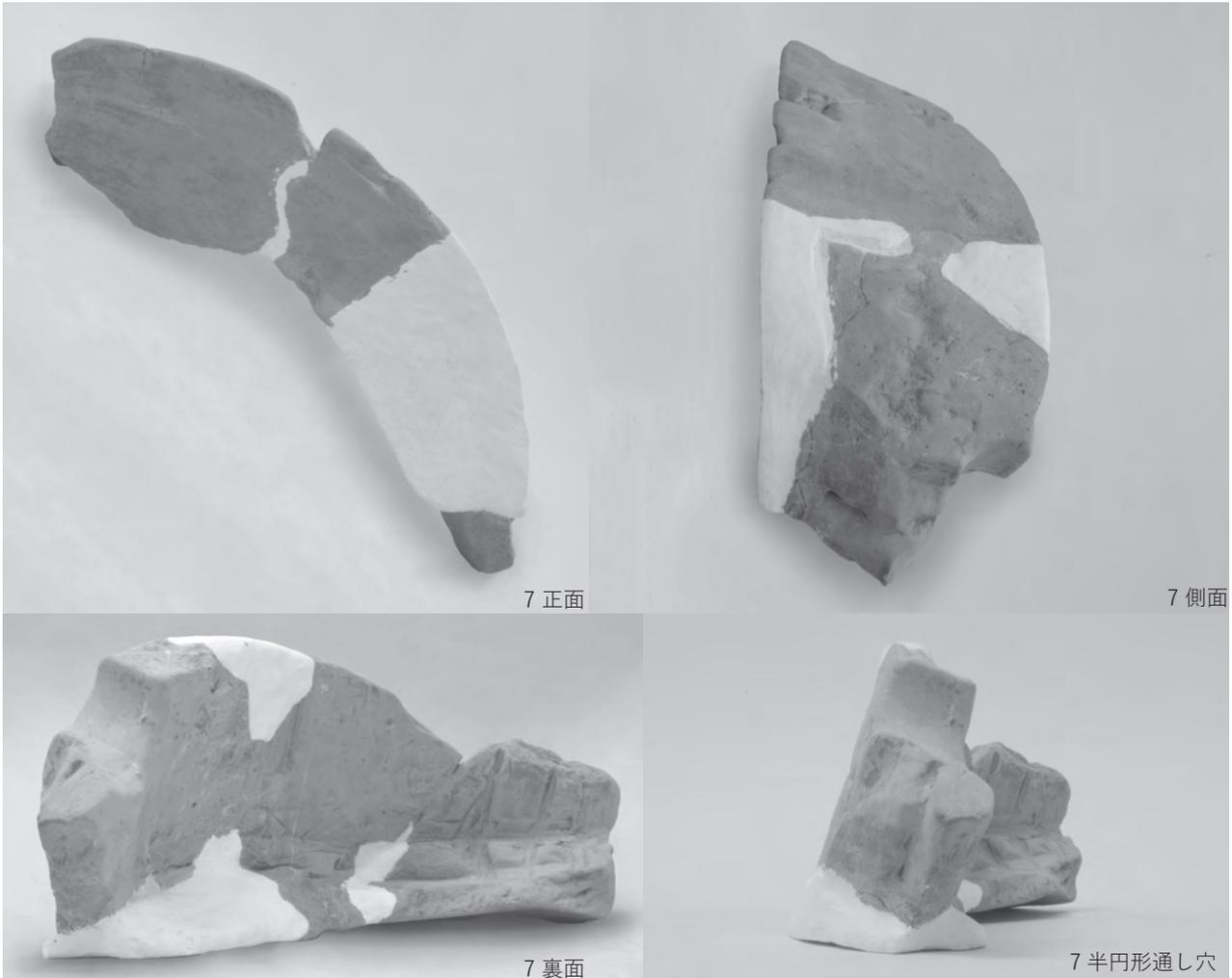
鷗尾 桜坂古窯址



鷗尾 第1・2次



鷗尾 桜坂古窯址



鬼瓦 第5次



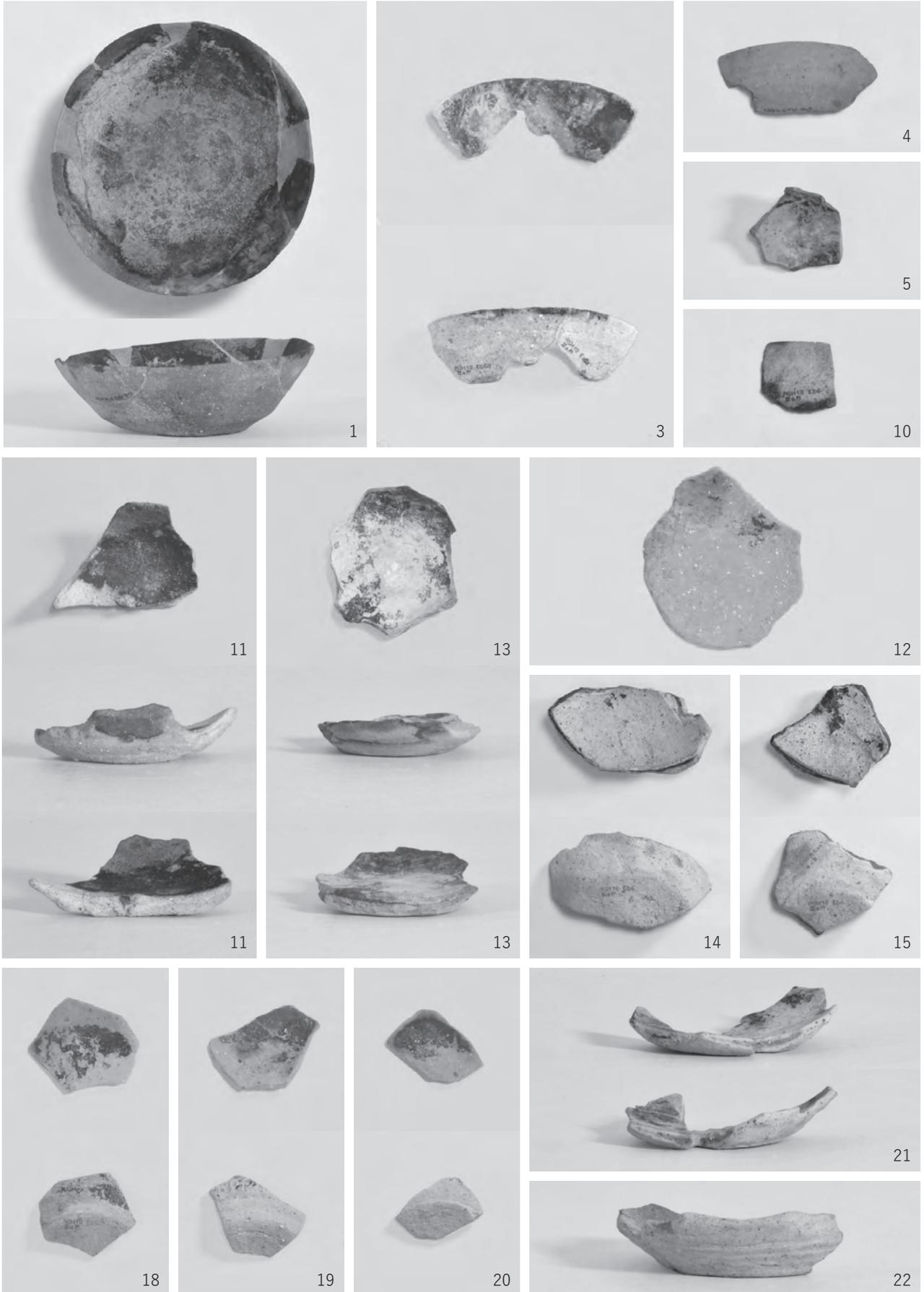
鬼瓦 第3次

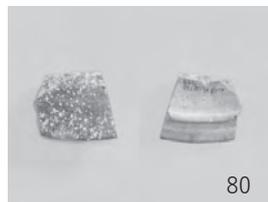
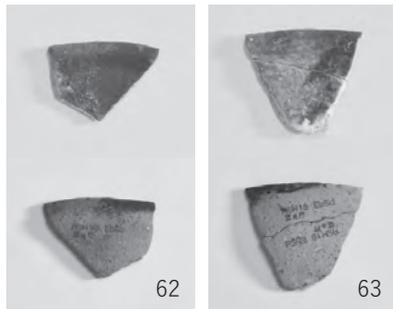


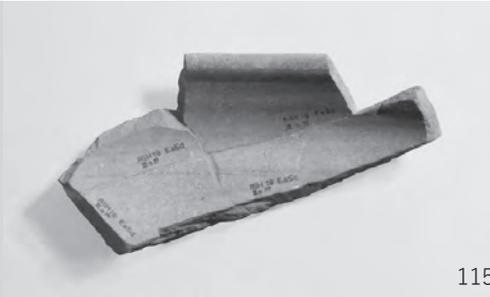
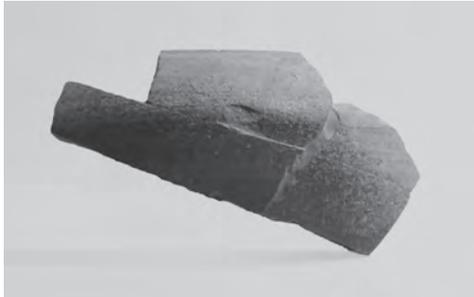
不明土製器



瓦溜 01 (第IIIa層)

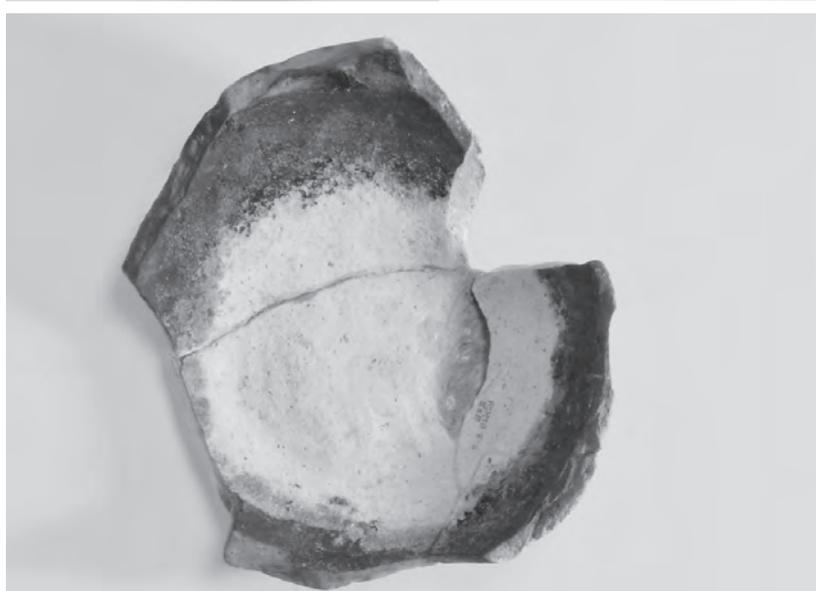








131



132



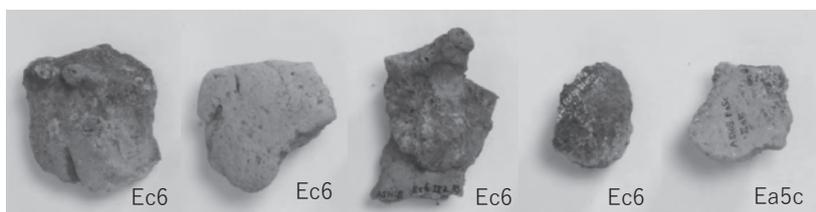
133



134



146



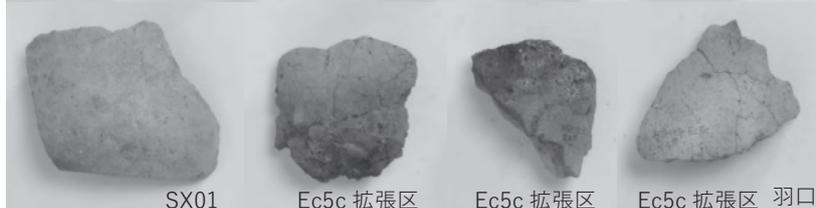
Ec6

Ec6

Ec6

Ec6

Ea5c



SX01

Ec5c 拡張区

Ec5c 拡張区

Ec5c 拡張区 羽口



147

SX01



148



149



148-149



149 底面



150



151



152



153



156



157



158



161



159

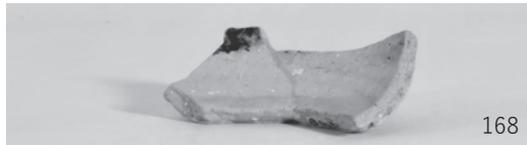


桜坂土器 1

SK01



165



168



177

SK05



182



183

SK07



184

南東深掘 (第IIIa-IIIc層)



190 裏面



190 側面右

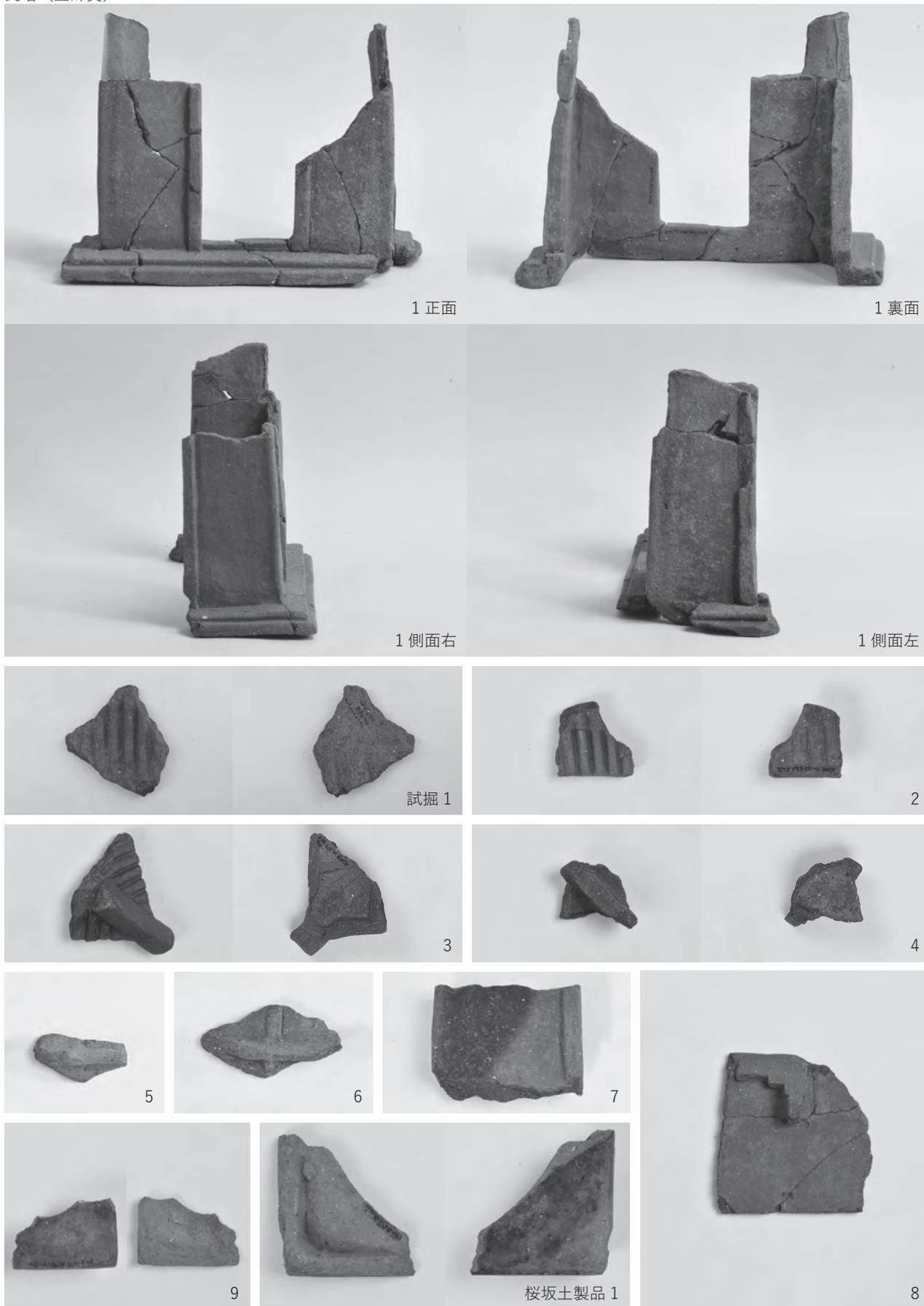


190 正面



190 側面左

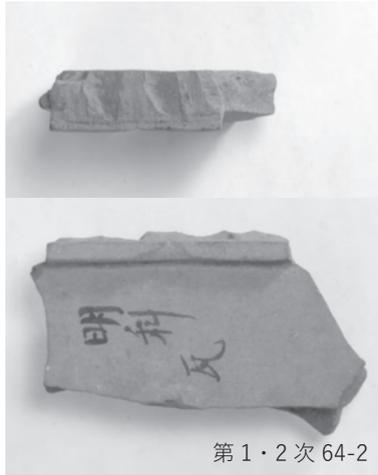
瓦塔（土師質）



瓦塔第1・2次（須恵質）



第1・2次 64-1



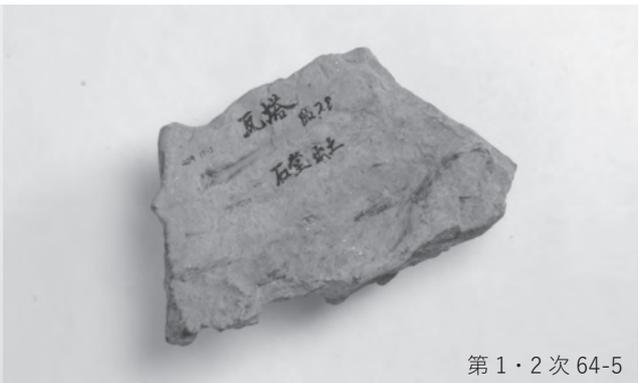
第1・2次 64-2



第1・2次 64-4



第1・2次 64-3
第3次 33-1



第1・2次 64-5



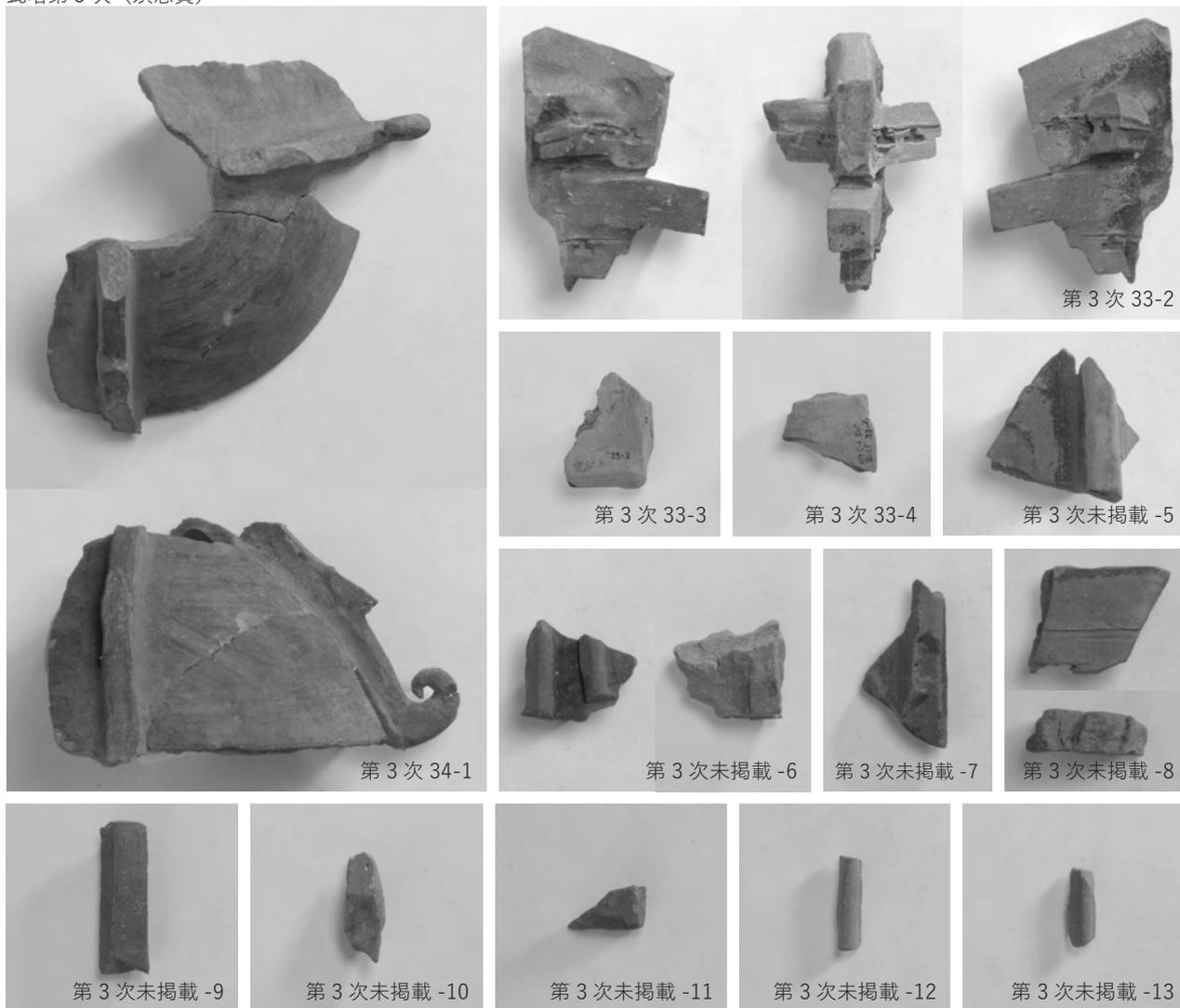
第1・2次 64-6

第1・2次 64-7

第1・2次 64-6

第1・2次 64-6

瓦塔第3次 (須恵質)



第3次 33-2

第3次 33-3

第3次 33-4

第3次未掲載 -5

第3次 34-1

第3次未掲載 -6

第3次未掲載 -7

第3次未掲載 -8

第3次未掲載 -9

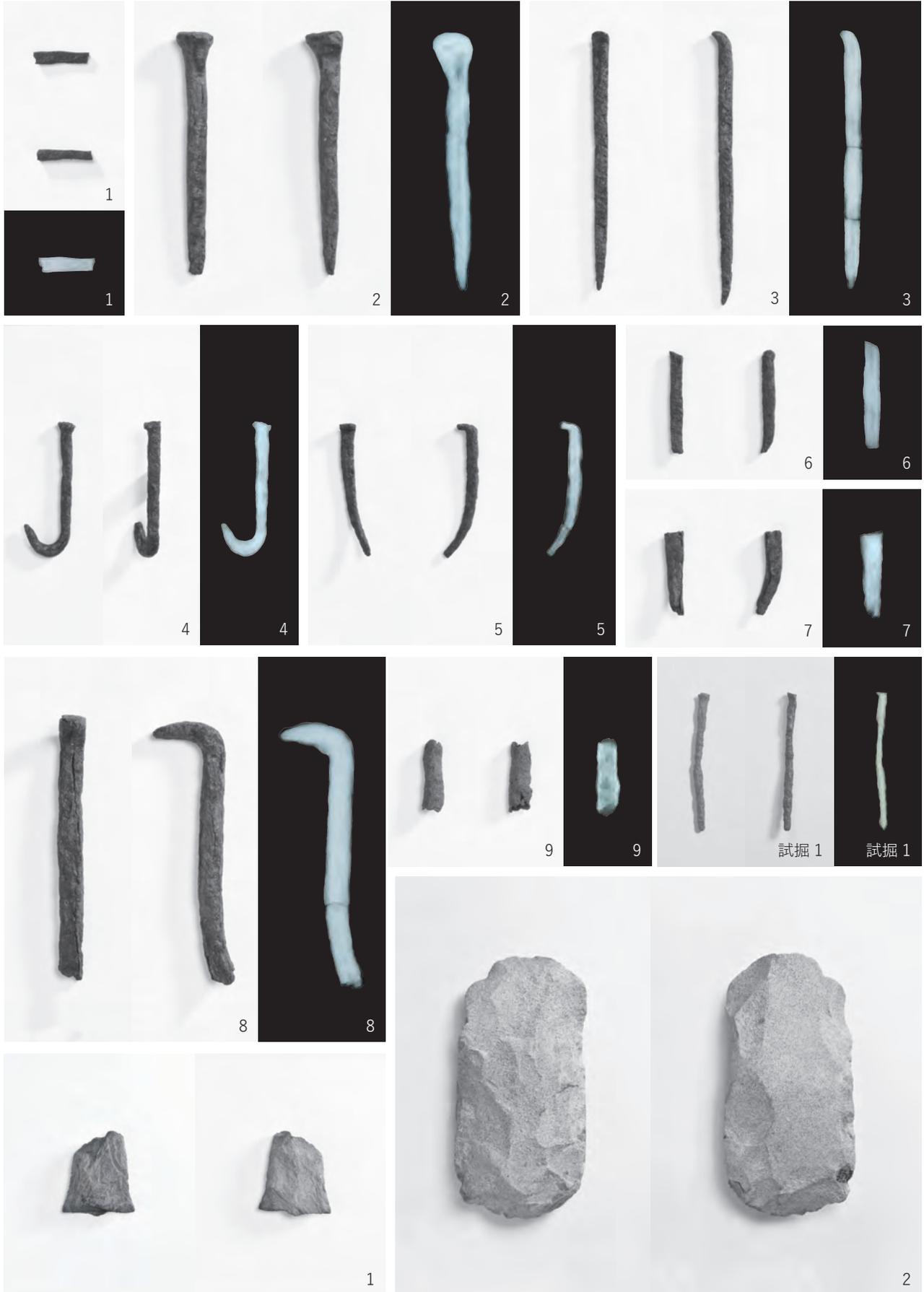
第3次未掲載 -10

第3次未掲載 -11

第3次未掲載 -12

第3次未掲載 -13

金属製品、石製品



引用、参考文献（五十音順）

- 愛知県陶磁資料館、五島美術館 1998『日本の三彩と緑釉—天平に咲いた華—』五島美術館展覧会図録 No.121 五島美術館
- 愛知県史編さん委員会 1984『愛知県史』別編 窯業 I 古代 猿投系 愛知県
- 青木敬 2017a「仏教寺院と土木技術—飛鳥時代」「寺院・宮殿建築の変容—奈良時代」『土木技術の古代史』pp.112-239 吉川弘文館
- 青木敬 2017b「寺院と土木技術—基壇構築技術を中心に—」月刊考古学ジャーナル11 No.705 pp.21-25
- 明科町史編纂会編 1984『明科町史』上巻 明科町史刊行会
- 明科町教育委員会 1991『ほうろく屋敷遺跡—川西地区県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—』明科町の埋蔵文化財 第3集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 1998『桜坂古窯址—主要地方道穂高明科線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—』明科町の埋蔵文化財 第5集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2000a『明科廃寺址—個人住宅建替に伴う緊急発掘調査報告書—』明科町の埋蔵文化財 第7集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2000b『潮神明宮前遺跡—明科町総合福祉センター建設に伴う緊急発掘調査報告書—』明科町の埋蔵文化財 第8集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2004『上手屋敷遺跡第2次調査—町営住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書—』明科町の埋蔵文化財 第12集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2005『潮神明宮前遺跡Ⅱ—町道拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—』明科町の埋蔵文化財 第13集 明科町教育委員会
- 明科町史自然編編纂委員会 2007『明科町史』自然編 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2013『平成23年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書—明科遺跡群古殿屋敷（第1次）・明科遺跡群栄町遺跡（第3次）—』安曇野市の埋蔵文化財 第6集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2014『平成24年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書—明科遺跡群栄町遺跡（第4次）—』安曇野市の埋蔵文化財 第7集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2016『平成26年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書—明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査—』安曇野市の埋蔵文化財 第9集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2017『明科遺跡群明科廃寺4—個人住宅建設に伴う第4次発掘調査報告書—』安曇野市の埋蔵文化財 第12集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019a『平成29年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財 第17集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019b『潮遺跡群潮神明宮前遺跡3—安曇野市消防団第7分団第1部詰所新築工事に伴う第3次発掘調査報告書—』安曇野市の埋蔵文化財 第18集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2022『明科遺跡群古殿屋敷3—安曇野市消防団第6分団第1部詰所建設に伴う第3次発掘調査報告書—』安曇野市の埋蔵文化財 第25集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2023『令和3年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財 第28集 安曇野市教育委員会
- 荒井秀規 2017「評家と白鳳寺院」『古代東国の地方官衙と寺院』pp.10-22 山川出版社
- 飯田市教育委員会 1978『毛賀御射山遺跡』pp.14-19、33-34、図版5 遺物 飯田市教育委員会
- 飯田市教育委員会 2005『前林遺跡—付 前林廃寺跡—』pp.33-35 飯田市教育委員会
- 池田敏宏 2008「初現期の瓦塔系譜—勝呂類型瓦塔、ならびに類似瓦塔の位置付け—」『土曜考古』第32号 pp.53-72 土曜考古学研究会
- 池田敏宏 2009「初現期の瓦塔系譜（2）—多武峯類型瓦塔、ならびに類似瓦塔の位置付け—」『東国史論』第23号 pp.1-22 群馬考古学研究会
- 池田町誌編纂委員会 1992『池田町誌』歴史編 I（原始～近世）池田町
- 池辺彌 編 1981『和名類聚抄郡郷里駅名考証』初版 吉川弘文館
- 石田成年 1997「撰河泉の瓦塔」『河内古文化研究論集』柏原市古文化研究会 pp.263-276 和泉書院

- 出河裕典 1995 「信濃の瓦塔再考—近年の出土例を中心に—」『信濃』47-4 pp.78-97 信濃史学会
- 出河裕典 1996 「瓦塔の生産—塩尻市菖蒲沢窯跡の資料の検討を通して—」『長野県の考古学』長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ 長野県埋蔵文化財センター
- 今尾文昭 1993 「新益京横大路発掘調査報告書（関連条坊右京一条六坊および関連条坊右京北一条一坊の調査）」『奈良県遺跡調査概報1992年度第2分冊』pp.1-47 奈良県立橿原考古学研究所
- 今尾文昭 2008 「新益京の鎮祭と横大路の地鎮め遺構」『律令期陵墓の成立と都城』古代日本の陵墓と古墳2 pp.257-269 青木書店
- 上村和直 1999 「都城における埋納遺構—鎮祭遺構を中心に—」『瓦衣千年—森郁夫先生還暦記念論文集—』pp.123-161 真陽社
- 太田喜幸、河西清光 1966 「長野県東筑摩郡明科町七貴緑ヶ丘遺跡調査」『松本諏訪地区新産都市地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告』pp.139-156 長野県考古学会
- 小田富士雄 2007 『豊前・トギバ窯跡の調査—古代須恵器・瓦塔に関する研究—』福岡大学考古学研究室研究調査報告第5冊 福岡大学人文学部考古学研究室
- 梶原義実 2017 『古代地方寺院の造営と景観』pp.72・181-204 吉川弘文館
- 梶原義実編 2022 『伊保廃寺発掘調査報告書』名古屋大学大学院人文学研究科考古学研究室
- 岐阜県文化財保護センター 2002 『大江遺跡・寿楽寺廃寺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第74集 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 岐阜県文化財保護センター 2021 『上切寺尾古墳群・日焼遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第154集 岐阜県文化財保護センター
- 桐原健 1989 「安曇郡四郷の考古学的同定」『信濃』41-10 pp.1-12 信濃史学会
- 桐原健 2002 「明科廃寺が提起する問題」『信濃』54-12 pp.55-61 信濃史学会
- 桐原健 2014 「附編 安曇郡に観る古墳と寺院」『長野県安曇野市穂高古墳群2013年度 発掘調査報告書』國學院大學文学部考古学実習報告 第50集 國學院大學文学部考古学研究室
- 京都大学文学部国語学国文学研究室編 1981 『諸本集成倭名類聚抄』本文篇 第三版 臨川書店
- 久世康博 2004 「榎原廃寺の再検討（上）」『研究紀要』9 pp.1-38 京都市埋蔵文化財研究所
- 興福寺 2002 『興福寺—第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅲ—』独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
- 国立国会図書館デジタルコレクション 2011 『和名類聚抄』20巻本 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2561170> (2011年3月31日)
- 小平和夫 1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書4 pp.97-158 長野県教育委員会
- 児玉利一 2016 「東八木窯跡の概要と出土遺物の特徴について」『武蔵國高麗郡建郡—入間から見た高麗郡建郡とその後—』pp.117-128 古代入間を考える会
- 埼玉県立歴史資料館 1994 『埼玉の瓦塔』資料館ガイドブック 11 埼玉県立歴史資料館
- 坂田敏行 2006 「製作技法からみる下宅部遺跡出土瓦塔」『下宅部遺跡Ⅱ』東村山市遺跡調査会
- 塩尻市教育委員会 1991 『菖蒲沢窯跡発掘調査報告』塩尻市教育委員会
- 敷島町教育委員会 1990 『天狗沢瓦窯跡発掘調査報告書』敷島町教育委員会
- 柴田洋孝 2017 「長野県における古代瓦出土地点」『長野県埋蔵文化財センター年報（東北信編）』34 pp.47-54 長野県埋蔵文化財センター
- 柴田洋孝 2018 「長野県における古代瓦出土地点」『長野県埋蔵文化財センター年報（中南信編）』35 pp.42-49 長野県埋蔵文化財センター
- 柴田洋孝 2023 「信濃国の古代官衙・寺院と窯業生産」『東海の古代官衙・寺院と窯業生産』pp.139-150 地域と考古学の会
- 城ヶ谷和広 1999 「奈良時代の須恵器生産と金属器—法隆寺献納宝物佐波理蓋を模倣した須恵器—」『愛知県史研究』第3号 pp.170-190 愛知県
- 杉本一樹 2018 「正倉院の織維製品と調庸関係銘文—松嶋順正『正倉院宝物銘文集』第三編補訂 前編』『正倉院紀要』40号

- 杉山信三 1967「榎原廃寺跡の発掘調査概要」『佛教藝術』66佛教藝術學會編 pp.47-54 毎日新聞出版
- 須田勉 1985「平安初期における村落内寺院の存在形態」『古代探叢Ⅱ』早稲田大学考古学会創立35周年記念考古学論集 pp.555-578 早稲田大学出版部
- 須田勉 2006「古代村落寺院とその信仰」『古代の信仰と社会』国土館大学考古学会編 pp.35-77 六一書房
- 高崎光司 1989「瓦塔小考」『考古学雑誌』日本考古学会
- 積石塚・渡来人研究会 2018『「渡来人と寺・道—ヒト・モノ・情報の交差する歴史空間—」講演会・相互討論資料集』積石塚・渡来人研究会
- 鳥羽英継 2001「古代のあかり—長野県内出土、古代の灯明具の分析—」『長野県考古学会会誌』96 pp.19-48 長野県考古学会
- 豊科町教育委員会 1987『菖蒲平窯跡群—77kV 安曇野作業所送電線に係る埋蔵文化財報告書—』中部電力株式会社・豊科町教育委員会
- 豊科町誌編集委員会 1995『豊科町誌』歴史編・民俗編・水利編 豊科町誌刊行会
- 豊科町東山遺跡調査会編 1999『筑摩東山 上ノ山・菖蒲平窯跡群発掘調査報告』豊科町教育委員会
- 永井邦仁 2006「東海地方の古代瓦塔研究ノオト」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 pp.90-98 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2008「猿投窯型瓦塔の展開（1）—信濃の猿投窯型瓦塔—」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第9号 pp.43-52 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2009「猿投窯型瓦塔の展開（2）—猿投窯型以前—」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第10号 pp.35-42 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2012「江南市音楽寺遺跡出土の美濃須衛窯型瓦塔」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第13号 pp.17-28 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2016「続・東海地方の古代瓦塔研究ノオト」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第17号 pp.109-120 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2023「国府を中心とする官衙遺跡出土の瓦塔とその生産」『東海の古代官衙・寺院と窯業生産』pp.161-174 地域と考古学の会
- 長野県埋蔵文化財センター 1989『吉田川西遺跡—中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3（塩尻市内その2）—』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書3 長野県埋蔵文化財センター
- 長野県埋蔵文化財センター 1993『北村遺跡—中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11（明科町内）—』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14 長野県埋蔵文化財センター
- 長野県南安曇郡 1923『南安曇郡誌』南安曇郡教育会
- 長野市教育委員会 2008『長野遺跡群元善町遺跡善光寺門前町跡（2）』長野市の埋蔵文化財 第121集 長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センター
- 奈良国立博物館 1995『平成七年正倉院展目録』pp.72-73 奈良国立博物館
- 奈良国立文化財研究所 1978『奈良国立文化財研究所学報31 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』奈良国立文化財研究所 pp.92-10
- 奈良国立文化財研究所 1986「4.坂田寺第5次調査」『奈良国立文化財研究所概報16』奈良国立文化財研究所 pp.68-72
- 奈良国立文化財研究所 1991『奈良国立文化財研究所学報50 平城宮発掘調査報告13』奈良国立文化財研究所 pp.370-383
- 檜崎彰一 1979「正倉院陶器」『世界陶磁全集』2 日本古代 pp.252-264 小学館
- 奈良文化財研究所 2008「大極殿南門の調査—第148次—」『奈良文化財研究所紀要2008』pp.58-69 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
- 奈良文化財研究所 2020『古代瓦研究Ⅸ 一本づくり・一枚づくりの展開1—（東日本編）』古代瓦研究会シンポジウム記録
- 奈良文化財研究所 2022『古代瓦研究Ⅺ—鴟尾・鬼瓦の展開1 鴟尾—』古代瓦研究会シンポジウム記録 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 奈良文化財研究所 2022『鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ—鬼瓦—』第21回シンポジウム発表要旨 奈良文化財研究所 古代瓦研究会事務局
- 奈良文化財研究所 2024『古代瓦研究Ⅻ—鴟尾・鬼瓦の展開2 鬼瓦—』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

- 原明芳 1994 「3 信濃の施釉陶器」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3 施釉陶器—』古代の土器研究会 pp.27-34
- 原明芳 1996 「銅鏡考—長野県の奈良・平安時代を中心として—」『長野県の考古学』 pp.241-259 長野県埋蔵文化財センター研究論集 I
- 原明芳 2003 「灰釉陶器考」『長野県考古学会誌』 103・104 長野県考古学会 pp.1-34
- 原明芳 2022 「安曇郡の古代を考える—明科から安曇郡を考える—」『信濃』 74-5 pp.69-85 信濃史学会
- 原嘉藤 1955 「長野県東筑摩郡明科町 明科廃寺址」『信濃』 7-7 pp.50-65 信濃郷土研究会
- 飛騨市教育委員会 2012 『杉崎廃寺跡2』飛騨市文化財調査報告書 第5集 飛騨市教育委員会
- 飛騨市教育委員会 2019 『飛騨市遺跡詳細分布調査報告』飛騨市文化財調査報告書 第14集 飛騨市教育委員会
- 平尾政幸 1981 『榎原廃寺発掘調査概要 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 京都市埋蔵文化財研究所
- 平松良雄 2007 「八世紀の燃灯供養と灯明器」『古代中世史の探求』シリーズ歩く大和 I pp.112-141 法藏館
- 藤本誠 2017 「古代村落の「堂」研究の現状と課題」『民衆史研究』 第93号 pp.3-16 民衆史研究会
- 藤本誠 2020 「二古代の説法・法会と人々の信仰」『日本宗教の信仰世界』日本宗教史 5 pp.39-68 吉川弘文館
- 古川町教育委員会 1998 『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告書 第5集 古川町教育委員会
- 法隆寺 1983 『法隆寺発掘調査概報Ⅱ—昭和57年度防災工事に伴う発掘調査—』法隆寺発掘調査概報編集小委員会
- 穂高町誌編集委員会 1991 『穂高町誌』歴史編上・民俗編 穂高町誌刊行会
- 堀金村誌編集委員会 1991 『堀金村誌』上巻（自然・歴史）堀金村誌刊行会
- 皆川貴之 2020 「須恵器の「捏鉢」について」『研究ノート』茨城教育財団編17 pp.17-22 茨城県教育財団
- 南安曇郡誌改訂編集会 1968 『南安曇郡誌』第二巻上 南安曇郡誌改訂編集会
- 三舟隆之 2003 『日本古代地方寺院の成立』吉川弘文館
- 三舟隆之 2013 『日本古代王権と寺院』名著刊行会
- 三舟隆之 2017 「古代東国の仏教受容と寺院」『古代東国の地方官衙と寺院』 pp.69-77 山川出版社
- 三舟隆之 2020 『古代氏族と地方寺院』同成社
- 三好清超 2018 「寿楽寺廃寺跡と明科廃寺跡の軒丸瓦の範傷と先後関係について」『「渡来人と寺・道—ヒト・モノ・情報の交差する歴史空間—」講演会・相互討論資料集』積石塚・渡来人研究会
- 三好清超 2020 「中部地方の一本づくり・一枚づくり」『古代瓦研究Ⅸ—一本づくり・一枚づくりの展開1—（東日本編）』古代瓦研究会シンポジウム記録 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 三好清超 2021 「飛騨地域で出土する縦置型一本づくり軒丸瓦研究の現状」『斐太紀』研究紀要27 pp.233-1247 飛騨学の会
- 三好清超・小林新平 2022 「中部地方の鴟尾」『古代瓦研究Ⅺ—鴟尾・鬼瓦の展開1 鴟尾—』古代瓦研究会シンポジウム記録 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 三好清超・柴田洋孝 2022 「岐甲信の鬼瓦」『鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ—鬼瓦—』第21回シンポジウム発表要旨 奈良文化財研究所 古代瓦研究会事務局
- 三好清超 2023 「飛騨の国の官衙・寺院と窯業」『東海の古代官衙・寺院と窯業生産』 pp.150-160 地域と考古学の会
- 桃崎祐輔 2006 「金属器模倣須恵器の出現とその意義」『筑波大学先史学・考古学研究』 第17号 pp.81-102 筑波大学先史学・考古学研究編集委員会
- 森郁夫 2013 「地鎮・鎮壇」『鎮めとまじないの考古学—鎮壇具からみる古代—』 pp.7-74 雄山閣
- 山路直充 2004 「甲斐における瓦葺き寺院の出現—天狗沢古窯出土鏡瓦の祖型をおって—」『古代考古学フォーラム2004『古代の社会と環境』「開発と神仏とのかかわり」資料集』 pp.92-103 帝京大学山梨文化財研究所・古代考古学フォーラム実行委員会
- 山路直充 2013 「山国の寺—情報伝播からみた山国の交通—」『古代山国の交通と社会』 pp.255-274 八木書店
- 山田真一 2003 「長野県のカミ・ホトケ関連遺構・遺物—「仏教関連」遺物を中心に—」『古代考古学フォーラム2003『古代の社会と環境』「遺跡の中のカミ・ホトケ」資料集』 pp.50-63 帝京大学山梨文化財研究所・山梨県考古学協会
- 山田真一 2006 「長野県下出土の鉢（はつ）形土器」『信濃』 58-3 pp.61-74 信濃史学会

調査報告書抄録

ふりがな	あかしな いせきぐんあかしなはいじ 5							
書名	明科遺跡群明科廃寺 5							
副書名	個人住宅建設に伴う第5次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第30集							
編著者名	田多井智恵、臼居直之、山下泰永、斉藤雄太、望月裕子、増田真紀、三好清超、柴田洋孝、株式会社加速器分析研究所							
編集機関	安曇野市教育委員会							
所在地	〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL 0263-71-2000							
発行年月日	西暦2024年3月13日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
あかしな いせきぐん 明科遺跡群 あかしなはいじ 明科廃寺 (第5次)	ながの けん あづみの し 長野県安曇野市 あかしななかがわて ほん 明科中川手3779番	20220	5-409	36° 21' 14"	137° 55' 41"	20180507 ～ 20180618	40㎡	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
明科遺跡群 明科廃寺	寺院跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	瓦等の集積 不明遺構 土坑、方形柱穴	瓦、鴟尾、鬼瓦、 瓦塔、須恵器、 土師器、灰釉陶器、 金属製品、石製品		平安期の廃絶に伴う瓦等の 集積と修造期に関する遺構、 地鎮と整地を示す遺構等を 確認した。		
要約	<p>明科遺跡群明科廃寺は、筑摩山地と犀川に挟まれた河岸段丘上に所在する7世紀末から8世紀初頭に創建されたと考えられる飛鳥時代後半の寺院である。これまでに4次にわたる発掘調査が実施され、礎敷遺構の一部や倉庫、僧房等と考えられる掘立柱建物跡、掘立柱柵列などが確認されており、寺域を推定するうえで重要な成果が得られている。</p> <p>今回の調査では、平安期の廃絶に伴う瓦等の集積や、方形柱穴など修造期に関する遺構、地鎮に伴った可能性のある入れ子状の軟質の須恵器が出土し、人為的な埋め戻しと三和土状の土層による整地を示す遺構（SX01）が検出され、明科廃寺の時期的変遷を知る上で貴重な成果が得られた。</p>							

安曇野市の埋蔵文化財第30集
明科遺跡群明科廃寺 5
個人住宅建設に伴う第5次発掘調査報告書

発行 令和6年(2024)3月13日
安曇野市教育委員会
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地
電話0263-71-2000
編集 安曇野市教育委員会
印刷 電算印刷株式会社

